

まえがき

このたびは、BYD の車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。BYD の車を正しくご利用いただき、正しくメンテナンスするために、ご利用の前に必ず本マニュアルのすべての内容をよくお読みください。

特記事項：BYD は純正部品を使用し、マニュアルに従って正しく利用、メンテナンス、整備することをおすすめしています。非純正部品への交換や車の改造を行うと、車両の性能、特に安全性や耐久性に影響を与えるおそれがあります。それにより発生した車の破損および性能上の不具合は品質保証対象外となります。また、車の改造は国の法規や地方条例に違反する場合があります。

よりよいサービスをお届けするために、皆さまからの貴重なご意見やアドバイスをいただきましたら幸いです。そのためには必ず正しい連絡先情報をご提供ください。また、変更がある場合は速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、システム上の情報更新を依頼してください。同時に、国の関係法規および地方条例に常にご関心をお寄せいただき、できるだけ早く車両登録をしてくださいますようお願い申し上げます。そうされませんと、車両登録ができなくなるおそれがあります。

本マニュアルに * 記号が付いている内容は、一部の車種にのみ適用され、それが搭載されていることを表しています。使われているイラストは代表例です。お買い上げの車と異なる場合は、実車を参考にしてください。

本マニュアルに「警告」、「注意」および「アドバイス」が記載されているところは、怪我や破損が発生しないように記載内容をお守りください。シンボルマークの表示や使い方は、次の通りです。

警告

身の安全を守るために守らなければならない事項

注意

車両の損傷を避けるために守らなければならない事項

お願い

メンテナンスなどを容易にするために守らなければならない事項

 左図に示す禁止マークは、「このようにしないでください」、または「このようなことを起こさないでください」を意味します。

本マニュアルは、製品を正しくお使いいただくためのものであり、本製品の仕様およびソフトウェアバージョンに関する説明を表すものではありません。製品仕様やソフトウェアバージョンについては、本製品に関する契約書(もしあれば)を参照していただくか、製品をお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

著作権は、BYD に帰属します。

BYD から書面による許可と授権を得ずに、本マニュアルの一部、または全部の内容を転載、複製、保存または翻訳、そしてデジタルなどのいかなる形式で配布することを禁じます。

本マニュアルを複製する場合は、必ずその責任を追及します。

図目次

車外.....	7
インストルメントパネル.....	8
車内.....	9
ドア.....	10

安全

シートベルト.....	12
シートベルトについて.....	12
シートベルトの着用.....	12
エアバッグ.....	15
エアバッグについて.....	15
エアバッグタイプ.....	16
エアバッグの作動条件および注意事項....	18
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	21
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	21
イモビライザー.....	25
イモビライザー.....	25
データの収集および処理.....	26
データの収集および処理.....	26

メータークラスター

コンビネーションメーター.....	30
コンビネーションメーターイメージ.....	30
メーター表示灯.....	31

コントローラーの操作

ドアとキー.....	42
キー.....	42
ドアの施錠/解錠.....	46

スマートエントリー&スタートシス テム	54
チャイルドロック.....	56
シート.....	56
シートについて.....	56
フロントシートの調節.....	57
リアシートの収納.....	60
リア側ヘッドレストの調整.....	60
ステアリングホイール.....	61
ステアリングホイールコンビネーシ ョンスイッチ.....	61
ステアリングホイールの調節.....	63
スイッチ.....	64
ライトスイッチ.....	64
ワイパースイッチ.....	67
運転席側ドアスイッチユニット.....	68
助手席側パワーウィンドウスイッチ.....	69
走行距離切替スイッチ.....	70
運転支援スイッチユニット.....	70
モードスイッチユニット.....	70
ハザードランプスイッチ.....	71
サンシェードの開/閉.....	71
自動緊急通報システム E-Call.....	72
ルームランプスイッチ.....	73

使用および運転

充電/放電について.....	76
充電について.....	76
充電方法.....	80
外部給電について.....	87
充電ポート盗難防止ロック機能.....	89
航続可能距離の表示.....	90
バッテリー.....	91

パワーバッテリー.....	91
起動バッテリー.....	94
ご利用要領.....	96
慣らし運転期間.....	96
車両のけん引.....	96
安全運転上のご注意.....	97
利用時のアドバイス.....	98
節電で車を長持ちさせる方法について....	98
荷物の積み込み.....	99
冠水路の走行.....	100
火災の予防.....	101
タイヤチェーン.....	102
発達と運転.....	103
車の始動.....	103
車両の運転.....	104
シフト機構.....	105
電動パーキングブレーキ (EPB)	106
オートビークルホールド (AVH)	109
運転要領.....	110
運転支援機能.....	112
アダプティブクルーズコントロール (ACC)	112
ナビゲーションパイロット (ICC)	116
前方衝突警告機能 (FCW) と自動緊急 ブレーキ (AEB)	117
フロントクロストラフィックアラ ート (FCTA) およびフロントクロ ストラフィックオートブレーキ (FCTB)	120
交通標識認識システム (TSR)	121
インテリジェントスピードリミット コントロール (ISLC)	122
アダプティブフロントライティング (AFL)	123
レーンサポートシステム (LDA)	124
緊急時車線維持支援 (ELKA)	126

ブラインドスポットアシストシス テム (BSA).....	127
ヘッドアップディスプレイ (HUD) *....	129
直接式タイヤ空気圧モニタリング.....	130
車両接近通報装置 (AVAS)	131
BYD アラウンドビューシステム(AVM)..	132
駐車支援システム.....	134
安全運転支援システム.....	137
インテリジェントトルクアダプテ ーションコントロール (iTAC) *.....	141
ドライバー監視システム (DMS)	142
幼児置き去り検知 (CPD) *.....	143
その他の主な機能について.....	144
自動防眩ルームミラー.....	144
電動ドアミラー.....	145
ワイパー.....	146

車内装置

マルチメディアシステム.....	150
マルチメディアコントロールパネル.....	150
ナビゲーションバー.....	151
ジェスチャーおよび応答.....	151
OTA アップデート.....	151
BYD インテリジェント音声制御機能.....	152
Bluetooth.....	152
オーディオ.....	153
ファイル管理.....	153
スマートフォンと車載システムの連携..	154
エアコン.....	155
エアコンパネル.....	155
エアコン操作画面.....	156
機能定義.....	158
吹き出し口.....	161

空気清浄システム.....	161
BYD App.....	162
BYD APP の紹介.....	162
アカウント登録.....	162
車両状態および車両制御システム.....	162
個別センターおよび車両管理.....	163
収納ボックス.....	163
モータールーム収納ボックス.....	163
ドアポケット.....	163
グローブボックス.....	164
センターコンソールボックス.....	164
センターコンソールボックス.....	164
カップホルダー.....	164
シートバックポケット.....	165
車内のその他の装置.....	165
サンバイザー.....	165
アシストグリップ.....	166
12V アクセサリー電源.....	166
USB ポート.....	166
ワイヤレス充電エリア.....	167

お手入れとメンテナンス

メンテナンスについて.....	170
メンテナンス周期およびメンテナ ス内容	170
定期メンテナンス.....	174
定期メンテナンス.....	174
車両の防食について.....	175
塗装メンテナンスのお願い.....	175
洗車.....	176
車内の清掃.....	177
セルフメンテナンス.....	178

セルフメンテナンス.....	178
サンルーフのメンテナンス.....	180
車両の保管.....	181
ボンネット.....	181
冷却システム.....	182
ブレーキシステム.....	182
ウオッシャ.....	183
空調システム.....	183
ワイパーブレード.....	184
タイヤ.....	184
フューズ.....	188

故障が発生した時

故障が発生した時.....	190
反射ベスト.....	190
リモートキーのバッテリーが切れたら..	190
緊急時シャットダウンシステム.....	190
車両火災が発生したら.....	191
バッテリーが液漏れしたときの救助.....	191
レッカー移動が必要なとき.....	192
タイヤの空気漏れが発生したら.....	194

車両仕様

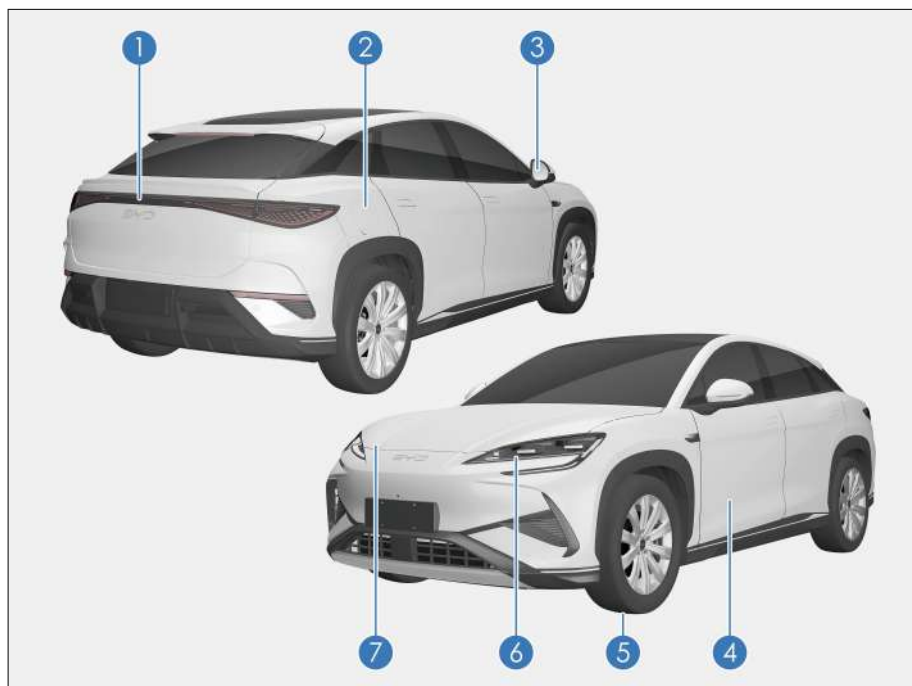
データ情報.....	198
車両諸元.....	198
プロンプトメッセージ.....	202
車両の表示.....	202
警告ラベル.....	203
適合宣言書.....	204
適合宣言書.....	204

略語一覽

略語.....211

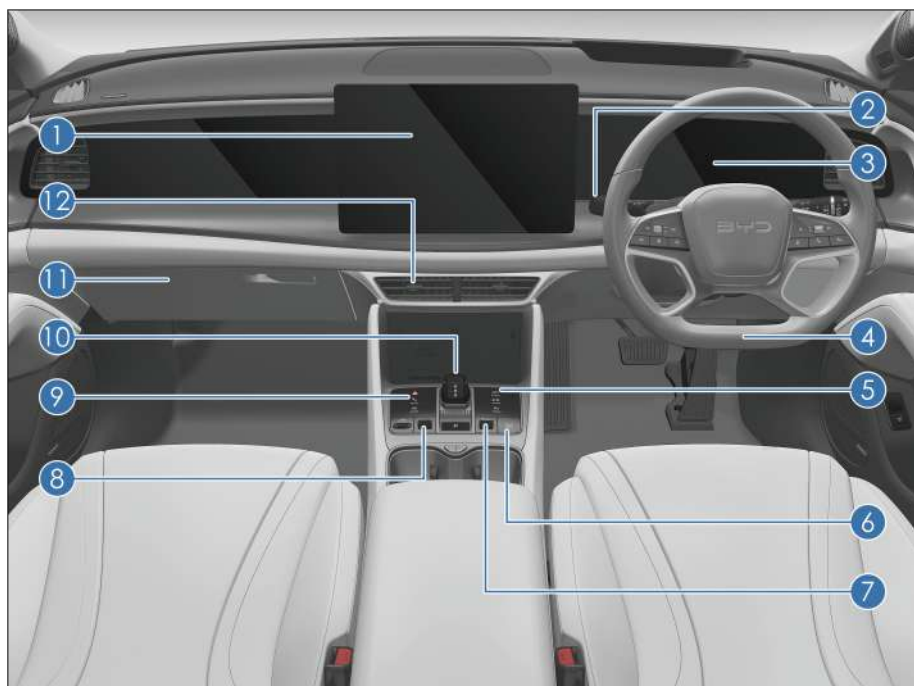
図目次

車外



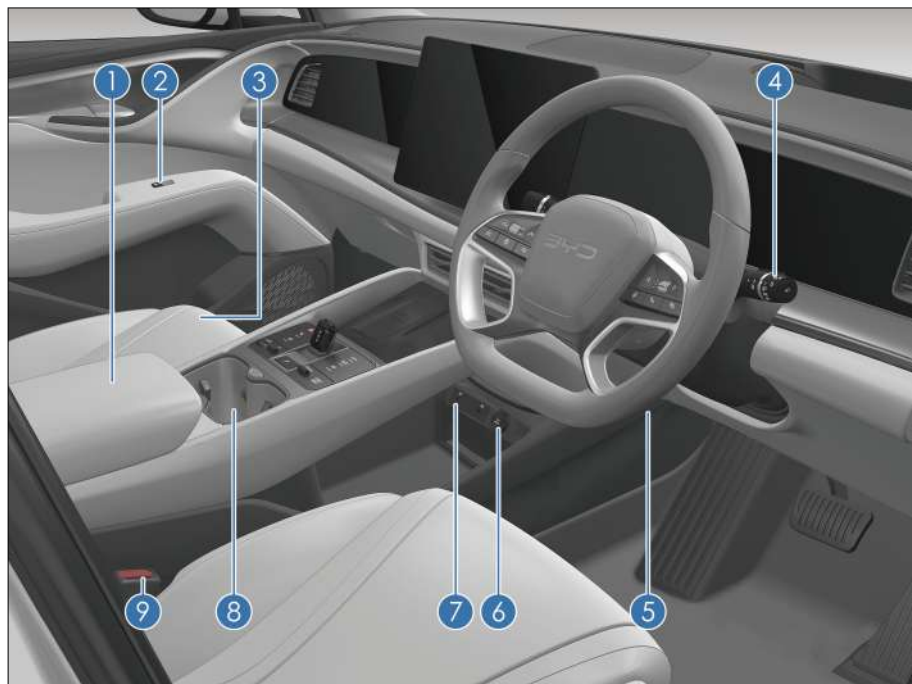
- | | |
|--|--|
| 1 テールゲート (50 ページ)
荷物の積み込み (99 ページ) | 5 タイヤ (184 ページ)
タイヤの空気漏れが発生したら (194 ページ) |
| 2 家庭用 AC 普通充電 (80 ページ)
AC 充電スタンドでの充電 (83 ページ)
DC 充電スタンドでの充電 (84 ページ) | 6 コンビネーション (64 ページ) |
| 3 電動ドアミラー (145 ページ) | 7 ボンネット (181 ページ)
冷却水 (182 ページ)
ウォッシャー (183 ページ) |
| 4 ドアの施錠/解錠 (46 ページ) | |

インストルメントパネル



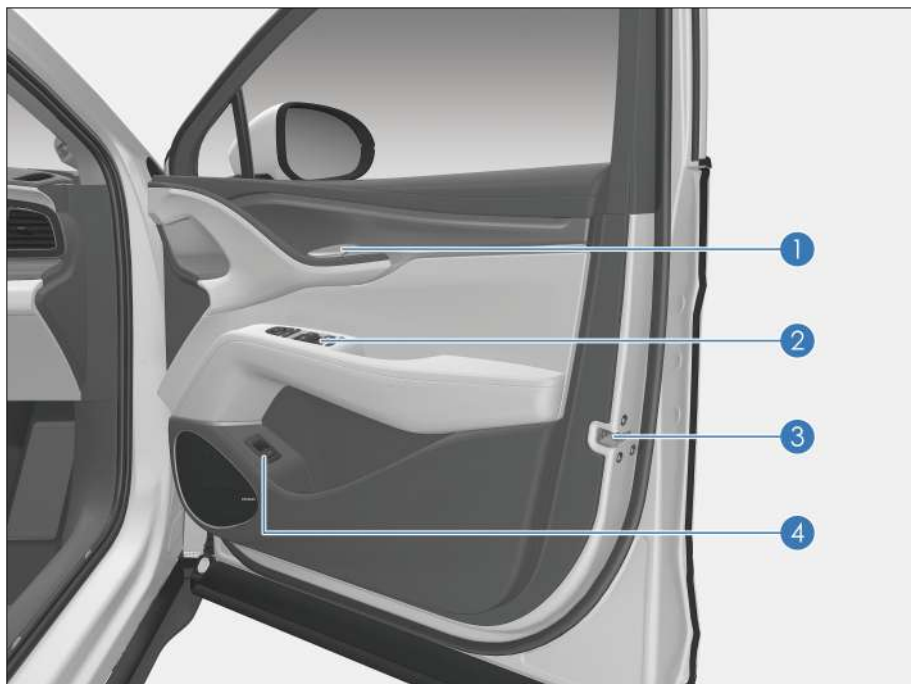
- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1 マルチメディアコントロールパネル (150 ページ) | 6 車両の始動 (103 ページ) |
| 2 ワイパー (67 ページ) | 7 運転モードでのレバー操作 (70 ページ) |
| ワイパーブレード (184 ページ) | 8 回生ブレーキモードでのレバー操作 (70 ページ) |
| 3 コンビネーションメーター (30 ページ) | 9 ハザードランプスイッチ (71 ページ) |
| 4 ステアリングホイールコンビネーションスイッチ (61 ページ) | 10 シフト機構 (105 ページ) |
| 5 エアコン操作ボタン (155 ページ) | 11 グローブボックス (164 ページ) |
| | 12 エアコンの吹き出し口 (161 ページ) |

車内



- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 センターコンソールボックス (164 ページ) | 5 ステアリングホイールの手動調節 (63 ページ) |
| 2 乗員側ウィンドウスイッチ (69 ページ) | 6 12V アクセサリー電源 (166 ページ) |
| 3 シート (56 ページ) | 7 USB ポート (166 ページ) |
| 4 ライトスイッチ (64 ページ) | 8 フロントカップホルダー (164 ページ) |
| | 9 シートベルト (12 ページ) |

ドア



- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 ノブ操作でドアを開ける (47 ページ) | 3 メカニカルキーによる全ドア緊急施錠 (54 ページ) |
| 2 パワーウィンドウスイッチ (68 ページ) | 4 室内側テールゲートオープナースイッチ (50 ページ) |
| 集中ドアロック (69 ページ) | |
| 電動ドアミラー調節 (145 ページ) | |

01

安全

シートベルト	12
エアバッグ	15
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	21
イモビライザー	25
データの収集および処理	26

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトを正しく使用することで、急ブレーキ、急ハンドル、衝突の際に乗員の死傷者数を大幅に減らすことが研究により明らかになっています。以下をよくお読みになり、厳守してください。

警告

- すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。急ブレーキや衝突事故のときに、乗員が傷害を負い、ひいては死亡事故になるおそれ避けるためです。
- 車両のシートベルトは大人のサイズに合わせて設計されており、お子様向けではありません。お子様の年齢や体格にあった適切な幼児用補助装置（チャイルドシート）を選定してください（詳細は（21 ページ）をご参照ください）。
- シートベルトの破損または異常がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検や処置を依頼してください。それまでは該当シートを使用しないでください。
- 事故による傷害または重傷を負わないために、ドライバーおよび乗員全員は常にシートベルトの着用を徹底してください。
- お子様に乗車する場合は、必ずリアシートに乘せてシートベルトと適切なチャイルドシートを使用してください。急ブレーキや衝突事故発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。また、お子様の安全を守るために膝の上に乗せないでください。

シートベルト緊急ロック (ELR)

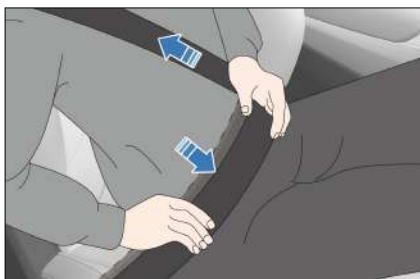
- 急ハンドル、急ブレーキ、衝突事故があった場合や、乗員の身体が勢いよく前へ傾くと、シートベルトは自動的にロックし、乗員を効果的に拘束および保護します。
- 走行中は、シートベルトが乗員の動きに合わせて伸縮するため、身体を動かしても支障はありません。
- シートベルトの引き出し方が速く、シートベルトがロックされた場合は、シートベルトを少し巻き戻してからゆっくり引っ張り出すと、シートベルトをスムーズに引き出すことができます。

シートベルトのプリテンショナー/ロードリミット機能*

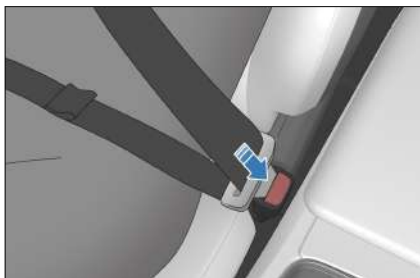
重大な正面衝突事故が発生し、プリテンショナーの作動条件が揃った場合、プリテンショナーはシートベルトの緩みを瞬時に巻き取りロックし、乗員の身体を拘束します。ロードリミッターは、乗員にかかるシートベルトの過度な負荷を回避するため拘束力を一定レベルに保ち、乗員にかかる拘束力の強さの衝撃を緩和します。

シートベルトの着用

1. シートおよびシートバックを適切な位置や角度に調節します（詳細は（57 ページ）を参照してください）。
2. 3 点式シートベルトの位置を調節します。
- 正しい運転姿勢でシートベルトのストラップをゆっくり引っ張り出し、肩部から胸骨を通るように装着します。腰ベルトは腰部を押さえず、できる限り骨盤部を通るように装着してください。このとき、シートベルトが脇の下や首の後部に当たらないようにしてください。腰ベルトは腰部を押さえず、できる限り骨盤部を通るように装着してください。



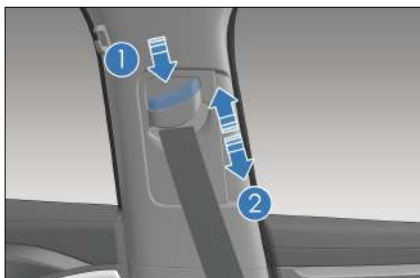
3. タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで押し込んでから、反対方向にタングプレートを引っ張り、確実にロックできたかを確認します。シートベルトにねじれがないように注意してください。



4. 最適な快適さと保護を得るために、シートベルトのアンカーアジャスター(前側)を適切な位置に調節します。

①シートベルトのアンカーアジャスターのリリースボタンを押します。

②シートベルトのアンカーアジャスターを上下に動かし、フロントシートのシートベルトを適切な高さまで調節してから、アンカーアジャスターから手を離します。



5. 調節完了後、肩ベルトを強く引っ張り、アンカーアジャスターがロックされているかをチェックします。

警告

- ・肩ベルトは、肩の真ん中を通してください。また、シートベルトは首から遠く離し、肩から簡単に外れないようにしてください。そうしないと、急ブレーキや事故時にシートベルトが十分に機能せず、乗員の重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・事故時に、乗員の腹部にベルトがかかったことで発生する傷害を避けるため、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- ・シートベルトの保護機能がより発揮できるように、シートベルトを身体に密着させてください。また、身体とシートベルトの間に、ものを挟まないでください。

6. シートベルトのロックを解除します。

- ・バックルの赤い解除ボタンを押すと、タングプレートが外れ、シートベルトが戻ります。シートベルトがスムーズに戻らない場合は、シートベルトを引き出してねじれがないかを確認してください。



警告

- ・シートベルトは1人用です。お子様も含めて、2人以上で1本のシートベルトを使わないでください。
- ・シートバックを倒しすぎないでください。シートバックを直立にすることで、シートベルトの保護機能が十分に発揮できます。
- ・シートベルトが破損するおそれがあるため、シートベルトやタングプレート、およびバックルを、ドアや後部席のシートバックに挟まないでください。
- ・シートベルトを定期的に点検し、切れ、摩耗、緩みなどの異常がないかを確認してください。異常がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にチェックや処置を依頼し、それまでは該当シートを使用しないでください。
- ・シートベルトの取り外し、分解、改造を絶対にしないでください。
- ・事故発生後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でシートベルトを点検してください。プリテンショナー機能が作動した場合は、シートベルトを交換してください。
- ・重大な事故が発生した場合は、明らかな損傷がなくても、シート ASSY と一緒にシートベルトを交換し、エアバッグシステムを十分に点検してください。
- ・妊娠中の方も、他の乗員と同じようにシートベルトを正しく着用してください。事故発生時にベルトが腹部にかかることで妊婦や胎児に重大な傷害を起こさないために、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- ・リアシートのシートベルトの着用方法はフロントシートと同じです。リ

警告

アシートのシートベルトが保護機能を確実に発揮できるように、タングプレートを対応するバックルに確実に押し込んでください。ドライバーは、乗員にシートベルトを正しく着用させる責任があります。

- ・タングプレートとバックルを確実に結合させるために、バックルには、コイン、クリップまたは他の異物を入れないでください。

シートベルトリマインダー

始動後に、ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していない場合、着用するまで音声・視覚警告システムが作動します。

- ・シートベルト非着用警告灯
 - ・すべての席のシートベルトが使われていない場合、シートベルト非着用警告灯が点滅します。
- ・非着用座席の表示
 - ・いずれかのシートベルトが使われずに警報が出ると、該当座席の表示灯が点灯します。
- ・シートベルトリマインダー
 - ・電源ポジション「OK」時に、ドライバーがシートベルトを着用していない、または車内の乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯して該当座席の表示灯も点灯します。走行中、ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト非着用警告灯が点灯し、警告音が鳴ります。
 - ・ドライバーおよび乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト非着用警告灯が消灯し、該当座席の表示灯も消灯します。

⚠ 警告

- ・上記機能の異常または故障がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡し、機能が正常に戻るまでは、該当シートを使用しないでください。
- ・走行中、乗員はシートに座ってシートベルトを確実に着用してください。急ブレーキや衝突事故時に乗員が傷害を負い、死亡事故になるおそれ避けるためです。

エアバッグ

エアバッグについて

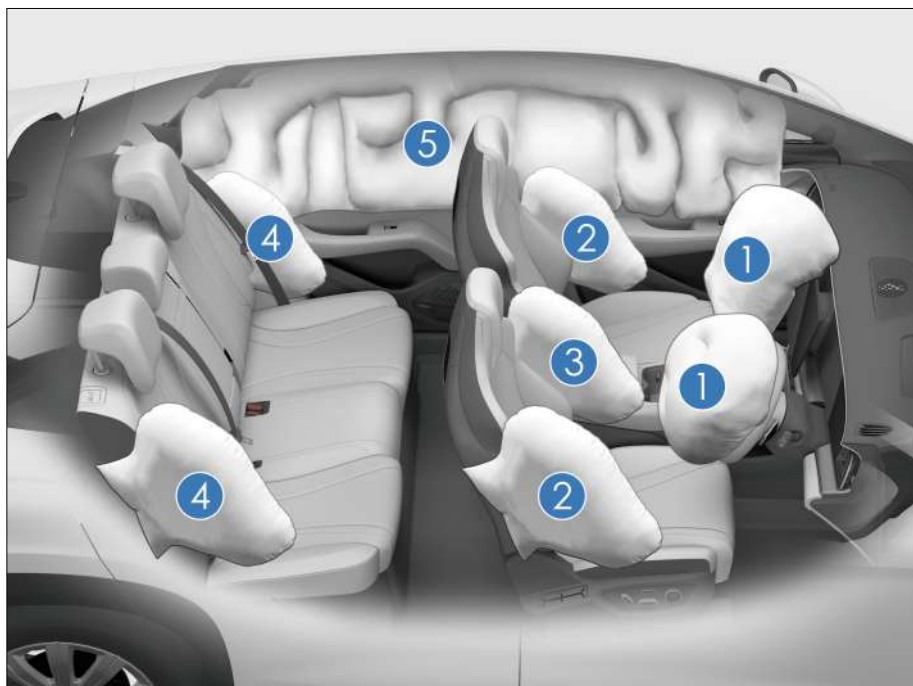
- ・エアバッグシステムは補助拘束装置の一部で、シートベルトの働きを補助します。大きな衝突事故が発生してシステムの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬時に膨張します。シートベルトと併用することで、ドライバーおよび乗員の頭部や胸部などを保護し、負傷や死亡の確率を軽減します。
- ・エアバッグシステムは、衝突の種類によって、フロントエアバッグとサイドエアバッグに大別されます。フロントエアバッグには、運転席と助手席エアバッグがあり、サイドエアバッグには、シートのサイドエアバッグ、ファースイドエアバッグとサイドカーテンエアバッグがあります。
- ・エアバッグシステムはシートベルトに取って代わるものではなく、パッシブセーフティシステムの構成部分です。シートベルトを確実に締めていないと、エアバ

ッグシステムは保護機能を最大限に発揮できません。

⚠ 警告

- ・シートベルトとエアバッグシステムの保護機能を最大限に発揮できるように、正しい姿勢でシートベルトを着用してください。
- ・エアバッグの部品を取り外さないでください。
- ・サイドエアバッグシステムが正常に動作できなくなるおそれがあるため、シートバックは濡らさないでください。
- ・事故発生時に当該サイドエアバッグの展開を妨げるおそれがあるため、シートカバーは使用しないでください。
- ・サイドエアバッグと乗員の間にものを置かないでください。
- ・サイドエアバッグが搭載されているシートの側面には、大きな力を加えないでください。
- ・衝突事故発生時にエアバッグモジュールが膨張せず、プリテンショナーシートベルトがロックされなくても、エアバッグコントロールユニットが正常に作動することを確認するため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
- ・車両が浸水した（カーペットが濡れている、車両が水没しているなど）、または浸水によって損傷した場合は、車両の電源を入れずに起動バッテリーの接続を外してください。エアバッグが展開して重大な人身事故につながるおそれがあります。

エアバッグタイプ



①運転席および助手席エアバッグ

②前席サイドエアバッグ

③ファースイドエアバッグ

④後席サイドエアバッグ

⑤サイドカーテンエアバッグ

運転席および助手席エアバッグ

運転席エアバッグはステアリングホイールの内側に、助手席エアバッグはダッシュボードの内側に取り付けられており、「AIRBAG」の文字があります。走行中、中程度から重度の正面衝突によりエアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグが作動して怪我を軽減します。

フロントエアバッグの作動プロセス

- ・ 中程度から重度の正面衝突が発生すると、センサーが急激な減速を検知してコントロールユニットに信号を発信し、フ

ロントエアバッグを瞬時に膨張させます。

- ・ 正面衝突の場合、シートベルトが下半身と胴体を固定し、エアバッグがクッションの役割を果たすことで、頭部と胸部を保護します。
- ・ 衝突の強さがエアバッグ作動のしきい値に達していない場合、シートベルトが保護機能を発揮します。エアバッグは最小限の補助保護を提供します。
- ・ フロントエアバッグは膨張するとすぐに収縮するため、ドライバーの視線やステ

アリングホイール、またはその他の制御装置の操作を妨げないようにします。

- ・エアバッグは作動条件が揃うと瞬間的に膨張するため、事故発生時にドライバーや乗員をさらに保護することができません。
- ・エアバッグ作動時は大きな音が発生しますが、通常は人に傷害を与えることはありません（耳鳴りまたは一時的な聴力障害を起こすことはありますが、すぐに回復します）。
- ・衝突によりエアバッグが展開すると、煙や粉じんが発生することがあります。これらの煙や粉じんは無害ですが、呼吸器疾患のある人は一時的に何らかの不快感を覚えることがあります。重篤な不快感があるときは、速やかに医師の診断を受けてください。

警告

- ・スマホホルダー、コップ、灰皿などのアクセサリは、エアバッグカバーの上またはエアバッグの機能する範囲内に取り付けしないでください。取り付けた場合、事故が発生してエアバッグが展開することで怪我をする危険性が高まります。

シートサイドエアバッグ

サイドエアバッグがシートバックの外側に備えられており、「AIRBAG」の表示があります。走行中に発生した中程度から重度の側面衝突によりエアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグは作動して衝突を受けた側の乗員の胸部を保護し、怪我を軽減します。

警告

- ・側面衝突が発生した場合、通常衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。
- ・助手席側が衝突された場合、シートに乗員が乗っていても助手席側のエアバッグが作動します。

警告

- ・シートサイドエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させる必要があります。

ファースイドエアバッグ

ファースイドエアバッグが運転席シートバックの内側に備えられており、「AIRBAG」の表示があります。走行中に発生した中程度から重度の側面衝突または斜め方向からの衝突を受けた場合、サイドエアバッグの作動条件が揃うと、サイドエアバッグが作動して衝突を受けた側の運転席および助手席乗員の頭部や肩部を保護し、怪我を軽減します。

警告

- ・助手席側が衝突された場合、乗員が乗っていても助手席側のファースイドエアバッグが作動します。
- ・前席ファースイドエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

サイドカーテンエアバッグ

左右サイドカーテンエアバッグがボディサイドとヘッドライニングの結合部に内蔵され、Bピラーパネル、Cピラーパネルに「AIRBAG」の表示があります。中程度から重度の側面衝突を検知して作動条件が揃うと、サイドカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、衝突を受けた側の乗員の頭部を保護し、怪我を軽減します。

警告

- ・サイドカーテンエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、の機能を最大限に発揮させるため、乗員はシ



警告

シートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

エアバッグの作動条件および注意事項

エアバッグの作動条件

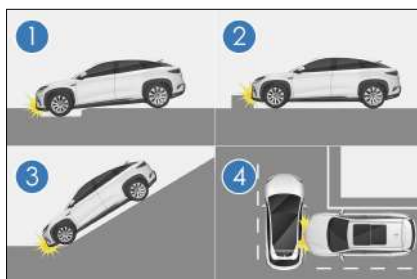
- エアバッグが作動する決定的な要素は、衝突発生時の衝撃力の強さ、事故パターン、衝突角度、障害物および速度が関係しています。また、特殊な衝突事故が発生したときも、エアバッグシステムが作動することがあります。
- エアバッグシステムは、すべての事故において機能するわけではありません。軽度な正面衝突、側面衝突、後面衝突、または横転事故が発生した場合は、エアバッグシステムは作動しません。ドライバーや乗員は、確実に保護を受けられるようにシートベルトを正しく着用してください。
- エアバッグシステムが作動する決定的な要素：衝突時に生成され、エレクトロニックコントロールユニット（ECU）によって取得される減速度曲線と設定値を、総合的かつインテリジェントに比較したうえで判断します。衝突時に生成され検知される減速度曲線などの信号が、ECU内部に予め設定された関連基準値より低い場合は、車両が衝撃で大きく変形したとしてもエアバッグは作動しません。
- BYDのエアバッグシステムのECUは、設定時によくあるそれぞれの誤作動や道路状況を十分に考慮しています。衝突事故の発生には様々な原因やパターンがあります。安全のため、本オーナーズマニュアルの記載を遵守し正しくご使用ください。そうしないと、エアバッグが正しく機能しないおそれがあります。

エアバッグの横転感知保護システム

- 車両が横転事故に巻き込まれ横転感知保護システムの作動条件を満たすと、シートサイドエアバッグ、ファースイドエアバッグ、サイドカーテンエアバッグ、シートベルトプリテンショナー機能が作動して乗員を保護し、被害を軽減します。

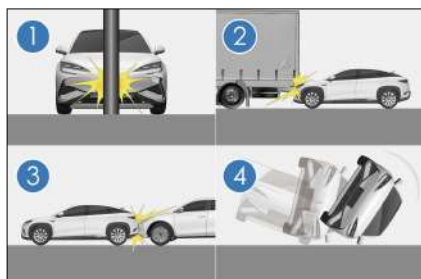
エアバッグが作動するとき

- ① 深い溝を通り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。
- ② 路肩の突起物、縁石などにぶつかったとき。
- ③ 急な下り坂を走り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。
- ④ 車両側面に他の車両がぶつかったとき。

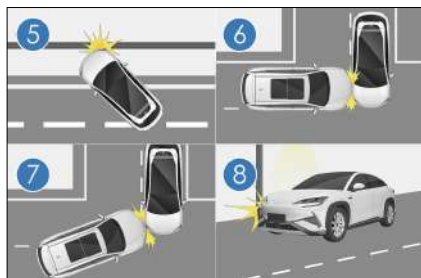


エアバッグが作動しないとき

- ① コンクリートの柱、樹木、その他の細長い物にぶつかったとき。
- ② トラックの荷台の下に潜り込んだとき。
- ③ 後方から追突されたとき。
- ④ 車両が横転したとき。



- ⑤壁または車両に斜めにぶつかったとき。
- ⑥車室以外の部位で側面から衝突を受けたとき。
- ⑦側面が斜め方向から衝突されたとき。
- ⑧側面が柱のような物に衝突したとき。



⚠ 警告

- ・エアバッグは指定車種を対象に開発されているため、サスペンション、タイヤ寸法、バンパー、シャーシおよびオリジナルデバイスを変更すると、エアバッグシステムに悪影響を与えます。また、エアバッグシステムのすべての部品を他車種へ流用しないでください。エアバッグシステムが故障し、身体に危害を与えるおそれがあります。
- ・当該システム作動時に最も効果的に保護機能を発揮させるため、ドライバーの場合は、胸部からステアリングホイールの間を 25cm 以上離してください。

⚠ 警告

- ・走行中はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ってください。シートベルトを着用せずに前かがみになるなど、正しく着席していない場合は、事故によりエアバッグが作動したときに怪我をする危険性が高まります。
- ・ステアリングホイールキャップと運転席フロントエアバッグキャップの表面、インストルメントパネル右側エアバッグ近くの表面、A、B、Cピラーパネルの表面に何かを貼り付けたり、何かで覆ったり、装飾を施したりしないでください。汚れは、乾いた布や水で湿らせた布で拭き取り、強く叩かないでください。
- ・お子様を補助装置なしで座らせる、または大人が抱いてシートに座らしないでください。事故の発生によりエアバッグが作動すると、生命にかかわる重大な怪我につながるおそれがあります。
- ・サイドカーテンエアバッグは、展開速度が速く、かつ衝撃力が強いいため、このエアバッグを搭載している車両の走行中は、ドアに寄りかからないでください。寄りかかった状態で事故に遭うと、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・フロントガラス、ウィンドウガラス、Aピラーパネル、ヘッドライニング、Bピラーパネル、Cピラーパネル、アシストグリップなど、サイドカーテンエアバッグが機能する範囲に、アクセサリーやものを置かないでください。サイドカーテンエアバッグの展開により、アクセサリーなどが強く飛ばされたり、サイドカーテンエアバッグが正常に展開できなくなること、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・車両を譲渡する場合は、新しい所有者がエアバッグの状況を把握できる

⚠ 警告

ように、購入時に入手したすべての資料を新しい所有者に渡してください。

- ・シート、またはサイドエアバッグ付きシートのトリム部品を改造したり、交換したりしないでください。改造や交換によりサイドエアバッグが正常に展開せず、システムが機能できなくなる、またはサイドエアバッグが予期せず作動することで、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・サイドカーテンエアバッグが内蔵されている A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルの分解や修理をしないでください。分解や修理により、システムが機能できなくなったり、サイドカーテンエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・エアバッグシステムのすべての構成部品は、関連ラベルを含め、いかなる変更もしないでください。エアバッグに対するすべての作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- ・エアバッグは、1 回限りの使い捨てです。エアバッグが作動または破損した場合、当該システムを交換してください。
- ・車両またはエアバッグシステムの各部品を廃棄処分する場合は、関連する安全規定および廃却処分手順を守ってください。
- ・エアバッグシステムは、周囲の電磁環境に対して強い耐干渉性と耐妨害性を有します。事故を防ぐため、国が許可した電磁環境以外で車両を使わないでください。
- ・一般的な誤操作や道路状況を考慮したエアバッグシステムとなっています。

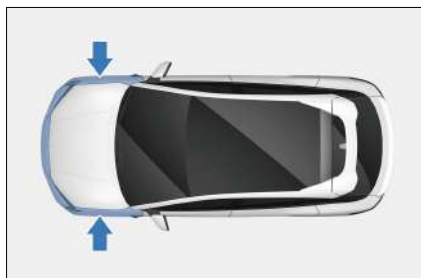
⚠ 警告

すが、事故を防ぐため、車両の底部をぶつけたり、悪路での乱暴な運転はしないでください。

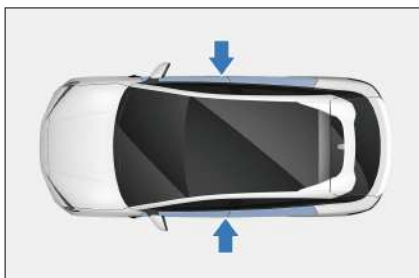
- ・十分な検証を受け、オリジナルワイヤーハーネスシステムとエアバッグシステムが完全にマッチングしているエアバッグシステムのため、車両のワイヤーハーネスを改造したり変更したりすると、エアバッグの誤作動または衝突発生時の不作動につながるおそれがあります。

下記のいずれかの場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

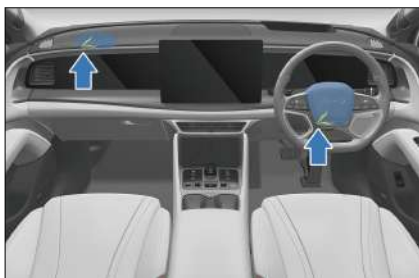
- ・いずれかのエアバッグが展開したとき。
- ・コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯  が異常点灯しているとき。
- ・車両前方（図の網かけ部）で衝突事故が発生したが、フロントエアバッグが展開していないとき。



- ・車両ドア（図の網かけ部）で衝突事故が発生したが、フロントエアバッグが展開していないとき。



- ・エアバッグカバー（図の網かけ部）に、破れ、割れまたは他の破損があるとき。



- ・サイドエアバッグが格納されているシートの表面に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- ・カーテンエアバッグが格納されている A ピラー、ルーフレール、および C ピラーの装飾（パッド）部に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- ・エアバッグの取り外し、分解、取り付け、修理を行う必要があるとき。

幼児用補助装置(チャイルドシート)

幼児用補助装置（チャイルドシート）

幼児用補助装置（チャイルドシート）は、事故発生時にお子様を適切に保護することができます。お子様の安全を確保するため、幼児用補助装置を取り付ける前に幼児

用補助装置メーカーからの取扱説明書、および本オーナーズマニュアルをよくお読みください。

警告

- ・走行中はお子様を抱っこしないでください。
- ・お子様が車両に乗る場合は、適切な幼児用補助装置を使用して安全を確保してください。また、幼児用補助装置を正しい方法で取り付けて使用してください。
- ・幼児用補助装置をシートから取り外した後は、安全な置き方で車内に収納してください。
- ・幼児用補助装置メーカーおよび本オーナーズマニュアルの取扱説明に従わないと、事故の際にお子様が生計にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。

幼児用補助装置の選定で考慮すべき重要なこと

- ・タイプやサイズは、お子様に適するものであること。
- ・タイプやサイズは、特定の着座位置に適するものであること。
- ・ECE R129 の基準に従うこと。

警告

- ・フロントシートにはチャイルドシートを取り付けしないでください。

幼児用補助装置アンカー

本車には ISOFIX/i-Size の差し入れ口とトップテザーアンカーベースがあり、幼児用補助装置を付けられます。

- ・後席外側シートには、シートバックのアンカータブ（写真）の下に ISOFIX/i-Size 固定レバーが装備されています。



- 外側リアシートバックの裏側には、テザーアンカーベースが装備されています。



❗ お願い

- ISOFIX/i-Size アンカーは、シートとシートバックの間の隙間に設置されています。

幼児用補助装置の取り付けについて

1. ISOFIX/i-Size アンカーの位置をチェックし、幼児用補助装置をシートに取り付けます。



⚠ 警告

- ISOFIX/i-Size アンカーを使う場合、アンカーの周りに異物がなくシートベルトが幼児用補助装置の裏側に引っ掛けておらず、幼児用補助装置が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、緊急ブレーキや事故時にお子様が生計にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- チャイルドシートの固定バーは、正しく取り付けられたチャイルドシートによって加えられる荷重にのみ耐えることができます。いかなる場合でも、大人用のシートベルトやハーネスとして使用したり、他の物や設備を車両に固定したりしないでください。

2. 後部座席の外側シートにトップテザー付きのチャイルドシートを取り付ける場合は、トップテザーをヘッドレストの外側に回し、対応する固定アンカーにフックをしっかりと取り付けてください。

① トップテザー

② 取付金具

③ アンカーベース



リアシートに幼児用補助装置を取り付ける場合は、必ず次の説明に従ってください。

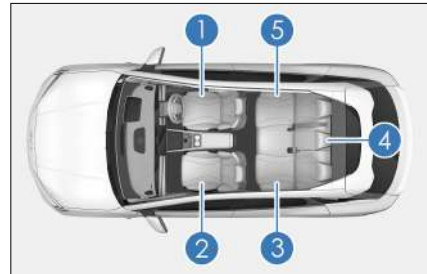
- リアシートに幼児用補助装置を取り付けている場合は、お子様がフロントシートに触れないようにフロントシートを前方へスライドさせてください。より広いス

ベースを確保するため、前席シートバックの角度を調節することもできます。

- ・シートバックで幼児用補助装置をしっかり支えるため、ヘッドレストの高さ調整または取り外しをすることができません。
- ・幼児用補助装置にシートバックが付いていない場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。また、ヘッドレストをロック位置に合わせてください。
- ・リアシート外側席に取り付けられた幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、リアパーセルシェルフを取り外さないとトップテザーアンカーが見えません。外したリアパーセルシェルフは安全な置き方で車内に収納してください。
- ・取り付け方の詳細については、幼児用補助装置に付いている取扱説明書をよくお読みください。

取り付け可能なシートベルト、ISOFIX、i-Size チャイルドシートの仕様：

- ①運転席
- ②助手席
- ③リアシート左側席
- ④リアシート中央席
- ⑤リアシート右側席



座席

区分：	2					
	1	助手席フロントエアバッグ ON ^{a)}	助手席フロントエアバッグを ON にしていない ^{a)}	3 ^{b)}	4 ^{b)}	5 ^{b)}
汎用型シートベルトに適用する座席 (はい/いいえ)	×	x	x	はい	はい	はい
i-Size 座席 (はい/いいえ)	×	x	x	はい	いいえ	はい
横向き固定装置に適用する座席 (L1/L2/いいえ)	×	x	x	いいえ	いいえ	いいえ

座席						
区分：	2					
	1	助手席フロントエアバッグ ON ^{a)}	助手席フロントエアバッグを ON にしていない ^{a)}	3 ^{b)}	4 ^{b)}	5 ^{b)}
適用の最大後ろ向き固定装置 (R1/R2X/R2/R3/いいえ)	×	x	x	R1/R2X/R2/R3	いいえ	R1/R2X/R2/R3
適用の最大前向き固定装置 (F2X/F2/F3/いいえ)	×	x	x	F2X/F2/F3	いいえ	F2X/F2/F3
適用の最大かさ上げ固定装置 (B2/B3/いいえ)	×	x	x	B2/B3	いいえ	B2/B3
^{a)} 助手席シート座面の高さおよびシートバックの角度を必要に応じて調整し、座席に幼児用補助装置をしっかりと押し付けてください。 ^{b)} 必要に応じて、後部座席のヘッドレストを調整、またはヘッドレストとチャイルドシートとの干渉を避けるために取り外すこともできます。幼児用補助装置にシートバックが付いていない場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。また、お子様がフロントシートに触れないよう、必要に応じてフロントシートの位置を調整することができます。						
×：このシートの位置は、このグループのジュニアシートに適合していません。						
・ 推奨の幼児用補助装置：						
お子様の身長(cm)	メーカー	幼児用補助装置 (チャイルドシート)		取り付け方式		
40-83	Maxi-Cosi	Pebble 360		シートベルトを締めます		
76-105	Britax Römer	Trifix 2 i-Size		ISOFIX、シートベルトを締めます		

お子様の身長(cm)	メーカー	幼児用補助装置 (チャイルドシート)	取り付け方式
100-150	Britax Römer	Kidfixi-Size ^{a)}	ISOFIX、シートベルトを締めます
137-150	Graco	Booster Max R129	シートベルトを締めます

^{a)} : 保護性能を向上させるために、SecureGuard と XP-PAD の使用をおすすめします。

- ①40～83cm
- ②76～105cm
- ③100～150cm
- ④137～150 cm



イモビライザー

イモビライザー

イモビライザーを有効にする

- 電源ポジションを「OFF」にします。
- すべての乗員が車両から降ります。
- すべてのドアを施錠すると、8 秒後にイモビライザーが自動で設定されます。

警報の作動

- イモビライザーが有効になっている場合、次の状況が発生するとアラーム*が作動してターンシグナルランプが点滅します。

- リモートキーを使わずに機能を ON にし、ドアやテールゲート、ボンネットを解錠したとき。

- メカニカルキーでドアを解錠したとき。

警報の解除

- 下記の操作を行うと警報を解除できます。
 - リモートキー/NFC キー/Bluetooth キー* / 携帯の App でドアを解錠する。
 - マイクロスイッチでドアを解錠する。
 - リモートキー/NFC キー/Bluetooth キー* / 携帯の App の遠隔操作でテールゲートを開ける。
 - リモートキー/NFC キー/Bluetooth キー* / 携帯の App の遠隔操作で車両を始動する。
 - リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押す。

⚠ 警告

- イモビライザーの構成部品を無断で修理、交換、改造しないでください。無断で改造すると、システムの誤作動を引き起こしたり、保険の条件に影響を与えるおそれがあります。
- イモビライザーが故障した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼してください。

データの収集および処理

データの収集および処理

- 本節では、BYD の車両をご利用いただく際のシステムが、個人データを収集および処理する方法について重要な情報を提供します。
- データ処理、データ保護およびデータ主体の権利についての詳細は、マルチメディアシステムで最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください ( システム → システム → 車両システムプライバシーステートメント)。
- 本車は、イベントデータレコーダー (EDR) を備えています。主に特定の衝突事故またはこれに類する衝突事故が発生した場合 (エアバッグの展開または障害物への衝突時など)、安全関連システムの状態に関するデータを記録し、以下のような車両システムの稼働状況を把握するために使用します。
 - 車両の速度。
 - タイヤ空気圧の状況。
 - アダプティブクルーズシステムの状態。
 - シートベルトの着用状況。
- 衝突またはこれに類する衝突事件が一定のレベルに達した場合のみ、車両は EDR データを記録します。車両が正常に走行している間は、EDR データを記録しません。
- EDR システムに記録された関連情報をもとに事故分析ができるよう、事故発生時の車両安全に関連するシステムの状態を把握します。
- EDR データは、特別な機器で車両にアクセスして読み出す必要があります。BYD は、法律で許可されている、また

はお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対して個人データを開示します。車両メーカー以外に、専門機器を所有する第三者機関 (政府機関など) が車両 EDR にアクセスする権限および機器を持っている場合は、EDR データ情報を読み出すことができます (例えば、エアバッグコントロールユニットのデータを読み出し、事故分析を行うなど)。

車両データの処理

- 車両センサーやコントロールユニットが収集または送信するデータなど、車両利用時にシステムが収集したデータは、車両の安全運転に必要なものです。
- 収集されたデータは、運転支援 (ドライバー補助システム) や、特定の快適機能、インフォテインメント機能の作動に利用されます。
- 収集、処理される個人データは、主に車載データ、遠隔サービス関連のデータおよびその他のデータを含みます。詳細は次の通りです。

車載データ

走行データ

- 車両を使用している間、システムはそれぞれの車両状態データ (速度、バッテリー残量、ブレーキシステムなど)、または周囲の状況 (距離センサー、温度など) の収集と処理をします。
- 通常、これらのデータは保存されませんが、コントロールユニット、センサーまたは車両に取り付けられたデータを記録するその他のユニットは、メンテナンス要求、エラー情報、その他の情報の記録に用いられます。
- 車載データは車載デバイスにのみ保存されますが、法律で義務付けられている OBD (「車載式故障診断装置」) のポートを介して、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくはその他の第三者などによって読み取ることができます。

- ・整備中にシステムへアクセスする場合、品質検査保証、製品不具合報告、またはユーザークレームの検証の目的として、これらの情報が BYD の技術者に提供されます。

遠隔サービス関連データ

遠隔監視サービス

- ・安全性を確保するための遠隔診断や無線通信（OTA）によるアップデート、およびアップグレード（オーナーの了承が必要）などの遠隔監視サービスが含まれます。
- ・監視サービスの目的：サービスの提供（遠隔支援/診断）、製品開発とセキュリティ/パブリックセーフティ。
- ・使用する国または設定により、車両の位置情報、車両の状態（電力消費、速度、シフトポジション、電源ポジション、エレクトロニクススピードコントローラーの状態、ステアリングシステムの状態、バッテリーの状態、パワーユニットの状態、車両の性能状態など）を含む各種の車両情報は、上記の目的で BYD のサーバーに送信されることがあります。

その他

インフォテインメントシステム

- ・車両の仕様により、ドライバーは自らインフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどを、インフォテインメントシステムに追加することができます。
- ・車両の仕様により、車両の個人設定にアクセスできます。
- ・車両に保存されているデータは、いつでも削除できます。
- ・BYD は、第三者に送信されたデータを管理することはできません（特に、オンラインサービスの一部として第三者のコンテンツを使用した場合）。

モバイルデバイスの集積

- ・車両の仕様により、インフォテインメントシステムを介して、モバイルデバイスの接続や制御を行うことができます。
- ・デバイスの画面または音声は、インフォテインメントシステムを介して表示/再生、またはストリーミングが必要な場合があります。
- ・位置情報や車両情報のような付加データは、アプリケーションを介して送信し、ナビゲーションシステムや通信、またはその他の第三者サービスに用いることができます。
- ・データ処理の具体的なパターンはそれぞれの機能に依存しており、ユーザーまたはデバイスや関連サービスを提供する第三者が制御します。

インターネットアクセスと接続サービス

- ・車両の仕様により、インフォテインメントシステムのネットワークデバイスを介してインターネットにアクセスすることで、車両の特定の機能、または BYD のサービスを実現することができます。
- ・BYD は、他の当事者が提供するこのようなサービスについて一切の責任を負いません。

- ・そのような場合には、データ使用に関する情報について関連するオンラインサービスプロバイダーにお問い合わせください。

カメラ映像の記録/周辺区域の監視

- ・車両には、複数のカメラ/センサーが搭載されています。
- ・一部の機能は、車両の進路を感知して評価する必要があります。これは、車両周辺のもの（障害物など）を感知するカメラによって行われます。
- ・オペレーティングシステムで必要な更なる分析を行うため、映像は関連する制御モジュールに送信されます。

- 一部の映像はランダムアクセスメモリ (RAM) でのみ処理され、その他の映像は車両の装備に応じて保存されることがあります。
- 車両には、周囲の撮影に用いられる外向きカメラ (OFC) を搭載していることがあります (ドライブレコーダー)。
- 車内の撮影に用いられる内向きカメラ (IFC) を搭載することができます。
- 2 種類の映像はすべて車内に保存されます。
- OFC または IFC を起動させる前に、関連する法的要求を確認してください (国によっては、IFC の使用許可を得る必要があり、ドライブレコーダーに利用される OFC を厳しく制限する国もあります)。
- 搭載可能なカメラの詳細については、(132 ページ) のセクションを参照してください。

車の第三者への譲渡、およびオフラインモード

- 車両を売却または譲渡する場合は、新所有者がインフォテインメントシステムを介して設定されたカスタマイズ/ユーザー設定のすべてにアクセスできます (アドレステーブル、ナビゲーションシステムなど)。
- 車両をオフラインモードに設定することで、車両と BYD データサーバー間の通信、車両の関係データや個人データの処理を制限することができます。
- ドライバーは、 をタッチして Wi-Fi を OFF にします。
- 次の操作でも、Wi-Fi を OFF にできます。
 → システム → リンク → WLAN の設定画面から変更できます。

当局への個人情報開示

- BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対して個人データを開示します。
- ただし、政府機関には、適用される法律に従って車両からデータを読み出す権限を付与されることがあります (たとえば、事故究明のためにエアバッグコントロールユニットからデータを読み出す)。
- 法律で義務付けられている場合、BYD は犯罪捜査などの要求に従って、お住まいの国/地域の政府当局に対してデータを開示する義務を負う場合があります。

ユーザーのデータ保護の権利

- BYD は、お客様のプライバシーを尊重し、すべてのデータ保護法、特に一般データ保護規則 (GDPR) および適用する現地の法律を厳しく遵守します。
- これらの法律によって個人データが処理される際、オーナーは特定の権利を有します。
 - データ主体は、情報の通知を受ける権利、アクセス権、訂正権、削除権 (「忘れられる権利」)、および個人データの処理に異議を唱える、または制限する権利 (または同意を撤回する権利、およびデータの移植性に対する権利) を有します。
- 場合によっては、これらの権利は制限されることがあります。たとえば、お客様のデータを処理する法的義務があると表明できる場合、または情報の提供により、別の人物に関する個人データが開示される場合、もしくは法律によりそれらの情報の開示が禁止される場合です。
- 場合によって、同意を撤回されたとしても、当社は関係データを保持できる場合があります。

02

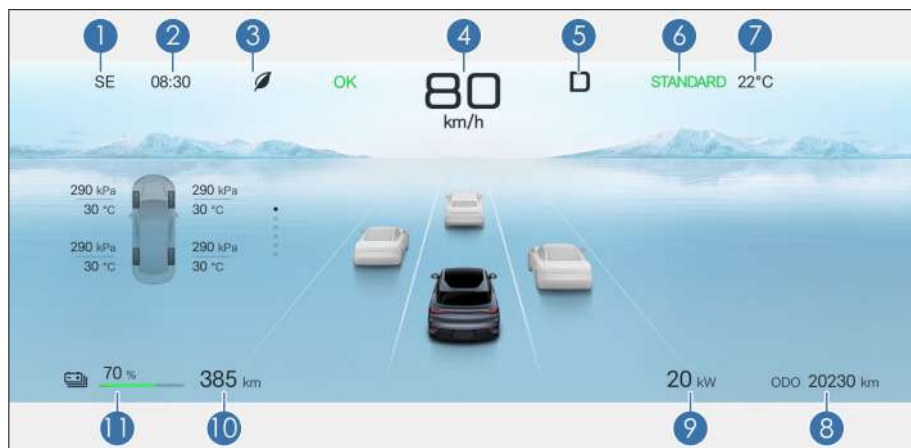
メータークラスター

コンビネーションメーター.....30

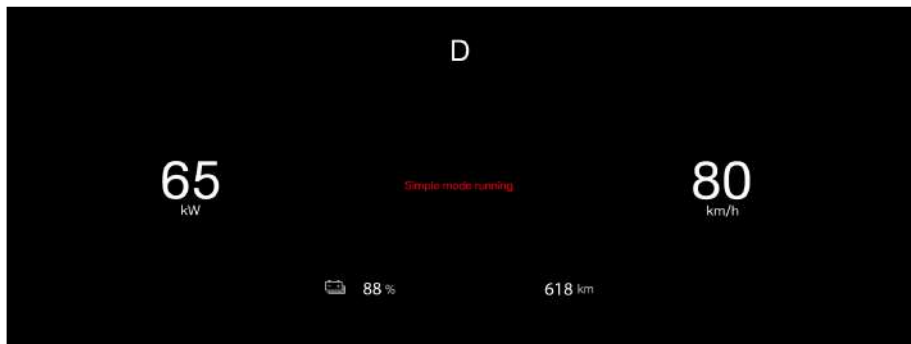
コンビネーションメーター

コンビネーションメーターイメージ

液晶タイプコンビネーションメーター



- | | |
|-------------|------------|
| 1 方位 | 7 外気温度 |
| 2 時間 | 8 総走行距離 |
| 3 運転モード | 9 パワーメーター |
| 4 スピードメーター | 10 航続可能距離 |
| 5 シフトポジション | 11 バッテリー残量 |
| 6 回生ブレーキモード | |



注意

- メーターシステムに通信遅延が発生した場合は、安全運転を確保するためにメーターが自動で簡易モードに切り替わります。簡易モードでは、メーターにドライブインフォメーションを通常のように表示して走行への影響を与えないようにし、システムが正常に戻ると、自動で簡易モードを OFF にします。簡易モードのままの場合は、次の操作で通常のメーターモードに戻すことができます。
1. センターコンソール上のホイールボタンを 3 秒以上長押しし、メーターインフォメーションディスプレイを再起動します。
 2. 車両の安全を確認したうえで、車両の電源ポジションを「OFF」にしてから、再度「OK」にします。



注意

- 上記操作を実施してもメーターが簡易モードのままの場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検してください。
- コンビネーションメーターイメージは参考です。実際は出荷時の仕様に準じます。

メーター表示灯

表示灯/警告灯の標識



左ターンシグナルランプ表示
灯



右ターンシグナルランプ表示
灯



ライトマスタースイッチ表示
灯*



ロービーム表示灯

	OK 表示灯		ポジションランプ表示灯
	オートビークルホールド表示灯		給電表示灯
	ハイビーム表示灯		アダプティブフロントライティング表示灯
	衝突予測警告表示灯		ナビゲーションパイロット表示灯
	レーンサポートシステム表示灯		アダプティブクルーズコントロール速度表示灯
	自動緊急ブレーキ故障警告灯		ナビゲーションパイロット故障警告灯
	レーンサポートシステム故障警告灯		アダプティブクルーズコントロール故障警告灯
	駆動パワー制限警告灯		ABS 故障警告灯
	パワーバッテリー残量警告灯		ブラインドスポットインフォメーション故障警告灯
	AVAS (車両接近通報装置) 故障警告灯		リアフォグランプ表示灯
	タイヤ空気圧警告灯		リモートキーシステム警告灯
	ESC OFF 警告灯*		マスターウォーニング表示灯
	ESC 故障警告灯		ヘッドライト故障警告灯

	自動緊急ブレーキ警告灯		パワーバッテリー充電接続表示灯
	低電圧給電システム故障警告灯		パワーバッテリー故障警告灯
	モーター過熱警告灯		パワーバッテリー過熱警告灯
	パワートレイン故障警告灯		冷却水オーバーヒート警告灯
	シートベルト非着用警告灯		エアバッグ故障警告灯
	電動パーキングブレーキ表示灯		ブレーキシステム故障警告灯
	制限速度標識認識表示灯		ステアリングシステム故障警告灯
	コンフォートモード表示灯		SPORT モード表示灯
	ECO モード表示灯		スノーモード表示灯

表示灯/警告灯について

トキーのバッテリー残量が低下しています。

 リモートキーシステム警告灯

- ・リモートキーが車内にない状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯が数秒間点灯すると同時にコンビネーションメーターのブザーが1回鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可。車内にキーがあるか確認してください」と表示されます。
- ・リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯は点灯せずに車両が始動します。
- ・「スタート/ストップ」ボタンを押した際に警告灯が点滅している場合は、リモート

 ABS 故障警告灯

- ・ABS 故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。ABS が正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障などが発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- ・ABS 故障警告灯が点灯（ブレーキシステム故障警告灯は消灯）している場合は、ABS は作動していませんが、ブレーキシステムは正常に作動します。
- ・ABS 故障警告灯が点灯（ブレーキシステム故障警告灯は消灯）している場合は、

ABS が作動しないため、急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキを踏むと、ホイールがロックします。

- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
- 電源ポジションが「OK」のときに警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
- 運転中に警告灯が点灯する。

お願い

- 操作中に警告灯がしばらく点灯することは、異常ではありません。
- ABS 故障警告灯とブレーキシステム故障警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。このようなときは、ブレーキをかけても ABS が機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になります。
- ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯し、かつ EPB が完全に解除された場合は、前後タイヤの制動力配分システムも効かなくなったことを表します。



タイヤ空気圧故障警告灯

- タイヤ空気圧警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、警告灯が再度点灯します。
- タイヤ空気圧故障警告灯が点灯または点滅すると同時に、コンビネーションメーターのインフォメーションディスプレイに「タイヤ空気圧モニタリングシステム

を点検してください」と表示され、タイヤ空気圧表示画面の数値表示部に「---」と表示された場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障していることを表します。

- タイヤから「信号異常」が発信された場合は、タイヤ空気圧信号が干渉を受けている、またはタイヤ空気圧モニタリングモジュールが破損しているおそれがあります。
- タイヤ空気圧警告灯が高速で点滅すると同時にコンビネーションメーター内のインフォメーションディスプレイに表示される、タイヤ空気圧表示画面の数値表示部の一部が赤くなった場合は、該当タイヤに急激な空気圧の減少があります。
- タイヤ空気圧故障警告灯が常時点灯すると同時に、コンビネーションメーターのタイヤ空気圧表示画面において、1 つまたは複数の数値表示部が黄色になった場合は、該当タイヤが低圧状態にあることを表します。1 つまたは複数のタイヤの温度数値が黄色になったときは、タイヤ温度が高すぎることを表します。
- 上記のいずれかが発生した場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。



横滑り防止装置システム (ESC) 故障警告灯

- ESC 故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。ESC 機能が正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が修復されるまで警告灯が再度点灯します。
- 走行中に ESC 故障警告灯が点滅している場合は、ESC システムが作動していることを表します。
- ESC 故障警告灯が点灯(ABS 故障警告灯、ブレーキシステム故障警告灯は消灯)している場合は、ESC の車両安定性制御が

無効になりますが、ABS およびブレーキシステムは正常に作動します。

- ESC 故障警告灯が点灯(ABS 故障警告灯、ブレーキシステム故障警告灯は消灯) している場合は、横滑り防止装置が作動しないため、急ハンドルや前方障害物の緊急回避時に、車両姿勢が極めて不安定な状態になります。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジションが「OK」のときに警告灯が点灯しない (セルフテストなし)。
 - 運転中に警告灯が点灯し続ける。

! お願い

- 操作中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- ABS 故障警告灯、ブレーキシステム警告灯、ESC 故障警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。このとき、ブレーキをかけても車両姿勢が極めて不安定な状態になり、ABS も完全に機能しません。



ESC OFF 警告灯

- ESC OFF スイッチを押すと ESC OFF 警告灯が点灯し続けます。このとき、横滑り防止装置は機能しません。再度 ESC OFF スイッチを押すと ESC OFF 警告灯が消灯し、横滑り防止装置が機能するようになります。

! お願い

- ESC OFF 警告灯が点灯している場合、急旋回をしたり突然現れた障害物を避けたりするときは十分に注意を払い、低速で運転することが重要です。ブレーキをかけても ESC が機能しないため、車両姿勢が不安定になります。



駆動パワー制限警告灯

- 車両のパワーが制限された場合に点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



ヘッドライト故障警告灯

- 警告灯が黄色く点灯している場合は、ヘッドランプが故障していることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。



ブラインドスポットインフォメーション故障警告灯

- 表示灯が点灯している場合は、ドライビングアシスト機能が制限されていることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。



車両接近通報装置故障警告灯

- 車両接近通報装置が故障した場合に点灯します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



マスターウォーニング表示灯

- ・表示灯が点灯している場合は注意が必要であることを表します。また、インフォメーション表示部に故障や警告のメッセージが表示されます。



シートベルト非着用警告灯

- ・電源ポジションが「OK」のとき、フロント側およびリア側のシートベルトが未着用の場合に点灯します。シートベルトが確実に装着されるまで点灯し続けます。



エアバッグ故障警告灯

- ・電源ポジション「OK」時に点灯し、エアバッグシステムが正常に作動している場合は、数秒後に警告灯が消灯します。エアバッグ ECU、衝突センサー、インフラーター、警告灯、結線、および電源をモニタリングするものです。
- ・下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - ・電源ポジションが「OK」のときに警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - ・運転中に警告灯が点灯する。



ブレーキシステム故障警告灯

- ・ブレーキフルードの液量が低下している、またはブレーキシステムが故障している場合に警告灯が点灯します。下記のいずれかが発生した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・電源ポジションが「OK」のときにブレーキフルードの液量が低下していると点灯します。

- ・車両を始動後、ブレーキフルードの液量が良好でかつ電動パーキングブレーキシステムが正常に動作している場合（電動パーキングブレーキスイッチをスムーズに引き上げたり解除したりすることができ、「電動パーキングブレーキシステムを点検してください」というメッセージが出ていない）、警告灯が点灯します（短時間の点灯は異常ではありません）。
- ・パーキングブレーキ故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯している場合。



お願い

- ・ブレーキフルードの液量が低下している状態での運転は非常に危険なため、運転を止めてください。



ステアリングシステム故障警告灯

- ・ステアリングシステム警告灯が常時点灯している場合は、ステアリングシステムが故障しているため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。



お願い

- ・ステアリングシステムは、モーターによりステアリングホイールを回す力を軽減するものです。
- ・ステアリングホイールを回すとき、モーターの動作音（「ぶんぶん」のような音）が聞こえることがあります。故障ではありません。
- ・ステアリングホイールを 5 秒以上全切り（限界位置を保持）のままにしないでください。5 秒を超えると過熱保護機能が作動し、操舵力が重くなるまたは損傷します。
- ・長時間頻繁に据え切りをした場合、ステアリングシステム故障警告灯が点灯して

いないのに操舵が重く感じられることがあります。故障ではありません。

- ・長時間頻繁に据え切りした場合、ステアリングシステムの過熱を防ぐため、アシスト力が低下して操舵が重く感じられることがあります。このようなときは、頻繁なハンドル操作を避ける、または停車して電源を切ってください。システムは、10 分以内に正常な状態に戻ります。
- ・場合によっては、起動バッテリーやヒューズの抜き差しなどの操作により、車両の電源が失われるおそれがあります。車両の電源供給を復旧後、コンビネーションメーターの ESC 警告灯が点灯します。このようなときは、ハンドル角ゼロ点自己学習を操作する必要があります。左右方向にステアリングホイールをゆっくり回し切った状態で 2~5 秒間保持した後、ステアリングホイールを離します。その後、車両の電源ポジションを「OFF」にして 10 秒以上待ち、再度電源ポジションを「OK」にします。ESC 警告灯が消灯すれば自己学習が終了します。

警告

- ・ステアリングシステム故障警告灯が点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



低電圧給電システム故障警告灯

- ・運転中に警告灯が点灯している場合は、DC システムまたは低電圧給電システムに不具合があることを表します。エアコン、ファン、ラジオなどを止めて安全な場所に停車し、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に救援を依頼してください。



パワートレイン故障警告灯

- ・パワートレインが故障した場合に点灯します。
- ・下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
- ・電源ポジションが「OK」のときに点灯し続けます。
- ・運転中に警告灯が点灯する。

注意

- ・警告灯が点灯している状態では、可能な限り運転しないでください。速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検および問題の確認を依頼してください。



パワーバッテリー過熱警告灯

- ・警告灯が点灯している場合は、パワーバッテリーの温度が高すぎることを表します。車両を停車し、温度を下げてください。パワーバッテリー過熱警告灯が点滅しているときは、ただちに安全な場所に停車し、ただちに車両から離れてください。
- ・下記の条件で走行した場合、パワーバッテリーが過熱することがあります：
 - ・炎天下や長時間・長距離で上り坂を走行したとき。
 - ・長時間にわたり頻繁に発進・停止、急加速・急ブレーキ繰り返す交通状況、または長時間連続での走行。



パワーバッテリー故障警告灯

- ・車両の電源ポジションを「OK」にしたときに点灯します。パワーバッテリーシステムが正常に作動している場合は、数秒

後に消灯します。システムの故障があった場合は、再度点灯します。このようなときは、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。

- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。

- 電源ポジションが「OK」のときに警告灯が点灯し続ける。
- 運転中に警告灯が常時または時々点灯する。



自動緊急ブレーキ警告灯

- 表示灯が点灯または点滅している場合は、先行車の距離に注意しつつ、衝突を避けるために適切な車間距離を保ってください。



冷却水オーバーヒート警告灯

- 警告灯が点灯している場合、冷却水の温度が高すぎることを表します。ただちに安全な場所に駐車し、警告灯が消灯するまでお待ちください。



120 制限速度標識表示灯

- アイコンが点灯している場合は、システムが現在走行中の道路の制限速度を認識しています。

メーターのその他故障について

コンビネーションメーターには次のような故障メッセージが表示されることがあります。その都度、推奨される対応方法に従って操作してください。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	車載充電システムを確認してください	車載充電システムが故障しています。充電設備の接続異常がないか確認したうえで、充電設備に再接続してください。解消しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	安全のため、遠隔操縦をしばらく使用停止します	遠隔操縦に異常があります。しばらく使用を停止してください。
	車両ネットワークを点検してください	車両のデータネットワークが故障している可能性があります。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	メモリーシステムを点検してください	メモリーシステムが故障していることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

アイコン 表示	故障メッセージ	対応方法
	EV 機能が制限されています	EV 機能が制限されていることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検してください。
	ヘッドライトシステムを確認	ヘッドライトシステムが故障していることを表します。BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	運転支援機能が制限されています	前方衝突警告機能 (FCW) または自動緊急ブレーキ (AEB) が故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	運転支援機能が制限されています	ブラインドスポットインフォメーションシステム (BSD) の機能が制限されていることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	運転支援機能が制限されています	車線逸脱警告 (LDW) または車線逸脱防止 (LDP) が故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	シフト機構を確認してください	シフトコントローラーが故障していることを表します。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

03

コントローラーの操作

ドアとキー.....	42
シート.....	56
ステアリングホイール.....	61
スイッチ.....	64

ドアとキー

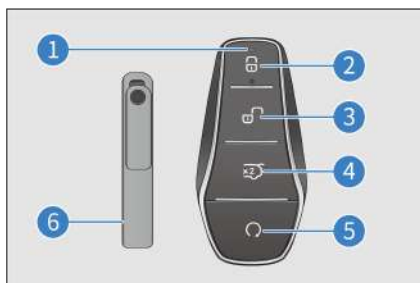
キー

キーを使用してドアの施錠/解錠および車両の始動などができます。キーは、リモートキー、メカニカルキー（リモートキー内）、NFC カードキー、NFC デジタルキー*と Bluetooth キーがあります*。

リモートキー

リモートキーを携帯した状態で運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの施錠/解錠ができます。リモートキーのボタン操作では、ドアの施錠/解錠に加えて、テールゲートを開いたり、リモートスタートなどができます。

- ① 表示灯
- ②「ロック」ボタン
- ③「アンロック」ボタン
- ④「テールゲートオープン」ボタン
- ⑤「スタート/ストップ」ボタン
- ⑥ メカニカルキー



警告

- ・リモートキーの中に入っているボタン電池は危険なため、電池の種類を問わずお子様の手の届かないところに置いてください。

警告

- ・コイン形リチウム電池を誤って飲み込んだ、または身体の一部に電池が入ってしまった場合は、2 時間以内に重傷または致命傷を引き起こすおそれがあります。
- ・ボタン電池を誤って飲み込んだ、または体のどこかに入ったと疑われる場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。

注意

- ・リモートキーは電子部品です。リモートキーの破損を防ぐため次の説明に従ってください。
- ・リモートキーをインストールメントパネルなどの温度が高いところに置かないでください。
- ・リモートキーを勝手に分解しないでください。
- ・リモートキーで他のものを強く叩いたり、キーを落とさないでください。
- ・リモートキーを水に浸けたり、超音波洗浄機で洗浄しないでください。
- ・リモートキーを携帯電話などの電磁波が発生する装置と一緒に置かないでください。
- ・リモートキーに電磁波を遮断するものを付けないでください（金属シールなど）。
- ・同一の車両にエマージェンシーキーを登録することができます。詳細な説明については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・リモートキーの作動範囲内でドア操作ができない、またはキーの表示灯が暗く点灯しない場合：

⚠ 注意

- ・近くにリモートキーの動作を干渉するラジオ局や航空無線発信機がないかを確認してください。
- ・リモートキーのバッテリーが切れている可能性があります。リモートキーのバッテリーを点検してください。バッテリーの交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・リモートキーを紛失した場合は、車両の盗難や予期せぬ事故を起こさないため、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・送信周波数の変更、送信電力の増加（送信周波数アンプの追加を含む）、アンテナの外付けや他の送信アンテナの流用をしないでください。
- ・使用時は、さまざまな無線通信業務に干渉がないようにしてください。干渉が見つかった場合は、ただちに使用を停止し、干渉の解消措置を取ってから使用してください。
- ・小電力無線機を使用するときは、さまざまな無線通信業務の干渉、または産業用、研究用および医療用設備の放射干渉を避けてください。
- ・飛行機や空港の近くで使わないでください。機内でスイッチが押されると電波が発信され、飛行機の運航に支障をきたすおそれがあります。
- ・電磁波による電子機器への影響があるため、植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートエントリー&スタートシステムのアンテナから遠く離れてください。植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器、またはそれ以外の医療電子機器を使用されている方は、電磁波が機器に与える影響を製造メ

⚠ 注意

- ・一カーに確認してください。電磁波が、医療機器の使用に予測できない悪影響を与えるおそれがあります。
- ・車両から離れる場合は、必ずキーを携帯して施錠してください。また、絶対にお子様を1人で車内に残さないでください。

メカニカルキー

メカニカルキー（リモートキー内）：運転席側ドアハンドルに挿し込んで、施錠/解錠します。使わないときはメカニカルキーをリモートキーに収納し、リモートキー本体後部の蓋を閉めてください。

- ・リモートキーに格納されているメカニカルキーを使用する場合は、図のようにロック解除バックルを矢印①の方向に引き、矢印②の方向に押してリモートキーの裏蓋を外すと、メカニカルキーを取り出すことができます。
- ・メカニカルキーを使用した後は、矢印②の反対方向にメカニカルキーを挿し込んでリモートキー本体後部の蓋を閉めてください。



Bluetooth キー*

- ・スマートフォン用 Bluetooth キーは、近距離にあるスマートフォンの Bluetooth を通じて車両に接続し、ドアの施錠/解錠などを行います。

- アプリストアで BYD APP の最新バージョンをダウンロードしてインストールしてください。このアプリには、スマートフォン用 Bluetooth キー機能を集約しています。
- スマートフォン用 Bluetooth キーが装備されている車両の場合、ユーザーは BYD APP で機能を有効にした後、スマートフォン用 Bluetooth キーを使用できます。
- スマートフォンの Bluetooth を ON にして車両に近づきアプリを開くと、アプリがスマートフォン用 Bluetooth キーに自動で接続します。また、スマートフォン用 Bluetooth キーを手動で接続することもできます。Bluetooth 接続が成功すると、スマートフォン用 Bluetooth キーを使用できるようになります。
- スマートフォン用 Bluetooth キーで対応可能な機能は、車両の構成によって異なります。スマートフォン用 Bluetooth キーはネットワークに依存しません。スマートフォン用 Bluetooth キーを接続して実行する操作項目をタッチすると、アプリが車両を制御するためのコマンドを送信します。
- 一部の国や地域では関連する規制要件に従い、ユーザーが車両を始動すると車両の位置検出が実行されます。スマートフォン用 Bluetooth キーが 2m 以内にあることが検出されたときのみ車両の始動が許可されます。これにより、車両の財産の安全を確保します。

注意

- スマートフォン用 Bluetooth キーを使用する前に、車両ネットワーク信号が良好であることを確認してください。使用できないときはネットワークが良好な場所に車両を移動し、アプリでスマートフォン用 Bluetooth キーを再度使用してください。
- スマートフォン用 Bluetooth キーのロックで解除した後すぐに車両の

注意

操作が行わない場合、ドアが自動的に施錠されます。

- スマートフォン用 Bluetooth キーが複数回接続に失敗する、または複数回操作に失敗した場合は、システムの Bluetooth を OFF にしてから再度 ON にするか、アプリを再起動してください。
- スマートフォン用 Bluetooth キーの使用可能距離は、車両環境とスマートフォンの性能により制限されます。車両が密集している場合は、使用可能距離が短くなることがあります。
- スマートフォン用 Bluetooth キーとスマートフォンの間には互換性の問題があり、機種によっては上記の機能に対応していません。

NFC カードキー*

- NFC カードキーは、NFC 通信規格に基づいたキーです。車両の解錠/施錠および車両の始動ができます。
- NFC カードキーを運転席側のドアミラーにある NFC マークにかざすと、どのシフトポジションでもすべてのドアの施錠/解錠ができます。
- NFC キーをセンターコンソール前部の NFC エリアに置くことで、NFC キーに車両の始動の権限を与えることができます。

注意

- NFC カードは電子機器です。NFC カードが機能しない、または破損しないように、次の説明に従ってください。
- ワイヤレス充電器を ON にしている場合 (**167 ページ**) を参照して

⚠ 注意

- ください。)は、NFC カードを充電エリアに置かないでください。
- NFC カードを使用する場合は、電磁波を遮断するものを付けないでください (例: 金属シール、携帯電話の金属製バックカバーなど)。
- NFC カードをインストルメントパネルなどの高温部に置かないでください。
- NFC カードを強く曲げないでください。
- NFC カードを他の固いものと一緒には置かないでください。
- NFC カードは近距離無線通信を行うもので、通信可能な距離は 2cm 以内になります。NFC カードをかざす場合は、ドアミラーに近づけて 1 ~ 2 秒キープしてください。
- 携帯電話の電源が切れるまたは紛失する、リモートキーが無効または紛失して車両を使用できなくなることがないように、NFC カードを常に携帯することをおすすめします。
- 安全のために適切な場所で保管してください。紛失した場合は、すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でカードを再設定し、紛失したカードをブロックしてください。

NFC デジタルキー*

- NFC デジタルキーは、BYD がユーザーに提供しているデジタルキー機能です。ユーザーは自分のスマートフォンやウェアラブルデバイスを車両のキーとして登録し、車両の施錠/解錠、および始動を行うことができます。

- NFC デジタルキーを有効にする前に、次の条件が満たされていることを確認してください。
- 車両が BYD クラウドサービスを有効にしている。
- 車両構成が NFC デジタルキー機能をサポートしている。
- スマートフォンまたはウェアラブルデバイスが、BYD NFC デジタルキー機能をサポートしている (サポートされている特定のデバイスモデルについては、BYD の正規ディーラーにお問い合わせください)。

スマートフォンの NFC デジタルキーを有効にする

スマートフォンで NFC デジタルキーを有効にする場合は、リモートキー使用して車両に乗り込み、車両の電源ポジションを「OK」にして「P」のままにしてください。有効にするには次の 3 つの方法があります。

- BYD アプリによる有効化:
 - アプリストアから BYD APP をダウンロードし、登録してログインします。[デジタルキー]をタッチし、画面に従って有効にします。
- 電子メールのリンクからの有効化:
 - スマートフォンを使用して車両購入時に登録した電子メールアドレスにログインします。bydapp@byd.auto からのデジタルキーアクティベーション電子メールを確認し、画面に従って有効にします。
- 車両システムによるアクティブ化
 - ユーザーは、☞ → 車両設定 → ロック → デジタルキーをタッチし、画面に従って有効にします。

ウェアラブルデバイスの NFC デジタルキーを有効にする

ウェアラブルデバイスは Apple Watch をサポートしています。(その他のウェアラブル

デバイスのサポートについては、BYD 正規ディーラーにお問い合わせください。) 有効化するには、以下の 2 つの方法があります。

- iPhone が正常に起動したら、Apple Watch と同期します。
- ロックを解除した Apple Watch を装着し、iPhone デジタルキーを有効にします。起動した後、iPhone は同期されると近くにある Apple Watch にデジタルキーを追加する内容が表示されるので、画面に従って有効化します。
- Watch App で有効化：
 - この方法は、iPhone のデジタルキーは有効化されているが Apple Watch に同期されていない場合に適しています。iPhone の Watch App を開いて [ウォレット] を選択し、対応するキーを見つけて [追加] をタッチし、画面に従って有効化します。

NFC デジタルキーを使用する

NFC デジタルキーを使用する場合は、スマートフォンまたはウェアラブルデバイスの NFC 機能スイッチを ON にしてください。使い方：

- NFC デジタルキーを有効化したスマートフォンまたはウェアラブルデバイスを携帯し、NFC アンテナエリアを運転席側のドアミラーの NFC 標識に近づけると、車両を施錠/解錠できます (NFC アンテナエリアの詳細については、デバイスのプロバイダーにお問い合わせください)。
- 車両に乗り込んだ後、車両の NFC 標識にスマートフォンまたはウェアラブルデバイスを置くと、車両の始動の許可を取得できます。

注意

- NFC デジタルキーを使用して始動の許可を取得後、できるだけ早く車両を始動してください。時間内に車両を始動できなかった場合は、スマ

注意

ートフォンまたはウェアラブルデバイスを車内の NFC 標識に再度置き、始動の許可を取得してください。

NFC デジタルキーを削除する

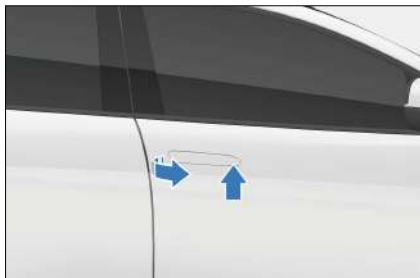
NFC デジタルキーを削除するには 3 つの方法があります。

- BYDAPP で削除する
 - BYDAPP を開き、デジタルキー管理画面に進みます。削除する必要があるデジタルキーをタッチし、操作パスワードを入力して削除します。
- 車両システムで削除します
 - 有効なスマートキーを使用して車に乗り込み、 → 車両設定 → ロック → デジタルキー から削除するデジタルキーをタッチし、画面に従って削除します。
- ウォレットアプリで削除します
 - スマートフォンのウォレットアプリを開き、削除するデジタルキーを選択し、画面に従って削除します。

ドアの施錠/解錠

メカニカルキーでの施錠/解錠

1. 格納式ドアハンドルの右側を押し込むと左側が指一本の高さほど浮き上がるため、左側を手で支えます。



2. 左側が浮き上がった状態で、ドアハンドルの中央部を手前へ引っ張るとドアハンドルが展開します。



3. メカニカルキーを鍵穴に挿し込んで回します。
- ・ 反時計方向にメカニカルキーを回すと、ドアが解錠します。
 - ・ 時計回りにメカニカルキーを回すと、ドアが施錠します。



⚠ 注意

- ・ メカニカルキーを抜き出した後、運転席側ドアハンドルを引いてドアを開けてください。

ノブ操作でドアを開ける

- ・ 解錠している場合は、ノブを1回引き上げると車内からドアが開けられます。
- ・ 施錠している状態でドアを開ける場合は、2回連続でノブを引き上げます。



⚠ 警告

- ・ お子様が悪戯ってドアを開けてしまい、予期せぬ事故を起こすおそれがあるため、お子様にノブを触らせないでください。
- ・ お子様を乗せている場合は、必ずチャイルドロック機能をONにしてください。

⚠ 注意

- ・ チャイルドロックを搭載しているため、チャイルドロックを解除していない場合は、リアドアのノブを引き上げても開けることができません。

リモートキー操作での施錠/解錠

- ・ ワイヤレスリモートコントロール機能は、作動範囲内であればすべてのドアの解錠や施錠、付加機能が操作できます。
- ・ ドライバーは、 → 車両設定 → ロックの設定画面から、リモートキーの遠隔操作を設定することができます。
- ・ 登録済みのリモートキーを携帯し、作動範囲内でキーのボタンを押すと、すべてのドアの施錠/解錠ができます。

施錠

- ・ すべてのドア、ボンネットおよびテールゲートが閉まっている状態で「ロック」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されて格納式ドアハンドルも自動的

に格納します。車両の電源ポジションが「OFF」のときはドアミラーも格納され（マルチメディアの「自動格納」がONの場合）、ターンシグナルランプが1回点滅します。電源ポジションを「OFF」にしていなときはドアミラーが格納されず、ターンシグナルランプも点滅せずにホーンが1回鳴ります。施錠後は、すべてのドアが確実に施錠されていることを確認してください。



- いずれかのドアが開いているときはドアミラーおよびドアハンドルが格納されず、ターンシグナルランプも点滅せずにホーンが1回鳴ります。
- ボンネットまたはテールゲートが開いているときはドアミラーが格納されず
*、ターンシグナルランプも点滅せずにホーンが1回鳴ります。

解錠

- 「アンロック」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に解錠されて格納式ドアハンドルが自動で展開し、ターンシグナルランプが2回点滅します。
- リモートキーを操作してすべてのドアを同時に解錠した場合、ドアが開いていなくてもルームランプが（マルチメディア内のルームランプ「DOOR」スイッチONの場合）15秒間点灯してから消灯します。
- イモビライザーが作動している状態で、リモートキーを使って解錠したときは、30秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に施錠され、ドアハンドルも格納されます。

- 挟み込み防止機能が搭載されている場合：「ロック」または「アンロック」ボタンを長押ししても、ロックまたはアンロックを繰り返すことはできません。一度ボタンから手を離し、もう一度「ロック」または「アンロック」ボタンを押してください。リモートキーの「ロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスが自動で閉まります。

キー閉じ込め防止機能

- リモートキーの置き忘れを防ぐため、施錠した状態でリモートキーを車内に置いてドアを閉めると、自動的にドアが解錠してターンシグナルランプが2回点滅します。



お願い

- 車両の電源ポジションが「OFF」以外のポジションに入っている場合は、「ロック」または「アンロック」ボタンの操作でドアの施錠/解錠はできません。

リモートキー操作による車両搜索機能

- イモビライザーがONの状態ではロックボタンを押すと、車両から警報音が1回鳴りターンシグナルランプが15回点滅します。自車の位置が確認できない場合、この機能を活用することで位置を特定できます。
- 車両搜索中に再度ロックボタンを押すと、新たに車両搜索状態になります。

リモートキー操作によるウィンドウガラスの開/閉

- 車両の電源ポジションを「OFF」にした場合：
 - リモートキーの「ロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスが自動で閉まります。

- ・リモートキーの解錠ボタンを長押しすると、すべてのドアガラスを自動的に開けることができます。
- ・ドライバーは、 → 車両設定 → ロックの設定画面から、リモートキー長押しによる施錠/解錠、ウィンドウガラスの開閉機能の ON/OFF を設定できます(詳細は、実際の車両仕様によります)。

⚠ 注意

- ・リモコン操作でウィンドウガラスを閉じる際は、ウィンドウガラスに乗員の身体が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。

マイクロスイッチ操作での施錠/解錠

施錠

- ・ドアを施錠していない状態でリモートキーを携帯し、作動範囲内で左右のフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に施錠されて格納式ドアハンドルも自動で格納します。車両の電源ポジションが「OFF」のときは、ドアミラーが格納されてターンシグナルランプが 1 回点滅します。車両の電源ポジションを「OFF」にしていないときはドアミラーが格納されず、ターンシグナルランプも点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。



- ・ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている状態でも、マイクロスイッチ操作で閉まっているドアを施錠す

ることができます。格納式ドアハンドルは自動で格納しますがドアミラーは格納されず、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。

解錠

- ・ドアが施錠されている状態でリモートキーを携帯し、作動範囲内で左右のフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に解錠されます。格納式ドアハンドルも自動で展開し、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- ・イモビライザーが作動している状態で、リモートキーを使って解錠したときは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に再度施錠され、ドアハンドルも格納されます*。
- ・以下の場合、マイクロスイッチを押しても施錠/解錠はできません。
 - ・ドア開閉時に、マイクロスイッチを押したとき。
 - ・リモートキーが車内に置いてあるとき。

❗ お願い

- ・リモートキーがドアハンドル、またはウィンドウに近すぎる場合は、この機能が有効にならず操作ができないことがあります。

マイクロスイッチ操作によるウィンドウガラスの開/閉

- ・車両の電源ポジションが「OFF」のとき、リモートキーを携帯したまま運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを長押しすると、すべてのウィンドウガラスの自動開/閉ができます(出荷時は、ウィンドウガラス上昇機能は ON、ウィンドウガラス下降機能は OFF になっています)。

- ドライバーは、 → 車両設定 → ロックの設定画面から、マイクロスイッチ長押しによる施錠/解錠およびウィンドウガラス開閉機能の施錠/解錠の設定ができます。

NFC カードでの施錠/解錠

施錠

- 車両の電源ポジションを「OFF」にし、ドアを閉じた状態で NFC カードキーを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に施錠してターンシグナルランプが 1 回点滅します。



解錠

- イモビライザーが機能している状態で NFC カードキーを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に解錠してターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- ドア開閉時に NFC カードキーを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざした場合、施錠/解錠はできません。
- スマートフォン型 NFC カードキーを使用する場合は、スマートフォンの NFC 機能を ON にし、裏面上部を運転席側のドアミラー NFC 指定領域に近づけてください。

！ お願い

- イモビライザーが作動している状態で NFC カードを使って解錠したと

！ お願い

きは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に再度施錠されます。

- スマートフォンの機種によっては、スマートフォンが電源 OFF の状態では NFC カードキーが使用できないことがあります。
- スマートフォンを電源 OFF にした状態で長時間および高頻度の使用は避けてください。

テールゲートの施錠/解錠

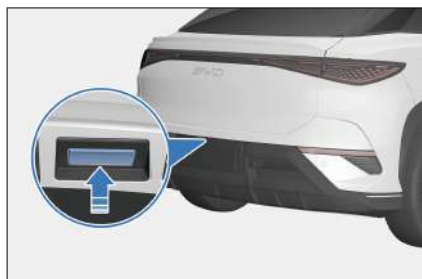
リモートキーでテールゲートを開ける

- リモートキーの「テールゲートオープン」ボタンを 2 回連続で押すと、テールゲートが開きます。このとき、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。



パワーテールゲートスイッチでテールゲートを開ける

- 施錠しているときは、リモートキーを携帯した状態でパワーテールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートを開けることができます。
- 解錠している状態でパワーテールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートを開けることができます。



車内からテールゲートを開/閉する

- ・ 解錠されている状態でパワーテールゲートスイッチを引き上げると、テールゲートが開きます。スイッチを長押しするとテールゲートが閉まります。
- ・ 速度が 3km/h を超えているときは、スイッチを引き上げてもテールゲートは開きません。



①テールゲートクローズボタン

- ・ テールゲートを開けて止まっている場合、テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが自動で閉まります。



- ・ テールゲートを閉めている途中で再度テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが現在の位置で止まります。テールゲートが止まった状態で再度テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが反対側に動きます。

②施錠スイッチ

- ・ 車両の電源ポジション「OFF」時にテールゲートが開いている場合、リモートキーを携帯したまま施錠スイッチを押すと、テールゲートが閉まると同時に施錠されイモビライザーが作動します。

❗ お願い

- ・ テールゲートを閉める前に、物的損害がないようにドア、ウィンドウ、サンルーフなどが閉まっていることを確認してください。

テールゲート開口位置の設定

- ・ 手動または自動でテールゲートを任意の位置まで開けて維持したまま、テールゲートスイッチを 3 秒以上長押しします。スピーカーが 1 秒鳴ると、テールゲートの開口位置の設定が完了します。
- ・ ドライバーは、 → 車両設定 → ロック の設定画面からテールゲートの開口位置を設定できます。

挟み込み防止機能

- ・ 電動操作でテールゲートを閉める途中に一定以上の力が加わった場合、テールゲートが自動で反対側へ動きます。また、電動操作でテールゲートを開く途中に一定以上の力が加わると、テールゲートは現在の位置で停止します。

テールゲートのモーターが動かない場合

- ・ 手動でテールゲートを閉めると、モーターの機能を復旧させることができます。

起動バッテリーを再接続する場合

- ・ 電動でテールゲートの操作ができないため、手動でテールゲートを閉めてください。

警告

- ・ テールゲートを操作する場合は、下記の注意事項を守ってください。そうしないと、身体の一部が挟まれて生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- ・ 身体の一部で、挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- ・ 近くに人がいるときは、安全を確認してからテールゲートを開閉してください。
- ・ テールゲートを閉めるときは、指などを挟まないように注意してください。
- ・ テールゲートを開閉するときは、周りの安全を十分確認してください。
- ・ 発進するときは、テールゲートを確実に閉めてください。
- ・ テールゲートを開ける前に、付着している雪や氷などを取り除いてください。そうしないと、開けたテールゲートが突然閉まるおそれがあります。
- ・ 電動操作でテールゲートを開閉している途中に、手動でテールゲートを操作しないでください。
- ・ 風が強いときにテールゲートを開閉すると、風にあおられ急に動くことがあるため注意してください。
- ・ テールゲートが閉まり切る直前に挟まれるものによっては、挟み込み防止機能が作動しない場合があります。
- ・ テールゲートが最後まで開いていない場合、突然閉まるおそれがあります。坂道でテールゲートの開閉操作をするときは、平らな地面より力がかかるため、テールゲートの思わぬ開閉に注意してください。

警告

- い。また、テールゲートを使用する前に、テールゲートが最後まで開いて止まっていることを確認してください。
- ・ 挟まれたものの形状によっては、挟み込み防止機能が作動しない場合があります。指などが挟まれないように注意してください。

足感知式テールゲートオープン*

リモートキーを携帯した状態でテールゲートセンサーの有効検知エリアに立ち、リアバンパーの下に足を入れます。



- ・ テールゲートが閉まっている場合は、テールゲートが開きます。
- ・ テールゲートが完全に開いている場合、テールゲートが閉まります。
- ・ テールゲートが開閉中の場合、テールゲートは暫く空中で静止状態を保ちます。再度足を入れると逆向きに動きます。

警告

- ・ 足を入れる場合は地面にしっかりと立ち、車両後部に十分なスペースがあることを確認してください。そうしないと、バランスを崩すおそれがあります（例:氷の上にいるとき）。
- ・ テールゲートが誤って開くことを防ぐため、次の行為をする場合はリモ

警告

トキーを持ち歩かないでください。

- ・車両後方にものを置いたり、ものを拾ったりする行為。
- ・車両後方を磨くなどのメンテナンス作業を行う行為。

お願い

- ・足をいれる時間は、1秒以内に完了してください。
- ・足感知式テールゲートオープン機能を使用する場合は、リモートキーがテールゲートから1m以内にあることを確認してください。
- ・洗車や雨による水の付着、リアバンパーに雪が積もった場合は、テールゲートを開けるときに遅れが生じます。一定時間経過後に上記環境が解消されると、自動で解消されます。
- ・テールゲートロックがかかっていると、再度足を入れても応答しません。

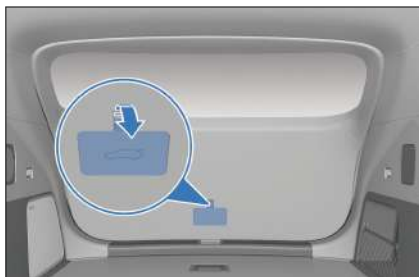
テールゲートの緊急解錠

1. シートバック上の格納用ノブを引き上げ、リアシートのシートバックを倒してトランクルームに入ります。



2. テールゲートには緊急ロック解除装置があり、ロック解除装置のカバーを開けて緊急ケーブルを外側に引くと、緊急時に車内

からテールゲートを開けることができます。

**お願い**

- ・車両が停電した場合は、車内からテールゲートの緊急時解錠ができます。

集中ドアロックの施錠/解錠**集中ドアロックスイッチでの車両の施錠/解錠**

- ・詳細は (69 ページ) を参照してください。

ドアの自動施錠/解錠

- ・速度が約 8km/h を超えると、すべてのドアを自動で施錠します。
- ・「スタート/ストップ」ボタンを押して車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると、すべてのドアを自動で解錠します。

すべてのドアを同時に施錠/解錠する

- ・イモビライザーが作動していない状態で施錠すると、集中ドアロックの施錠ボタンのバックライトが点灯します。車両を解錠すると、バックライトが消灯します。
- ・集中ドアロックの施錠ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。この場合、車外からの解錠操作はできなくなります。ドアを開けるときの、車内のドアノブを1回引いてロックが解錠され

てから、もう一度車内のドアノブを引くとドアを開けることができます。

！ お願い

- ・ 車両が強い衝突を受けた場合は、すべてのドアが自動的に解錠されます。自動で解錠する判定は、衝撃の強さや事故などのパターンにより決定されます。

メカニカルキーによる全ドア緊急施錠

- ・ 集中ドアロックが機能しない場合は、メカニカルキーで運転席側のドアを施錠します。ロック状態になるまでキー操作で他の3つのドアの緊急ロック用ツマミを回してロックしてから、ドアを閉めます。このとき、車両が施錠されている状態で4つのドアのアウトドアハンドルを操作しても、ドアを開けることはできません。
- ・ 解錠する場合は、メカニカルキーで運転席側のドアを解錠します。解錠したら車両に乗り込み、他のドアノブを2回連続で操作して解錠します。



！ お願い

- ・ 緊急施錠時は、メカニカルキーの変形や折れがないように力を控えてください。

スマートエントリー&スタートシステム

リモートキーを使用して、ドアの施錠/解錠および車両の始動ができます。

機能を ON にする場合

リモートキーを所持してドアを施錠/解錠します (詳細は (47 ページ) および (49 ページ) を参照してください)。

！ お願い

- ・ リモートキーがドアハンドルまたはウィンドウに近すぎる場合は、機能が有効にならないことがあります。

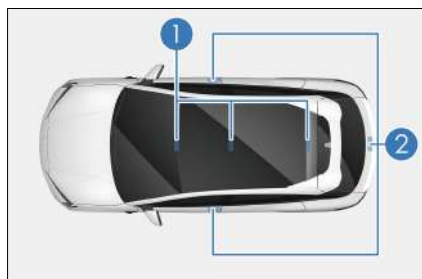
車両を始動する場合

リモートキーを携帯した状態でブレーキペダルを踏みながら「スタート/ストップ」ボタンを押すと、車両を始動できます (詳細は (103 ページ) を参照してください)。

アンテナの搭載位置

①室内アンテナ

②室外アンテナ



作動範囲

登録済みのリモートキーが作動範囲内にならない場合は、スマートエントリー&スタートシステム機能を使用できません。

①機能が ON になる作動範囲—フロントドアハンドルおよびテールゲートオープン/クローズスイッチから約 1m の範囲内。

②機能が ON になる作動範囲—室内。

他車のリモートキーが、本車両のリモートキーの近くにある場合は、ドアの解錠時間が通常より長くなりますが異常ではありません。



！ お願い

次の場合は、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しない場合があります。

- ・近くにテレビ塔、発電所、ラジオ放送局などの強い電磁波を発生する施設があるとき。
- ・リモートキーを、双方向無線電話や携帯電話などの通信装置と一緒に携帯しているとき。
- ・リモートキーが金属に接触したり、覆われているとき。
- ・ドアハンドルを素早く操作しているとき。
- ・リモートキーがドアハンドルに近づいたとき。
- ・近くにある別の車両の中で、ワイヤレスリモートコントロール機能を操作しているとき。
- ・リモートキーのバッテリーが切れているとき。

！ お願い

- ・リモートキーが、高電圧設備またはノイズが発生する設備の近くにあるとき。
- ・リモートキーを、他車のスマートエントリー&スタートシステムのキーや、無線電波を発する他の装置と一緒に携帯しているとき。
- ・作動範囲内であっても、一部の場所（インストルメントパネルの上、グローブボックスの中、床、カップホルダー内、トランクルーム内）では、リモートキーが正常に作動しないことがあります。
- ・スマートエントリーシステムが正常に作動せず車両に乗り込めない場合は、リモートキーに内蔵されているメカニカルキーで運転席側ドアの施錠/解錠を操作する、またはワイヤレスリモートコントロール機能ですべてのドアの施錠/解錠を操作できます。
- ・「スタート/ストップ」ボタンを押してもスタート機能が正常に作動しない場合は、下記の要因が考えられます。
- ・リモートキーが作動せずにコンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点灯し、コンビネーションメーターに「キーのバッテリー残量が少なくなっています」というメッセージが表示されている場合は、リモートキーのバッテリーが切れていることが考えられます。
- ・スマートエントリー&スタートシステムが故障で正常に作動しない場合は、すべてのリモートキーをお持ちいただき、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で修理をしてください。

節電

- ・運転していない場合でも、リモートキーと車両は常に通信を行っています。そのため、リモートキーを車内または車両から 2m 以内に置かないでください。

- ・リモートキーは長時間強い電磁波を受信すると、バッテリーを急速に消耗するため、以下のような磁場を発生させる可能性のある電気機器の近くに置かず、少なくとも 1m 以上離れてください。

- ・テレビ
- ・パソコン
- ・携帯の充電器
- ・電気スタンド
- ・電気蛍光灯スタンド

チャイルドロック

チャイルドロックは、リアシートに座っているお様が不注意でリアドアを開けるのを防ぐ機能で、チャイルドロックスイッチは運転席側ドアスイッチユニットにあります。

①左リアドアチャイルドロックボタン

②右リアドアチャイルドロックボタン



チャイルドロックボタン①または②を押すと、対応するリアドアが車内から開けられなくなり、リアドアのパワーウィンドウスイッチを操作しても、ウィンドウガラスの開閉ができません。もう一度チャイルドロックボタンを押してロックを解除するか、車外のドアハンドルを使用してドアを開けてください。

⚠ 警告

- ・特にお子様を乗せている場合は、ドアが閉まりかつチャイルドロックが作動していることを運転前に確認してください。
- ・シートベルトを正しく着用しチャイルドロックを作動させることで、交通事故によるドライバーや乗客の車外放出を防止すると同時に、ドアが不意に開くことも防止します。

シート

シートについて

- ・ペダル、ステアリングホイールおよびインストルメントパネル上のコントローラーなどが、ドライバーの操作しやすい範囲にあるように運転席シートを調節してください。
- ・走行中、シートバックを垂直に立てることが、最も有効な保護対策です。身体をシートバックにもたれるように座り、シートベルトを適切な位置に調整してください。
- ・走行中はリアシートを倒さないでください。
- ・走行中に移動しないよう、荷物は適切に固定してください。荷物の積み込み高さはシートバックを超えないようにしてください。
- ・頭部を保護するために、ヘッドレストを適切な位置に調整してください。何らかの理由でヘッドレストが動いた場合は、こまめに調整し速やかに適切な位置に戻してください。

⚠ 警告

- ・格納しているシートバックの上部、トランクルームの中、荷物の上に座

⚠ 警告

らないでください。緊急ブレーキ時や衝突発生時にシートに正しく座っていない、シートベルトを正しく着用していないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ・ シートの下にものを置かないでください。シートロック機構の機能に影響を与えてシートが急に動き、車両の制御不能につながるおそれがあります。
- ・ 手や指が挟まれるおそれがあるため、シートを調節するときは、シートの下に手を入れたり可動部品に近づけたりしないでください。
- ・ シートバックの角度を調節した後、後ろへ身体を寄せてシートバックがロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、緊急ブレーキや事故の原因となり傷害を受けるおそれがあります。
- ・ 運転中または走行中はシートバックを倒さないでください。シートベルトの肩ベルト部分が正しく装着できていない場合、事故発生時にドライバーや乗員が肩ベルト部分にぶつかり、頸部などに重大な傷害を受けるおそれがあります。また、腰ベルトから滑り出して重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ・ シートの思わぬ移動によって車両が制御不能にならないように、走行中は運転席のシートを調節しないでください。
- ・ 乗員が正しく着座するまで、車両を発進させないでください。

⚠ 注意

- ・ シートを適切な位置や角度に調節してから、シートベルトを着用してください。

⚠ 注意

- ・ シートを調節するときは、シートが乗員または荷物に当たらないように注意してください。

フロントシートの調節

フロントパワーシートの調節

フロントパワーシートの位置の調節は、シートバック角度、シートの前後位置、シートクッションの高さ*、シートクッションの角度*、レッグレスト、ランバーサポートの調節*を含みます。車両に搭載されている機能に応じて、次の調節方法で調整してください。



①シートバック角度調節スイッチ

- ・ 前後方向にシートバック角度調節スイッチの上端を操作すると、シートバックの角度を調節することができます。

②シートポジション調節スイッチ

- ・ 前後方向にシートポジション調節スイッチを操作すると、シートポジションを前後方向に調節することができます。
- ・ スwitchの先端を上下方向に操作すると、シートクッションの角度を調節することができます。

- ・ スwitchの後部を上下方向に操作すると、シートの高さを調節することができます。

③レッグ当て部調節スイッチ

03

コントロールラーの操作

- ・スイッチの先端部と後端部を押すと、レックレストの長さを調節することができます。

④ランバーサポート調節スイッチ

- ・シートバックは、腰椎の弧度に合わせてランバーサポートを調節することができます。
- ・スイッチの先端部と後端部を押すと、弧度を調節することができます。
- ・スイッチの上側または下側を押すと、上下方向に弧の長さを延ばすことができます。

！ お願い

- ・スイッチから手を離すと、シートは現在の位置に止まります。シートの下にものを置かないでください。シートの動作を妨げるおそれがあります。
- ・ヘッドライニングまたはサンバイザーに当たるのを避けるために、フロントシートの位置を調整するときは前へ過剰にスライドさせないでください。

メモリーシステム

メモリースイッチ

- ・ドライバーは、 → 車両設定 → シート → シート調整 の設定画面からメモリーポジションを設定することができます。メモリーポジションは2つあります。

メモリー設定機能

- ・メモリー設定の条件
 - ・車両の電源ポジションが「ON」で、速度が0の状態。
 - ・シート、左右ドアミラーが希望の位置に調節してある状態。
 - ・シート、左右ドアミラーが動いていない状態。

メモリー設定の操作方法

- ・マルチメディアのシート調整の設定画面から、メモリースイッチ「1」または「2」どちらかを長押しすると、シートおよび左右ドアミラーポジションが記録されて設定が完了します。

！ お願い

- ・既にシートおよびドアミラーポジションが設定されている場合は、現在の設定情報に上書きします。

メモリーのスリープ解除機能

電源ポジション「OK」時のメモリーのスリープ解除機能

- ・シフトポジションが「P」レンジで次の条件を満たす場合、どちらかのメモリースイッチを短く押すと、シートおよびドアミラーなどのメモリーのスリープ状態を解除します。
- ・イモビライザーが作動していない。
- ・速度が0。
- ・メモリースイッチ信号が有効になっている。
- ・シート、左右ドアミラーが動いていない状態。
- ・現在のメモリーウェイクアップ操作は、次の方法で中断できます。
 - ・運転席調整スイッチのいずれかを押すまたは回す。
 - ・マルチメディアのシート調整の設定画面から、いずれかのメモリースイッチを押す。

！ 警告

- ・シートメモリー機能をウェイクアップする前に、シートの周囲に障害物がないことを確認してください。

⚠ 警告

- ・シートメモリー機能をウェイクアップする際は、体のすべての部分がシートの可動域に入らないようにしてください。
- ・シート移動時の挟み込み防止のため、お子様にメモリースイッチを操作させないでください。

シートウェルカム機能

- ・自動後退
 - ・ドライバーが車両に近づくトリモーターキーが車両を解錠します。ドライバーが運転席のドアを開けシートが可動域の前方部分にある場合、ドライバーが乗り込みやすいようにシートが自動的に後退します。
 - ・電源ポジションを「OK」から「OFF」に切り替えシートが可動域の前方部分にある場合、ドライバーが運転席側ドアを開けると、ドライバーが降車しやすいようにシートが自動的に後退します。
- ・自動前進
 - ・前回電源ポジション「OFF」時に自動後退が作動し、かつ電源ポジション「OFF」でドアを開けた後にシートの水平方向を調整しなかった場合は、電源ポジションを「OFF」から「OK」に切り替えてドアを閉めると、シートが電源ポジションを「OFF」にする前の位置まで自動的に前進します。
 - ・ドライバーが運転席側ドアを開けて自動後退を作動させた後にシートの水平方向を調整しなかった場合、電源ポジションを「OK」から「OFF」に切り替えドライバーが降りてドアを閉めると、次の乗車に備えるためにシートが電源ポジションを「OFF」にする前の位置まで自動的に前進します。
- ・ユーザー設定

- ・運転席のシートウェルカム機能は、 → 車両設定 → コンフォートドライビング の設定画面から ON/OFF を設定することができます。
- ・シートが自動的に後退しているときに運転席側ドアを閉める、またはシートが自動的に前進しているときに運転席側ドアを開けると、シートのウェルカム機能を中断することができます。

ベンチレーションヒーターシステム*

- ・ドライバーは、 → ベンチレーション/ヒーター の設定画面から ベンチレーションヒーターシステムの ON/OFF を設定することができます。
- ・マルチメディアトップページのプルダウンメニューから、シートベンチレーションヒーター*設定アイコンを呼び出すことができます。

ベンチレーションシステムの調節*

- ・ベンチレーション：シートベンチレーションスイッチを操作してファンの作動モードを制御します。
 - ・シートベンチレーションの作動モードは 1 段、2 段、OFF から選択できます。
 - ・OFF にすると、ベンチレーション機能は OFF になります。

ヒーターシステムの調節*

- ・シートヒーター：シートヒータースイッチを操作してヒーターの作動モードを制御します。
 - ・シートヒーターの作動モードは 1 段、2 段、OFF から選択できます。
 - ・OFF にすると、ヒーター機能は OFF になります。

ベンチレーション機能とヒーター機能を同時に ON にした場合

- ・ベンチレーションが作動している状態でシートヒーターを ON にすると、ベンチ

レーションは停止しシートヒーターが作動します。

- ・シートヒーターが作動している状態でベンチレーションを ON にすると、シートヒーターは停止しベンチレーションが作動します。

リアシートの収納

シートバック上の格納用ノブを持ち上げると、リアシートのシートバックを倒すことができます。



⚠ 注意

- ・シートバックを倒すまたは起こすスピードが速すぎると、リアシートおよびシートバック上のシートベルトの破損や機能の異常が起きるおそれがあるため、リアシートを倒すまたは起こすときは、ゆっくりと操作してください。
- ・リアシートを倒すまたは起こすときは、左右のシートベルトを挟まないようにしてください。挟まると、シートおよびシートベルトの破損につながるおそれがあります。

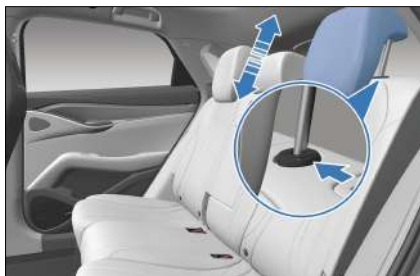
リア側ヘッドレストの調整

ヘッドレストを高くする

ヘッドレストを適切な位置まで引き上げ、ロック音が聞こえたら手を離します。

ヘッドレストを低くする

ヘッドレスト高さ調節ノブを押したまま、ヘッドレストを適切な位置まで下げてから手を離します。その後、ヘッドレストを少し引き上げてロック音が聞こえたら手を離します。



ヘッドレストの取り外し

ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを抜き出してからノブを離します。

ヘッドレストの取り付け

ヘッドレストの足を元の位置に差し込み、切り欠きが前に向くように保ちます。ヘッドレスト高さ調節ノブを押したまま、ヘッドレストを適切な位置まで下げてから手を離します。その後、ヘッドレストを少し引き上げてロック音が聞こえたら手を離します。

❗ お願ひ

- ・首や頭部へのダメージを避けるため、ヘッドレストの中心が耳の上部になるように位置を調節してください。
- ・ヘッドレスト調節後、調整した位置で確実にロックされていることを確認してください。
- ・ヘッドレストが装着されていない状態で運転しないでください。
- ・ヘッドレストのステーにものを掛けないでください。

ステアリングホイール

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ



03

コントロールラーの操作

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 車間距離 - ボタン | 7 左矢印ボタン |
| 2 レバー | 8 ホイールボタン |
| 3 車間距離 + ボタン | 9 右矢印ボタン |
| 4 ナビゲーションパイロットボタン | 10 メーター/リターンボタン |
| 5 BYD アラウンドビューシステムボタン | 11 電話ボタン |
| 6 走行情報ボタン | 12 音声制御ボタン |

左側ボタン

レバー

- ・ リセット/+ : ACC を有効にして、前回のシステム設定値を呼び出します。

- ・ 設定/-：現在の速度を ACC の設定速度として設定します。

車間距離 - ボタン

- ・ ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。
1 回押すと 1 段下がります。

車間距離 + ボタン

- ・ ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。
1 回押すと 1 段上がります。

お願い

- ・ アダプティブクルーズコントロール機能の使い方については、**(112 ページ)**を参照してください。

ナビゲーションパイロットボタン

- ・ ボタンを押すと、ナビゲーションパイロットシステムの ON/OFF を設定することができます。

BYD アラウンドビューシステムボタン

- ・ ボタンを押すと、BYD アラウンドビューシステムの ON/OFF を設定することができます。

走行情報ボタン

- ・ 短く押すと運転情報画面が切り替わり、長押しすると関連する運転情報が消去されます。

右側ボタン

ホイールボタン

- ・ メーターメニューモード以外でのマルチメディア音量調節：
 - ・ 上方向にホイールを回す：最大音量になるまで音量を 1 段ずつ上げます。
 - ・ 下方向にホイールを回す：最小音量になるまで音量を 1 段ずつ下げます。
 - ・ ホイールを押す：ミュートモードになります。

- ・ メーターメニューモードでの調節：

- ・ 上方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールアップで第 2 階層/第 3 階層メニューを選びます。
- ・ 下方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールダウンで第 2 階層/第 3 階層メニューを選びます。
- ・ ホイールを押す：メーターメニューモードでは、現在のオプションの詳細メニューに入るか、現在の設定を確認します。

注意

- ・ メーターメニューモードを ON にすると、マルチメディアシステムはミュートモードになります。マルチメディアの音量を調節するときは、メーターメニューモードを OFF にしてください。

左矢印/右矢印ボタン

- ・ ラジオモードの場合：

- ・ ◀ ボタンを押すと、前の放送局を選局します。
- ・ ▶ ボタンを押すと、次の放送局を選局します。

- ・ マルチメディア USB/Bluetooth 音楽/サードパーティ音楽 APP などのモードの場合：

- ・ ◀ ボタンを短く押すと、前の曲を再生します (曲番号 - 1)。
- ・ ◀ ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。スクロールアップで希望の項目を選びます。
- ・ ▶ ボタンを短く押すと、次の曲を再生します (曲番号 + 1)。

-  ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。スクロールダウンで希望の項目を選びます。
- メーターメニューモードの場合：
 -  ボタンを押すと、左へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。
 -  ボタンを押すと、右へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。

メーター/リターンボタン

- コンビネーションメーターがメニューモード以外のときにボタンを押すと、メーターメニューが表示されます。
- コンビネーションメーターがメニューモードのときにボタンを押すと、前の画面に戻ります。前の画面がないときは、メニュー画面が閉じます。
- Bluetooth 通話画面の場合は、短く押すと通話を終了できます。

電話ボタン

- ボタンを押すと、電話をかけるまたは受けることができます（オーディオシステムはミュートになります）。
- システムが Bluetooth と関係のない画面を表示しており、Bluetooth を接続していない場合、ボタンを短く押すと電話機選択メイン画面に切り替わります。Bluetooth に接続されている場合は、ダイヤル画面に切り替わります。
- ダイヤル画面に電話番号を入力するか、通話記録、電話帳画面で電話番号を選んでボタンを短く押すと、ダイヤル機能が作動します。
- Bluetooth に接続した状態で、ダイヤル画面に番号が入力されていない場合、ボタンを短く押すと通話記録画面の発信履歴画面に直接切り替わります。再度押すと、発信履歴画面の一番上の電話番号を自動的にダイヤルします。

音声制御ボタン

- ボタンを押すと、マルチメディアタッチスクリーンに音声制御ウィンドウが表示されて、音声コマンドを入力できます。
- 再度ボタンを押すと、音声制御が閉じます。

ホーンボタン

- ホーンのパッド面を押すと、ホーンが鳴ります。手を離すと、ホーンが止まります。

注意

- 長時間ホーンのパッド面を押さないでください。ホーンの破損につながるおそれがあります。

お願い

- 交通ルールを守り、ホーンを適切に使ってください。

ステアリングホイールの調節

ステアリングホイールの手動調節

- ステアリングホイールの角度を調節するときは、ステアリングホイールを握りながら次の操作を行います。
- ステアリングホイールの調節レバーを下に押し、ステアリングホイールを任意の角度と軸方向の位置に調節した後、レバーを元の位置に戻します。



⚠ 警告

- ・ 走行中にステアリングホイールの調節をしないでください。操縦を誤り、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- ・ ステアリングホイールを調節した後、上下方向に動かして確実に固定されていることを確認してください。

パワーステアリングモード

- ・ パワーステアリングの感触は、人によって異なります。ドライバーにより、パワーステアリングの感触の評価やニーズも異なります。
- ・ ドライバーは、 → 車両設定 → インテリジェントシャーシ の設定画面からステアリングアシストモードを選択し、コンフォートまたはスポーツの2つから設定することができます。

💡 お願い

- ・ 高速走行時にステアリングが軽く感じる場合は、ステアリングアシストの設定をスポーツモードに設定することをおすすめします。パワーステアリングモードは、通常地形モード、ELKA が OFF、車両が直進し車速が 80km/h 未満の場合にのみ設定することができます。

ステアリングホイールヒーター機能*

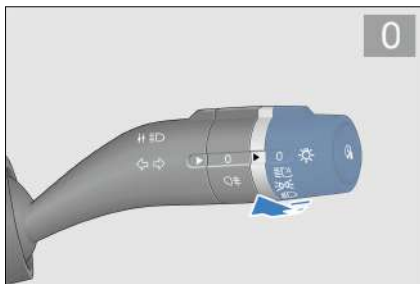
ステアリングホイールのヒーター機能は、次の方法で ON にします。

1. ドライバーは、 → ベンチレーション/ヒーター の設定画面から、ステアリングホイールヒーターの ON/OFF を設定することができます。
2. プルダウンメニューから、換気/暖気のアイコンをクリックして設定画面に進みます。
3. 音声制御：音声機能を起動して、ステアリングホイールのヒーターの ON/OFF を設定することができます。

スイッチ

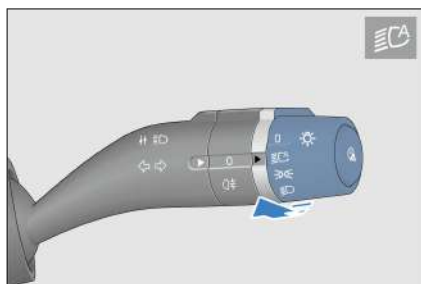
ライトスイッチ

ライトスイッチを 0 に回すと、デイトタイムランニングライト以外のすべてのライトが消灯します。



オートライト

ライトスイッチを に回すと、ポジションランプとロービームが照度センサーで周囲の明るさを取得し、自動的に ON/OFF を制御します。

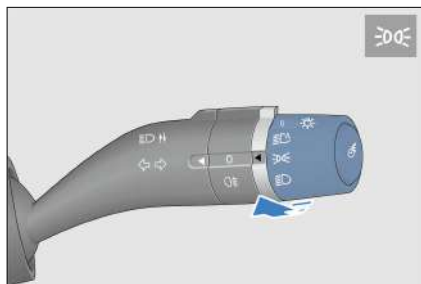


！ お願い

- ・ 照度センサーは、インストルメントパネルの上端部にあります。センサーが遮られたり、液体がかかったりすることを避けてください。

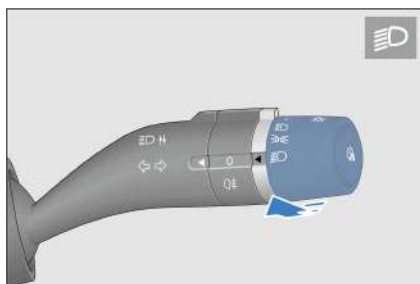
ポジションランプ

ライトスイッチを  に回すと、フロントポジションランプ、リアポジションランプとライセンスプレートランプが点灯します。



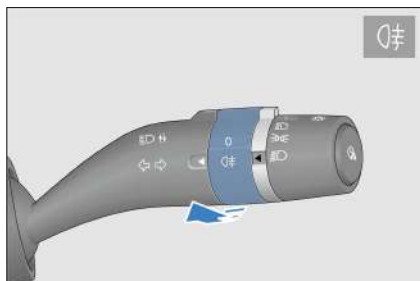
ロービーム

ライトスイッチを  に回すと、ロービームが点灯します。



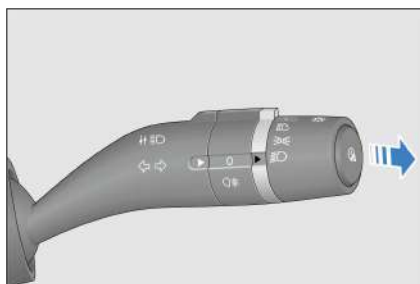
リアフォグランプ

ライトスイッチを  に回し、リアフォグランプスイッチを  に回すと、リアフォグランプが点灯します。



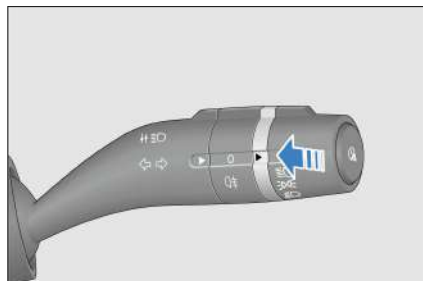
ハイビーム

ライトスイッチを  に回し、ライトスイッチレバーを前方に押すと（ステアリングホイールから離れる方向）、ハイビームが点灯します。ライトスイッチレバーをリセットすると、ハイビームが消灯します。



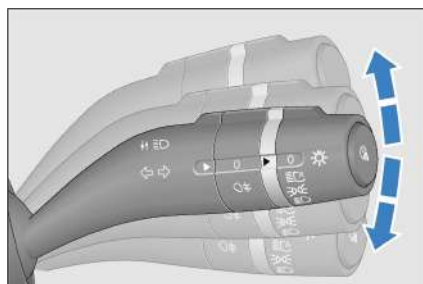
パッシングライト

ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引くと、パッシングライトが点灯し、手を離すとライトスイッチは自動的に戻り、パッシングライトが消灯します。



ターニングナルランプ

- ・コンビネーションスイッチのレバーを上方向に上げると、左ターニングナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- ・コンビネーションスイッチのレバーを下方向に下げると、右ターニングナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。



⚠ 注意

- ・ターニングナルランプをつけた後に手を放しても、ターニングナルランプは点滅し続けます。曲がり切ったからは、自動的に消灯します。ドライバーの運転の違いにより、特別なケースでは、ハンドルを1回転させ

⚠ 注意

ないとリセットしない場合があります。

オート OFF 機能

- ・オート OFF 機能の作動条件：ライトスイッチを「」、または「」に回し、電源を「スタート」から「ストップ」に切り替えると ON になります。
- ・オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが閉まっていると、オート OFF 機能により、10 秒後に点灯中のヘッドライト、ポジションランプ、リアフォグランプ、ハイビームが消灯します。
- ・オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが開いていると、オート OFF 機能により点灯中のヘッドライト、ポジションランプ、リアフォグランプ、ハイビームが 10 分後に消灯します。
- ・自動で消灯した後にライトスイッチのポジションを切り替えた場合、切り替えたポジションに応じてライトが点灯します。このとき、オート OFF 機能の作動条件が揃うと、再度オート OFF 機能が作動します。
- ・オート OFF 機能の解除：車両の電源を入れると、オート OFF 機能が OFF になります。ライトスイッチは、通常通り操作できます。
- ・オート OFF 機能によりランプが消灯し、イモビライザー作動後に再度イモビライザーを OFF にした場合、消灯したランプが自動的に再度点灯します。運転席側ドアを開けていなければ、オート OFF 機能によりランプが 10 秒後に再度消灯します。ドアを開けると、オート OFF 機能によりランプが 10 分後に消灯します。

ヘッドライト残照機能

- ・コンビネーションスイッチを「」、「」または「」に切り替え、ドラ

イバーが電源ポジションを「OFF」にし、4つのドアを施錠してから車から離れると、対応するランプが10秒（または設定時間）点灯し、照明を提供します。

- ユーザーは、マルチメディア  → 車両設定 → 照明画面で、降車後のヘッドライト点灯機能を設定します。点灯時間の初期値は10秒です。

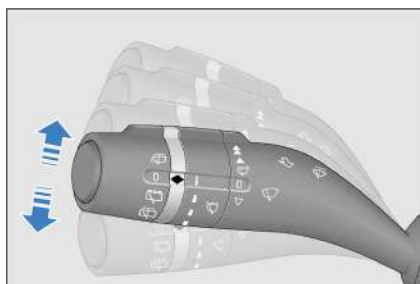
ヘッドライトの高さ調節

- ロービームが ON の場合、 → 車両設定 → 照明 → ヘッドライト高さの設定画面からヘッドライトの高さを調整することができます。
- 車両により負荷状況が異なる場合があるため、実際の状況に応じて調整してください。



ワイパースイッチ

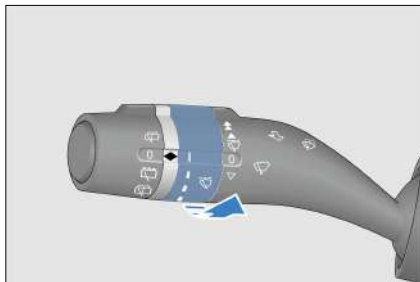
- レバーを上げるまたは押してワイパーを調整します。レバーは5段階で切り替えることができます。
-  : 高速モード
-  : 低速モード
-  : オートワイパー/間欠モード
-  : 停止
-  : ミストモード（ の位置からレバーを押して下げると、レバーを離すまで低速でワイパーが連続作動する。）



オートワイパー/間欠モード

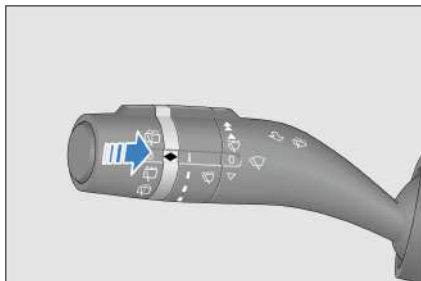
- 雨量センサーは、雨量に合わせて自動でワイパーの作動を制御します。センサーはフロントガラス室内側のルームミラー前側に搭載しています。
- オートワイパーを使用するときはレバーをオートワイパーの位置に切り替え、 → 車両設定 → コンフォートドライビングの設定画面から、オートワイパーを ON にしてください。
- 間欠モードを使用するときはレバーをオートワイパー/間欠モードの位置に切り替え、 → 車両設定 → コンフォートドライビングの設定画面から、オートワイパーを OFF にしてください。
- 実際の雨の状況に応じてノブを回し、雨量センサーの感度を4段階で設定できます。

- アップ：雨量センサーの感度を下げます。
- ダウン：雨量センサーの感度を上げます。



フロントワイパーおよびウォッシャー

- フロントガラスを洗浄する場合は、レバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引きます。ウォッシャー液が噴射すると同時にワイパーが作動します。
- レバーを離すとウォッシャー液の噴射が止まり、ワイパーが2回作動してから止まります。



⚠ 注意

- 車両を洗浄する際、砂ぼこりの多い環境、雨の降っていない状況、またはフロントガラスに氷や雪が付着している場合は、オートワイパーをオフにしてください。ワイパーが意図せず作動し、損傷や怪我の原因となるおそれがあります。
- オートワイパーは補助機能です。走行状況に応じて、必要に応じ手動で操作し、安全運転を確保してください。

運転席側ドアスイッチユニット

パワーウィンドウスイッチ

- 車両の電源ポジションが「OK」の状態では各ドアのパワーウィンドウスイッチを操作すると、ウィンドウガラスの開閉操作ができます。電源ポジションを「OFF」にすると、ウィンドウガラスの開閉操作ができなくなります。

運転席側パワーウィンドウスイッチ

パワーウィンドウスイッチは、図①および②のように2段階で操作します。



手動開閉

- パワーウィンドウスイッチをポジション①の位置で押し続けるとウィンドウガラスが下がり続け、手を離すと止まります。パワーウィンドウスイッチをポジション①まで引き上げ続けるとウィンドウガラスが上がり続け、手を離すと止まります。

自動開閉

- パワーウィンドウスイッチをポジション②まで押してから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で下がります。パワーウィンドウスイッチをポジション②まで引き上げてから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で上がります。

挟み込み防止機能

- ウィンドウガラス上昇中に人やものが挟まれると、ウィンドウガラスの上昇が止まり、自動的に下がります。

挟み込み防止機能の初期化

- ウィンドウガラス上昇または下降中に起動バッテリーの接続を解除すると、ウィンドウガラスの自動上昇および挟み込み防止機能が無効になります。
- ウィンドウガラスを全閉位置にした状態でパワーウィンドウスイッチを引き上げ、0.4秒以上保持してから離します。

⚠ 警告

生命にかかわる重大な傷害を防止するために、ウィンドウガラスを閉じる場合は下記の注意事項を守ってください。

- ・ウィンドウガラスを操作するときは、ドライバーや乗員の身体が挟まれないようにきちんと確認してから操作してください。
- ・絶対に、お子様にパワーウィンドウを操作させないでください。

⚠ 注意

- ・挟み込み防止機能の初期化を頻繁に行くと、パワーウィンドウモーターの過熱保護機能が作動します。
- ・身体の一部で、挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- ・ウィンドウガラスが閉まり切る直前に挟まれたとき、ものによっては、挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。
- ・ウィンドウガラス自動上昇機能と挟み込み防止機能が作動しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼してください。

電源ポジション OFF 後の作動機能

- ・電源ポジション「OFF」後にフロントドアを開けていない場合、10 分間はウィンドウガラスの開閉操作ができます。フロントドアを開けると開閉操作ができなくなります。

⚠ 警告

- ・パワーウィンドウを閉じるときは、ウィンドウガラスで手や指を挟まないようにしてください。

集中ドアロック

運転席側のドアには電動ドアロックを搭載しています。2 つのボタンですべてのドアの施錠や解錠ができます。

①解錠

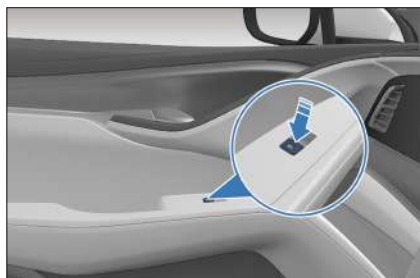
「集中ドアロック解錠」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に解錠され、施錠の赤の表示灯が消灯します。

②施錠

「集中ドアロック施錠」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠され、施錠の表示灯が赤く点灯します。

**助手席側パワーウィンドウスイッチ**

車両の電源ポジションが「OK」の場合は、助手席およびリアドアのウィンドウスイッチで、助手席側ウィンドウガラスおよびリアウィンドウガラスの上昇/下降を操作できます。



走行距離切替スイッチ

- ・「走行距離切替」スイッチを押すと、「odo」——「TRIP A」——「TRIP B」——「odo」の切り替えができます。同時に、コンビネーションメーターには切替状態が表示されます。
- ・「TRIP A」、「TRIP B」を長押しすると、走行距離がリセットできます。



モードスイッチユニット

回生ブレーキモードの変更

- ・前方向にレバーを操作すると、回生ブレーキの効きが強くなります。
- ・後方向にレバーを操作すると、回生ブレーキが通常になります。



運転支援スイッチユニット

運転支援スイッチユニットはブラインドスポットインフォメーションスイッチとオートビークルホールドスイッチを含みます。

①ブラインドスポットインフォメーションスイッチ

ボタンを押して、ブラインドスポットインフォメーション機能を ON にします(詳細は (127 ページ) を参照してください)。

②オートビークルホールドスイッチ

ボタンを押して、オートビークルホールド機能を ON にします (詳細は (70 ページ) を参照してください)。

運転モードの変更

- ・運転モードにはコンフォート、エコ、スポーツ、スノーがあります。走行モード変更レバーを操作して、各種走行モードに変更できます。



スノーモード

- スノーモードは滑りやすい路面（草、雪、氷や砂利などで覆われている路面）に適し、車両のけん引、走行、操縦性を最適化できます。
- 運転の安全性を確保し車速を抑えるため、スノーモードを ON した後も濡れた路面ではアクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

⚠ 注意

- ESC を有効にしている場合は、車両の出力トルクを制限することがあります。車両が積雪でスタックした場合、一時的に ESC を OFF にすることでスタックから脱出できる可能性があります。スタックから脱出した後は、ESC を再度 ON にしてください（詳しくは（137 ページ）を参照してください）。

ハザードランプスイッチ

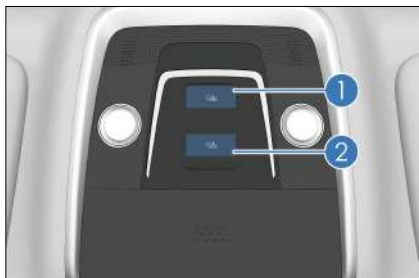
⚠ スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅すると共に、コンビネーションメーター内の方向指示表示灯が点滅します。再度 ⚠ スイッチを押すと、点滅が止まります。



サンシェードの開/閉

サンシェードを開ける

- サンシェードオープンボタン①を押し続けると、サンシェードが開きます。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードオープンボタン①を押した直後に離すと、サンシェードは自動で開きます。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。



サンシェードを閉める

- サンシェードクローズボタン②を押し続けると、サンシェードが閉まります。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードの初期化をしている場合、サンシェードクローズボタン②を押した直後に離すと、サンシェードが自動で閉まります。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

挟み込み防止機能

- サンシェードを閉める途中で人やものが挟まれた場合、サンシェードが自動的に止まり、反対方向に少し開きます。

初期化方法

- サンシェードオープンボタン①を押すと、サンシェードが全開位置に移動します。
- サンシェードクローズボタン②を長押しするとサンシェードが上部まで移動し、7 秒間保持してから離します。

⚠ 注意

- サンルーフサンシェードの開閉中は、サンシェードの破損を避けるため、サンシェードに強い外力を与えないでください。

自動緊急通報システム E-Call

①E-Call 状態表示灯

②SOS ボタン



- E-Call とは、緊急通報システム (Emergency Call) のことです。E-Call は、ルームミラー付近にある SOS ボタンを 1～10 秒間操作すると作動します。

SOS ボタンを 10～20 秒間長押しすると、E-Call は作動しません。

- 誤って SOS ボタンを押してしまった場合は、5 秒以内に再度 SOS ボタンを押すとキャンセルすることができます。
- エアバッグが展開した場合、E-Call は自動的に作動します。
- E-Call が作動すると自動的に緊急通報を行い、関連の車両・事故情報を緊急通報受付センターに発信します。

⚠ 注意

- SOS ボタンを 20 秒以上押し続けると、SOS ボタンがショートした (ボタン引っかかりの状態) と判断されるため、手動操作しても E-Call が作動しません。
- E-Call を発信すると、手動操作でキャンセルすることができなくなります。緊急通報受付センターが緊急通報を切る、または 10 回以上連続で発信しても繋がらない場合は、システムは 60 分間コールバック待ち状態に入ります。

作動状態	LED 表示灯	ブザー
車両の電源が入っていない、または E-Call に重大な故障がある	消灯	\
車両起動時のセルフテスト中	速く点滅-2Hz	\
車両の電源ポジションが ON にあり、E-Call のセルフテストで異常がない	セルフテストで異常が検出されず、常時点灯	\
E-Call 発信中	点滅-1Hz	ブザーが 1 回鳴る
E-Call 音声通話接続中	点滅-1Hz	ブザーが 1 回鳴る
E-Call 音声通話終了	常時点灯	音声通話が切れ、ブザーが 2 回鳴る

作動状態	LED 表示灯	ブザー
コールバック中（デフォルト で 60 分間）	常時点灯	\

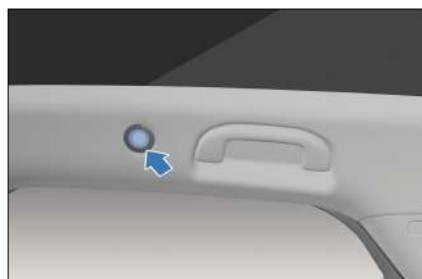
ルームランプスイッチ

- ・ ルームランプスイッチをタッチすると、対応する室内灯が点灯または消灯します。

フロントルームランプスイッチ



サイドルームランプスイッチ



！ お願い

- ・ すべての電源ポジションでも、ドアが開いている状態でスイッチに触ると、ルームランプの高照度・低照度を切り替えることができます。
- ・ 車両の電源ポジションが「OFF」または DOOR スイッチが ON の場合、ドアが開いた状態で一定時間が経過すると室内灯が消灯します。

アンビエントライト

- ・ ドライバーは、 → 車両設定 → 照明 → アンビエントライト の設定画面から、アンビエントライト色調、明るさ、対象場所の設定ができます。

04

使用および運転

充電/放電について.....	76
バッテリー.....	91
ご利用要領.....	96
発進と運転.....	103
運転支援機能.....	112
その他の主な機能について.....	144

充電/放電について

充電について

充電に関係する警告

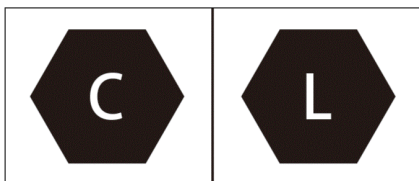
- ・ 充電設備は高電圧が掛かっているため、お子様だけで充電をしたり充電設備を使ったりしないでください。また、充電中はお子様を充電設備に近づけないでください。
- ・ 充電が医療電子機器や植え込み型電子機器に与える影響については、電子機器メーカーへ確認してから充電作業を行ってください。
- ・ 安全な場所で充電してください（液体、火元、熱源などがある環境を避けるなど）。
- ・ 雨の中で充電するときは、水が掛からないように充電装置を保護してください。
- ・ 充電前の設備点検および操作について
 - ・ 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗やポートの錆び、ケースの割れまたはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
 - ・ プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートの金属端子が錆びや腐食で破損している、または緩みがある場合は、充電しないでください。
 - ・ プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートが汚れたり濡れたりしている場合は、乾燥している清潔な布で拭いてください。
- ・ 規格に適合する充電設備で充電してください。
- ・ 故障や火災を防ぐため、充電設備および関係ポートの改造や取り外し、修理はしないでください。故障しているときは、は BYD 正規ディーラーまたは

BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- ・ 安全基準を満たさない、または潜在的危険性がある充電設備で充電しないでください。また、充電中はお子様やペットを充電設備に近づけないでください。
- ・ 感電による傷害につながるおそれがあるため、手が濡れている状態で操作しないでください。
- ・ 充電中に車両や充電設備に異常が見つけた場合は、ただちに充電を停止して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・ 車両の破損を防ぐため、充電時は下記の内容に注意して充電してください。
 - ・ 車両側の充電ポートを破損するおそれがあるため、充電コネクタを揺らさないでください。
 - ・ 雷雨時はバッテリーを充電しないでください。落雷による車両の破損につながるおそれがあります。
- ・ 充電中は、モータールームを開ける必要がある修理をしないでください。
- ・ 感電による傷害につながるおそれがあるため、濡れた手や水の中などに入った状態で充電設備を切り離さないでください。
- ・ 発進する前に、充電設備が充電ポートから切り離されていることを確認してください。

車両と充電インフラの適合性*

- ・ このマークは、車両の充電ソケット、現地の充電インフラコンポーネント（充電ステーション、ソケット）、および充電ケーブルにあります。



- このマークは、DIN EN 62196 に適合した標準化された充電システムを表します。

充電上のご注意

- コンビネーションメーター内のパワーバッテリー残量 (SOC) 表示が赤いエリアにある場合は、パワーバッテリーの残量が低下しています。パワーバッテリーの寿命および運転の快適さに影響を与えるおそれがあるため、早めに充電してください。
- 家庭用携帯式 AC 普通充電とは、AC 充電装置で充電することです。ハイパワー充電による回路焼損や自動保護トリップが発生し、他の設備利用に影響を与えることを避けるため、ソケットは現地規格に適合する専用交流回路と電源ソケットを使用してください。
- 充電設備の破損を防ぐために (充電設備利用上のご注意):
 - 充電設備に衝撃を与えないでください。落下や外部からの衝撃などによる機械的破損がないように注意してください。
 - 充電設備をヒーターや他の熱源の近くに置かないでください。
 - 充放電設備は落下させることがないように、注意してご使用ください。移動するときは、直接ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電前に車両の電源ポジションを「OFF」にしてください。
- 充電前に充電コネクタを挿し込む:
 - 充電前に、充電コネクタと充電ポートに異物が付着していないこと、充電コ

ネクタ端子の絶縁キャップに緩みや変形がないことを確認します。

- 充電コネクタを持ち、充電ポートに合わせてから押し込み、充電ポートに確実に取り付けます。
- 充電完了後に充電コネクタを抜き出す:
 - 充電を停止し、充電ポートのロックが解錠されていることを確認します。
 - 充電コネクタを持って抜き出します。
- 充電ポートがロックされたまま充電コネクタを抜き出さないでください。充電ポートを破損させるおそれがあります。
- 充電上のご注意:
 - 充電中に車両を始動してエアコンを使用できますが、充電電力を確保するため、エアコンを使用しないことをおすすめします。
 - 充電時、乗員は車両から降りて、
 - 換気の良い場所に車両を止めてください。
- パワーバッテリーがフル充電になると、システムが自動的に充電を停止します。充電ポートには盗難防止ロックが装備されているため、ロックを解錠してから充電コネクタを抜き出してください。
- 充電を早く完了させる場合は、AC 充電スタンドまたは DC 充電器を OFF にしてから充電装置を切り離してください。家庭用 AC 普通充電を利用完了後、車両側の充電コネクタを切り離してから電源側のプラグを抜き出してください。
- 充電完了後に充電コネクタを抜き出し、充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを確実に閉めてください。水や異物が充電ポートに入ると正常に使用できなくなるおそれがあります。
- DC 充電の場合、充電スタンドの充電能力を認識して充電スタンドの出力能力を最大限に引き出し、より良い充電経験をもたらすために、認識する間は DC 充電の

電力は小さくなります（モーターによるDCブーストチャージ方式のみ）。

- 車両を始動させる前に、充電装置が切り離されていることを確認してください。充電装置のロック機構がきちんとかかっていない状態でも走行できてしまうため、充電装置および車両の破損につながるおそれがあります。
- バッテリー温度が低すぎるまたは高すぎる場合、バッテリーの充電性能に影響を与えるおそれがあります。
- 低温環境で充電する場合、温度コントロールシステムでバッテリー低温時の充電能力を改善させることができません。充電スタンド出力の制限により充電時間や加熱時間が延び、加熱による電気消費が増えますが異常ではありません。
- DC充電時に低温環境で残量が多い場合は、バッテリーの低温特性により充電電流が小さくなります。残量が少ない状態でバッテリーを充電すると、充電速度を上げることができます。
- 利便性向上のために、車両を使用した直後に充電することをおすすめします。使用直後は、バッテリーの温度が相対的に高く充電性能が優れています。
- 外気温度が低い場合は、暖房のついた室内で充電するようおすすめします。
- 外気温度が高い場合は、風通しの良い冷暗所で充電するようおすすめします。
- パワーバッテリーシステムが長期間フル充電されていない場合、コンビネーションメーターに「パワーバッテリーのバランスが自動的に取れるようにフル充電してください」というメッセージが表示される場合があります。バッテリーの寿命を延ばすため、速やかに車両をフル充電してください。
- 低温環境で充電中にエアコンを使用する場合、バッテリー温度コントロールシス

テムの性能および充電性能に影響を与えるおそれがあります。

- 充電中にバッテリー温度コントロールシステムが作動した場合、コンビネーションメーターで表示する充電電力が、一時的に変動して表示されることがありますが異常ではありません。
- バッテリーを長持ちさせるため、充電完了前にバッテリー補正機能が作動することがあります。バッテリー補正機能が作動すると、充電時間が長くなることがあります。
- 高温環境でDCによる高出力充電を行う場合は、バッテリー温度コントロールシステムの充電性能がエアコンの使用により低下し、充電時間が長くなることがあります。充電効率を確保するため、充電中はエアコンを使用しないことをおすすめします。
- 充電中に暖房や冷房を使用すると、充電時間が長くなり充電中の消費電力も増えますが異常ではありません。
- 充電中および充電終了後しばらくの間はバッテリー冷却システムが作動するため、コンプレッサーやファンなどの作動音がモータールームから聞こえますが異常ではありません。
- 充電中は、コンビネーションメーターにフル充電までの目安時間が表示されます。温度や残量または充電施設などにより、フル充電目安時間は多少異なりますが異常ではありません。充電が完了するまでは、コンビネーションメーターに「計算中...」と表示されますが異常ではありません。
- 充電ポートフラップが天候などにより凍り付いた場合は無理に開けないでください。
- 車両を長期間使用しない場合は、フル充電してから利用することをおすすめします。パワーバッテリーを長持ちさせるため、放置期間中は、3ヶ月毎に充電することをおすすめします。

！ お願い

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに充電コネクタを強制的に挿し込む、または抜き出さないでください。
- 充電ポートキャップを外した状態で充電ポートフラップを閉じないでください。
- 充電中、放熱ファンとエアコンのコンプレッサーがパワーバッテリーの加熱や冷却の必要性により、自動的

！ お願い

に作動することがありますが異常ではありません。

充電モード

- 充電予約 (AC 充電のみ) : ドライバーが設定している充電時間でバッテリーを充電します。詳細は (85 ページ) を参照してください。
- 即時充電 : 充電コネクタに接続する、または操作が行われると、充電が開始されます。

一般充電故障の診断

症状	考えられる原因	対処方法
充電できない。 充電装置に接続しているが、充電が開始されない	パワーバッテリーがフル充電になっている	パワーバッテリーがフル充電になっている場合、自動的に充電を停止します。
	パワーバッテリーの温度が高すぎる/低すぎる	車両を適切な温度環境の場所に停車し、パワーバッテリーの温度が正常になるのを待ってから充電してください。
	起動バッテリーが過放電になっている	起動バッテリーを交換してください。
	充電設備が故障している	充電設備の電源表示灯が正常に点灯していない、またはその他の異常表示がないかを確認し、別の充電設備で充電を行うかスタッフにご連絡ください。
充電が途中で止まった	車両表示の故障	コンビネーションメーターに充電システム故障メッセージが表示されている場合は、充電を停止してBYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	交流回路が停電している	一定時間内に送電網が復旧すると、充電が自動的に再開されます。
	充電コネクタがきちんと接続されていない	充電コネクタが確実に接続されていることを確認してください。
	パワーバッテリーの温度が高すぎる	コンビネーションメーター内のパワーバッテリー過熱警告灯が点灯すると、充電が自動的に止まります。バッテリーを冷却してから充電を再開してください。

症状	考えられる原因	対処方法
車両や充電スタンドが故障している	充電スタンドや車両に不具合がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。	

充電方法

- 充電前の点検：
 - 充電装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、または異物の付着などの異常がないことを確認します。
 - 充電コネクタを挿し込んでも緩みがある場合は、充電しないでください。
 - 充電ポートに水または異物がない、金属端子に錆や腐食がないことを確認します。
- 上記のことがあるときは充電しないでください。ショートや感電などにより、身体に危害を与えるおそれがあります。

家庭用 AC 普通充電

1. 充電器について

- 車両と規格に適合するコンセントを接続し、バッテリーを充電します。仕様は、AC200V です。
- 高出力充電による回路焼損や自動保護ブレーカーが誤作動し、他の設備に影響を与えることを避けるため、ソケットは規格に適合する家庭用コンセントを選択してください。
- 車載された装置は AC200V 用で、規格に適合する給電プラグ、充電コネクタ、コントロールボックス、充電ケーブルで構成された、Mode2 タイプです。給電プラグを家庭用コンセントに挿し込み、充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込みます。

- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示する充電時間についてのご注意を参照してください。

警告

- 充電に関する警告の詳細は、充電機器の説明書に記載の充電に関する警告を参照してください。
- 最大周囲温度：最大 60°C までとし、充電装置を使わないときは、乾燥した冷暗所に保管してください。
- 充電中、充電装置をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれたり地面に落したり、人に踏まれることがないようにしてください。
- 後付けの電線やアダプター/コンバーターを使わないでください。変換のために後付け部品が必要な場合は、適切な線径 ($\geq 1.5\text{mm}^2$ の電線) を選定し、仕様に合ったアダプター/コンバーターを使用してください。
- 家庭用給電コンセントのコードが柔らかくなった場合や、充電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電コネクタ、給電プラグ、家庭用コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電ポートフラップの故障を防ぐため、必要以上に充電ポートフラップを開閉しないでください。充電ポ-

⚠ 警告

トフラップを開閉する間隔は 1 秒以上にするをおすすめします。

⚠ 注意

- ・ 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルを巻いたまま使用しないでください。
- ・ 充電に関する注意事項の詳細は、「充電/放電について」を参照してください。

! お願い

- ・ BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場や認定技術者に連絡し、充電設備の要求事項に従い、適切な電源を選択してください。
- ・ 充電設備のアースについて：設備のアース工事を確実にしてください。充電設備に故障や破損が起きた場合、アース線は最小抵抗の回路を介して電流を逃し、感電の危険性を下げます。装置には、装置の接地点と電源プラグの接地点を接続するアース線が装備されています。電源プラグを正しく設置し、適切に接地された電源ソケットに適合している必要があります。

2. 充電する

- ・ ドアロックを解錠している状態で電源ポジションを「OFF」にし、充電ポートフラップを押し込むと充電ポートフラップが自動で開きます。



- ・ 充電ポートキャップと充電コネクタのカバーを開け（実際の仕様を参照してください）、充電コネクタのプラグと車両側コンセントの間に、障害物がないかを確認します。



! お願い

- ・ 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
- ・ 天候などにより充電ポートフラップが凍り付いた場合は、強引に開けようとせず温水で溶かしてから開けてください。

- ・ 給電ポート側の接続：

- ・ Mode2 タイプの給電プラグを家庭用コンセントに挿し込みます。

- ・ 車両側の接続：

- ・ 充電コネクタを車両側充電ポートに確実に挿し込んでください。

- 充電コネクタを適切に挿し込むと、コンビネーションメーターの充電接続表示灯  が点灯します。

! お願い

- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに、充電コネクタを挿し込まないでください。
- 充電中は、コンビネーションメーターに関連する充電パラメーターと充電画面が表示されます。
- このとき、マルチメディアの設定から充電を予約することができます。詳細は **(85 ページ)** を参照してください。

! お願い

- 充電中は、コンビネーションメーターにフル充電までの目安時間が表示されます。目安時間は、温度や残量、充電施設などにより多少増減しますが異常ではありません。
- バッテリー残量が少ない場合、予約充電は使用できません。

3. 充電を停止する

- 充電が完了する :
 - フル充電になると、自動的に充電が完了します。
 - 早めに充電を終了する場合は、下記の手順を行ってください。
- 充電ポートの接続を切る :
 - リモートキーの「アンロック」ボタンまたはドアハンドルのマイクロスイッチを押してから (リモートキーが近くにある場合)、充電コネクタを抜き出してください。

! お願い

- 車両を解錠した状態でリモートキーの「アンロック」ボタンを押す (電源ポジション「OFF」で充電するとき) またはドアハンドルのマイクロスイッチを押します (リモートキーが近くにあるとき)。
- 充電ポート盗難防止ロック機能が作動している場合は、充電コネクタを抜き出す前に車両を解錠し、充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。抜き出さないと、充電ポート盗難防止ロック機能が作動して再度施錠します。
- 盗難防止ロックの作動モードは、マルチメディアで設定することができます。設定手順の詳細は、**(89 ページ)** を参照してください。
- ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、解錠操作を数回繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠の操作をしてください。操作手順は **(90 ページ)** を参照してください。
- 充電ポート盗難防止ロック機能を OFF にしても充電コネクタが抜き出せない場合は、車両を解錠してから再度操作してください。
- 給電プラグを外します。
- 車両の充電ポートキャップ*と充電ポートフラップを閉めます。
- 使用した充電設備を元に戻します。



! お願い

- 充電ポートキャップを全開している状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

AC 充電スタンドでの充電

1. 充電器について

- AC 充電ボックス*
 - 基準に適合する家庭用充電ボックスで車両のバッテリーを充電します。充電設備の使い方は、使用する充電設備のマニュアルを参照する、または本オーナーズマニュアルに従って操作してください。
 - 設備規格：単相 7kw*と三相 11kw に適用します。
- 単相 AC 充電ボックス：この装置は、充電ボックス、充電コネクタ、およびケーブルで構成されています。断路器、非常停止スイッチなどについては、充電ボックスの取扱説明書を参照してください。
- AC 充電スタンド
 - 公共の場に設置される単相 AC 充電スタンドまたは三相 AC 充電スタンドで車両のバッテリーを充電します。一部の充電パイルには充電コネクタが装備されていないため、AC 充電接続装置を用意する必要があります。

- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示する充電時間についてのご注意を参照してください。

2. 充電する

- 車両を解錠し、充電ポートフラップを開けます。
- 家庭用 AC 普通充電の手順を参照し、充電ポートフラップと充電ポートキャップ*を開けます。
- 給電ポート側の接続：
 - AC 充電ボックス*で車両を充電する場合は、この手順は必要ありません。
 - AC 充電パイルを使用し、かつ充電パイルに充電コネクタが装備されている場合は、この手順は必要ありません。
 - 単相 AC 充電パイルを使用し、充電パイルに充電コネクタが装備されていない場合は、AC 充電接続装置を使用してください。使用する際は、充電パイルの電源ソケットに電源プラグを接続してください。
- 車両側の接続：
 - 充電装置の充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込み、確実に施錠します。
- 充電の設定：
 - 公共の場所に設置されている、設定オプションのない AC 充電ボックス*または AC 充電パイルの場合は、この手順を省略できます。
 - 公共の場に設置されている設定オプションのある AC 充電スタンド/ボックスについては、カードをかざす、または QR コードをスキャンしてください。取り扱い方法の詳細は、充電スタンド/ボックスの取扱説明書を参照してください。
- コンビネーションメーターに充電接続表示灯  が点灯します。

- ・充電中、コンビネーションメーターには関連する充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。
- ・このとき、マルチメディアの設定から充電を予約することができます。詳細は **(85 ページ)** を参照してください。

3. 充電を停止する

- ・充電が完了する：
 - ・任意で充電を終了させる、またはフル充電になると、自動的に充電が終了します。
- ・充電ポートの接続を切る：
 - ・家庭用 AC 普通充電の手順を参照し、充電ポートの接続を切り離します。
- ・給電プラグを外します：
 - ・充電ボックス*で車両を充電している場合は、この手順は必要ありません。
 - ・AC 充電パイルを使用し、かつ充電パイルに充電コネクタが装備されている場合は、この手順は必要ありません。
 - ・AC 充電接続装置を使用する場合は、充電コネクタを抜いた後に電源プラグを抜いてください。
- ・車両の充電ポートキャップ*と充電ポートフラップを閉めます。
- ・充電設備を整理し、適切に保管してください。
 - ・AC 充電スタンド/ボックスの場合は、充電コネクタを充電スタンド/ボックスの指定位置に戻します。

DC 急速充電

1. 充電器について

- ・公共の DC 急速充電器で車両のバッテリーを充電します。DC 急速充電器は、特定の充電スポットに設置されています。

- ・設備規格：CHAdeMO 対応。充電器関連の説明を読んでください。
- ・充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示する充電時間についてのご注意を参照してください。

2. 充電する

- ・車両を解錠し、充電ポートフラップを解錠して充電ポートフラップおよび充電ポートキャップを開けます。
- ・車両側の接続：
 - ・CHAdeMO の充電コネクタを車両の充電ポートに確実に押し込みます。
- ・充電設備の操作手順で操作し、充電を開始します。



- ・コンビネーションメーターに充電接続表示灯  が点灯します。
- ・充電中、コンビネーションメーターには関連する充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。

3. 充電を停止する

- ・充電が完了する：
 - ・予定の時間になる、または充電が完了すると、自動的に充電を終了します。
- ・充電ポートの接続を切る：
 - ・充電コネクタを持って抜き出します。
- ・充電器で DC 急速充電が完了したら、充電設備を整理して充電コネクタを指定の位置に戻します。

- ・ DC 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。

⚠ 注意

- ・ 充電完了後、ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠を操作してください。操作手順は **(90 ページ)** を参照してください。
- ・ DC 充電の場合の解錠は、3 秒以内に 2 回連続で解錠ボタンを押さなければ解錠できません。
- ・ 充電に関係する注意事項の詳細は、「充電/放電について」を参照してください。

❗ お願い

- ・ 充電ポートキャップを外した状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

スマート充電

- ・ スマート充電には、予約充電や車両予約*機能も搭載されています。車両が始動して電源が入ると、充電予約機能を利用して毎日の充電開始時間帯を設定できます。また、車両予約機能に切り替えて毎日の移動予定時刻を設定することもでき、利用時間帯の前に充電を完了させる、スマートキャビン温度制御、低温バッテリーの予熱を実行します。
- ・ ユーザーは、マルチメディアまたはインテリジェント音声機能から充電モードを設定でき、次の方法で設定画面に進むことができます。
 - ・ **☰ → エネルギー → 充電と放電 → スマート充電** から設定画面に進みます。
 - ・ インテリジェント音声機能の場合は、「ハイ、BYD」の後に「スマート充電/車

両予約/充電予約を ON にして、「スマート充電/車両予約/充電予約したい」、「スマート充電を ON にして」などで、クイックアクセスができます。

- ・ 以下の操作で OFF にできます：

- ・ リターンボタンまたは **home** をタッチすることで、スマート充電画面を閉じることができます。
- ・ インテリジェント音声機能の場合は、「ハイ、BYD」の後に「スマート充電/車両予約/充電予約を OFF にして」、「スマート充電/車両予約/充電予約を終了して」などで、すぐに終了できます。

❗ お願い

- ・ 充電予約と車両予約を同時にすることはできません。

充電予約

- ① 充電予約スイッチ
- ② 充電の開始・終了時間
- ③ 繰り返しサイクル
- ④ 車両の予約モードに切り替えます*
- ⑤ 設定



- ・ 初期設定では車両は即時充電に設定されており、予約充電は OFF になっています。
- ・ 予約充電を行う場合は、充電予約ボタン ① を ON にして、充電開始/終了時間 ②、繰り返しサイクル ③ を設定します。設定

後、「確定」をタッチすると設定を保存します。

- 予約充電完了後、充電待ち時間内に充電コネクタを接続または車両の電源ポジションを「OFF」にすると、マルチメディアが充電を予約していることを知らせます。必要に応じて即時充電に変更できます。
- ドライバーは、スマート充電設定ボタン⑤をタッチして充電コネクタ予約通知機能を OFF にすることができます。
- ページ切り替えボタン④をタッチすると、車両の予約機能のページに切り替わります。

⚠ 注意

- 予約充電は、BYD の AC 普通充電設備を対象に開発したものです。BYD 純正部品以外の AC 普通充電設備を利用する場合は、予約充電を OFF にしてください。充電設備が非対応のため予約ができない、またはすぐに充電することで車両のバッテリー残量が低下や電圧不足につながるおそれがあります。

❗ お願い

- 通知画面の即時充電に変更は、今回の予約に限るものです。すべての予約をキャンセルする場合は、設定画面で充電予約スイッチを OFF にしてください。
- 予約充電は、BYD の AC 普通充電設備のみに対応しています。公共充電施設に使う場合は、施設が予約充電に対応しているかを確認してください。
- バッテリー残量が低下している場合は、予約充電前に最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行います。最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行うときは、マ

❗ お願い

ルチメディアにパワー OFF 通知および充電コネクタ接続通知を発信し、コンビネーションメーターの下側にメッセージを表示します。

- DC 充電コネクタ*に接続すると、予約充電の設定が無効になりすぐに充電を開始します。

車の予約*

- ① 予約スイッチ
- ② 予約時間
- ③ 繰り返しサイクル
- ④ 電気料金割引期間
- ⑤ 充電予約モードに切り替え



- 車両予約を有効にする場合は、車両の予約画面が表示されたら、①の車両の予約 ON ボタンをタッチし、②で予定移動時間を設定することができます。③で予約の繰り返し期間の設定、1 回/毎日またはカスタマイズを選択ができます。④で電気料金の割引期間をカスタマイズし、「OK」をタッチして設定を保存できます。
- 電気料金割引期間中に充電することで、利用予定時刻よりも早く充電できると同時に、優先的に電気料金優遇期間中の充電が可能となり、電気代も節約できます。充電残り時間が残り移動時間・電気料金割引時間を超えている場合は、できるだけ多くの電力を充電できるように、車両はすぐに充電を開始します。

- ・ 低温バッテリー予熱により、バッテリーを事前に加熱して車両の動力性能を高めることができます。
- ・ スマートキャビン温度制御により、車室の温度を事前にインテリジェントに制御し、予定された利用期間内に車室が快適な温度に維持されるようにします。
- ・ ページ切り替えボタン⑤をタッチすると、予約充電機能のページに切り替わります。

！ お願い

- ・ バッテリー残量が少なすぎる場合、車両は予約に入る前に最小限の充電をします。
- ・ 電気料金割引期間の終了時にバッテリーがフルに充電されていない場合、車両はバッテリーが完全に充電されるまで充電を続けます。
- ・ 車両が始動状態にある場合、低温バッテリー予熱およびスマートキャビン温度制御は作動しませんが、電気料金割引期間中の充電は引き続き使用できます。
- ・ 現在の時間が予約された利用時間を超えると、低温バッテリー予熱とスマートキャビン温度制御が自動的にOFFになります。
- ・ 低温バッテリーの予熱とスマートキャビン温度制御は、始動時に一定量の電力を消費します。
- ・ 低温バッテリー予熱とスマートキャビン温度制御は、バッテリー充電量が40%を超えている場合にのみ有効になります。

AC 充電制限値設定機能*

- ・ ドライバーは、 → エネルギー → 充電と放電の設定画面から、AC 充電電流の制限値を設定することができます。設定後、車両は設定値に応じて最大 AC 充電電流を制限します。

- ・ 車両の電源ポジションを「OFF」にしてから再度「ON」にした場合、システムは最後に設定された制限値が記憶・保持されます。制限値をキャンセルするには、充電前/充電中に制限値を「MAX」に設定し、最大充電容量や電力網の容量などの最大電流値に応じて車両を充電してください。

！ お願い

- ・ 車両の実際の充電電流は、電源設備の容量、電力網の容量などにより、実際の充電電流は設定値よりも少ない場合があります。

外部給電について

- ・ 本車は外部給電機能を搭載しています：車両から負荷への放電 (V2L)。

！ 警告

- ・ 外部給電中に、外部給電用ソケットや車両側ポートの金属端子を触らないでください。
- ・ 放電中に異臭や発煙等の異常が発生した場合は、直ちに放電機能の使用を中止してください。
- ・ 外部給電についての警告は、充電警告と同じです (76 ページ) を参照してください)。
- ・ 当該装置を使わないときは、乾燥した冷暗所に保管してください。
- ・ 外部給電しているときは、設備をトランクルームや車の前部の下、タイヤの近くに置かないでください。また、使用中は車にひかれたり地面に落とす、または人に踏まれないようにしてください。
- ・ コンセントのコードが柔らかくなった場合や、給電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損

警告

がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。

- 外部給電コネクタや給電コンセントの断線、破裂、または表面の破損がある場合は、この設備の使用は絶対にしないでください。

注意

- 外部給電装置*使用上の注意事項については、(77 ページ)を参照してください。
- 外部給電前にパワーバッテリーの残量を確認し、外部給電後の航続可能距離を予測してください。
- V2L 外部給電前に、負荷が OFF になっていることを確認してください。

お願い

- 外部給電は、可能な限りパワーバッテリー残量が多い状態で使用してください。
- パワーバッテリー残量が少ないときは、外部給電の使用が制限されます。
- 電源ポジション「OFF」で、車両を長時間 V2L 外部給電器に接続した状態で電気エネルギーを出力しない場合、車両の消費電力が多くなるため、給電コネクタを外すようおすすめします。

外部給電方法

外部給電の開始について

- 給電前に、イモビライザーが OFF になっているか確認します。
- 充電ポートフラップのロックを解錠し、車両の充電ポートフラップと DC 充電ポートフラップを開けます。

- 外部給電前の点検：

- 車両のパワーバッテリー残量が 15% 以上であることを確認します。
- V2L 接続装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆び、異物の付着などの異常がないことを確認します。
- 充電ポートに水分または異物がない、金属端子に錆びや腐食による破損などの異常がないことを確認します。

- 上記 2 つ目、3 つ目の異常がある場合は、ショートや感電などにより身体に危害を与えるおそれがあるため、外部給電を中止してください。

- 外部給電器の接続：

- V2L 外部給電器を充電ポートに接続するとコンセント上の表示灯が常時点灯し、コンセントに電気が流れ正常に使用できていることを表します。

- 外部給電を開始する：

- 外部給電器に接続すると外部給電が開始します。コンビネーションメーターには外部給電に関係するデータや給電画面が表示されます。

外部給電を停止する

- 外部給電を終了する：

- 負荷を切り離します。

- 外部給電器を切り離す：

- 車両を解錠した状態で、外部給電器を抜き出します。
- 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。

- 給電装置を片づける：

- 外部給電完了後、外部給電器を収納します。

V2H 設備での充放電について

- V2H 装置で充電する場合は、パワーバッテリーに充電できる充電量が V2H 装置

で供給できる電力量より少なくなり
ます。車両の SOC が 100%になるまで充
電すると、充電が自動的に止まります。
このとき、V2H 装置で車両から放電する
ことができます。

- V2H 装置で放電する場合は、パワーバッ
テリーから消費される電力量が VTOH 装
置に供給する電力量より多くなります。
車両の V2H が 15%になるまで放電する
と、放電が自動的に止まります。このと
き、V2H 装置で車両を充電することがで
きます。
- V2H 設備で外部給電から充電への切り替
え、または充電から外部給電への切り替
えを自由に操作できます。
- V2H 設備の外部給電の取り扱い方法は、
V2L 設備での外部給電と同じです。
- V2H 機器で充電する場合、操作方法は DC
急速充電で充電する方法と同じです。

⚠ 注意

- V2H で充放電する場合は、車両およ
び V2H 設備により約 1kW のパワー
ロスが発生します。V2H 設備の充
電効率がこのロスを下回った場合
は、充電できない場合があります。
- パワーロスは、常温、電源ポジショ
ン「OFF」、電装品および 6kW の V2H
による充放電で発生します。具体的
なロスは、周囲温度や電装品の使用
状況などにより異なります。

充電ポート盗難防止ロック 機能

- 充電コネクタの盗難を防ぐため、充電ポ
ートには車両に対する充電・給電中の盗

難防止機能が備わっています。初期設定
は OFF のため、ON にするときは、 →
エネルギー → 充電と放電 の設定画面か
ら、充電ポートイモビライザーシステム
を ON にしてください。



- 充電ポート盗難防止ロックを「ON」に
している状態でユーザーが充電コネクタを
挿し込み、すべてのドア、ボンネットお
よびテールゲートが施錠している場合
は、充電コネクタがロックされます。ユ
ーザーが充電コネクタを切り離すには、
車を解錠する必要があります。

解錠

- ON で充電する場合、ドライバーは次の
方法で盗難防止ロック機能を解除し、充
電コネクタを抜き出すことができます。
- OFF にした状態でリモートキーの「ア
ンロック」ボタンを押して解錠します。
- 運転席側ドアハンドルにあるマイクロ
スイッチを押して解錠します。
- 運転席内側の下にある集中ドアロック
を押して解錠します。

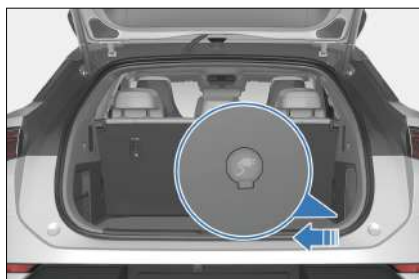
04

使用
およ
び運
転

番号	「充電ポート盗難防止ロック作動モード」設定状態	4 ドア盗難防止ロック状態	充電コネクタ抜き出しの可否
1	ON	チャイルドロックボタン ON	不可
2	ON	ON	可能
3	OFF	チャイルドロックボタン ON	可能
4	OFF	ON	可能

⚠ 警告

- 充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。30 秒経過すると、充電ポート盗難防止ロック機能が再度作動して施錠するため、新たに解錠してから充電コネクタを抜き出してください。



充電ポート盗難防止ロックの緊急時解錠

- 充電ポート盗難防止ロックが故障して充電コネクタを抜き出せない場合、手動で非常解錠の操作をして、充電コネクタを抜き出せます。

AC 充電ポート盗難防止ロック解錠用ワイヤー

- テールゲートを開けると、内側の右側トリムに充電ポート盗難防止ロック解錠用ワイヤーがあります。
- ワイヤークリップを外し、ワイヤーを引っ張り充電コネクタの解錠をします。
- 解錠後、ワイヤークリップを戻します。

❗ お問い合わせ

- 上記機能に異常または故障がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

航続可能距離の表示

本車には 2 種類の航続距離の表示モードをオプション機能として備えています。初期設定はスタンダードです。ドライバーは、 → エネルギー → エネルギー管理 の設定画面から変更することができます。

- スタンダード：総合モードのテスト結果から走行距離を表示します。
- ダイナミック：利用可能なパワーバッテリー残量と現在のエネルギー消費平均値に基づき、計算された予測走行距離を表示します。

- ・航続距離表示モードは、設定されたモードを記憶します。車両の電源ポジションを「OFF」にして再度「ON」にした場合、前回の設定モードを維持して表示します。

！ お願い

- ・航続距離表示モードをダイナミックに設定した場合：
- ・フル充電毎に表示される航続距離は、前回の走行で消費したエネルギーに基づき計算されるため、前回と異なる場合があります。
- ・実際に表示される航続距離は、エアコンの使用状態、選択された運転モード(ECO、NORMAL、SPORT など)、およびドライバーの運転習慣により調整されるため、実際の走行距離により近いものになります。

バッテリー

パワーバッテリー

- ・パワーバッテリーは車両の動力源で、充放電を繰り返すことができます。また、外部電源でパワーバッテリーを充電することができ、制動時や惰性走行時には、回生ブレーキによりパワーバッテリーの充電ができます。
- ・パワーバッテリーはボディーの床下にあるため、悪路や冠水した道路を走行する場合は、バッテリーが破損しないよう慎重に運転してください。バッテリーが破損したときは、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

⚠ 注意

- ・車両の電源ポジションが「OK」の場合は、高電圧回路が接続されている状態です。
- ・車両のパワーバッテリーが正常な場合、運転習慣、道路状況、気温、電装品の稼働状況などの違いにより、走行距離が増減することがあります。
- ・バッテリー残量が多い場合、バッテリーの寿命やバッテリーの安全性を確保の観点から、バッテリーシステムがトリクル充電モードに切り替わるため、充電時間が長くなる場合があります。
- ・バッテリー自体の化学的特性により、一定期間経過した車両はバッテリー容量の自然劣化で走行距離が短くなることがあります。走行距離の減少に気づいたら、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で点検を受けてください。走行距離の減少が正常であるかどうかは店頭検査で確認することができます。

バッテリー特性

- ・バッテリー本体の電気化学特性の影響およびパワーバッテリーを保護する目的から、以下の条件では性能に一定のばらつきがありますが、異常ではありません。
- ・パワーバッテリーの残量が多い場合は、回生ブレーキ性能が低下することがあります。
- ・フル充電に近づくまでパワーバッテリーを充電すると、トリクル充電モードに切り替わるため、コンビネーションメーターに表示されるフル充電までの予測時間が変化します。
- ・パワーバッテリーの残量が少ない場合は、加速性能が低下します。

- ・パワーバッテリーの残量が少ない場合は、外部給電が正常に使えないため、速やかに充電してください。

- ・高温や低温の環境では、パワーバッテリーの充放電能力が弱くなるため充電時間が延びますが異常ではありません。この場合、高出力充電設備で充電するようおすすめします。また、気温が極端に低い状態で走行する場合は、動力性能が低下することがあります。

- ・温度制御機能により、低温環境でパワーバッテリーを充電する場合の充電能力を大幅に改善しています。低温時の充電については、「充電上のご注意」を参照してください。

- ・バッテリー温度制御機能は、低温環境で車両を運転する際に適切なタイミングで自動で加熱を開始し、低温走行時の動力性能や放電性能を確保することで走行性能を向上させます。走行距離が短い場合は、加熱が十分にできないため電気消費が増えてしまい、航続可能距離が短くなることがあります。

- ・パワーバッテリーが通常通りに使用されている場合、車両の航続可能距離は以下の要因の影響を受けます。

- ・運転習慣：一定速度で走行する場合に比べ、加速や減速を頻繁に繰り返すと航続可能距離が短くなります。また、低速時よりも高速時の方が航続距離は短くなります。

- ・道路状況：平坦で乾燥している路面を走行する場合に比べ、悪路が続く道路や長い上り坂を走行する方が、航続可能距離は短くなります。

- ・気温：通常環境で走行する場合に比べ、低温環境で走行する場合の方が、航続可能距離は短くなります。

- ・電気機器の使用状況：運転中にエアコンを使わない場合に比べ、エアコンをつけた場合の方が、航続可能距離は短くなります。

- ・低温環境では、温度が下がると同時にパワーバッテリーの利用可能残量も低

下します。低温環境に停車しているバッテリー残量が多い車両に対して充電すると、バッテリー残量が突然 100%になることがあります。

- ・利用可能なバッテリー残量は、使用時間の増加により低下します。

バッテリーの使い方について

- ・周辺温度が-10～40℃の環境で使用することをおすすめします。バッテリー残量が少ない場合は、十分な航続可能距離や良好な加速性能を確保するため、速やかに充電してください。

- ・長期間性能を維持するためには、高温や極端な低温環境に 24 時間以上駐車することは避けてください。

- ・周辺温度が低い環境で長時間駐車する場合は、バッテリーの熱放散を低減させて使用性能を確保するため、地下駐車場や暖房付き駐車場などの温度が高い場所に駐車してください。

- ・頻繁な急加速や急減速を避けて平坦な乾燥している道路を走行し、必要に応じてエアコンなどの消費電力の大きい電装部品を使用しない、またはエアコンの温度を調整することで、航続可能距離を伸ばすことをおすすめします。

- ・車両を初めて使用する、または長時間放置した後に使用する場合は、コンビネーションメーターに表示されるパワーバッテリー残量がばらつくことがあります。運転前にパワーバッテリーをフル充電することをおすすめします。

- ・日常的に使用する場合は、定期的にパワーバッテリーをフル充電してください（推奨：充電は週に 1 回以上）。また、3 ヶ月～半年毎にバッテリー残量が少ない状態（10%以下）からフル充電することをおすすめします。

- ・極端な走行（急加速や急減速の繰り返しなど）によりパワーバッテリーの温度が高くなった場合は、パワーバッテリーの放電能力が少しずつ低下しますが異常ではありません。また、パワーバッテリー

の温度が高くなりすぎるとコンビネーションメーターに警告灯が点灯します。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- ・パワーバッテリーの残量が異常に上がった、または下がった場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検してください。

警告

- ・非常時や事故発生時は、次の警告に注意してください。
- ・怪我などを避けるため、パワーバッテリーを直接触らないでください。
- ・早急に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・パワーバッテリーが破損し液体が漏れ出したときは、絶対に漏れ出した液体を触らないでください。不注意で皮膚や目に付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- ・車両火災が起きたときは専用消火器で消化し、水系の消火器は使わないでください。

注意

- ・パワーバッテリーの安全を確保するため、引火性や爆発性があるもの、火元および各種の危険化学品から遠く離れた場所に駐車してください。
- ・パワーバッテリーの寿命を縮めるおそれがあるため、駐車時は熱源から遠く離れ、日光が長時間当たる場所を避けてください。
- ・パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、悪路を走る場合は慎重に運転してください。パワーバッテ

注意

リーが何かにぶつかった場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検してください。

- ・バッテリー冷却水を許可なく注入することは禁止されています。作業する必要があるときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- ・バッテリーパックを修理するとき、車内に乗り込まないでください。

パワーバッテリーの回収

電気自動車を廃車にする場合は、下記に示すプロセスに従って処理してください。

1. 車両を BYD の回収サービスセンターにお持ちください。パワーバッテリーの残価を評価します。
2. 評価済みの車両を回収・解体業者にお持ちいただくと、パワーバッテリーを取り外します。
3. 回収・解体業者が取り外した古いパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡し、回収サービスセンターはパワーバッテリーを買い戻します。

警告

- ・電気自動車の所有者は、不用となったパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡す責任と義務があります。不要となったパワーバッテリーを他の業者や個人に勝手に引き渡し、パワーバッテリーを取り外す、分解を勝手に行うことで発生した環境汚染や事故については、相応の責任を負う必要があります。

起動バッテリー

本車の起動バッテリーは、助手席下にあります。

- ・ 作動モードは、「正常」、「スリープ」、「省エネ」、「低電圧保護」などがあり、バッテリーのセルを守ることが目的です。車両システムに異常がなく、上記モードの切り替えが自動的にできる場合は、普段の利用に影響はありません。
- ・ 起動バッテリーの電圧不足を避けるため、条件を満たしている（車両の電源ポジション「OFF」、パワーバッテリーから給電可能、起動バッテリー電圧が設計値以下）場合は、自動的に「スマート充電」が作動します。
- ・ スマート充電が作動すると、パワーバッテリーから起動バッテリーを充電します。そのため、車両をしばらく放置してから再度始動すると、コンビネーションメーターに表示される SOC または航続距離が減少していますが、異常ではありません。
- ・ スマート充電が作動しない場合は、起動バッテリーから車両への電源供給を止めることがあります。使用前に電力がないときは、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押し続けて起動バッテリーを有効にし、ただちに車両の電源ポジションを「OK」にして起動バッテリーを充電してください。充電時間は、1 時間以上充電することをおすすめします。

警告

- ・ 起動バッテリーには、腐食性のある溶液が入っています。起動バッテリーが破損したり、人身事故を起こさないために、起動バッテリーの分解や修理はしないでください。
- ・ 起動バッテリーの取り外し、分解はしないでください。環境汚染や事故を起こした場合、相応の責任を負う必要があります。

警告

- ・ 起動バッテリーは可燃性、爆発性のある水素ガスが発生します。工具を使う場合は、起動バッテリーからの火花の発生を避けてください。また、起動バッテリーの近くでタバコを吸ったり、火をつけないでください。
- ・ 電解液が皮膚や目、服に付着しないように注意してください。電解液が皮膚や目に付着したときは重曹水で皮膚を洗い、多量の水で目を洗い流してただちに医師の手当てを受けてください。
- ・ 誤って電解液を飲み込んだ場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- ・ お子様を起動バッテリーに近づけないでください。

注意

- ・ 起動バッテリーにはリレーが内蔵されており、作動中に「ダダ」と音が聞こえますが異常ではありません。
- ・ 起動バッテリーの充電には専用工具が必要なため、無断でバッテリーを外して充電しないでください。
- ・ 起動バッテリーには電源マネージャーが内蔵されています。起動バッテリーの破損または怪我を避けるため、無断で起動バッテリーの分解や修理をしないでください。
- ・ 車両と通信できないときは起動バッテリーを正常に使用できないため、必ずコネクタやワイヤーハーネスを正しく接続してください。

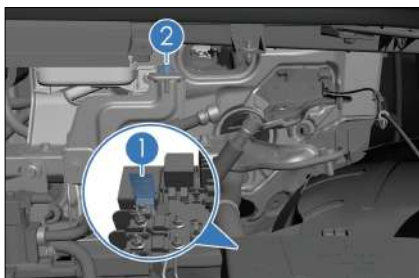
起動バッテリー電圧不足時のスリープ解除機能

運転席側ドアのマイクロスイッチ操作による起動

- ・ 本車は、起動バッテリーのスリープ解除機能を搭載しています。車両を長期間保管しリモートキーを使用しても車両搜索や解錠を実行できないときは、起動バッテリーがスリープ状態になっている可能性があります。起動バッテリーを起動するには、運転席側ドアハンドルにあるマイクロスイッチを3秒間長押ししてください。車両を解錠すると通常通り使用することができます。

モータールームからの起動

- ・ 運転席側ドアのマイクロスイッチで車両起動および解錠ができない場合は、メカニカルキーを使用してドアを開けることができます。このとき、2本の特別な起動専用ケーブルと12V電源を介して車両を始動できます。起動バッテリーの残量が少なく、コンビネーションメーターに「起動バッテリーの残量不足、車両の電源がもうすぐ切れます」と表示され、車両が再度スリープ状態になることがあります。ただちに車両を始動して起動バッテリーが完全に充電できるように、15分以上車両を始動したままにしてください。
- ・ 起動方法は、モータールームの配電ボックスの専用インターフェースを介してのみ実行できます。モータールーム内の配電ボックスの起動ポイントを図に示します。
 - ・ プラス極を接続します①
 - ・ マイナス極を接続します②



- ・ 上記のいずれの操作を行っても車両を始動できない場合は、速やかに BYD 正規デ

イラーまたは BYD 指定サービス工場にご連絡ください。

警告

- ・ 車両の電源ポジションを「OK」に入れずに他の車両と接続して始動することは、絶対にしないでください。起動バッテリーが損傷するおそれがあります。
- ・ 起動バッテリーの電圧不足や正常に利用できないためにジャンピングスタートを行う場合は、本オーナーズマニュアルの該当内容をよく読み、必ず記載に従ってブースターケーブルを接続し、関連操作を行ってください。
- ・ 起動バッテリーの内部にはインテリジェントコントロールモジュールが内蔵されています。起動バッテリーの破損を防ぐため、緊急時を除き、無断で取り外しや破壊をしないでください。
- ・ 部品交換や車両整備の前には、起動バッテリーの負極（-）端子を外してください。

注意

- ・ モータールームのフューズボックスでは、ジャンピングスターターのためのスペースが狭く、感電などの危険があるため、専門家の指導によりジャンピングスタート作業を行うことをおすすめします。
- ・ 起動バッテリーは乾燥したウエスなどで拭き、水洗いはしないでください。

スマート充電機能

- ・ パワーバッテリー残量が十分にありシステムが起動バッテリーの残量が少ないことを検知すると、自動的に高圧電源をONにしてパワーバッテリーで起動バッテリーを充電することができます。

！ お願い

- ・長時間車両を放置すると、自動的にスマート充電機能が作動することがあります。これは、制御プログラムにより自動的に作動しており、車両が故障しているわけではありません。
- ・スマート充電に必要な電気エネルギーはパワーバッテリーパックから取り出しているため、スマート充電機能が作動すると、パワーバッテリーの残量が低下することがあります。が、車両の故障ではありません。

け、エコモードで可能な限り一定の速度で走行し、慣らし運転することをおすすめします。以下の操作を避けることで、車両を長持ちさせることができます。

- ・始動や運転時、アクセルペダルを強く踏み込まないでください。
- ・長時間、一定速度での高速走行や低速走行をしないでください。
- ・スピードを出し過ぎないでください。
- ・最初の2000kmまでは他車のけん引を避けてください。

車両のけん引

ご利用要領

慣らし運転期間

- ・パワーユニットが起動しにくい、または回転がよく止まってしまう場合は、ただちに車両を点検してください。
- ・パワーユニットから異音が発生している場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- ・パワーユニットから冷却水や潤滑油が漏れている場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- ・パワーユニットは慣らし運転が必要です。最初の約2000kmは高速走行を避

- ・トレーラーによるけん引は、車両けん引機能をオプションで装着した場合のみ可能です。
- ・けん引フックキットの取り付けおよび機能ソフトウェアのインストールは、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で行ってください。私的改造は固く禁止されています。BYDは、ユーザーの個人的な改造によって引き起こされた車両の損傷や人身傷害については一切責任を負いません。
- ・車両のけん引能力は、車両の仕様、荷重、道路状況、トレーラーの仕様などによって異なります。けん引する重量は次の要件を超えてはいけません。

項目	諸元	パラメータについて
最大許容けん引質量 (ブレーキ付)	750kg (後輪駆動) 1500kg (四輪駆動)	トレーラーがブレーキ付きの場合、けん引されるトレーラーの最大許容総質量
最大許容けん引質量 (ブレーキなし)	750kg	トレーラーがブレーキ無しの場合、けん引されるトレーラーの最大許容総質量
最大垂直荷重	75kg (後輪駆動) 150kg (四輪駆動)	ボールヘッドに許容される最大垂直荷重

項目	諸元	パラメータについて
1. 最大許容けん引質量は、すべての貨物と付帯設備を含むトレーラーの総質量です。		
2. 最大垂直荷重とは、車両全体が静止した状態でトレーラーをけん引しているときに、トレーラーの質量によってけん引フックにかかる下向きの力を指します。		

- ・ トレーラー付きで走行する場合、タイヤの空気圧を追加荷重に合わせて調整する必要があります。タイヤの空気圧は、前輪で 290kPa、後輪で 310kPa に保ってください。
- ・ トレーラー付きで走行する場合は、安全運転のため、現地の関連法規を遵守し、速度超過や過積載を避けてください。
- ・ トレーラー付きで走行する際は、後車軸の技術的に許容される最大質量は 15% を超えず、車両の技術的に許容される積載質量は 100kg を超えません。この場合、最高速度は 100km/h を超えないようにし、後輪タイヤの空気圧は標準空気圧より 20kPa 以上高くしてください。
- ・ トレーラー付きの走行は、ハンドリング、性能、ブレーキ、耐久性、経済的な運転、電気エネルギーの消費など、あらゆる面で悪影響を与えます。
- ・ BYD は、車両けん引指示の要件を正しく遵守しなかったことによって引き起こされる車両の損傷または人身傷害については一切責任を負いません。トレーラーや荷物のけん引によって生じた車両の損傷は保証の対象外となります。
- ・ 車両けん引機能の詳細な手順については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

警告

- ・ 本車両のけん引フックは、トレーラーをけん引する目的にのみ使用されます。動けなくなった車両の脱出や救助には使用しないでください。車両に損傷を与えたり、身の安全を脅かしたりするおそれがあります。

安全運転上のご注意

飲酒運転厳禁

少量の飲酒でも、交通条件の変化に対する反応が遅くなります。飲酒量が多いほど反応が鈍くなるため、飲酒運転は絶対にしないでください。

速度の抑制

スピードの出し過ぎは、衝突事故や死傷事故を引き起こす主な原因です。通常は速度が速いほど危険性が高まります。道路状況に応じて安全な速度で走行してください。

車両を安全運転可能な状態に保つ

タイヤのバーストや機械の故障は非常に危険です。故障の確率を下げるため、常に車両の状況を点検し、定められた点検を実施してください。

注意

- ・ 運転免許がない人は運転しないでください。
- ・ 疲れているときは運転しないでください。
- ・ 運転時は、必ず交通ルールを守ってください。
- ・ 運転中は必ず運転に集中し、運転とは無関係な操作（携帯電話の使用やボタンの調整など）をしないでください。

利用時のアドバイス

パワーバッテリーを長持ちさせるために、以下のことをおすすめします。

- 車両を長期間（7日以上）使用しない場合は、パワーバッテリーの充電を40%～60%に維持します。そうしないと、パワーバッテリーの寿命が短くなります。
- 車両を長期間（3ヶ月以上）使用しない場合は、パワーバッテリーをフル充電してから、充電率が40%～60%になるまで放電してください。パワーバッテリーの過放電により発生するパワーバッテリー性能の低下や、破損による車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- コンビネーションメーターに表示される航続可能距離が0の場合は、パワーバッテリー残量が不足しています。早めに充電し、長時間パワーバッテリー残量が少ない状態で使用することは避けてください。
- パワーバッテリーを最適な状態に維持するため、定期的にAC車載充電装置でパワーバッテリーをフル充電してください。毎週1回はフル充電するようおすすめします。
- 長期間にわたり性能を確保するため、60℃より高いまたは-30℃より低い環境に駐車するときは24時間以内にしてください。
- トレイがへこんだ、またはパワーバッテリーパック底部のトレイ表面が傷ついた場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。
- 運転中、急加速や急減速を繰り返すことは避けてください。
- パワーバッテリー温度が上がると車両性能に影響を与えるおそれがあるため、長時間の車両の使用は可能な限り避けてください。
- コンビネーションメーターに故障メッセージが表示された場合は、早めにBYD正

規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。

- パワーバッテリーの温度が比較的高いと車両の性能が制限されます。車両を安全な場所に駐車し、パワーバッテリーの温度が下がってから使用してください。

！ お願い

- コンビネーションメーターに表示されているパワーバッテリー残量が0のときは、7日以内に充電しないと、復旧不可能なパワーバッテリーの破損を引き起こすため、必ず充電してください。これによるパワーバッテリーパックの破損について、BYDは品質保証条項に定められる保証責任を負いません。
- 航続可能距離は、利用可能なパワーバッテリー残量、車齢（現在のパワーバッテリー寿命）、天気、気温、道路状況、運転習慣などで決まります。高温や低温の環境で走行する場合の航続可能距離は、常温の場合より多少短くなり動力性能も影響を受けます。

節電で車を長持ちさせる方法について

- 節電はシンプルであり、車両の寿命を延ばすことにもつながります。
- 電気エネルギーや修理代を節約する要領を次に示します。

1. 回生ブレーキ設定：

- 本車は回生ブレーキ機能を搭載しており、回生ブレーキ強度を設定することができます（→エネルギー→エネルギー管理）。回生ブレーキ強度が強い場合は、制動・惰行中に回収するエネルギーを増やすことができるため、運転習慣に合わせて設定してください。

2. 速度維持：

- 一定速度での運転は、節電に役立ちます。急アクセル、急ハンドル、急ブレーキは、より多くの電気エネルギーを消費します。
- 交通状況に応じて一定速度で走行してください。アクセルペダルを踏むたびに余分な電気エネルギーを消費します。
- アクセルペダルはゆっくり踏み、急発進、急アクセル、急ブレーキを避けてください。
- 一定の速度を維持しながらの運転や信号がない道路を前車と車間距離を適切に保って走行し、急ブレーキを避けることは、ブレーキの摩耗の軽減につながります。
- 渋滞している道路はなるべく避けてください。
- 高速道路走行時は適切な速度を維持してください。速度が速いほど電気エネルギーの消費が多くなるため、エコ走行になる範囲内に速度を保つことで省エネにつながります。

3. 負荷の軽減：

- エアコンを作動するとモーターに余分な負荷が掛かるため、より多くの電気エネルギーが消費されます。エアコンを消すことで電気エネルギーの消費を減らします。また、外気温度が快適なときは、外気導入モードで外気を取り入れるようにします。
- 不要な荷物を積むことは避けてください。過度に重量物を積むと、車への負荷が増えるため、より多くのエネルギーが消費されます。

4. その他：

- タイヤの空気圧は適切に保ってください。タイヤの空気圧不足は、タイヤの摩耗や電気エネルギーの消費につながります。
- フロントタイヤの正しいアライメントを保ってください。道路の縁石へ乗り上げないようにし、デコボコ路はゆっくり走行してください。フロントタイヤのアラ

イメントが良くないと、タイヤの早期摩耗の原因や電動パワートレインへの負荷が大きくなるため、電気エネルギーをより多く消費します。

- シャーシは清潔な状態に保ち、泥などの付着がないようにしてください。これにより、ボディー重量を軽減するだけではなく、腐食を防ぐこともできます。

❗ お願い

- 走行中は、ニュートラルギアでの惰性走行を厳禁します。

荷物の積み込み

- 本車には、便利な格納スペースを複数用意しています。積み込み荷物が多い、または積み込み方が不安定な場合は、車両の操縦性や安定性が悪くなり安全性が低下することがあります。
- グローブボックスやドアポケット、シートバックポケットなどは、小物や軽量物を格納するために設計されています。トランクルームは、比較的大きくて重たいものを収納するための空間です。
- 荷物を積み込む場合は、車両本体、乗員全員、荷物の総重量が車両総重量を超えないようにしてください。

⚠ 警告

- 積載オーバーや不適切な荷物の積み込み方は、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、衝突事故を招くおそれがあります。
- 本オーナーズマニュアルに記載される車両総重量や、他の積載ルールを守ってください。
- 正常な運転への干渉を避けるため、強い磁気を持つものを車両に搭載しないでください。

客室に荷物を積み込む場合

- ・衝突時に車内へ投げ出されて乗員に怪我を負わせるおそれがあるものは、確実に収納または固定してください。
- ・車両後方の安全確認を妨げたり、衝突時に車内へ投げ出されるおそれがあるため、リアシェルフにもものを置かないでください。
- ・フロントシート後部の床にもものを置いている場合、ペダル操作やシート調整の妨げにならないように、シートの下で転がらないようにしてください。また、荷物を積み込むときはフロントシートバックを超えないでください。
- ・運転時はグローブボックスをきちんと閉めてください。グローブボックスが開いていると、衝突時や急ブレーキ時に乗員の膝などに怪我を負わせるおそれがあります。

！ お願い

- ・お子様のおもちゃを車内に積み込まないでください。急ブレーキや衝突事故などが発生した場合、おもちゃが安全走行を妨げるだけでなく、お子様に怪我をさせるおそれがあります。

トランクルームに荷物を積み込む場合

- ・トランクルームに荷物を均一に入れ、最も重い荷物は一番下で、かつ前側の方に置きます。
- ・走行中に移動しないように紐やチェーンで荷物をきちんと固定し、荷物は、フロントシートバックの高さ以上積み込まないでください。
- ・トランクルーム内の荷物固定用具や固定装置などについては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

冠水路の走行

- ・冠水路に進入する前に、水の深さをきちんと確認してください。水の深さは、ボディー下部の縁部を超えてはいけません。
- ・冠水路を通り抜ける場合は、発進前にエアコンを消して低速で走行し、アクセルペダルを軽く踏み続けながら、ゆっくり走り抜けてください。



- ・絶対に水の中で停車しないでください。また、水の中でバックしたり、モーターを OFF にしないでください。
- ・無事に冠水路を走り抜けたら、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキローターに付着した水を落とし、できるだけ早く通常の制動性能に戻してください。
- ・深い冠水路を通り抜けるとブレーキが濡れることがあるため、慎重に運転してください。
- ・必要な場合を除き、浸水した道路での走行を避けてください。

⚠ 警告

- ・ブレーキシステムに水や泥などが侵入すると、ブレーキの利きが悪くなり制動距離が長くなるため、事故につながるおそれがあります。
- ・ブレーキが濡れているときは慎重に操作し、ブレーキに付いている水や水を落としてください。

警告

- また、冠水路を走り抜けた後は、可能な限り急ブレーキを避けてください。
- 車両がくぼんでいる冠水路を走る場合は、モーターに水が侵入しないように注意してください。モーターの重大な破損につながるおそれがあり、これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 冠水路を走り抜けた後は、ドライブトレインシステム、走行システム、電気システムなどの部品も大きな被害を受けているおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 台風などの荒れた天候で充電する場合、可能な限り雨が当たらないように注意してください。サイドシルの高さ以上に車両が浸水する、または冠水路を走行中に浸水すると、高電圧部品の内部に水が侵入するおそれがあります。そのため、タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路は走行せず、もし水が侵入した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検や処置を依頼してください。
- タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路は走行しないでください。

高電圧部品の内部に水が浸入した場合：

- 車両が浸水した場合、高電圧部品は電子部品のため、乾かしても水分を完全に蒸発させることができる保証はありません。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、部品自体の絶縁性に大きな影響を与えます。また、水分に多く含まれる導電性物質により、高電圧部品の内部ショートや高電圧システムのショートを引き起こす

おそれがあるため、車両の安全性能や使用性能に重大な影響を与えます。

- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、製品の IP 保護等級、耐電圧などの性能が大きな影響を受けるため、危険性が大きくなります。

火災の予防

車両火災を効果的に防止するため、車両を使用する場合は下記に注意してください。

- 車内に引火性・爆発性のあるものを格納しないでください。
- 炎天下や日の当たる場所に駐車すると、車内の温度が 60～70℃以上に達することがあります。そのため、車内にライター、洗剤、香水などの引火性・爆発性のあるものを置くと、火災や爆発が発生するおそれがあります。
- 喫煙後、吸い殻の火が完全に消えていることを確認してください。
- 喫煙は身体の健康を害するだけでなく、火が完全に消えていない吸い殻は火災を引き起こすおそれがあります。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で定期点検を依頼してください。
- コネクタとワイヤーハーネスとの接続、絶縁および固定位置などに異常がないかを確認するために、車両全体の配線の定期点検を行ってください。不具合が見つかったときは早めに処置してください。
- 車両の配線の改造、電気部品の後付けを禁止します。
- 電装品（ハイパワーオーディオ、照明器具など）の後付けは、回路に過大な負荷がかかり、ワイヤーハーネスの発熱による火災の原因になります。
- 基準外の電器・配線の改造により抵抗が大きくなり、異常に発熱して火災を引き起こすおそれがあります。電装品

の定格から外れたフューズや金属ワイヤーをフューズの代わりに使用することは絶対にしないでください。

- 正しい駐車場所を選びます。
- 停車時、日にさらされる場所は可能な限り避けてください。
- 車両を保管する場合は、車両の下に乾燥した藁や枯れた小枝、葉、麦わらなどの可燃物がないかをよく確認してください。特に夏場では、車両の下に可燃物があると火災につながるおそれがあります。
- 走行中は枯れた小枝や葉、麦わら、雑草などの可燃物が堆積している道路を可能な限り避けてください。走る必要があるときは、走り抜けた後に車両を止めて車両の下部に可燃物がないかを確認してください。
- 車載用の消火器を車両に搭載することをおすすめします。
- 消火器を車両に搭載する場合、安全を確保するために定期的な点検や交換を行ってください。また、消火器の使い方を熟知し、非常時は迅速に対応できるようにしてください。
- 車両の修理やメンテナンスを行う場合は、起動バッテリーのマイナス端子を外します。
- 車両火災が発生した場合は、迅速、冷静に効果的な方法で対処し、被害を最小限にしてください。
- 火災の発生は、ボディーからの異音や異臭などのような前兆があります。異常を感じたら、できるだけ風が当たらない場所に停車し、車載用の消火器で初期消火を行います。
- 早めに 119 番に通報すると同時に、該当の保険会社にも通報し現場対応を要請します。
- 火元を特定します。モータールームから煙があがっている場合は、すぐにボンネットを開けないでください（ボンネットを開けると大量の空気が入り、

火の勢いが強くなるためです。モータールームには可燃物が少ないため、ボンネットを開めておくことで火の勢いを抑え、消火を助けることができます）。車載用の消火器を使用し、ボンネットの隙間から火元に向けて消火剤を噴射する、または外部に助けを求めて複数の消火器を借りることができれば、外部から火が見えない状態でボンネットを開けて消火剤を噴射し続けることができます。

- 消防隊が消火した後は、出勤証明書を請求して発火原因についての報告書の発行を依頼します。
- 事故発生後、早めに保険会社に対応などを依頼します。

お願い

- 思わぬ被害が発生することを防ぐため、車両保険に加入することをおすすめします。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは、緊急時対応またはチェーン規制が実施されている道路を通行するときに使用するものです。
- タイヤチェーンはリアタイヤに装着してください。また、凍結路面や雪道でタイヤチェーンを装着して運転するときは、細心の注意を払って運転してください。一部のタイヤチェーンは、タイヤ、ホイール、サスペンションおよびボディーを破損させるおそれがあります。タイヤとホイールハウス内の部品間に十分なスペースを確保するため、タイヤチェーン本体の厚さまたは直径が 10mm を超えない細いタイプのタイヤチェーンを選択してください。
- 部品組立図およびタイヤチェーンメーカーの他の取扱説明書をよく読んでください。
- タイヤチェーンの購入やタイヤへの装着前に、お買い上げの BYD 正規ディーラー

または BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

- タイヤとタイヤチェーンの摩耗を軽減するため、タイヤチェーンを装着したまま積雪路や凍結路以外の道路を走行しないでください。

❗ お願

- タイヤチェーン装着時の走行速度は、30km/h またはタイヤチェーンメーカーが推奨する制限速度のいずれかを超えないでください。
- 突起物や穴、急カーブに注意しながら慎重に運転してください。乗り上げた場合、ジャンプするおそれがあります。
- 制御不能による事故を避けるため、タイヤチェーン装着時は急ハンドルや急ブレーキを避け、ハンドルを切ったりカーブに入ったりする前にスピードを落としてください。
- タイヤチェーンは左右対称に装着し、積雪路を抜けたらすぐに取り外してください。
- タイヤチェーンから異音が聞こえる場合はただちに停車し、タイヤチェーンとの干渉がないようにサスペンションやボディー、ブレーキチューブなどの部品を確認してください。
- 車両を停止させ、エンジンを切り、Pギアを入れ、パーキングブレーキをかけた後にチェーンを取り付けてください。タイヤの空気圧が不足している場合は、タイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンを装着する場合は、安全で平坦な場所に停車してからハザードランプを付け、車両後方に三角表示板を設置してください。

発進と運転

車の始動

通常の始動方法：

- リモートキーを携帯し、ブレーキペダル②を踏みながら「スタート/ストップ」ボタン①を押すと、コンビネーションメーターの「OK」表示灯が点灯し発進できる状態になります。
- シフトレバーを「D」または「R」レンジに切り替えると、電動パーキングブレーキが自動的に解除されます。電動パーキングブレーキシステムのモーターから解除音が聞こえると、車両が発進できる状態になります。



始動できない場合

- 次の場合は始動できません。
 - 「スタート/ストップ」ボタンを押したときに、リモートキーシステム警告灯が点灯してスピーカーから警告音が鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可」と表示された場合は、リモートキーが車内にない、または干渉によりキーが検知できないことを表します。
 - リモートキーは特定の場所（インストルメントパネル、グローブボックスの内側、フロア、カップホルダー、トランクなど）では正常に機能しないため、始動できないことがあります。

- ・「スタート/ストップ」ボタンを押したとき、スタート機能が正常に作動しない場合は、下記に示す要因が考えられます。
- ・リモートキーが作動せずコンビネーションメーター内のリモートキーシステム警告灯が点滅すると同時に、「キーのバッテリー残量が少なくなっています」とメッセージが表示されたときは、リモートキーのバッテリーが切れている可能性があります。(190 ページ)を参照し、速やかにリモートキーのバッテリーを交換してください。
- ・上記の場合を除き、使用環境によってはスマートエントリーおよびキーレススタートシステムが正常に作動しないことがあります。詳細については (54 ページ) を参照してください。

注意

- ・車両が始動しない場合、ドライバーが車両に入ってから 2 分経過しても車両を始動できない場合は、電子スマートキーを移動して再試行することをお勧めします。

緊急時の始動方法：

- ・パーキングブレーキを確実に掛けます。
- ・必要のないランプやアクセサリを OFF にします。
- ・シフトレバーを「P」または「N」レンジに入れます。
- ・車両の電源ポジションを「OFF」にします。
- ・リモートキーを車内に置きます。
- ・「スタート/ストップ」ボタンを 15 秒以上長押しすると、始動します。

リモートスタート

始動前

- ・車両の電源ポジションを「OFF」にします。

- ・シフトポジションを「P」レンジに入れます。
- ・速度を 5km/h 以下にします。

始動方法

1. リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを約 2 秒間長押しすると、車両を遠隔で始動させることができます。始動後、ターンシグナルランプが 3 回点滅します。
2. リモートスタート後、10 分以内に有効な操作を行わないと、電源ポジションが「OFF」になりターンシグナルランプが 2 回点滅します。



3. リモートスタート後、リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを約 2 秒間長押しすると、電源ポジションが「OFF」になりターンシグナルランプが 2 回点滅します。

車両の運転

運転前の点検

車両外部

- ・タイヤ：タイヤの空気圧、タイヤトレッドに割れ、破損、異物の噛み込みがないが、タイヤに異常、過度な摩耗がないかを点検します。
- ・ホイールナット：ナットの緩みや外れがないかを点検します。
- ・照明：ヘッドライト、ポジションランプ、ターンシグナルランプおよび他のライト

の動作、ヘッドライトの明るさを点検します。ヘッドライトの明るさを点検します。

車両内部

- ・シートベルト：バックルがしっかりロックでき、シートベルトに摩耗や擦り傷がないことを点検します。
- ・コンビネーションメーター：メンテナンス表示灯、コンビネーションメーター照明とデフロスターの作動に異常がないことを点検します。
- ・ブレーキペダル：ブレーキペダルの操作に必要なスペースがあることを点検します。
- ・起動バッテリーとケーブル：つなぎ目のところに腐食や緩み、外れがないか、起動バッテリーのケースに割れ目がないかを点検します。

モータールーム内部

- ・バックアップ用フューズ：それぞれのフューズのバックアップがあることを点検します。フューズボックスには、各種の定格電流量に対応する仕様が記載されている必要があります。
- ・冷却水の量：冷却水の量が正しい範囲であることを点検します。

始動後の点検

- ・コンビネーションメーター：故障を示す警告灯およびスピードメーターの動作に異常がないことを点検します。
- ・ブレーキ：安全な場所で車両を直進走行し、ステアリングホイールをしっかりと維持した状態でブレーキを掛けるとき、偏りがなく真っすぐ走ることを点検します。
- ・その他の異常な現象：緩んだ部品や漏れ、異常な騒音がないかを点検します。

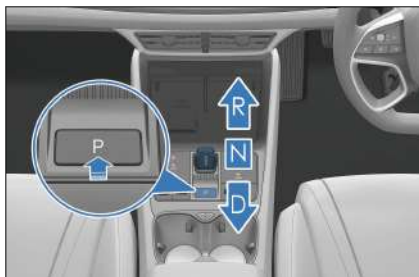
運転前の準備について

- ・乗り込む前に、車両周辺の状況を確認してください。

- ・シートポジション、シートバック角度、シートクッションおよびヘッドレストの高さ、ステアリングホイールの角度と高さを調節します。
- ・ルームミラーとドアミラーを調節します。
- ・すべてのドアを閉めます。
- ・シートベルトを確実に締めます。

シフト機構

- ・ギアアクチュエーターのレンジマークは、シフトレバーに表示されます。
- ・「P」レンジ：パーキングレンジで、ボタンを押すとパーキング表示灯が点灯してパーキングブレーキが作動します。車両を発進させるときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態で「P」レンジからその他のレンジに切り替えます。



⚠ 注意

- ・急停車による事故を防ぐために、「P」ボタンを押すときは、車両が完全に止まってから押してください。
- ・「R」レンジ：リバースレンジで、車両が完全に止まってから使用してください。
- ・「N」レンジ：ニュートラルレンジで、一時的に停止する場合に使用します。車両から降りる場合は、必ず「P」レンジに切り替えてください。

- ・「D」レンジ：ドライブレンジで、通常の走行時に使用します。
- ・シフトチェンジ後に手を離すと、シフトレバーは自動的にセンターポジションに戻ります。
- ・車両の電源ポジションが「OK」以外の場合は、「D」レンジに切り替えることができません。
- ・「P」レンジにする、または「D」レンジに切り替える場合は、ブレーキペダルを踏み込む必要があります。詳細は、コンビネーションメーターのインフォメーションを参照してください。
- ・自然発車を防ぐため、車両が完全に止まってから「P」ボタンを押してください。このとき、電動パーキングブレーキ (EPB) が連動して作動し電動パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

警告

- ・モーターが作動していて、かつシフトレバーを「R」または「D」レンジに入れる場合は、必ずブレーキペダルを踏み込み、車両を停止させてください。ニュートラルの状態でも、トランスミッションが動力を伝達しているため、車両がゆっくり動くことがあります。
- ・事故を防ぐために、前進時にシフトポジションを切り替えるときは、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- ・事故を防ぐために、走行中にシフトレバーを「R」に入れたり、「P」ボタンを押したりしないでください。
- ・モーターが作動していない状態であっても、「N」または「P」レンジのままで坂を下ることはしないでください。
- ・「P」レンジに切り替えたあとに、電動パーキングブレーキ表示灯が点灯しない場合は、 → ADAS → 安全補

警告

助の設定画面から手動で電動パーキングブレーキを ON にし、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に車両の点検を依頼してください。

電動パーキングブレーキ (EPB)

駐車時や車両から離れるときは、必ず電動パーキングブレーキ (EPB) を作動させてください。

手動で EPB を掛ける

- ・クイックスバーをプルダウンするか、マルチメディア  → ADAS → セーフティアシストを通じて電子パーキングスイッチを ON にします。「P」ギア以外の状態では、EPB が解除された状態になり、ブレーキペダルが踏み込まれると、EPB は適切なブレーキ力をかけます。まず、計器パネルの指示ランプが点滅し、その後常時点灯し、EPB がオンになったことを示します。また「電子パーキングが作動しました」というメッセージが表示されます。

注意

- ・ が点滅している場合は、EPB 作動中を表します。坂道では自然発車を防ぐために、できるだけ  が常時点灯してから、ブレーキペダルを離してください。

自動で EPB が掛かる

ストップ時に自動的に EPB が掛かる

- ・車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると EPB が自動で作動し、

コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯します。

「P」レンジ時に自動的に掛かる

- ブレーキペダルを踏み込んで車両を止めてから「P」レンジに入ると、EPB が自動的に掛かります。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。
- ブレーキペダルを踏んで車両が停車しており、シフトポジションが「D」または「R」のときに運転席側ドアを開けると、シフトポジションが「P」に切り替わり、EPB が自動的に掛かります。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。

⚠ 警告

- ドアを開けて EPB を掛ける、「P」レンジにすることは避けてください。EPB が作動しなくなる、または EPB のクランプ力が不足して車両が自然発車するおそれがあります。安全のため、降車する前に必ず「P」レンジに入れて EPB が作動していることを確認してください。

⚠ 注意

- 坂道で停止している場合は、少し離れただけでも車両が自然に動くおそれがあるため、ブレーキペダルを早めに離さないでください。
- エンジント後の自動始動機能は、車両自体の安全性を向上させるために設計されています。過剰な依存や頻繁な使用は、起動バッテリーの消耗や EPB のクランプ力が不足して自然発車のリスクがあります。安全を確

⚠ 注意

保するために、車両から降りるときは必ずシフトレバーを「P」レンジにし、EPB が掛かっていることを確認してください。

発車時に自動的に EPB を解除する

シフトリリース

- 「P」レンジで車両を始動し、ブレーキペダルを踏み続けながらレンジを「P」または「N」から、「D」あるいは「R」レンジに切り替えると、EPB が自動で解除されてコンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯が消灯し「EPB が解除されました」と表示されます。

⚠ 注意

- 正しいシフトチェンジをしてください。シフトチェンジ中は最後までブレーキペダルを踏み続け、コンビネーションメーターに目的のレンジが表示されてから、ブレーキペダルを離してください。
- 車両の電源ポジションを「OK」にしてからの数秒間は、EPB システムが電源投入時のセルフテストをしている状態のため、すべての機能に应答していません。

アクセルペダルを踏んで解除する

- 車両を始動し、シフトレバーが「D」または「R」レンジに入っているとき、マルチメディア設定画面の「電動パーキングブレーキ (EPB)」で EPB を ON にした後、アクセルペダルをある程度までゆっくり踏み込むと、EPB は自動で解除され、電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が消灯し「EPB が解除されました」と表示されます。

フットブレーキが利かない場合の緊急ブレーキ機能

- ・走行中にブレーキが利きにくい、または掛からない場合は、「P」ボタンを2秒以上押し続けることで、緊急ブレーキを作動させることができます。

警告

- ・EPBは、路面の摩擦力の物理限界を超えることはできないため、カーブや危険な道路、渋滞、悪天候などの走行時に緊急ブレーキ機能を作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあるため、事故につながらないように注意してください。

注意

- ・正常に走行している場合は、走行中の安全を確保するために「P」ボタンによる緊急ブレーキを避けてください。インテリジェントパワーブレーキシステムの故障やフットブレーキが利きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。

EPB トレーラモード

電動パーキングブレーキ (EPB) のけん引モードは、主に EPB が OFF になっている場合の自動開閉機能が考慮されています。車両の電源を「OFF」にしてけん引する場合や故障が発生した場合にこのモードを ON にして EPB を解除できます。

- ・ドライバーは、 → 車両状況 → オーバーホール から 電動パーキングブレーキ (EPB) トレーラモード を ON にしてください。
- ・EPB トレーラモードの開始条件 (同時に満たすこと):

- ・シフトを「P」レンジに入れます。
- ・ブレーキペダルを踏みます。
- ・車両が充電コネクタに接続されておらず、充電されていない。

注意

- ・EPB トレーラモードの開始条件が満たされていない場合は、マルチメディア画面に対応するプロンプトが表示されます。
 - ・EPB トレーラモードになると、EPB トレーラモードを終了しない限り、マルチメディアディスプレイは常時 EPB トレーラモード画面になります。
 - ・坂道で EPB トレーラモードにする必要がある場合は、坂道による自然発車を避けるため、運転中はブレーキペダルを放さないでください。
- ・EPB トレーラモードの終了条件 (いずれか1つを満たすこと):
 - ・マルチメディアタッチスクリーンをタッチして、EPB トレーラモードを OFF にします。
 - ・「P」ボタンを押します。
 - ・車両に充電コネクタを接続して充電をする。

EPB システム表示灯

- ・EPB が作動状態のときに電源スイッチを入れると、メーター内の表示灯  が常時点灯します。
- ・EPB が作動状態のときに車両の電源ポジションを OFF にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯  は点灯状態から数秒後に消灯します。
- ・電源スイッチを入れると、EPB システムがセルフテストを行い、メーター内の表

示灯 (E) が点灯してから数秒後に消灯します。消灯しない場合は、EPB システムまたはブレーキシステムに不具合がある可能性があります。ただちに BYD 指定サービス工場に連絡してください。

EPB 作動音

- EPB が掛かるまたは解除されると、EPB モーターの作動音が聞こえます。
- 緊急ブレーキ機能を有効にしてから、焦げた臭いがする、または異常な音がする場合、すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

- 車両が坂道で下ることを防ぐため、車両から離れるときは、シフトレバーを「P」レンジに入れ、EPB が掛かっていることを確認してください。
- 重大な事故の発生を避けるため、走行中は EPB スイッチを操作しないでください。
- EPB の制動力不足時の自然発車や、それによるシフト引っかけなどの異常を防ぐため、EPB を掛けるまたは解除するときは、できるだけブレーキペダルを踏んでください。

オートビークルホールド (AVH)

オートビークルホールド (AVH): 坂道での渋滞、追従走行、信号待ちなどで長い間停車する必要がある場合、ブレーキを自動で作動させて長時間の停車を維持します。

オートビークルホールド (AVH) 待機状態

- 車両の電源ポジションが「OK」の場合、オートビークルホールドスイッチを押して機能を ON にすると、コンビネーシ

ンメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 (A) が点灯します。

- 再度オートビークルホールド (AVH) スイッチを押すと、機能が OFF になります。



オートビークルホールド (AVH) 機能の作動

- コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 (A) が点灯している状態でブレーキペダルを踏み停車すると、オートビークルホールド (AVH) 機能が作動します。このとき、車両は自動で停車してオートビークルホールド表示灯 (A) が点灯します。

⚠ 注意

- オートビークルホールド (AVH) 機能の作動に必要な条件 (同時に満たす必要があります):
 - ドライバーがシートベルトをきちんと締め、かつドアが閉まっていること。
 - インテリジェントパワーブレーキシステムおよび電動パーキングブレーキ (EPB) システムに故障がないこと。
- アクセルペダルを踏む、「P」レンジに切り替える、車両の電源ポジションを「OFF」にする、または手動で EPB を掛けると、オートビークルホ

注意

ールドが解除されて待機状態に戻ります。

- ・オートビークルホールドは記憶機能を搭載しているため、再度電源ポジションを「ON」にすると、前回の状態を維持します。

オートビークルホールド (AVH) 機能の作動

- ・オートビークルホールド (AVH) 機能が作動すると、ブレーキランプとハイマウントストップランプが点灯します。コンビネーションメーターのオートビークルホールド表示灯 (A) が常時点灯していれば、オートビークルホールド (AVH) 機能が正常に作動しています。
- ・車両が 10 分以上停車していると、システムは自動的にオートビークルホールド (AVH) を解除して待機状態に入ります。コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 (A) が点灯し、自動的に「P」レンジへ切り替わります。
- ・オートビークルホールド (AVH) 機能を有効にするには、「D」レンジに切り替えて走行した後、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

オートビークルホールド (AVH) 機能のキャンセル

- ・オートビークルホールド作動中に以下の操作を行うと、オートビークルホールド機能が無効になり自動で「D」レンジから「P」レンジへ切り替わります：
 - ・運転席ドアを開ける。
 - ・運転席シートベルトを解除する。
 - ・「D」レンジで停車中に、電動パーキングブレーキ (EPB) を ON にする。
 - ・ブレーキペダルを離れたときにオートビークルホールドスイッチを押して、

オートビークルホールドを OFF にする。

オートビークルホールド (AVH) 機能の抑制

- ・「R」レンジに切り替えて低速移動モードになると、オートビークルホールドが移動モードに入ります。「R」レンジで低速走行したり「R」から「D」レンジに切り替えて低速走行したりすると、オートビークルホールドの作動が抑制されるため移動しやすくなります。
- ・低速移動モードは、オートビークルホールドスイッチを押す、または速度が 10km/h を超えると自動で解除されます。このとき、オートビークルホールドが待機状態になり使用できるようになります。

運転要領

- ・逆風の中では、車両をコントロールできるようにゆっくり走行してください。
- ・敷石が設置されている道路を走行する場合は、ゆっくりと走行しながら正しい角度を保ち、尖っているものや障害物の上を走ることは避けてください。タイヤを大きく破損させるおそれがあります。
- ・衝撃でホイールを大きく破損させるおそれがあるため、悪路を走行するときはスピードを落としてください。
- ・濡れた路面を走行するときは、深い水たまりを避けてください。
- ・氷雪、砂石、水濡れのタイル、エポキシ樹脂系塗床などの路面の摩擦係数が低い場所は、自然発車がないようにできるだけ坂道に駐車しないでください。

警告

- ・ドライバーは、お子様などの乗員が誤った操作をするのを防ぐため、乗員に各機能の使い方を伝え、乗員の安全確保を心がけてください。

❗ お願

- ・バッテリーは車両底部にあるため、ぶつけないように注意しながら運転してください。
- ・運転前に、電動パーキングブレーキが解除されており、かつ電動パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
- ・電源ポジションが「OK」となっているときは、車両から離れないでください。
- ・走行中はブレーキペダルとアクセルペダルを長時間同時に踏み続けしないでください。危険な過熱現象や摩耗、電気エネルギーの消費につながります。
- ・長い距離の下り坂を走行するときは、スピードを落としてください。頻繁にブレーキを掛けると、ディスクローターが高温になり正常に機能しないおそれがあります。
- ・滑りやすい路面で加速したりブレーキを掛けたりする場合は、車両がスリップや横滑りを引き起こすおそれがあるため、十分に注意してください。
- ・生命にかかわる交通事故の発生を避けるため、走行中は窓から頭や手を出さないでください。特に、お子様を乗せているときは十分に注意してください。
- ・モータールームに大量の水が侵入すると、パワートレインや電気部品の破損につながります。

冬期の運転について

- ・冷却水が凍結防止の保護機能を発揮していることを点検します。
- ・本車に使われているオリジナル冷却水の型番と同じのものを使用します。冷却システムに冷却水を補充する場合

は、周辺温度に応じて適切な冷却水の型番を選択してください。

- ・不適切な冷却水を使うと、冷却システムの破損につながります。
- ・バッテリーやケーブルの状況を点検します。
- ・寒い時期は起動バッテリーの電圧が低下します。そのため、起動バッテリーに十分な電圧を持たせて始動できるようにしてください。
- ・氷雪によるドアロックの凍結を避けてください。
- ・凍結を防ぐために、ドアロックの鍵穴の中に除氷剤やグリセリンを吹き付けます。
- ・不凍液を含んだウォッシュ液を使います。
- ・このような製品は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場や自動車部品販売店で販売されています。
- ・水と不凍液の混合比は、メーカーの指示に従ってください。

⚠ 注意

- ・塗装の損傷を防ぐため、専用のウォッシュ液を使ってください。
- ・マッドガード下側に氷雪が付着するのを避けてください。
- ・マッドガード下側に氷雪が付着すると、ハンドル操作が難しくなります。厳冬期の走行時はこまめに停車し、マッドガード下側に氷雪が付いていないかを点検してください。
- ・走行道路によっては、必要な非常用装備やアイテムを用意しておくことをおすすめします。
- ・タイヤチェーン、ウィンドウ用ヘラ、砂 1 袋分、塩、誘導灯、車載用スコップ、ジャンピングケーブルなどはできるだけ搭載してください。

運転支援機能

アダプティブクルーズコントロール (ACC)

- ・アダプティブクルーズコントロール (ACC) は、従来のクルーズコントロールをベースに、レーダーおよびマルチファンクションビデオコントローラーで先行車と本車の相対距離、および相対速度を計測して本車の走行速度を自動的に調整し、先行車との車間距離を一定に保ちながら走る追従走行を可能にした機能です。先行車の有無により、システムがクルーズコントロールと追従型クルーズコントロールの自動切替を行います。
- ・クルーズコントロールボタンで本車の走行速度および先行車との車間距離を設定することができます。本車と先行車との車間距離、30～150km/h の範囲内で走行速度を設定し、0～150km/h の範囲内で車間距離を一定に保ちながら追従走行することもできます。

作動状態説明

- ・ACC 待機の場合：
 - ・システムを ON にすると、初期設定の待機状態となり、手動操作によってシステムを有効にすることができます。作動条件が揃っていないときは、ドライバーが車両状態を確認し、システムを有効にする条件を揃える必要があります。このとき、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます (走行速度は変数)。
- ・ACC が有効になっている場合：
 - ・車両は、設定速度で定速走行または先行車との車間距離を自動で調節して追従走行します (走行速度は変数)。このとき、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます (走行速度は変数)。

- ・追い越し時の加速の場合：
 - ・ACC を有効にした状態でアクセルペダルを踏むと、ACC が追い越しモードになり操作に反応して速度を上げ、ACC の機能を一時的に停止します。アクセルペダルを離すと、ACC が自動的に元のモードに戻ります。
- ・ACC 故障の場合：
 - ・ACC が故障している場合はいかなる操作もできません。コンビネーションメーターのアダプティブクルーズコントロール故障警告灯  が点灯します。

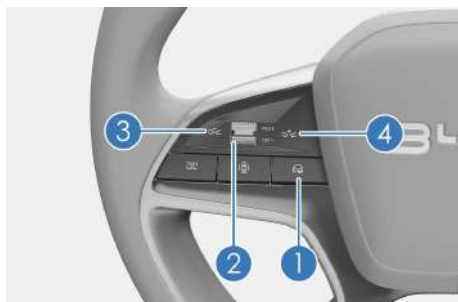
ACC の作動条件

- ・電動パーキングブレーキ (EPB) が解錠されている状態。
- ・シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- ・車両がバックしない状態。
- ・すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ・ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ・ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- ・速度が $\leq 150\text{km/h}$ のとき。
- ・速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。速度が 0km/h 以外の場合は、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- ・コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- ・自動緊急ブレーキ機能が ON になっていない状態。

使い方

ACC ON/OFF ボタン

- ・ ボタン①を押すと（作動条件を満たしている場合、システムはスタンバイ状態）、ACC の ON/OFF の切り替えができます。（ボタン①を押して ACC を有効にすると、デフォルトとして現在の速度を巡航速度と設定されます。速度が 30km/h 未満の場合は、30km/h に設定されます）。



ACC リセット

- ・ 走行中にクルーズコントロールがスタンバイ状態にある場合、システムは最後に設定された走行速度を記憶します。このとき、上方向にレバー②を操作すると、前回クルーズコントロールを OFF にしたときに記憶した速度に戻すことができます。

設定速度の + / -

- ・ ACC 機能を ON にしてからレバー②を操作すると、30～150km/h の範囲内で走行速度を設定できます。上下方向にレバー②を操作すると、設定速度は 5km/h ずつ加速または減速できます。



警告

- ・ 走行中の道路の速度制限を遵守し、速度超過にならないように速度を抑えて安全に運転してください。

ACC の解除

- ・ ACC 作動中に再びボタン①を押す、またはブレーキペダルを踏むと、ACC が作動状態からスタンバイ状態に入ります。

車間距離の設定

- ・ ドライバーは、安全な車間距離を選択する責任があります。
- ・ このシステムは、同一車線を走行する先行車と適切な距離を保つように速度を調整することができます。ドライバーは、ステアリングホイールの④と⑤を操作することで、車間距離を 4 段階で調整できます。車間距離は速度に比例して変化し、速度が速いほど車間距離が広くなります。

ACC システム使用時の自動加速/減速

- ・ ACC が作動している状態でアクセルペダルを踏み込みスピードを上げることで、早めに設定速度を達成することができます。このとき、システムは追い越し時の加速状態になります。設定速度で走行中にアクセルペダルを踏み込みスピードを上げ、かつ他の操作を行わないときは、スピードを上げた後にアクセルペダルを離すと、設定されていた速度に自動で戻ります。
- ・ ACC が作動している状態でブレーキペダルを踏み込むと、システムはスタンバイ状態になるため、ブレーキペダルを離して再度 ACC を作動する必要があります。

先行車に追従しての停止/発進

- ・ システムは、通常の走行モードで先行車に追従して車両を停車させることができます。30 秒以内の停車時は、自動で先行車に追従して発進します。
- ・ 30 秒～3 分以内の停車では、ドライバーがアクセルペダルを踏み込むか、レバー②を上方向へ操作すると ACC が作動します。

システムの限界

- ・ 車両前部に設置されているフロントミリ波レーダーは、汚れにより視界が遮られると本来の機能を発揮できなくなります。特に、積雪でセンサーが覆われるとシステムが OFF になります。システムは、HMI（ヒューマンマシンインターフェース）を通じてドライバーにシステム

OFF のメッセージを伝えます。このような場合は、汚れをきれいに取り除いて車両を再始動させる、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。

- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダー検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このような場合は、車両を再始動するまたは通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- カーブに進入またはカーブから抜けた場合、先行車の選定が遅れたり干渉を受けたりすることがあります。このような場合は、ACC が期待通りに作動しない、または作動が遅れることがあります。
- 曲がりくねった道などの急カーブでは、センサーが感知する前方の車両が数秒間消えることがあるため、ACC の走行速度が上がるおそれがあります。
- ドライバーは、先行車の流れ、雨や霧などの現在の状況に合わせて追従走行時の車間距離を調整し、ACC を適切に設定してください。ACC を適切に設定した後、いつでも車両の速度を減速して停止できるようにしてください。
- ACC は、静止またはゆっくり移動している物体（車両や渋滞の後方、料金所、自転車、バイクや歩行者など）を認識できずに衝突事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは常に周りの状況に気を付けてください。
- ACC は、歩行者や対向車を認識することはできません。
- ACC は制動力が限られているため、急ブレーキに対応できません。
- フロントミリ波レーダーは、レールや道路工事用金属板などの金属物が中距離レーダーと干渉すると、正常に作動しないことがあります。
- フロントミリ波レーダーが振動や衝突の影響を受けると、性能が低下することがあります。BYD 正規ディーラーまたは

BYD 指定サービス工場に連絡してください。

ご注意

- ACC はセーフティシステム、障害物検知システム、または衝突警告システムではなく、快適な運転を支援するためのシステムです。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ACC はドライバーを支援することはできませんが、ドライバーの代わりに運転するものではありません。ドライバーは常に交通ルールに従い車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 安全上の理由から、ESC を ON にしていない状態では、ACC を有効にすることができません。
- ACC は、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。
- 先行車との車間距離を保つことはドライバーの責任です。ACC の車間距離は、現地の運転環境に要求される最小車間距離に適合しています。
- ACC 作動時、ドライバーがアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、車両のコントロールはドライバーに引き継がれます。このとき、ACC システムの車間距離制御機能は作動しません。
- 先行車が急ブレーキを掛けた場合（緊急停車）、ACC が反応できない、または反応が遅れてブレーキが遅れるおそれがあります。このとき、ドライバーに車両制御への介入を要請するメッセージは届きません。
- 状況によっては（本車の速度に対して先行車が遅い、車線変更速度が速い、安全距離が短いなど）、システムが相対速度を落とすのに必要な時間がない場合があります。このようなときは、ドライバーが適切な操作をしてください。ACC はどの

ような状況でも音声や映像で警告を出すことができるわけではありません。

- 発進時の安全を確保し、予期せぬ発進による対象物への衝突を避けるため、車が停止している状態で ACC を有効にすると、システムは前方にある静止物を車として認識し、車を停止状態に維持します。ただし、この機能はすべての障害物に対応できるわけではないため、ドライバーは正面方向に障害物や他車がないことを確認してください。
- ACC 付き車両が隣接車線を走行する他車との車間距離が狭い場合（または隣接車線を走行する他車が ACC 付き車両に近づきすぎる場合）、ACC が作動し、ブレーキをかけることがあります。
- 本車が ACC 付き車両の進路に車線変更し、フロントミリ波レーダーの検知範囲内に入っている場合、この車両を対象車両として認識してそれに応じた反応をするため、強力な制動力が掛かったり、ブレーキが遅れることがあります。
- 環境によっては、検知に影響を受けたり遅れることがあり、対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、4 輪馬車、歩行者など）場合は、ACC が前車との距離を検知できないおそれがあります。このとき、対象物に対して反応が遅れたり反応できなくなるため、ドライバーが速度をコントロールしてください。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、検知の遅延や干渉が発生することがあります。
- 本車が先行車と直線上に走行していない場合、ACC システムは先行車を対象車両として認識できないため、ドライバーが常に車両をコントロールしてください。
- 先行車に追従して停止する場合、まれに先行車の後端を検知できずに下端（車高の高いトラックの後軸や車のバンパーなど）を検知することがあります。このとき、ACC が適切な停止距離を確保できなくなるため、ドライバーは常に注意を払っていつでもブレーキを掛けられる準備をしてください。

- 車高を下げる、ナンバープレート取り付けブラケットを変更するなど、車両の構造的な改造は ACC に影響を与えるおそれがあります。
- 視界が悪い場所、坂道やカーブが続く道路、滑りやすい路面（雪道、凍結路、濡れた道路や水浸しの道路など）を走行する場合は、絶対に ACC を使わないでください。
- けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード*では、ACC は作動できません。
- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのフロントミリ波レーダー、マルチファンクションビデオコントローラーの校正、点検をしてください。
 - フロントミリ波レーダー、フロントバンパー、フロントガラスを取り外すとき。
 - 車輪の振れにより、新たにホイールアライメント調整を行ったとき。
 - 衝突したとき。
 - ACC の性能低下またはコンビネーションメーターからのシステム異常のメッセージに気づいたとき。

警告

- ACC は運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ACC は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、ACC を使うかどうかを判断してください。

ナビゲーションパイロット (ICC)

ターの ICC システム警告灯  が点灯します。

- ・ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロール (ACC) とレーンキープアシストシステム (LCC) の機能を組み合わせたシステムで、速度が 0 ~ 120km/h 以内において、前後左右方向への制御を支援してドライバーの運転負担を軽減し、安全で快適な運転環境を提供します。
- ・機能が作動中、ドライバーは常にハンドルを持ち、必要なときに車両のコントロールをする必要があります。
- ・前後方向制御支援は ACC によって行われ、速度および先行車との車間距離を一定に保ちながら走行することができます。

作動状態説明

- ・ ICC 待機の場合：
 - ・ ICC システムはデフォルトで待機状態となり、ドライバーの手動操作によってシステムを有効にすることができます。ただし、アクティブ状態に必要な条件が揃っていないこともあるため、ドライバーが車を点検し、システムを有効にする条件を揃える必要があります。このとき、コンビネーションメーターには  アイコンが表示されます。
- ・ ICC が有効になっている場合：
 - ・ ICC は通常の作動状態にあり、車は設定速度で定速走行、または先行車との車間距離を自動的に調節して追従走行します。このとき、コンビネーションメーターには  アイコンが表示されます。
- ・ ICC 故障の場合：
 - ・ システムは故障状態にあり、機能が利用できません。コンビネーションメ

ICC システムの作動条件

- ・ 電動パーキングブレーキ (EPB) が解除されている状態。
- ・ シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- ・ 車両がバックしない状態。
- ・ すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ・ ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ・ ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- ・ 速度が $\leq 120\text{km/h}$ のとき。
- ・ 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- ・ コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- ・ 自動緊急ブレーキ機能が ON になっていない状態。
- ・ 双方向車線が明瞭に表示され、かつ本車が車線の中央部を走行している状態。

使い方

- ・ ドライバーは、ステアリングホイールのスイッチボタンにより ICC システムの ON/OFF 操作を行うことができます。(システムが ON になると初期設定としてクルーズ速度が設定され、現在の車速がデフォルトのクルーズ速度となります。速度が 30km/h 未満の場合は、30km/h に設定されます)
- ・ クルーズ速度および車間距離の設定は、(112 ページ) を参照してください。

- ・ユーザーは、マルチメディア  → ADAS → 運転アシスト画面で ICC をオンまたは OFF にすることもできます（「P」ギアでのみ OFF にできます）。車が始動する際、ファンクションスイッチの状態は前回電源を切る前の状態となります。

ご注意

- ・ ICC システムは、アダプティブクルーズコントロール（ACC）とレーンキープアシストシステム（LCC）の機能を組み合わせたシステムのため、ご利用の際は、ACC 機能の注意を必ず守ってください（詳細は（112 ページ）を参照してください）。
- ・ 機能を ON にして作動させた後、本車の速度が 0～120km/h の範囲内の場合：
 - ・ 前方に車線境界線がない場合は、システムの横方向制御が抑制されて ACC のみが機能します。このとき、コンビネーションメーターの ICC システム作動状態表示灯が灰色に点灯します。
 - ・ 前方の車線境界線が明瞭に認識できるときは、ICC の横方向制御が自動で機能します。このとき、コンビネーションメーターに ICC システム作動状態表示灯が点灯します。
- ・ ICC システムは、運転を支援するためのシステムであり、自動運転ではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、長時間ステアリングホイールから両手を離さないでください。そうしないと、警告メッセージが表示された後にシステムが OFF になります。
- ・ ICC システムは、天気や照明の明るさ、車線境界線の明瞭さの影響を受けるため、日陰、夕日、路面の積雪および著しい摩耗がある路面では、性能が著しく低下します。
- ・ 急カーブが連続する道や凍結して滑りやすいカーブ、または悪天候（濃霧、大雨、大雪など）により、フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコン

トローラーの視野が遮られている場合は、ICC システムの利用を避けてください。

- ・ 機能が使えない場面：
 - ・ センサーが遮られているとき。
 - ・ 悪天候のとき。
 - ・ 能動的安全システムが機能しているとき。
 - ・ 走行速度の範囲を超えているとき。
 - ・ けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード*では、ICC システムは作動できません。

警告

- ・ ICC システムはあくまでも運転を支援するためのシステムのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ・ ICC システムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ・ ドライバーの希望、交通状況、道路環境に応じて、ICC システムを使うかどうかを判断してください。

前方衝突警告機能（FCW）と自動緊急ブレーキ（AEB）

前方衝突警告機能（FCW）および自動緊急ブレーキ（AEB）は、フロントミリ波レーダーとフロントビューにより本車線上の先行車や歩行者を検知します。システムは、本車が先行車または歩行者と正面衝突するおそれがあると判断した場合、音声・視覚警告を発してドライバーへ回避行動を取るよう促すと同時に、潜在的な制動力を強くして、ドライバーが対応するための反応時間を確保します。衝突の可能性が高くなりつつあると判断した場合は、ブレーキを自動で作動させてドライバーが衝突を回避で

きるようにアシストし、衝突の被害を軽減します。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → 安全補助の設定画面から、FCW と AEB システムの機能の ON/OFF を設定することができます。
- FCW システムの警告方法は、音声による警告、文字による警告、ボンピングブレーキ警告があります。
- FCW システムが作動したときは、緊急度合いによりコンビネーションメーターの警告灯が青  または赤  になりメッセージが表示されます。
- AEB システムが作動したときは、コンビネーションメーターの警告灯  が赤で点灯してメッセージが表示されます。
- システムの故障があったときは、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- AEB システムをボタン操作で OFF にしたときは、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。

FCW システムの作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、30km/h ~ 150km/h の範囲。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。

AEB システムの作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、4km/h ~ 150km/h の範囲。
- 電動パーキングブレーキ (EPB) が解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。

- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。

システムの限界

- 環境によっては、感知が影響を受けたり遅れたりすることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる (自転車、3 輪車、4 輪バイク、電動自転車やオートバイなど) 場合、システムが前方対象物との距離を判断できないおそれがあります。そのため、反応が遅れるまたは反応できなくなります。
- 次の場合は、FCW システムが影響を受けるまたは機能しないことがあります。
 - 雨、雪、霧、または反射光、直射日光、照明の明るさの急激な変化。
 - センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断。
 - 立体駐車場での強いレーダー反射など、他のフロントミリ波レーダー源の干渉によるフロントミリ波レーダーの故障。
- 交通状況が複雑な場合、システムは下記の場面に正しく対応できないことがあります。
 - ハイスピードでセンサーの検知範囲に現れた歩行者や車両。
 - 他のものに遮られている歩行者。
 - 背景と見極めができない歩行者の輪郭。
 - 特殊な衣服、または他のものに覆われているなどで検知されない歩行者。
 - 半径が小さいカーブ。

ご注意

- FCW システムは、いかなる状況でも衝突の回避ができるわけではありません。交通状況が複雑な場合は、システムが車両と歩行者の認識をきちんと対応できないことがあります。また、マンホールカバーや鉄板、道路標識に反応して誤って警告を発したり、ブレーキを掛けたりするおそれがあります。
- 必ず安全運転を心がけて運転し周囲の交通状況に注意してください。いかなる場合も、通常のブレーキの代わりに AEB システムを使用しないでください。
- 事故の発生や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、FCW システムを過信しないでください。このシステムは運転を支援するためのものであるため、ドライバーは自己責任で先行車との車間距離を適切に保って速度を制御してください。必要に応じてブレーキを掛けたりハンドルを操作できるようにしてください。また、ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- AEB システムは、走行速度が一定速度より速い場合にのみ作動します。このシステムはいかなるモードでも正しく作動できるわけではないため、慎重に運転してください。
- ESC システムが OFF または警告灯が点灯している場合は、AEB システムが正常に作動できません。
- FCW システムが警告を出している場合、ドライバーは交通状況に応じてブレーキ操作で速度を落とす、またはハンドル操作で障害物を回避してください。
- 車間距離が近い状態で長時間走行すると、安全距離警告システムが車間距離を取るよう警告を出します。先行車が急ブレーキを掛けると衝突は避けられないことがあります。
- 緊急警告時にドライバーが気づいている場合は（ドライバーがハンドル操作や

クセルペダルまたはブレーキペダルを踏むなど）、AEB システムは作動しません。

- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダー検出特性により一時的に機能しないことがあります。特別な道路を離れると、システムは自動的に正常に戻ります。
- フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーの表面が汚れている、または異物が付着していると、コンビネーションメーターに関連メッセージ（表面の汚れ、異物の付着によりセンサーが感知できなくなった）が表示されるため、メッセージに従いセンサー表面の異物を取り除いてください。センサー故障中は FCW および AEB システムが OFF になり、故障が解除されると正常に戻ります。
- 歩行者保護システムは克服できない物理的な条件の制限があるため、危険な状況が発生した場合はドライバーが素早く車両制御を行ってください。
- 歩行者保護をシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に防ぐことができません。
- 歩行者保護システムは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不必要な警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーの角度のずれなど、システムに故障がある場合は、間違った警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- AEB システムが作動するとブレーキペダルが重く感じられます。また、短時間でブレーキキャリパーを動かすのに大きな油圧が必要となるため、「ズズズ」という音が聞こえることがあります。
- AEB システムは、ドアを閉めてシートベルトを着用している場合に限り作動します。次の場合は、AEB システムが機能しないことがあります。

- ・ドアが閉まっていない、または走行中にドアが開いたとき。
- ・シートベルトを着用していない、または走行中にシートベルトを外したとき。
- ・ドライバーによる急アクセル、急ブレーキ、または急ハンドルの場合。
- ・次の場合は、システムが常に最適な性能を発揮することができないおそれがあります。
 - ・事故や他の原因により、フロントバンパーに強い衝撃を受けたとき。
 - ・タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。規定に合わないタイヤを装着したとき。
 - ・タイヤチェーンを装着したとき。
 - ・小型スベアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使ったとき。
- ・次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でフロントミリ波レーダーおよびマルチファンクションビデオコントローラーの校正を行ってください。
 - ・フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーを取り外したとき。
 - ・ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節したとき。
 - ・衝突事故発生後に、フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーの位置が変わったとき。
 - ・ACC システムの性能低下や異常。
- ・紙箱、鉄板、ダミー人形などで AEB システムの作動試験を勝手に行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。

警告

- ・FCW および AEB システムはあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ・FCW および AEB システムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ・ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、FCW および AEB システムを使うかどうかを判断してください。

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB)

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB) は、フロントバンパーの左右両側に搭載されるフロントミリ波レーダーで本車の先方を横切る車両を検知すると、ドライバーに知らせるとともに、必要に応じて自動でブレーキを掛けます。本車が低速で走行中に先方を横切る車両と衝突する危険を検知すると、音声・視覚警告でドライバーに知らせます。また、衝突事故が発生しそうなきは、自動でブレーキを作動させて衝突事故の発生を防ぎます。

使い方

- ・ドライバーは、 → ADAS → 安全補助の設定画面から、FCTA/FCTB の ON/OFF を設定することができます。
- ・FCTA を有効にしたときは、ドアミラー警告灯が点滅して音声警告を出します。
- ・FCTB を有効にしたときは、コンビネーションメーターの警告灯  が赤で点灯

し、音声警告を出すと同時に自動で緊急ブレーキを作動させます。

- FCTA/FCTB に故障があったときは、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。

ご注意

- システムは前方の監視を支援しますが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 対象車両が側面からハイスピードで本車に接近してきた場合、システムは警告機能を発揮できないことがあります。
- ドライバーは、システムが正常に作動するように泥や雪などの付着物を早めに取り除き、フロントバンパー左右両側のフロントミリ波レーダーの設置部位を良好な状態に維持してください。
- ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、システムの検知が遅れたり干渉を受けることがあります。
- 状況によっては、感知システムが影響を受けたり遅延することで、システムが運転を支援できない場合があります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限りません。
 - 側面から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えたとき。
 - 対象車両が遮られたとき。
 - 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイクなど）とき。
 - 雨、雪などの悪天候のとき。
 - ミリ波レーダーが緩んだり、外れたり、遮られたりしているとき。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- 次の場合は、システムが機能しなくなります。
 - 対象物がミリ波レーダーの検知範囲外にあるとき。
 - FCTA/FCTB スイッチが OFF になっているとき。
 - シフトポジションが「D」以外のレンジに入っているとき。
 - 4つのドアがすべて閉まっていないとき。
 - システムの初期化が完了していないとき。
 - ミリ波レーダーに故障があるとき。
 - 急カーブや坂道などで前方の横から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
 - ミリ波レーダーセンサーの校正が振動や衝突の影響を受けたことにより、システム性能が低下するおそれがあります。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

警告

- FCTA/FCTB はあくまでも運転を支援するためのシステムなので、ドライバーは自己責任で運転してください。
- FCTA/FCTB は、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、FCTA/FCTB を使うかどうかを判断してください。

交通標識認識システム(TSR)

交通標識認識システム (TSR) は、マルチファンクションビデオコントローラーおよび地図*により道路の速度制限標識を認識します。また、コンビネーションメーターに認識した速度制限標識を表示して、速度が制限速度を超えたときはドライバーへ警告情報を発信します。

使い方

- ・ユーザーはマルチメディア  → ADAS → アクティブセーフティ → 交通標識認識の設定画面で交通標識認識機能の ON・OFF を操作することができます。
- ・交通標識認識システムが交通標識を認識すると、コンビネーションメーターに赤色の  アイコンが表示されます。
- ・交通標識認識システムにより認識した制限速度が、現在の道路環境に適しているかを判断できない場合は、メーター内の赤色の  アイコンが表示されます。
- ・交通標識認識システムの性能が低下した場合は、コンビネーションメーターに黄色の  アイコンが表示されます。
- ・交通標識認識システムの性能が低下し、かつ TSR より認識された制限速度が現在の道路環境に適しているかを判断できない場合は、メーター内の黄色の  アイコンが表示されます。
- ・交通標識認識システムが故障している場合は、コンビネーションメーターに黄色の  アイコンが表示されます。
- ・交通標識認識システムを OFF にした場合は、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- ・上記の数字は、実際の交通標識に合わせて表示されます。

ご注意

- ・TSR システムは制限速度標識のみを認識するため、車両のアクティブ制御には関与しません。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールできる適切な速度で運転してください。
- ・定められたサイズに一致していない、または国の寸法要求を満たしていない重量制限標識の場合は、誤って制限速度標識として認識されることがあります。

- ・標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮断などがある場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの認識能力が低下したり認識できなくなります。
- ・TSR システムの性能は、天候や照明の明るさ、道路標識の明瞭さに影響を受けます。夜間、日陰、夕暮れ、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下して標識を認識できないことがあります。
- ・衝突事故が発生した場合、またはマルチファンクションビデオコントローラーセンサーを脱着した場合は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。
- ・欧州地域では、交通渋滞や工事現場、前方の事故を識別できるように、コネクテッドカーのネットワークに接続する必要があります*。
- ・TSR システムはあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ・TSR システムは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ・ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、TSR システムを使うかどうかを判断してください。

インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC)

- ・インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC) は、アダプティブクルーズコントロール (ACC) と交通標識認識システム (TSR) 機能を組み合わせた機能です。機能を ON にすると速度制限標識を認識し、速度制限値が現在の ACC 設定巡航速度に一致していない場合は、認識された制限速度に ACC 巡航速度を

調節するかを知らせます。ドライバーが操作（下方向へ ACC 速度制御レバーを操作）すると、システムは ACC 巡航速度を認識した制限速度に自動的に設定します。

- ドライバーは、速度 30～150km/h の範囲内で機能を ON にすることができます。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → 安全補助 → 交通標識認識の設定画面から、インテリジェント速度制限制御およびインテリジェント速度制限アラームの ON/OFF を設定することができます。
- TSR が OFF になると、ISLC 機能も同時に OFF になります。
- TSR システムを ON にすると、ISLC システムの ON/OFF を設定することができます。
- ISLC は、ACC システムが ON の場合に作動させることができます。

ご注意

- ISLC は、ACC システムと TSR システムを組み合わせたシステムです。そのため、ISLC を利用するときは、ACC システムおよび TSR システムの注意事項を遵守してください（詳細は「アダプティブクルーズコントロール（ACC）システム」および「交通標識認識システム（TSR）」を参照してください）。
- ISLC はあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは常に車両をコントロールしてください。
- ISLC の性能は、天候や照明の明るさ、道路標識の明瞭さに影響を受けます。夜間、日陰、夕暮れ、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下して標識を認識できないことがあります。

警告

- ISLC はあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは常に車両をコントロールしてください。
- ISLC は、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、ISLC を使うかどうかを判断してください。

アダプティブフロントライティング（AFL）

アダプティブフロントライティング（AFL）は、マルチファンクションビデオコントローラーにより現在の運転環境を判断し、速度が 35km/h 以上になるとハイビームを自動で ON/OFF します。

作動状態説明

- AFL 待機の場合：
 - ON になっているが作動していない状態です。このとき、コンビネーションメーターに  が表示されます。
- AFL が有効になっている場合：
 - 機能を ON にしてライトスイッチが Auto の位置にある場合、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たしていれば自動で作動します。このとき、コンビネーションメーターに  が表示されます。
- AFL 故障の場合：
 - 機能が故障している状態です。このとき、コンビネーションメーターに  が表示されます。

使い方

- ・ドライバーは、 → ADAS → 安全補助 の設定画面から、AFL の ON/OFF を設定することができます。車両を再始動した時の設定は前回の設定になります。
- ・機能を ON にしてライトスイッチが Auto の位置にある場合、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たすと、システムが実際の走行状況に応じてロービーム/ハイビームを自動で切り替えます。

ご注意

- ・AFL はライトを制御するための支援機能であり、高速走行中に利用することをおすすめします。ただし、ドライバーに完全に取って代わるものではないため、常に道路交通規則を遵守し、道路環境の変化に合わせてロービームとハイビームを適切に切り替えてください。
- ・ABS や ESC の作動など、車両がハイダイナミックレンジ状態にある場合は、ライトの切り替えが制限されます。
- ・ドライバーがフォグランプ、ターンシグナルランプを点ける、ワイパーを高速作動モードに切り替える、バックで車両を走行させる、ライトスイッチを Auto 以外に切り替える、周囲の光が強すぎる場合は、AFL は OFF になります。
- ・AFL が ON で作動している場合でも、環境や条件によっては誤作動や作動しないことがあるため、そのような場合は、ドライバーが手動で操作してください。代表的な状況は次の通りです。
 - ・ドライバーがレバー操作でハイビームを選択するときは、ドライバーの操作を優先します。
 - ・濃霧や大雨、大雪などの運転が極めて不利な天候のとき。
 - ・照明が弱い交通参加者（歩行者や自転車など）や、鉄道や水路に近隣する道路または野生動物が出没する道路を走行するとき。

- ・光を強く反射するものがあるとき（高速道路上の交通標識、路上の水たまりなど）。
- ・フロントガラスに霧や汚れが付いている、またはラベルやアクセサリなどで遮られているとき。
- ・衝突事故が発生した、またはカメラセンサーを脱着した場合は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

警告

- ・AFL はあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ・AFL は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ・ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、AFL を使うかどうかを判断してください。

レーンサポートシステム (LDA)

車線逸脱警告 (LDW)

車線逸脱警告 (LDW) は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、システムがステアリングホイールの振動、音声、コンビネーションメーターへの表示などにより、車線の逸脱をドライバーに知らせます。

車線逸脱防止 (LDP)

- ・車線逸脱防止 (LDP) は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、電動パワーステアリングシステム (EPS) 制御により、

反対方向にステアリングホイールを軽く回して車線のはみ出しを防ぎます。

- 車線逸脱抑制 (LDP) システムが作動しているとき、作動時間が5秒を超えると、システムは5秒後に警告を出します。警告はシステムが作動状態を終了するまで続きます。警告の出し方：音声警告、視覚警告。180秒の間に2回以上連続してシステムが作動した場合は、ただちに警告を出します。3回目の作動以降は、警告時間は、前の警告より12秒長くなります。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → 安全補助の設定画面から、レーンサポートシステムの ON/OFF を設定することができます。
- レーンサポートシステムの警告パターンは、音声警告のみ、ステアリングホイール振動のみ、音声警告+ステアリングホイール振動の3つがあります。
- LDW や LDP を ON にすると、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- LDW 機能が作動するときに、警報 (警報パターン：音声警告、視覚警告、ステアリングホイール振動による警告) を出して、コンビネーションメーターの車線境界線が赤色になります。
- LDP が作動すると警告 (警告パターン：音声警告、視覚警告) を出し、かつ境界線を踏む側で車線境界線がブルーになります。
- 機能を OFF にすると、メーターに  アイコンが表示されます。
- 機能故障が発生した場合は、メーターに  アイコンが表示されます。

システムの限界

複雑な道路環境では、LDA が誤った検知をしたり車線を検知できないことがあります。

す。次の場合は、システムが機能しない、または性能が著しく低下するおそれがあります。

- 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
- フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラ前方への異物の付着。
- 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
- トンネルの出入口など周囲の環境の明るさの急激な変化。
- 直射日光が路面に当たり、木の陰で車線が見えにくくなったとき。
- 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。
- 頻繁にシステムが作動してドライバーの邪魔になることを避けるため、車線幅が狭いとシステムを抑制することがあります。

ご注意

- ドライバーがターンシグナルランプを点灯させて指示した方向へ車線を切り替えた場合は、LDA は無効になります。
- 車線境界線上を走行中に、車線境界線が目立たない、細すぎる、摩耗している、不明瞭、汚れや氷雪が付着している場合は、LDA が無効になることがあります。
- 車線が広すぎるまたは狭すぎる、車線数が増減する、誘導路や高速道路の出口など短時間で境界線が切り替わる、複雑な車線を切り替える場合は、LDA が無効になることがあります。
- 坂道や曲がった道路を走行中に、先行車との距離が近すぎるまたは車線境界線が先行車に遮られた場合は、LDA が無効になることがあります。

- 走行中、道路状況により車両が大きく揺れたり、急アクセルや急ブレーキ、急ハ

ンドルの操作をした場合は、LDA が抑制されることがあります。

- マルチファンクションビデオコントローラーの視界範囲内のフロントガラスがひび割れている、フロントガラスの着色、規準に適合しない塗膜、インストールメントパネル上に光を反射するもの、カメラの視界を妨げる後付け部品はすべて、システムの正常な作動に影響を与えるおそれがあります。
- 安全のために、自ら LDA の作動試験を行わないでください。また、マルチファンクションビデオコントローラーの視界を遮ったり、強い光に干渉しないようにしてください。視野が一時的に遮られたり強い光が干渉すると機能が OFF になり、正常に戻ると自動で復帰します。自動で復帰しないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 下記の場合は、LDA を OFF にすることをおすすめします。
 - スポーティーな走りのとき。
 - 悪天候のとき。
 - 悪路を走行するとき。
- 次の場合は認識される保証がありません。次のシーンを含みますがそれらに限られません。
 - 不明瞭な車線。
 - 部分的に消えている車線。
- 以下の場合、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限られません。
 - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。

警告

- LDA はあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- LDA は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、LDA を使うかどうかを判断してください。

緊急時車線維持支援 (ELKA)

緊急時車線維持支援 (ELKA) は、マルチファンクションビデオコントローラーで先方の車線を検知し、リアコーナー部のミリ波レーダーで隣接車線を走行する後続車を検知します。速度が 50km/h ~ 150km/h の範囲内で、本車を実線の車線境界線から逸脱して道路をはみ出す、または対向車や隣接車線を走行する車両と衝突するおそれがあると判断すると、システムが電動パワーステアリングシステム (EPS) を操作して反対方向にステアリングホイールを軽く回し、現在の車線を維持しようとします。

使い方

- ユーザーは、マルチメディア  → ADAS → セーフティアシストの画面で ELKA を ON または OFF にすることができます。
- ELKA を ON にしたとき、メーターには  アイコンが表示され、点滅します。
- ELKA が故障すると、メーターに  アイコンが表示されます。
- ELKA を OFF にすると、メーターに  アイコンが表示されます。

システムの限界

- 複雑な道路環境では、ELKA が誤った検知をしたり車線を検知できないことがあります。次の場合は、システムが機能し

ない、または性能が著しく低下するおそれがあります。

- 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
- フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方への異物の付着。
- 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
- トンネルの出入口など周囲の環境の明るさの急激な変化。
- 直射日光が路面に当たり、木の陰で車線が見えにくくなったとき。
- 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。
- 頻繁にシステムが作動してドライバーの邪魔になることを避けるため、車線幅が狭いとシステムを抑制することがあります。

ご注意

- 次の場合は認識される保証がありません。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
- 歩行者、動物、特殊車両、または異形車。
- 不明瞭で、部分的に消えている車線。
- 以下の場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。これには以下を含みますがそれらに限定されません。
- マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。
- 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
- マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。
- 以下の場合は、ミリ波レーダーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそ

れがあります。これには以下を含みますがそれらに限定されません。

- ミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
- 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
- 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- ELKA はあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ELKA は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、ELKA を使うかどうかを判断してください。

ブラインドスポットアシストシステム (BSA)

- ブラインドスポットアシストシステム (BSA) は、ブラインドスポットインフォメーション (BSD)、リアクロストラフィックアラート (RCTA)、リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)、後方衝突予測警告 (RCW)、ドアオープンワーニング (DOW) 機能を備えています。主にリアバンパーの左右両側に搭載されるリアコーナー部のミリ波レーダーで自車後方の交通状況を判断し、ドライバーに安全運転を心掛けるように早めに知らせます。

ブラインドスポットインフォメーション (BSD) *

速度が 15~150km/h のときに、リアコーナー部のミリ波レーダーにより隣接車線の死角領域内に車両がいる、または隣接車線から急接近する車両を検知した場合、該当のドアミラーの警告灯が点灯します。このとき、同じ方向のターニングナルランプを点灯すると、危険を知らせるためにドアミラーの警告灯が点滅し、安全に注意するように知らせます。



リアクロストラフィックアラート (RCTA)

車両速度が 15km/h 以下でバックしているときに、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する他の車両を検知します。システムが、後方の接近車両と本車と衝突するおそれがあると判断すると、ドアミラーの警告灯を点灯させると同時に音声警告を出して、ドライバーに注意喚起をして衝突の可能性を低減します。

リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)

車両速度が 9km/h 以下でバックしているときに、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する他の車両を検知します。システムが後方の接近車両と本車が衝突するおそれがあると判断すると、緊急ブレーキを自動的に掛けます。

後方衝突予測警告 (RCW) *

本車が 5km/h ~ 146km/h で走行中に後方車両が急接近し、リアコーナー部のミリ波レーダーが衝突するおそれがあると検知すると、ハザードランプを点滅させて注意するように後方車両に知らせます。

ドアオープンワーニング (DOW) *

DOW システムは、リアバンパーの左右コーナー部に搭載されるリアコーナー部のミリ波レーダーにより作動します。本車が停止中で、かつドアが解錠されている状態で自転車や自動車などの移動物体が後方の隣接車線から本車に接近している場合、ドアミラー警告灯が常時点灯して後方車両などの存在をドライバーに知らせます。このとき、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。ドライバーがドアを開け

ようになるとドアミラーの警告灯が点滅すると同時に音声警告を発します。

機能ボタンの操作

- ・ドライバーは、 → ADAS → 安全補助の設定画面から、BSD、RCTA、RCTB、RCW、DOW システムの ON/OFF を設定することができます。また、ボタンでも BSD システムの ON/OFF を設定できます。車両を再始動した時の設定は前回の設定になります。



- ・ブラインドスポットアシストシステム OFF : コンビネーションメーターの関係機能の表示灯が消えます。
- ・ブラインドスポットアシストシステム待機 : 速度、シフトポジションなどの作動条件を満たしていないと、コンビネーションメーターの表示灯 が灰色になり機能しません。
- ・ブラインドスポットアシストシステム故障 : コンビネーションメーターに黄色の アイコンが表示されます。
- ・ブラインドスポットアシストシステム ON : コンビネーションメーターの表示灯 が青色に点灯して機能が有効となり、いつでも作動できる状態になります。

ご注意

- ・BSD システムは、左右ドアミラーの死角領域の監視を支援するものですが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは

常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。

- 対象車両が後方から高速で本車に接近してくる場合は、BSDシステムの警告機能が十分に発揮できないことがあります。
- ドライバーは、BSDシステムが正常に作動することを確認し、泥や雪などの付着物を適時取り除き、リアコーナー部のブラインドスポット検知レーダーの設置部位を良好な状態に維持してください。
- 側面後方や後方の無関係な対象物（道路工事中の道路脇に設置された大型バリケード、道路脇の大型看板、トンネル内の反射板、反射断面積の大きいその他の物体など）が誤って対象車両として認識された場合、BSDシステムは警告を発します。
- 環境によっては、感知が影響を受けたり遅れたりすることがあります。対象車両のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、電動車などや歩行者）場合、システムは対象物を認識できず、誤って警告を発することがあります。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響で、検知が遅れたり干渉を受けることがあります。

システムの限界

- 状況によっては、感知システムが影響を受けたり遅延することで、システムが運転を支援できない場合があります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限りません。
- 後方から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えたとき。
- 急カーブや坂道などで後方から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
- 対象車両が遮られたとき。
- 後方から接近してくる車の相対速度が80km/hを超えたとき。
- カーブの半径が小さすぎる、またはカーブを出入りするとき。

・雨、雪などの悪天候のとき。

- ・リアコーナー部のミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
- ・金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- ・次の対象物に反応しないおそれがあります。以下を含みますが、それらに限りません。歩行者、動物。
- ・周りに電磁波による干渉などの影響が存在している。
- ・リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーセンサーの校正は、振動や衝突による影響でシステム性能が低下することがあります。このようなときは、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。

警告

- ・BSAシステムはあくまでも運転を支援するためのシステムであるため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ・BSAシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ・ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、BSAシステムを使うかどうかを判断してください。

ヘッドアップディスプレイ (HUD)*

ヘッドアップディスプレイ (HUD): 車速、ナビ、制限速度、アダプティブクルーズコントロール、車線逸脱、ブラインドスポットインフォメーションなどの重要な情報をフロントガラスに投影します。ドライバーの視界に情報を表示することで、わき見運転などを避けて運転の安全性を向上させます。

使い方

- ・ドライバーは、 → 車両設定 → HUD の設定画面から、ヘッドアップディスプレイの ON/OFF を設定することができます。



- ・出荷時は ON に設定されており、HUD に画面が表示されます。OFF をタップすると、HUD の表示画面が消えます。再始動の時は前回の設定となります。
- ・高さ調整：HUD 表示の上下位置を調整します。-10～10 の計 21 段階で調整でき、初期設定は 0 です。
- ・輝度調整：HUD 表示の明るさを調整します。0～10 の計 11 段階で調整でき、初期設定は 5 です。
- ・角度調整：HUD 表示の角度を調整します。計 11 段階で調整でき、初期設定は 0°です。
- ・モード設定：使用環境に合わせて、クラシック、または雪モードの選択ができます。初期設定はクラシックです。
- ・オプション表示内容：安全運転支援とナビの選択ができます。初期設定はどちらも ON です。ボタンをタッチすると選択状態に切り替わり、HUD に項目が表示されます。再度タッチすると項目の選択が解除され、項目が閉じます。

注意

- ・ HUD が遮られていないことを確認してください。

注意

- ・ 柔らかい綿の布またはペーパータオルを使用し、HUD のダストパネルのほこりを拭いてください。
- ・ 水などの液体を HUD の開口部に入れないでください。

直接式タイヤ空気圧モニタリング

- ・ タイヤ空気圧のダイレクトモニタリングシステム (TPMS) は、タイヤの空気圧をリアルタイムにモニタリングすることで走行中の安全性や快適性を向上させ、空気圧不足によるタイヤの早期摩耗やエネルギー消費量の増加を低減する支援システムです。
- ・ コンビネーションメーターの画面を切り替える場合は、ステアリングホイール上の  ボタンを操作してメーターメニューに入り、ステアリングホイール上の  および  を操作して走行情報画面に切り替えます。ステアリングホイール上の確定ボタンを押してタイヤ空気圧の表示画面を選択します。

タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告

- ・ いずれかのタイヤ空気圧が、温度補正後の適正空気圧 80% 以下の状態でシステムが作動している場合、タイヤ空気圧警告灯が点灯してタイヤ空気圧の値が黄色になります。ドライバーは車両を停車させて該当のタイヤからエアが漏れていないかを点検し、空気圧が適正な範囲に入るように空気圧を補充してください。
- ・ いずれかのタイヤ温度が 3 分間連続で 85°C を超えた場合は、システムが高温警告を出して対応するタイヤの温度値が黄色になります。ドライバーは車両を停車させて、該当のタイヤの温度が下がってから運転を再開することをおすすめします。

- ・システム作動中に故障が起きた場合は、タイヤ空気圧故障警告灯が点滅してから常時点灯します。コンビネーションメーターに「信号異常」または「タイヤ空気圧モニタリングシステムを点検してください」と表示されたときは、対応するタイヤ空気圧モニタリングモジュールが正常であるか、長時間強い電界範囲に囲まれているかを点検してください。長時間警報が続くときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に処置を依頼してください。

警告

- ・タイヤ空気圧に異常がある状況でも走行を停止しないように、ドライバーは運転前にタイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧になっていることを確認してください。タイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧を満たしていないときは運転しないでください。車両の損傷や自分、他人に怪我をさせるおそれがあります。
- ・運転中にタイヤ空気圧の異常が見つかった場合は、ただちに空気圧を点検してください。タイヤ空気圧警告灯が点灯しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避けながら速度を落とし、安全な場所に停車してください。空気圧不足のまま走行し続けるとタイヤが破損し交換が必要になります。タイヤが大きく破損すると死傷者が出るほどの交通事故につながるおそれがあります。

注意

- ・モニタリングモジュールの使用時間は、毎日の走行距離などの要素に関係します。
- ・モニタリングモジュールはタイヤ空気圧などの情報を定期的にコンビネーションメーターに送信しています。そのため、走行中に発生したタイヤ空気圧の急激な低下やバーストなどは、次にシステムが立ち上がるまでデータをコンビネーションメー

注意

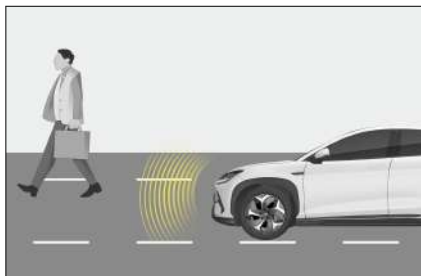
ターに送信することができないため、運転が制御不能になる場合があります。また、タイヤ破損と共にモニタリングモジュールも破損して情報が発信できない、またはタイヤの破損が疑われるときは、コンビネーションメーターに警告が表示される前に、車両を安全な場所に停車させてください。

- ・モニタリングモジュールの取り付けを誤るとタイヤの気密性に影響を与えるため、モニタリングモジュールの取り付けや交換は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- ・タイヤ空気圧は外気温度により変化するため、コンビネーションメーターに表示されている空気圧および適正空気圧に合わせて、空気圧の調整をしてください。
- ・BYD 純正部品以外の電気部品を後付けしている場合は、システムが干渉を受けるおそれがありますが、システムの故障ではありません。
- ・アルミホイール、スペアタイヤの交換*、または4輪のタイヤローテーションを行った場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムに対するキャリブレーションを行う必要があります。この作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

車両接近通報装置 (AVAS)

- ・車両接近通報装置 (AVAS) は、低速走行するときに歩行者に車両の接近を知らせるものです。
- ・前進時：

- 速度が $0\text{km/h} < V \leq 20\text{km/h}$ の場合、通報音がスピードアップするにつれて大きくなります。
- 速度が $20\text{km/h} < V \leq 30\text{km/h}$ の場合、通報音がスピードアップするにつれて小さくなります。
- 速度が $V > 30\text{km/h}$ の場合、通報音は自動的に止まります。



- 後退中は、車両から一定間隔で通報音を出し続けます。

使い方

- ドライバーは、マルチメディアディスプレイのトップ画面のステータスバーをドロップダウンし、「ショートカット」画面で車両接近通報装置の ON/OFF を操作することができます*(一部の地域では利用できません)。

警告

- 車両接近通報装置の一時停止スイッチの操作は、近距離内に他の道路利用者がおらず、かつ周りに通報音を出す必要がない場合に限られます(交通渋滞中や高速道路走行中など)。車両周辺に歩行者がいる可能性がある限りは、車両接近通報装置を ON にしてください。*
- 車両接近通報装置を OFF にした状態で車両が低速走行する場合は、車両の接近を歩行者に知らせることができないことで事故を起こし、場合によっては怪我や死亡につながるおそれがあります。*

警告

- 低速走行中に車両接近通報装置の通報音が聞こえない場合は、車両を安全で静かな場所に駐車し、ウィンドウガラスを開けて「D」レンジで 20km/h の一定速度で走行し(このときの音量が最大)、通報音が聞こえるかを確認してください。通報音が聞こえないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

BYD アラウンドビューシステム (AVM)

- 車両の電源ポジションが「OK」の状態ではステアリングホイールの  ボタンを押す、またはマルチメディアから BYD アラウンドビューをタッチすると、BYD アラウンドビューシステムに切り替わります。
- 「R」レンジに入れると、自動的に BYD アラウンドビュー画面に入ります。



- マルチメディアタッチスクリーン左下のフロント側、リア側、ライト側、レフト側のアイコンをタッチすると、画面にフロントビュー、リアビュー、ライトビュー、レフトビューのシングルビューが表示されます。
- フロントビュー、リアビューのシングルビューで映像領域をダブルタップする

と、180°視角の全画面表示に切り替わります。



- レーダーボタン **PR** をタッチすると、レーダー機能の ON/OFF ができます。レーダーを ON にして障害物に接近すると、映像に障害物が映って警告音が鳴ります。
- 左側のボディービューまたはボディービュー切替ボタン **B** をタッチすると、透明ボディーと現物ボディーの切り替えができます。
 - 始動後、透明の全景画面にデフォルト画像が表示されます。発進すると画像がリアルタイムで更新され、ボディーの長さ以上の距離を走行すれば更新が完了します。
- 3D ボタン **3D** をタッチすると 2D パノラマビューに切り替わります。再度タッチすると 3D パノラマビューに切り替わります。

警告

- BYD アラウンドビューシステムは、車両底部の映像が見える透明全景機能を備えています。この機能は、駐車や走行時に車両底部の確認を支援するためものです。車両底部の異物や危険を洗い出すときは、人や車両の安全を確保するために、必ず別の方法で確認を行ってください。
- 低速走行中、透明全景機能は速度の変化やブレーキ操作の繰り返しによる影響を受けるため、車両底部の画

警告

像位置が車外の画像と一致しないことがあります。

- BYD アラウンドビューシステムは、駐車や走行を補助するためのものであり、車両前後には死角領域が存在しているため、システムだけに頼るのは危険です。駐車または走行中の事故を避けるために、必ず他の方法で車両周辺の状況を確認してください。
- システムは広角魚眼カメラを搭載しているため、表示画面に映っているものには若干の歪みが発生することがあります。
- ドアミラーが完全に展開されていない場合は、BYD アラウンドビューシステムを使用しないでください。BYD アラウンドビューシステムを通じて車両を操作するときは、すべてのドアが閉まっていることを確認してください。
- BYD アラウンドビューシステムの画面に映されている距離は、目視で確認した距離とは異なることがあります。特に、障害物が車両に近くあるときは、複数の手段で車両と障害物の距離を判断してください。
- カメラは、フロントバンパー、左右ドアミラーの下側およびリアライセンスプレートの上側に搭載されています。カメラの視界が異物などで遮られないようにしてください。
- 高圧洗浄機でボディーを洗浄する場合は、カメラ性能への影響を避けるために、カメラに直接噴射しないでください。また、カメラに水分やほこりが付着しているときは、早めに拭き取ってください。
- カメラの故障や破損につながるおそれがあるため、カメラを叩かないでください。

⚠ 警告

- ・ 始動直後のマルチメディアシステムが完全に立ち上がっていない状態では、BYD アラウンドビューシステムのスイッチ操作やシフトレバーを「R」レンジに入れても、BYD アラウンドビューシステム表示画面への出力が遅れたり画面がちらつくことがあります。これは、カメラ起動時の電源投入プロセスで正常な現象です。
- ・ システムの特定のカメラまたは複数のカメラが壊れている場合は、該当の画面がブラックになります。
- ・ 動作可能なカメラがない場合は、画面がブラックになり、「ビデオ信号が検知されていません」と表示されます。

駐車支援システム

- ・ 駐車支援システムは、駐車時にマルチメディアディスプレイに表示された映像やスピーカーの警告音で、車と障害物の距離をドライバーに伝えます。このシステムは、センサーで障害物を検知します。
- ・ 駐車支援システムはバック駐車を支援するための機能です。バック時は、車両後部や周辺の状況を目視で確認してください。
- ・ また、シフトポジションを「R」レンジに入れると、システムは自動でバックビューになります。
- ・ 「R」レンジから別のレンジにすると、画面が元に戻ります。

⚠ 警告

- ・ 速度が 10km/h を超えると、駐車支援システムは作動が停止します。
- ・ センサーの作動範囲内に他のものを取り付けしないでください。

⚠ 警告

- ・ センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。
- ・ 動作可能なカメラがない場合は、画面がブラックになり、「ビデオ信号が検知されていません」と表示されません。

! お願い

- ・ バック時の後方距離の目安線は、空車状態で参考となる距離を示しています。
- ・ 走行中の安全を確保するため、バックビュー画面表示中は音量関係や電話関係のボタン以外のすべてのボタンが使用できません。

後方レーダーの電源スイッチ

- ・ ドライバーは、 → ADAS → パーキングアシスト の設定画面から、後方レーダーの ON/OFF を設定することができます。
- ・ 電源ポジションを「OK」にすると、駐車支援システムが自動的に立ち上がりません。



- ・ 駐車支援システムを ON でシフトレバーを「P」以外のレンジに入れ、EPB、AVH を解除すると、駐車支援システムは障害物検知モードに入ります。車両周辺に障害物があると警告メッセージが表示されます。システムを OFF にすると警告メッセージは表示されません。

センサータイプ

- ・センサーが障害物を検知すると、障害物の方位や車両と障害物の距離により、関連画像がマルチメディアディスプレイに表示されます。
- ・縦列駐車や車庫入れをする場合、センサーが車両と障害物の距離を検知して、マルチメディアディスプレイおよびスピーカーでお知らせします。当該システムを利用するときは、必ず周辺的环境に注意してください。

①右前側面センサー

②左前中央センサーと右前センターセンサー

③左前側面センサー

④右後側面センサー

⑤左後中央センサーと右後センターセンサー

⑥左後側面センサー



距離表示ブザー

センサーが障害物を検知した場合、マルチメディアディスプレイに障害物の向きおよび車両と障害物との距離が表示されてブザーが鳴ります。

中央部センサーの作動例

おおよその距離	マルチメディア表示例	警告音
約 700 ~ 1200mm		低速
約 400 ~ 700mm		高速
約 200 ~ 400mm		鳴り続ける

角度センサーの作動例

おおよその距離	マルチメディア表示例	警告音
約 400 ~ 600mm		高速

約 200 ~ 400mm



鳴り続ける

⚠ 注意

- 0 ~ 200mm はシステムの死角領域のため検知精度が悪く、警告メッセージの表示が正確ではありません。そのため、この距離上の警告メッセージは参考としてください。

作動センサーおよびその検知範囲

- 車両がバックすると、すべてのセンサーが作動します。
- 図はセンサーの検知範囲を示しています。検知範囲は限られているため、車両周辺の状況を観察して慎重にバックしてください。



! お願い

- 駐車支援システムはドライバーの駐車操作を支援するためのものであり、ドライバー自らの判断に取って代わるものではありません。ドライバーは車両周辺を確認したうえで操作してください。
- システムの正常な作動に影響を与えるため、センサーが障害物を検知す

! お願い

る場所にアクセサリやその他のものを置かないでください。

- 状況によっては、システムが正常に作動せず障害物に接近しても検知しないことがあります。常に車両周辺の状況を確認してシステムだけに頼らないでください。
- コンビネーションメーターに故障メッセージ **P** が表示されている場合は、ブザーが 1 回鳴ります。このようなときは、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して点検を依頼してください。

センサーからの検知情報

- 車両状況や周辺の環境によっては、障害物を正しく検知するセンサー性能に影響を与える場合があります。影響を与えるおそれがある状況を以下に示します。
- センサーに汚れ、水分や曇りがあるとき。
- センサー上に雪や氷が付着しているとき。
- センサーが何かに覆われているとき。
- 車両が明らかに傾いたり、最大積載量を超えているとき。
- デコボコが激しい道路、坂道、砂利道、草原を走っているとき。
- センサーを再塗装したとき。
- クラクション、バイクのエンジン音、大型車両のエアブレーキの作動音な

ど、超音波を発生する騒音で車両付近が非常に騒がしいとき。

- ・ 近くに駐車支援システムを搭載した車両があるとき。
- ・ 車両にけん引フックを取り付けたとき。
- ・ バンパーやセンサーが強い衝撃を受けたとき。
- ・ 高い縁石または湾曲した縁石に車両が接近したとき。
- ・ 炎天下や厳しい寒さのとき。
- ・ 純正品でない、車高の低いサスペンションキットを取り付けたとき。
- ・ 上記の他に、障害物自身の形状により、センサーが実際の距離を検知できないことがあります。
- ・ 障害物の形状や材料は、センサーの検知を妨げることがあります。特に下記に示す障害物に注意してください。
 - ・ 電線、柵、ロープなど。
 - ・ 綿、雪、その他の電波を吸収する材料。
 - ・ 角が尖っているもの。
 - ・ 低い障害物。
 - ・ 上部が外側に向き、車両の方に伸びている高い障害物。
- ・ バンパーの下にあるもの。
- ・ 車両の近くにあるもの。
- ・ 車両近くにいる人（服装のパターンによる）。
- ・ マルチメディアディスプレイに画像が表示されたりスピーカーが鳴っていたりする場合は、センサーが障害物を検知している、またはセンサーが外部からの干渉を受けている可能性があります。このような現象が続くときは、BYD 指定サービス工場で点検してください。

注意

- ・ センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗淨しないでください。

ペダル踏み間違い時加速抑制装置

ペダル踏み間違い時加速抑制装置は、自動車の安全なスタート/ストップを図るための補助装置です。

- ・ アクセルペダル踏み間違いの防止：始動または低速走行時、走行方向の先に障害物がある場合は、ドライバーがアクセルペダルをブレーキペダルと間違えたときに、アクセルペダルの踏み込み量を抑えます。
- ・ ペダル踏み間違い時加速抑制装置が ON の状態で走行方向の先に障害物がある場合は、アクセルペダルを強く踏み込んでも、急加速信号に応答せず、「走行方向に障害物を検知しているので、加速が抑制されています。そのまま走行する場合は、アクセルペダルを軽く踏んでください」の文字メッセージが表示されます。
- ・ 始動または低速走行時(速度 $\leq 10\text{km/h}$)、走行方向 3 メートル以内に障害物がある場合は、急アクセル時の加速機能が抑制されます。

安全運転支援システム

安全運転支援システムは、走行中の安全性を向上するためにさまざまな走行条件に合わせて自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものであり、車両を運転するときにはシステムに過度に頼るべきではないことに注意してください。

インテリジェントパワーブレーキシステム

- ・ インテリジェントパワーブレーキシステムは、高度な分離型電気油圧式ブレーキシステムで、マスターバック、電子真空

ポンプおよび ABS/ESC などの機能を集積しています。

- ・インテリジェントパワーブレーキシステムは、ドライバーの制動操作上の必要性に応じて制動を支援し、ABS、EBD、TCS、VDC、CST、HHC、HBA、CDP などの高度な制動を提供して、車両の安定性や快適さの改善および制動エネルギーの回収効率を向上します。

ビークルダイナミクスコントロールシステム (VDC)

走行中に突然方向を切り替えた場合、VDC がステアリングホイールの角度や走行速度などの情報により、ドライバーの意図を判断して車両の実際の状況と比較します。車両がドライバーの目的の車線から外れると VDC がサイドスリップ制御を支援し、車両の方向安定性を保つために関連する車輪へ制動力を加えて修正を行います。

トラクションコントロールシステム (TCS)

TCS は、モーターのトルクを弱めることで加速走行時の駆動輪のスリップ防止や、必要ときに制動力を加えて駆動輪の空転を防止します。走行条件が悪いときは、TCS の作動により車両の発進、加速、上り坂の走行が容易になります。

警告

- ・下記の場合は、TCS の機能が効果的に発揮できないことがあります。
- ・滑りやすい路面を走行するときは TCS が正常に作動しますが、方向が制御できなかったり必要な駆動力が出ないことがあります。
- ・安定性や動力が維持できなくなる状況では、車両を運転しないください。

ヒルスタートホールドコントロール (HHC) システム

ブレーキペダルを離した後、HHC は約 1 秒間ブレーキ油圧を保持して車両の後退を防止します。

ハイドロリックブレーキアシスト (HBA) システム

ドライバーが素早くブレーキペダルを踏んだとき、HBA が緊急ブレーキと認識して最大値になるまでブレーキ油圧を急速に高めることで ABS をより早く介入させ、制動距離を効果的に短縮することができます。

減速度制御システム (CDP)

走行中に「P」ボタンを長押しすると CDP 機能が作動し、車両が停止するまで一定の減速度 (「P」ボタンのみを押した場合は減速度が 0.4g、「P」ボタンを押すと同時にブレーキペダルを踏んだ場合は減速度が 0.8g) で制動します。ドライバーが「P」ボタンを離すと CDP の作動が停止します。

インテリジェントパワーブレーキシステムは、従来の横滑り防止装置システム (ESC) に対して、次の機能を追加しています：

- ・ブレーキペダル制御モード
- ・ブレーキアシストモードは、ブレーキアシストの調節に使われます。モードにより、ブレーキアシストの深さと車の減速度の相関曲線が異なるため、ドライバーが好みのブレーキスタイルを選択することができます。
- ・ドライバーは、 → 車両設定 → インテリジェントシャーシ の設定画面からブレーキアシストモードを選択し、コンフォートまたはスポーツの 2 つを設定することができます。
- ・コンフォートブレーキ (CST)
- ・CST は、緊急時以外の減速や停止時にインテリジェントパワーブレーキシステムが 4 つのブレーキの油圧を制御して、停車時のサスペンションの揺れや衝撃を軽減し、ドライバーにスムーズなコンフォートブレーキを提供します。
- ・ドライバーは、 → 車両設定 → インテリジェントシャーシ の設定画面からコンフォートブレーキの ON/OFF を設定することができます。

- ・コンフォートブレーキが作動すると、制動距離が約 2~5cm 長くなることがあるため、停車前に先行車や前方の障害物との距離を適切に空けてください。
- ・ブレーキディスクワイピング
 - ・ブレーキディスクワイピングは、ワイパースイッチを ON にする、または雨量センサーが雨滴を検知すると、インテリジェントパワーブレーキシステムが 4 つのブレーキにブレーキ油圧を軽く加え、ブレーキパッドをブレーキディスクに当ててブレーキディスクに付いている水分を落とし、ブレーキの素早い発揮や制動距離の短縮を図ります。
 - ・システムが雨やワイパーの ON 信号を検知すると、安全性を向上させるために一定間隔でブレーキディスクの拭き取りを繰り返します。

横滑り防止装置システム (ESC) について

- ・ ESC 作動時
 - ・坂道で発進するとき、車両が滑るまたは後退しいずれかの駆動輪が空転する可能性がある場合は、ESC 表示灯が点滅し ESC が作動していることを表します。
- ・ ESC の使用禁止
 - ・車両が積雪やぬかるみでスタックすると、ESC はモーターからホイールへの出力を下げる場合があります。スタックなどを脱出するときは、ESC を OFF にしてください。
- ・ ESC を OFF にする
 - ・ESC を OFF にする必要があるときは、 → ADAS → 安全補助の設定画面から横滑り防止装置システムを OFF にします。また、ESC はリアルタイムで作動状態を確認します。ESC 作動中に ESC OFF スイッチを押して ESC を OFF にしても、システムはすぐに「OFF」にはならず能動的に制御に介入します。制御介入が完了するまでは、システムが ESC OFF スイッチの OFF コマンドを実行しません。
- ・ ESC が OFF になった後に再度 ESC OFF スイッチを押す、または速度がしきい値 (80km/h) を超えると、OFF になった ESC の一部機能が再度 ON になります。ESC が突然 ON になることがないように、システムが車両走行の制御に介入していない場合のみ、再度 ESC を ON にすることができます。
- ・ 電源ポジション「OFF」後の ESC 再開
 - ・ESC を OFF にしてから再度車両の電源ポジションを「ON」にすると、ESC が自動で ON になります。
- ・ 速度連動による ESC の作動
 - ・ESC が OFF の状態で速度がしきい値 (80km/h) を超えると、車両の姿勢が極めて不安定になるため、ESC が自動で ON になります。
- ・ ESC 起動時
 - ・ESC 故障警告灯  が点滅しているときは、慎重に運転してください。
- ・ ESC を OFF にした場合
 - ・細心の注意を払いながら、道路状況に応じた速度で運転してください。ESC は車両安定性と駆動力を確保してくれるため、必要がない状況を除き OFF にしないでください。
- ・ タイヤの交換
 - ・すべてのタイヤは、寸法、ブランド、トレッドパターン、輪荷重を同一にしてください。また、推奨空気圧になるまでタイヤに空気を入れてください。
 - ・異なる種類のタイヤを装着すると、ABS と ESC が正常に作動できなくなります。

- ・タイヤやホイールの交換については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

・タイヤおよびサスペンションの処置

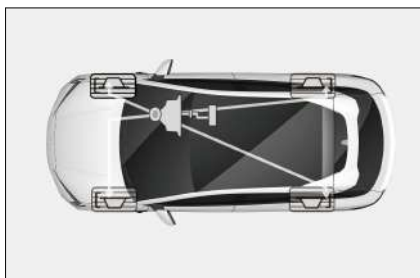
- ・不具合があるタイヤの使用やサスペンションの改造は、安全運転支援システムに影響を与えてシステムの故障を引き起こすおそれがあります。

マルチコリジョンブレーキ機能 (MCB)

- ・事故でエアバッグが展開すると、車両が自動でブレーキを掛けます。
- ・速度の減速、横滑り防止装置、ABS などの運転支援システムが作動し、車両の安定性を維持して現在の車線を走り続けられるようにします。
- ・ハザードランプおよびブレーキランプが点灯し、対向車に警告して衝突の再発を防ぎます。
- ・緊急救援やロードサービスに対応するため、事故が収束した後はブレーキを解除しブレーキランプが消灯します。
- ・ドライバーは、加速やブレーキ操作でいつでも MCB を一時的に解除することができます。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

- ・ABS の油圧システムは、それぞれ独立する 2 つの回路があります。それぞれの回路は対角線上にあります (右側フロントブレーキと左側リアブレーキとの接続など)。1 つの回路が故障しても、残り 2 つのホイールに制動力を加えることができます。



- ・急ブレーキや滑りやすい路面を走行中にブレーキを踏んだ場合、ABS は車輪のロックやスリップを防止して方向切替時の制御をサポートします。
- ・フロントタイヤがスリップしたときは、ハンドル操作ができずにハンドルを回しても車両が直進します。脈動する急ブレーキは、人間の反応よりもはるかに速いため、ABS は車輪のロックを防いでステアリング制御の維持に役立ちます。
- ・ABS が効かなくなるおそれがあるため、ブレーキペダルをポンピングして踏まないでください。危険回避のためにハンドルを操作する場合は、ABS が作動するようにブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ・ABS が作動すると、ブレーキペダルが振動して作動音が聞こえることがあります。これは、ABS のポンピングブレーキによるもので異常ではありません。

電子制御制動力配分システム (EBD)

- ・EBD は ABS を支援する機能です。ABS が機能する前に後輪のスリップ率が高い場合は、ABS が後輪の制動力を調節することで、安定した理想的な制動力分配を実現します。

警告

- ・下記の場合は、ABS を効果的に発揮できません。
- ・グリップ力が弱いタイヤを使って
いるとき (雪が積もっている路面

⚠ 警告

で過度な摩耗があるタイヤを使うなど)。

- ・ 高速で滑りやすい路面を走行するとき、または車両がスリップしたとき。
- ・ ABS は、制動距離の短縮を目的として設計されたものではありません。次のような場合は、必ず先行車との車間距離を確保してください。
- ・ 滑りやすい路面、ぬかるみ、砂利道や積雪路面を走行するとき。
- ・ ヘコミが多い道路、または平坦でない道路を走行するとき。
- ・ デコボコ路を走行するとき。

⚠ 注意

- ・ ABS 故障警告灯とパーキングシテム故障警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。ブレーキをかけても ABS が機能しないため、車両姿勢も極めて不安定な状態になります。
- ・ ABS は、車両を停止させるのに必要な時間および距離を短縮させることはできません。この機能は、ブレーキをかけたときのステアリング制御を支援するものであるため、ドライバーは常に安全な車間距離を保ってください。
- ・ ABS は、急旋回や急な車線変更などのハンドル操作によるスリップを防ぐことはできません。路面状況および天候を問わず、常に安全な速度で慎重に運転してください。
- ・ ABS は、安定性の低下を防ぐことはできないため、急ブレーキ時は適切なハンドル操作を行ってください。また、大きなカーブや急カーブでは、

⚠ 注意

対向車線に飛び出したり道路からはみ出たりするおそれがあります。

- ・ 滑りやすい路面や軟弱な路面、デコボコ路 (冠水しているコンクリート路面、冠水しているエポキシ樹脂系塗り路面、砂利道や積雪路面など) を走行する場合、ABS 搭載車は、非搭載車と比べると長い制動距離が必要です。このようなときは、速度を落として他の車両との車間距離をさらに確保してください。

インテリジェントトルクアダプテーションコントロール (iTAC) *

- ・ インテリジェントトルクアダプテーションコントロール (iTAC) は、ドライバーの希望する走行状態に合わせて複雑な道路でもより良い運転性能を得るための機能です。走行中のステアリングホイール角度やモーター回転数などの情報からドライバーの希望および車両状態を確認し、独自のコントロールフレームワークおよびアルゴリズムにより車両状態を素早く認識して、フロントアクスルシャフト・リアアクスルシャフトの駆動トルクを動的に調整します。
- ・ また、安定した出力トルクのを確保して異なる路面でもより良い運転性能を得るために、車輪がスリップしそうなときは、フロントアクスルシャフト・リアアクスルシャフトの駆動トルクを素早く調節します。
- ・ ドライバーは、 → エネルギー → iTAC の設定画面から、インテリジェントトルクアダプテーションコントロールの ON/OFF を設定することができます。

04

使用および運転

⚠ 警告

- この機能は、過激な運転の安定性を確保するために設計されたものではありません。次のような場合は、必ずブレーキシステムの正常な作動を確認してください。
- ドリフト走行、連続したカーブなどの過激な運転。
- 滑りやすい路面、ぬかるみ、砂利道や積雪路面を走行するとき。
- へこみが多い道路、または平坦でない道路を走行するとき。
- デコボコ路を走行するとき。

💡 お願い

- ドライバーがブレーキや ESC を作動してブレーキの介入またはブレーキの作動がある場合、iTAC を OFF にしてブレーキを優先します。

ドライバー監視システム (DMS)

ドライバーモニタリングシステム (DMS) は、疲労モニタリングと注意力散漫モニタリング機能が含まれており、主にドライバーモニタリングシステムのカメラを通じてドライバーの状態をリアルタイムで監視して判定を行います。また、判定結果に基づき、ドライバーに慎重な運転と安全運転への注意を喚起します (モニタリングデータは判定終了後直ちに削除しており、サーバーに保存またはアップロードはされません)。

使い方

- ドライバーモニタリングシステムのカメラは、運転席側 A ピラーに設置されています。ご使用前にドライバーモニタリングシステムのカメラが遮られていないこ

とを確認してください。カメラが遮られると、機能が正常に使用できなくなります。



- ドライバーは、 → 車両設定 → キャビン認識 の設定画面から、疲労リマインダー機能と注意力散漫リマインダー機能の ON/OFF を設定することができます。工場出荷時の設定ではいずれも ON になっています。



- 疲労または注意力散漫モニタリングアラームが作動した場合、ステアリングホイールローラーボタンを押すと、アラームリマインダーなしで 15 分間機能が抑制されます。

疲労モニタリング

- 車速が機能の作動条件を満たし、疲労モニタリングボタンが ON の場合、システムがドライバーの疲労運転 (目を閉じる、まばたきやあくびをするなど、一定の条件を満たす動き) を検知すると、インストルメントパネル、インテリジェント音声、アラーム音などでドライバーに注意を促します。

注意力散漫モニタリング

- ・車速が機能の作動条件を満たし、注意力散漫モニタリングボタンが ON の場合、システムがドライバーの注意力散漫運転 (左ドアミラーや右ドアミラーなどを見るなど、一定の条件を満たす動き) を検知すると、インストルメントパネル、インテリジェント音声、アラーム音などでドライバーに注意を促します。

❗️ お願い

- ・DMS のカメラレンズは、柔らかい清潔な綿の布で拭き、レンズを傷つけないように注意してください。

ご注意

- ・DMS は補助的なシステムであり、あらゆる状況下で危険を効果的に認識し、警告を出すことができるわけではありません。ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは、常に車両をコントロールしながらすべての道路法を遵守して自己責任で運転してください。
- ・DMS の適切な機能と精度は、次のようなさまざまな要因 (ただしこれらに限定されません) によって影響される可能性があります。
 - ・DMS 機能が ON になったとき。
 - ・DMS が強い光にさらされたとき。
 - ・ドライバーの顔が部分的に光に照らされているか、顔の特徴が不完全なとき。
 - ・ドライバーが赤外線遮断メガネまたは強度の近視用のレンズが厚メガネをかけているとき。
 - ・ドライバーがマスクを着用するなどして顔を覆っているとき。
 - ・ドライバーの着座姿勢が正常な運転姿勢の範囲を異常に超えているか、ドライバーの顔がカメラの死角に入っているとき。

⚠️ 警告

- ・運転で疲れている場合は、早めに車両を止めて休憩を取ってください。

幼児置き去り検知 (CPD) *

車両の電源ポジションを「OFF」にした状態で運転席のドアを閉める、または施錠すると、お子様が車内に置き去りにっていないかをシステムが確認します。お子様が車内に置き去りにされていることを検知すると、ランプを点滅させてホーンを鳴らして警告を出し、エアコンを作動させます。警告中にドアを解錠する、またはいずれかのドアを開けると、警告を消すことができます。

使い方

- ・ドライバーは、 → 車両設定 → キャビン認識 の設定画面から設定することができます。ファンクションスイッチの設定は 4 種類あります。「OFF」、「ON」、「標準」、「遅延」の 4 つがあります。
- ・車両の電源ポジションを「ON」にする度に、システムは記憶された前回の設定状態を呼び出します。
- ・遅延にすると、警告機能は今回の運転のみ遅延して作動します (約 5 分) 。

システムの応答方法

- ・機能が作動し、「標準」で車両の電源ポジションを「OFF」にして施錠する場合、お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、10 秒以内に初期警告を約 6 秒出します (ランプの点滅およびホーンを鳴らします) 。
- ・機能が作動し、「標準」で車両の電源ポジションを「OFF」にして施錠しない場合、お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、5 分以

内に初期警告を約 6 秒出します (ランプの点滅およびホーンを鳴らします)。

- 機能が作動し、「遅延」で車両の電源ポジションを「OFF」にしてドアを閉めた場合、お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、5 分以内に初期警告を約 6 秒出します (ランプの点滅およびホーンを鳴らします)。
- 警告が解除されていない場合は、90 秒以内に警告レベルを上げて (ランプの点滅およびホーンを鳴らす)、警告を約 25 分間出し続けます。
- 警告中にマルチメディアドア通知ボタンをタッチして車両を解錠する、またはいずれかのドアを開けると、警告を消すことができます。
- 初期アラーム、アップグレードされたアラーム、および介入措置が開始されると、システムはリマインダー情報と電子メールによるリマインダーをユーザー APP にプッシュ通知します。

警告

- システムは、ランプの点滅やホーンを鳴らす、APP によるプッシュ通知やエアコンの作動などで、車内への置き去りによるお子様への傷害を軽減させることができますが、傷害を完全に避けることはできません。
- 傷害の悪化を避けるため、システムが警告を出したときは早めにお子様を車内に閉じ込められていないかを確認してください。
- CPD は補助的なシステムであり、いかなる状況においても効果的な識別と警報を保証することはできません。ユーザーは常に車内の人命に注意を払い、人命の安全に対して全責任を負わなければなりません。

注意

- CPD は、大人/ペットなどの生命体を検知するときなど、誤認識や誤警告を起こすことがあります。
- CPD は、携帯用 APP による解錠で警告を消すことはできません。
- バッテリー残量 (SOC) が少なくなると、システムは警告が出せずエアコンも作動できません。そのため、十分なバッテリー残量を確保してください。

その他の主な機能について

自動防眩ルームミラー

- 自動防眩ルームミラーは自動防眩機能を搭載しているため、車両周囲の環境に合わせてルームミラーのガラス色を自動的に調整し、強い反射光によるまぶしさを軽減します。
- 上下左右にルームミラーを回して、ルームミラーを適切な位置に調整します。



警告

- 発進前にルームミラーを調節してください。運転に集中できず、死傷につながる思わぬ事故を引き起こすお

⚠ 警告

それがあるため、ドライバーは、走行中にルームミラーを調節しないでください。

- ・ルームミラーに重量物を掛けたり、強く揺らしたり引っ張らないでください。
- ・ルームミラーを手動で調節するとき、引っ掛かりがある場合は、ルームミラーが脱落しないよう乱暴に調整しないでください。

電動ドアミラー

電動ドアミラースイッチを操作して、ドアミラーから車両の両側が見えるよう適切な角度に調整してください。

- ・ドアミラー選択ボタン：調節する対象ドアミラーを選択します。
 - ・：左側ドアミラーボタン
 - ・：右側ドアミラーボタン
- ・ドアミラー調整ボタン ：ドアミラーを適切な位置に調節します。



⚠ 警告

- ・発進前にドアミラーを調節してください。運転に集中できず、死傷につながる思わぬ事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは走行中

⚠ 警告

にドアミラーを調節しないでください。

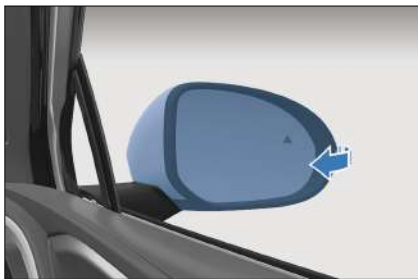
❗ お願い

- ・ドアミラーはバック時に反転する機能を備えています。「R」レンジに入れると電動ドアミラーのレンズが自動で適切な角度に動きます*。
- ・ドアミラーが凍り付いている場合は、解氷スプレーでドアミラー表面の水を落としてください。このとき、ボタン操作やドアミラー表面を削る行為などはやめてください。

可倒式ドアミラー

手動可倒式ドアミラー

- ・ドアミラー外側の縁部を引っ張ると、回転軸を中心にドアミラー本体をロック位置に回せます。



電動可倒式ドアミラー

- ・ ボタンを押すとドアミラーが格納されます。再度ボタンを押すとドアミラーが展開します。
- ・イモビライザーが作動すると、ドアミラーが自動的に格納されます。イモビライザーを解除すると、ドアミラーが自動的に展開します。



- ドライバーは、 → 車両設定 → コンフォートドライビング の設定画面から、ドアミラーの自動格納とバック中のドアミラー自動反転の ON/OFF を設定することができます。

ワイパー

6 ヶ月毎にワイパーブレードのゴム部に割れや部分的な硬化がないかを点検します。割れや硬化があるときはブレードを交換してください。そのまま使用すると、スジ状の線または拭きムラが残り雨天時の視認性が悪くなります。

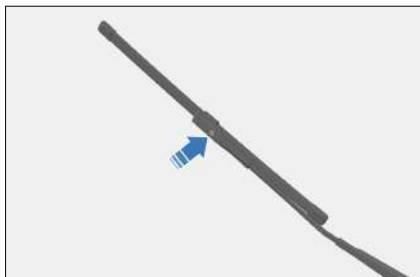
注意

- ワイパーアームを立てているときは、ボンネットを開けないでください。ボンネットおよびワイパーアームを破損させるおそれがあります。

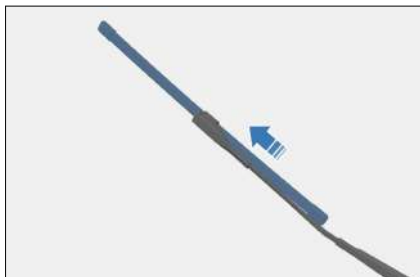
ワイパーブレードの交換

車両の電源ポジションを「OK」にした状態で、 → 車両状況 → オーバーホール の設定画面から、フロントワイパーメンテナンスモードを ON にすると、点検やワイパー交換作業をしやすくするため、ワイパーが一番高い位置に動きます。点検完了後にフロントワイパーメンテナンスモードを OFF にすると、ワイパーは自動で初期位置に戻ります。

1. 始めに運転席側のワイパーアームを立て、次に助手席側のワイパーアームを立てます。
2. ブレードロックボタンを押します。



3. ブレード留め具を持ち、図に示す方向にブレードを取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



注意

- ボンネットおよびワイパーアームが破損するおそれがあるため、ワイパーアームを立てている状態でボンネットを開けないでください。
- 洗車後にワイパーブレードを戻す場合は、ブレードがフロントガラスに直接ぶつかるようにワイパーアームを押し倒さないでください。
- ワイパー作動時、ワイパーブレードを折り曲げたり手などでワイパーブ



注意

レードの動きを阻止しないでください。

05

車内装置

マルチメディアシステム.....	150
エアコン.....	155
BYD App.....	162
収納ボックス.....	163
車内のその他の装置.....	165

マルチメディアシステム

マルチメディアコントロールパネル

車両の電源ポジションを「OK」にすると、初期画面を数秒表示してからシステムが作動します。マルチメディア関連の機能(APP やインターネット通話など) を利用するときは、インターネットに接続してから使用してください。

- ① マルチメディアタッチスクリーン
- ② ホイールボタン



- マルチメディアが作動している状態で上方向(フロント方向)にホイールボタンを回すと、音量が上がります。下方向(リア方向)に回すと、音量が下がります。音量は 0~39 で変わります。音量が 0 のときは、ステータスバーにミュートマークが表示されます。
- マルチメディアが起動している場合、スクロールボタンを押すと音声ミュートになり、スクリーンセーバー画面または画面が OFF になります (→ システム → ディスプレイ の設定画面から、マルチメディアのスクリーンセーバーを変更できます)。もう一度スクロールボタンを押すと、ミュートが OFF になりスクリーンが点灯します。
- ホイールボタンを 3 秒以上長押しすると、マルチメディアを再起動します

工場出荷時の設定に戻る

- 工場出荷時設定に戻すをタッチすると、マルチメディア機器に設定されているすべてのデータが工場出荷時の状態に戻ります。
- 工場出荷時の状態に戻している間は、車両の電源は切らないでください。また、エラーの発生を防ぐためマルチメディア機器のアイコンに触れないでください。
- 工場出荷時の状態に戻す作業は、2~5 分掛かるためしばらくお待ちください。

⚠ 警告

- 車内でハイパワーインバーターを使わないでください。マルチメディアシステムの異常につながるおそれがあります。
- オペレーティングシステム入れ替えや Root 化は禁止です。マルチメディアシステムや車両の異常につながるおそれがあります。
- 安全運転のために、運転中はマルチメディアタッチスクリーンを横向きにして使ってください。

⚠ 注意

- タッチスクリーンの破損を防ぐために
 - 指でタッチスクリーンを軽くタッチしても反応がないときは、タッチスクリーンから指を離し、再度タッチしてください。
 - タッチスクリーンを拭くときは柔らかい布を使用し、洗剤は使わないでください。
- タッチスクリーンを使う場合は
 - タッチスクリーンの温度が低いと、表示された画像が暗く見えた



注意

り、システムの作動がいつもより遅いときがあります。

- ・サングラスをかけてタッチスクリーンを見ると、暗く見えたりきれいに見えないときがあります。タッチスクリーンの角度を変えるか、サングラスを外してください。
- ・灰色のアイコンは操作できません。
- ・タッチスクリーンの表示は参考表示であり、具体的には現物に準じます。

ナビゲーションバー

 : 前の画面に戻す、またはプログラムを終了します。

 : メイン画面アイコンをタッチすると、メイン画面に戻ります。

 : 設定ボタンをタッチすると、設定項目の画面に入ります。

 : アプリセンターボタンをタッチすると、アプリケーションリスト画面に進みます。

 : 画面分割アイコンをタッチすると、画面分割に対応する APP が画面分割状態になります。

 : スクリーン回転ボタンをタッチすると、マルチメディア画面を回転します。

 : エアコンボタンをタッチすると、エアコン設定項目の画面に入ります。



お願い

- ・ナビゲーションバーの内容は、実際の車両の構成に準じます。

ジェスチャーおよび応答

ジェスチャー操作および応答は次の通りです。

- ・タッチ：APP を立ち上げる、機能を選択する、スクリーン上のキーを押す、スクリーンのキーで文字を入力する場合は、スクリーンをタッチしてください。
- ・ドラッグ：アイコン、サムネイル、またはプレビューを移動する場合は、押しながら目的の位置にドラッグして離してください。
- ・スワイプ：メイン画面、または APP の画面でこの操作を行うことができます。
- ・ダブルタップ：ダブルタップすると写真を拡大表示することができます。再度ダブルタップすると戻ります。
- ・ピンチアウト/ピンチイン：指 2 本で画面をタッチして間隔を広げると、画像の一部を拡大表示できます。間隔を縮めると縮小表示できます。
- ・3本の指でタッチして左/右にスワイプ：エアコンの風量を調整します。
- ・3本の指でタッチして上/下にスワイプ：エアコンの温度を調整します。
- ・画面の上から下にスワイプ：ショートカットメニューを開きます。
- ・画面の下から上にスワイプ：タスク管理センターを開きます。
- ・画面の左側/右側を内側にスライド：戻ります。

OTA アップデート

- ・この車両はソフトウェアのアップデート機能を搭載しており、ドライバーは、 → システム → バージョン管理 → 車両バージョン から アップデート をタッチして車両システムをアップデートし、車両の機能を最新の状態に保つことができます。

- ・車両のソフトウェアアップデートが必要な場合、ソフトウェアのアップデートを促すプロンプトメッセージが表示されます。車両の利用状況に合わせて、即時アップデート、予約アップデートまたは携帯アップデート（ある場合）を選択し、システムソフトウェアのアップデートを開始することができます。

注意

- ・OTA のアップデートプロセス中に車両を移動させないでください。
- ・OTA のアップデートは、車両を安全な場所に駐車してから「P」レンジにし、モバイル通信ネットワークが正常な接続状態にある場合にのみ実行できます。
- ・OTA のアップデートの前に、車両に十分な電力があることを確認してください。
- ・OTA のアップデート前およびアップデートプロセスにおいては、車両の OBD ポートにサードパーティ製デバイスを取り付けしないでください。
- ・アップデートの際に車両を充放電することはできないため、アップデートを実行する前に車両が完全に充電されていることを確認してください。
- ・OTA アップデートプロセスにおいては、リモートキーの施錠/解錠、マイクロスイッチの施錠/解錠、室内灯スイッチ、緊急警告灯、ウィンドウスイッチ以外のすべての機能が操作できなくなります。
- ・OTA アップデートが失敗した場合は、アップデートを再試行してください。アップデートの再試行も失敗した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

BYD インテリジェント音声制御機能

BYD インテリジェント音声制御機能は、ナビゲーション起動、音楽再生/ラジオ放送、電話発信、エアコンなどの車内装置の制御を、音声指示で実行できます。

- ・音声制御による起動方法：
 - ・ステアリングホイール上の  キーを短く押します。
 - ・マルチメディアの  アイコンをタッチします。
 - ・音声起動ワード：「ハイ、BYD」。
- ・ドライバーが BYD インテリジェント音声制御機能を起動した後、ドライバーの音声指示を受信して認識を開始します。
- ・このとき、ドライバーは音声で任意の指示を出すことができます。
 - ・例：「目的地を家にする（家の場所を事前登録する必要があります）」、「歌を聞きたい」、「〇〇に電話して（アドレス帳に登録し携帯電話の Bluetooth に接続する必要があります）」、「エアコンの温度を 23 度に調整して」、「運転席のシートヒーター機能を ON にして」などを指示できます。BYD インテリジェント音声制御機能が音声指示を識別した後に該当の操作を行います。

Bluetooth

Bluetooth 接続

1. Bluetooth 電話画面で Bluetooth 接続アイコンをタッチすると、ジャンプ接続します。
2. 「Available devices」をタッチして、利用可能なデバイスの検索を始めます。
3. 接続可能な機器を選択しペアリングをします。携帯電話とマルチメディアタッチ

スクリーンのペアリングコードが合っていることを確認します。

4. 接続完了後、Bluetooth に対してさまざまな設定を行うことができます。

Bluetooth 電話

Bluetooth に接続した後、ダイヤル画面に入ります。

- ・連絡先、最近の通話記録および不在着信記録をタッチして発信することができます。または、テンキーパッドで電話番号を入力して電話を掛けることもできます。
- ・コールカードを上にはスワイプするか空白スペースをクリックして、ダイヤル画面を縮小することができます。

オーディオ

- ・本車の DYNAUDIO サウンドエフェクト設定項目には、DYNAUDIO サウンドフォーカス、DYNAUDIO サウンドモード、車速連動ボリューム調整が含まれており、 → システム → オーディオ の設定画面から設定することができます。

ディナウディオ音場フォーカス

- ・DYNAUDIO サウンドフォーカスは、全体、運転席、助手席、リア、サラウンドとカスタムに分かれており、DYNAUDIO サウンドフォーカス技術を利用し乗員の周囲にバランスのとれたサウンドを作り上げます。

DYNAUDIO サウンドモード

- ・DYNAUDIO サウンドモードは、Acoustic、Dynamic、Soft、Speech、Customize の5つに分かれており、さまざまな音楽体験を提供します。

車速連動ボリューム調整

- ・機能を ON にすると、リスニング体験を適応調整し、ロードノイズやタイヤノイズ、風切り音などの環境ノイズが音楽に

与える影響を軽減します。設定範囲は 0 ~ 7 で 0 はオフです。1 ~ 7 は設定レベルで、数値が大きいほど音量調整幅が大きくなります。初期設定値は 4 です。

ファイル管理

新規作成

- ・ファイル管理ページに入るとフォルダを新規作成できます。カーソルの位置に、新規フォルダの名称を入力して確定を OK をタッチします。Cancel をタッチすると、フォルダの新規作成を終了します。
- ・メイン画面の上側をタッチすると、ファイルソースを切り替えることができます。

検索

- ・メイン画面の左上の Search をタッチすると検索画面に入ります。また、検索ボックスにファイル名を入力した場合もファイルを検索できます。

移動またはコピー

- ・メイン画面のファイルアイコンを長押しして該当のファイルを選択します。対象の操作 (Copy、Move、Delete) を選択して確定をタッチすると、該当コマンドの編集状態に入ります。

名前変更

- ・メイン画面のファイルアイコンを長押しし、表示されたダイアログボックスから名前変更を選択します。名前を変更する対象フォルダを選択し、表示されたダイアログボックスにフォルダ名を入力して OK をタッチすると完了します。

削除

- ・メイン画面のファイルアイコンを長押しし、削除するファイルを選択すると削除ができます。

並び替え

- ファイルは名前順で並んでいます。名前、サイズ、タイプ、時間の4つからファイルを並び替えできます。

プロパティ

- メイン画面のファイルアイコンを長押ししてファイルを選択します。Details をタッチすると、ファイルのプロパティを確認できます。

スマートフォンと車載システムの連携

スマートフォンと車載システムの連携とは、スマートフォンを車載装置に接続し、特定のアプリケーションを介して一部のスマートフォン機能を車載装置で使用することを言います。

警告

- 慎重に運転してください。思わぬ事故を起こすおそれがあるため、運転中は注意散漫にならないようにしてください。

お願い

- シフトポジションを「P」に切り替え、マルチメディアシステムを ON にします。スマートフォンと車載システムの連携用アプリの設定が完了した後に車両を運転してください。
- 初期設定プロセスはスマートフォンで行います。スマートフォンのセキュリティ情報を確認し、プライバシーポリシーに同意して必要な認証を完了してください。
- 初めて無線接続を行う場合は、スマートフォンと車両間で Bluetooth ペアリングを行う必要があります。スムーズにペアリングできるように、プロセス中はスマートフォンの Bluetooth、Wi-Fi、位置情報サービスを ON にしてください。

お願い

- スマートフォンがモバイルデータ通信範囲内にあり、利用可能なデータ通信量があることを確認してください。
- スマートフォンと車載システムが連携後の名称やロゴを表示するサービスは、国や使用言語によって異なります。サービスを利用するには、サブスクリプションが必要な場合があります。

Apple CarPlay

- 有線接続
 - 認可されたデータケーブルを使用して、スマートフォンを車両の USB データ転送ポートに接続すると、Apple CarPlay に接続できます。
- 無線接続
 1. マルチメディアのアプリケーション画面で Apple CarPlay アイコン  をタッチし、画面表示に従ってスマートフォンと車両の Bluetooth とのペアリングを行います。
 2. Bluetooth 接続が成功したら、画面表示に従って Apple CarPlay の接続を完了します。
- Apple CarPlay と車両マルチメディアシステムの切り替え
 - Apple CarPlay 画面を終了するには：Apple CarPlay 画面の BYD アイコン  をタッチするか、ショートカットバーの  または  をタッチします。
 - Apple CarPlay 画面に進みます：マルチメディアのアプリケーション画面から Apple CarPlay アイコン  をタッチします。
- <https://www.apple.com/ios/feature-availability/#apple-carplay> で Apple

CarPlay の使用可能地区を調べてください。

Android Auto

- 有線接続
 1. 認可されたデータケーブルを使用して、スマートフォンを車両の USB データ転送ポートに接続すると、Apple CarPlay に接続できます。
 2. 画面のプロンプトに従って Android Auto を設定します。
- 無線接続
 1. マルチメディアのアプリケーション画面で Android Auto アイコンをタッチし、画面表示に従ってスマートフォンと車両の Bluetooth とのペアリングを行います。
 2. Bluetooth 接続が成功したら、画面表示に従って Android Auto の接続を完了します。
- Android Auto と車両マルチメディアシステムの切り替え
 - Android Auto 画面を終了するには：Android Auto 画面のアイコン  をタッチするか、ショートカットバーの  または  をタッチします。
 - Android Auto 画面に進むには：マルチメディアのアプリケーション画面から Android Auto アイコン  をタッチします。
- 車内で Android Auto を使用できるのは、この機能に対応した Android スマートフォンだけです。g.co/androidauto/requirements にアクセスして対応機種と対応地域を調べてください。

！ お願い

- Android 10 以降のバージョンでは Android Auto が組み込まれているため、手動でダウンロードする必要はありません。
- Android Auto が有線または無線で接続されている場合、操作を続行する前に Android Auto を更新が必要というメッセージがスマートフォンに表示されることがあります。

商標の所有権に関する法的声明

- Apple CarPlay は Apple Inc. の商標です。
- Android と Android Auto は Google LLC の商標です。

エアコン

エアコンパネル

- ① オートボタン
- ② エアコン ON/OFF ボタン
- ③ フロントガラスデフロスターボタン



エアコン操作画面

エアコン設定画面

- ドライバーは、 → 車両設定 → エアコンの設定画面から、エアコン調節画面に入ることができます。

①自動 A/C モード

- ECO またはコンフォート から設定することができます。

②リモートエアコンスケジュール (分)

- リモートコントロール空調の運転時間を設定できます。

③自動清浄

- 自動清浄機能の ON/OFF を設定することができます。



④駐車時の自動内部循環

- 駐車時オートリサーキュレーションの設定の ON/OFF を設定することができます。

⑤Bluetooth 通話中のファン速度の自動低下

- Bluetooth 通話中のファン速度の自動低下の ON/OFF を設定することができます。



エアコン操作画面



- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 エアコン操作画面アイコン | 10 リアガラスおよびドアミラーデフロスターボタン |
| 2 ベンチレーション/ヒーターアイコン | 11 外気導入/内気循環切替 |
| 3 空気清浄アイコン | 12 換気 |
| 4 設定アイコン | 13 運転席側温度調節 |
| 5 ファン ON/OFF | 14 吹き出しモード選択 |
| 6 AUTO モード | 15 助手席側温度調節 |
| 7 エアコン ON/OFF | 16 DUAL |
| 8 最大エアコン | 17 風量調節 |
| 9 フロントガラスデフロスターボタン | |

05

車内装置

❗ お願い

- エアコンの異臭について：
 - エアコン作動時に吹き出した風からカビの臭いがすることがありますが、エアコンからの異臭発生は異常ではありません。エアコン使用中は、エバポレーターに結露が付着しやすく、フィルターにキャッチされなかった人の汗やタバコの煙などが湿ったエバポレーターに吸着されます。暗く湿ったエバポレーター表面にはカビが発生しやすいため、カビが長期間にわたって発酵することにより、異臭が発生しやすくなります。
- 異臭の防止について：
 - 停車前にエアコンを消し、外気導入で換気することにより、比較的乾燥した状態を保つことができます。
 - エアフィルターを定期的に点検、清掃、交換します。
 - できるだけ車内を清潔にし、車内の空気をきれいに保ちます。
- 異臭対策を行っても異臭が発生する場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で修理してください。

機能定義

ファン ON/OFF

- エアコンが ON の状態でタッチすると、エアコンを OFF にすることができます。
- エアコンが OFF の状態でタッチすると、温度、風量、吹き出しモードが前回 OFF 時と同じ設定でエアコンが ON になります。

AUTO

- エアコンパネルの AUTO をタッチすると、オートモードが ON になります。設定温度に応じて風量、吹き出しモードが自動で調節されます。
- オートモードのときに風量や吹き出しモードを設定すると、オートモードが OFF になります。調節した操作機能以外はオートモードのままです。

A/C (冷房/暖房)

- A/C (冷房/暖房) でエアコンを ON にすることができます。アイコンが点灯し、コンプレッサーが作動することで冷房または暖房を行います。再度タッチすると、コンプレッサーが停止してアイコンが消灯します。

最大エアコン

- 最大エアコンをタッチすると、エアコンがフル冷房モードで稼働します。コンプレッサーが ON になり自動で温度を Lo、風量を最大風量、内気循環モードで吹き出し口が上半身送風になります。再度タッチすると、エアコンはオートモードになります。

フロントガラスデフロスター

- フロントガラスデフロスターをタッチすると、アイコンが点灯し (フロントエアコン操作画面のフロントガラスデフロスター表示灯が点灯) エアコンがフロントガラスデフロスター制御になり、吹き出しモードがフロントガラスデフロスターモードに切り替わります。
- 再度エアコンパネルのフロントガラスデフロスターをタッチすると、アイコンが消灯し (フロントエアコン操作画面のフロントガラスデフロスター表示灯が消灯) エアコンのフロントガラスデフロスター制御が OFF になります。

リアガラスおよびドアミラーデフロスターボタン

- リアガラスおよびドアミラーデフロスターのアイコンをタッチすると、ドアミラー内蔵のヒーターの作動により、ドアミラーがきれいに映るようになります。そ

の後操作がない場合は、15 分間作動してから自動的に OFF になります。

- アイコンをタッチすると、リアガラスおよびドアミラーデフロスター機能は OFF になります。
- リアガラスおよびドアミラーデフロスター機能は、雨滴を乾燥させたり雪を溶かしたりするものではありません。

⚠ 警告

- ドアミラーの表面が熱くなるためリアガラスおよびドアミラーデフロスターボタンを ON 後は、鏡面を触らないでください。

⚠ 注意

- 長時間ドアミラー内蔵のヒーターで除霜機能を使う場合は、ガラスの早期劣化につながるおそれがあるため、不要なときは早めにリアガラスおよびドアミラーデフロスターを OFF にしてください。

換気

- 換気をタッチすると、エアコンの換気制御が ON になり、外気導入で冷房および暖房機能を行わない風量 1 の状態の外気が送り込まれます。再度タッチすると、エアコンの換気制御が OFF になります。

温度調整

- 運転席側温度調節
 - 独立モードの場合：運転席側の温度を調節します。
 - 連動モードの場合：運転席側、助手席側の温度を調節します。
 - エアコン操作画面内の上側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら下へスライドすると、温度が高くなります。下側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら上へスライドすると、温度が低くなります。

• 助手席側温度調節

- 独立モードの場合：助手席側の温度を調節します。
- 連動モードの場合：助手席側の温度を調節し、連動モードを OFF にして独立モードに切り替わります。
- エアコン操作画面内の上側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら下へスライドすると、温度が高くなります。下側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら上へスライドすると、温度が低くなります。
- 最低温度に調整した場合は、「Lo」と表示します。最高温度に調整した場合は、「Hi」と表示します。

風量調節

- スワイプして希望の風量調節に調整できます。左から右に動かすほど風量が強くなります。

DUAL

- タッチすると、独立モードと連動モードを切り替えます。
- 独立モード：運転席側と助手席側の温度を個別に設定できます。独立モードを選択するとアイコンが点灯します。
- 連動モード：運転席側温度調節で、運転席側と助手席側の設定温度を同時に調節できます。連動モードの場合は、アイコンが灰色になります。
- 連動モードで助手席側温度調節ボタンを操作すると、自動的に独立モードに切り替わります。

外気導入/内気循環ボタン

- 外気導入/内気循環ボタンをタッチすると、 アイコンが表示され、内気循環になります。
- 再度外気導入/内気循環ボタンをタッチすると、 アイコンが表示され、外気導入になります。

吹き出しモード選択ボタン

- エアコン操作画面内の矢印をタッチすると、希望の吹き出しモードを選択できます。
- 吹き出しモードは自由に組み合わせることができ、希望に応じて吹き出しモードを3つまで同時に ON することができます。
- 以下の吹き出しモードのイメージで調節することができます。

上半身送風 ➡ : 主に上半身へ送風します。

足元送風 ↓ : 主に足元へ送風します。

デフロスター  : 主にフロントガラスおよびウィンドウガラスに送風します。



エアコンのスマート操作について

リモートキーでのエアコン操作

- ドライバーはリモートキーを使ってエアコンをつけることができ、事前に快適な室内環境を用意することができます。

音声制御でのエアコン操作

- ドライバーはステアリングホイール上の音声制御ボタンを操作する、または直接「ハイ、BYD」と呼び出した後、音声制御でエアコンの設定を操作できます。

Bluetooth でのエアコン操作

- ドライバーは「BYD」APP の Bluetooth 制御画面で近くからエアコンをつけることができ、事前に快適な室内環境を用意することができます。

クラウドサービス APP でのエアコン操作

- ドライバーは「BYD」APP の制御画面でエアコンをつけることができ、事前に快適な室内環境を用意することができます。

ご利用要領

- 車内の温度が高い場合は、車内の温度を素早く下げるために窓を開けて数分間運転してください。熱気を車外へ出すことで、素早く車内を冷やすことができます。
- フロントガラス前のエアインレットグリルが、(落ち葉や雪などで) 詰まっていないことを確認してください。
- 湿気が多いときはフロントガラスに冷風を吹き付けしないでください。フロントガラスの車内外での温度差によりフロントガラスが曇り、視認性が悪くなります。
- 車内の空気が循環できるように、フロントシートの下に荷物を置かないでください。
- ウィンドウガラスの曇りを低減するため、寒いときはエアコンの風量を強の方に設定して 1 分間稼働し、吸気経路にある雪や湿気を取り除いてください。
- ほこりが多い道路で他車の後ろを走行する場合、または風とほこりがある状況で走行する場合は、すべてのウィンドウガラスを閉めることをおすすめします。ウィンドウガラスを閉めても走行中に発生したほこりが車内に入るときは、エアコン管理モードを内気循環に設定し、風量を「0」以外の任意の位置に設定することをおすすめします。
- 車内の温度を素早く下げるには温度を「Lo」に調節し、内気循環モードで数分間エアコンを稼働してください。
- 寒いときは、車内の温度を素早く上げるために内気循環で数分間エアコンを稼働します。フロントガラスが曇らないように、車内が暖まったら外気導入にします。

- 暖房運転時、エアコン ON/OFF アイコンを押してアイコンが点灯（エアコンを ON）すると、空気中の湿気を減らすことができます。
- 換気モードでは、車外の自然な空気を車内に導入するため、春や秋の運転に適しています。

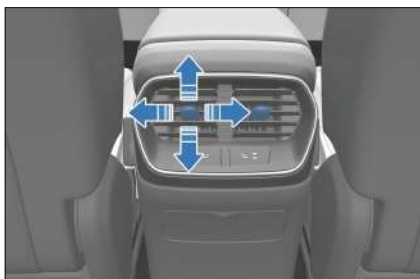
吹き出し口

- 上下方向に吹き出し口のノブを操作すると、風の向きを調節することができます。
- 左右方向に吹き出し口のノブを操作すると、吹き出し口の向きや吹き出し口の開閉をすることができます。

フロントサイド吹き出し口



リア吹き出し口



空気清浄システム

空気清浄システムは、車内の PM2.5 を清浄します。この機能により、エアコンを ON に

して車内に送り込まれた空気中の PM2.5 をきれいに取り除きます。

空気清浄操作画面

- ① 空気清浄操作画面のアイコン
- ② PM2.5 検出
- ③ 急速清浄
- ④ マイナスイオン



PM2.5 検出ボタン

- アイコンをタッチすると、車内と車外の空気の PM2.5 値を同時に検出します。マルチメディアに車内と車外の空気の PM2.5 検出値とレベルがリアルタイムで表示されます。再度アイコンをタッチすると、PM2.5 検出機能が OFF になります。

急速清浄

- アイコンをタッチするとアイコンが点灯し、急速清浄機能が ON になります。再度アイコンをタッチすると、急速清浄機能が OFF になります。

マイナスイオン

- アイコンをタッチすると、マイナスイオン発生器が作動します。再度アイコンをタッチすると、マイナスイオン発生器が停止します。

！ お願い

- 車載 PM2.5 検出器で車両周辺の空気から検出した数値は、短時間内の PM2.5 濃度です。国および関係政

❗ お願

府部門が発表した日報、またはリアルタイムに発表した空気中のPM2.5濃度と異なります。

- 下記の環境では、PM2.5検出の使用頻度を下げてください。
 - 砂嵐などの極めて過酷な環境。
 - 寒冷地（周囲温度<-20℃）。
 - 高湿度な環境（相対湿度>90%）。
 - 寒い環境から暖かい室内や駐車場に入るなど温度変化を繰り返す環境（結露しやすい）。
- 内気循環モードで最大風速にすると、車内空気中の微粒子濃度を素早く下げることができます。
- エアコンから発生する異臭を改善するため、エアコン作動状態で電源ポジションを「OFF」にして施錠すると、エアコンのファンがしばらく作動を続けることがあります。これは、エバポレーター表面の結露を乾燥させてエバポレーター表面のカビによる異臭を避けるためです。車両施錠後も、エアコンのファンが自動的に作動していても異常ではありません。

BYD App

BYD APP の紹介

- BYD APP は、BYD が自ら開発した車両のインターネット関連モバイル APP で、遠隔制御や車両状況チェックなどの機能を手軽に実行でき、お客様を車のインターネットクラウド時代に導いてくれます。
- GooglePlay 市場または AppStore でキーワード「BYD」を検索して、BYD APP

をダウンロード・インストールしてください。

アカウント登録

BYD APP をダウンロードしてインストールした後、携帯電話の案内または次の手順に従って、登録およびアカウントへのサインインを行います。

1. APP を立ち上げて [登録] をタッチし、「登録」画面に入ります。
2. ご購入の際にディーラーで登録したメールアドレスを入力して [メールを送信] をタッチし、キャプチャ認証文字を取得します。その後 APP に戻りキャプチャ認証文字を入力します。
3. サインインパスワードの設定画面に入ってパスワードを設定した後、[登録完了] をタッチするとメイン画面に入ります。

⚠ 注意

- 必ずディーラーで登録したメールアドレスを入力してください。そうしないと、登録が完了できません。
- APP 右上で国を選択することができます。初期設定はお客様の携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域となっています。ご購入先の地域が携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域に一致していない場合は、ご購入先の地域を選択してください。そうしないと、お客様のデータを取得できません。

車両状態および車両制御システム

APP トップページに入ると、車両に関する情報や該当の制御項目を調べることができます。

1. トップページでは、車両の航続可能距離、バッテリー残量、異常情報、走行状態、充電状態、エアコン作動情報、ドア・ウィンドウガラスの状態、シートヒーターの状態、タイヤ空気圧の異常有無などを調べることができます。
2. 施錠、解錠、バッシング・ホーン鳴らし、バッシングの4つのアイコンのいずれかをタッチすると、該当の機能を直接制御することができます。
3. エアコンは、トップページで ON/OFF ができ、カードをタッチすることでエアコン制御画面に入り、温度などを設定することができます。
4. シート、ドアとウィンドウ、タイヤ空気圧は、トップページ下側の各制御項目をタッチして該当の画面に入り、状態を調べることができます。
5. お客様の同一アカウントに複数台の車両が登録されている場合は、車両名称をタッチすることで車両を切り替えることができます。



注意

- APPの制御機能は主に遠隔制御シーンに対応するものであり、当該機能を利用する際は、携帯電話と車両をインターネットに接続している状態にしてください。

個別センターおよび車両管理

トップページのマイページをタッチすると、個別センター画面を表示することができます。

- 車両カードの右上のアイコンをタッチして車両管理にアクセスすると、車名とナンバーを変更できます。
- アカウントとセキュリティに入ると、パスワードのリセットまたは変更ができます。

- 設定に入ると、プッシュ通知の対象項目の選択や自動ログインなどの機能を ON/OFF できます。
- 当社についてに入って、プライバシーポリシーをご覧ください、ご意見のフィードバックをお願いします。

収納ボックス

モータールーム収納ボックス

- ボンネットを開けると、小物を収納するためのモータールーム収納ボックスがあります。



ドアポケット

- それぞれのドアには、ペットボトルや小物などを格納するためのドアポケットが付いています。

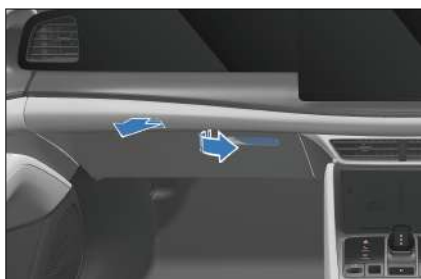


05

車内装置

グローブボックス

- ・ ノブを引くと、グローブボックスを開けることができます。
- ・ グローブボックスを押し上げると、閉めることができます。



! お願い

- ・ 思わぬ事故や急ブレーキ時に怪我をする可能性を減らすため、運転時はグローブボックスを閉めてください。

センターコンソールボックス

- ・ センターコンソールの下には小物を収納できるセンターコンソール収納ボックスがあります。



センターコンソールボックス

- ・ インストルメントパネルセンターボックスの下側、センターコンソールの前方にあるボックスの蓋を開けると使えます。



! お願い

- ・ 走行中は、フロント側センターコンソールボックスを閉めてください。

カップホルダー

フロントカップホルダー

フロント昇降式カップホルダー

- ・ 下降：カップまたはカップホルダーの底部を直接押すと、カップホルダーが98mmほど下がります。
- ・ 上昇：解錠ボタンを押すと、カップホルダーが元の位置に戻ります。



リアカップホルダー

1. リアシートセンターアームレストを反転します。
2. カップホルダーカバーのスイッチをお酢と自動で開きます。



注意

- 液体などによるやけどを防ぐためカップホルダーを使うときは急発進や急ブレーキをしないでください。
- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかりと蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れないでください。
- 運転中は、カップホルダーから飲み物を出し入れしないでください。前方不注意により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- カップホルダーの内側を清潔に保ち、細かい砂、砕けた葉、ひまわりの種の殻などがカップホルダーの内側に入らないようにしてください。

シートバックポケット

- ・フロントシートバックには、雑誌、新聞などを入れるためのシートバックポケットが付いています。

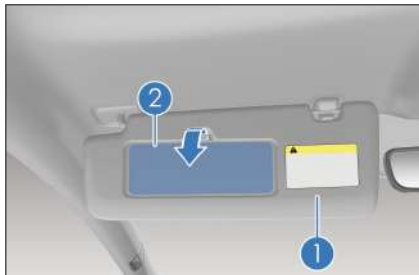


車内のその他の装置

サンバイザー

①サンバイザー

- ・前方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下方方向に操作してください。
- ・側方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下げた状態でフックから外して横へ回します。



②バニティーミラー

- ・バニティーミラーを使うときは、サンバイザーを下方方向に操作し、バニティーミラーの蓋を下ろします。



お願い

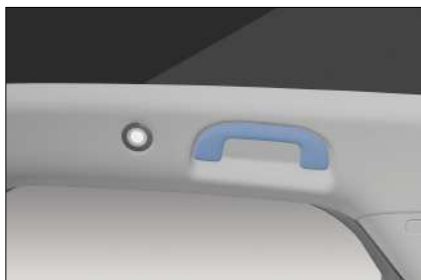
- ・正しく適切にサンバイザーを使うと、運転時の快適性や安全性を向上させることができます。

05

車内装置

アシストグリップ

- アシストグリップを使うときは下に引き、使わないときは手を離すと自動的に戻ります。



⚠ 注意

- 怪我やアシストグリップの破損を避けるため、アシストグリップに重量物をかけないでください。

12V アクセサリー電源

- 作動電圧 DC12V、かつ作動電流が 10A までのアクセサリに対応します。
- 12V アクセサリー電源を使うときは、カバーを開けて車両の電源ポジションを「OK」にしてください。



⚠ 注意

- フューズ切れを防ぐため、電気使用量が車の総負荷 12V/120W を超えないでください。
- 起動バッテリーが切れることを防ぐため、駆動モーターが稼働していない場合は、長時間 12V アクセサリー電源を使わないでください。
- 12V アクセサリー電源を使わない場合はカバーを閉じてください。また、電気のトラブルを引き起こすおそれがあるため、適切なプラグ以外を 12V アクセサリー電源に差し込んだり、液体が侵入したりすることがないようにしてください。

USB ポート

フロント側 USB ポート

- フロント側 USB ポートは、センターコンソール下の運転席側に位置しています。

①Type-C データ伝送インターフェース

②Type-A データ伝送インターフェース



⚠ 注意

- フォーマット形式 FAT32、ExFAT、NTFS、メモリ容量が 8~128G の USB デバイスを使用してください。

⚠ 注意

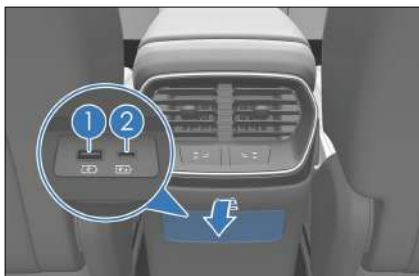
- ・本マルチメディアシステムまたはユーザーの USB デバイスに入っているデータの破損を避けるため、特別な USB デバイスを許可なく使用しないでください。

リア側 USB ポート

- ・リア側 USB ポートは、センターコンソールボックスの後部にあり、カバーを押すと開きます。

①Type-A 充電ポート

②Type-C 急速充電ポート



- ・使用時は、事前に車両の電源ポジションを「OK」にしてください。

ワイヤレス充電エリア

- ・スマートフォン用のワイヤレス充電エリアはセンターコンソール前部にあります。車両の電源ポジションを「ON」にした状態で携帯電話の画面を上向きにしてワイヤレス充電エリアに置くと、携帯電話が自動的にワイヤレス充電モードに入り、マルチメディア画面に充電アイコンが表示されます。
- ・マルチメディア画面の上部にあるステータスバーをプルダウンして「車両コントロール」画面を開き、 をタッチすることで、ワイヤレス充電の ON/OFF を設定することができます。



- ・ワイヤレス充電機能は、すべての携帯電話に対応しているわけではなく、Qi 認証取得済みの携帯電話のみに対応しています。
- ・ワイヤレス充電機能は、コイルを介して電磁誘導で電気エネルギーを携帯電話のバッテリーに送り、電源ケーブルを使わずに携帯電話を充電するものです。

⚠ 注意

- ・ワイヤレス充電機能が作動しているときは、リモートキーをワイヤレス充電エリアから 25cm 以内に置かないでください。
- ・事故にかかわるワイヤレス充電機能の異常を避けるため、コインや金属キー、金属リング、金属成分を含んでいる他のものを、携帯電話と一緒にワイヤレス充電エリアに置かないでください。
- ・充電エリアの破損を避けるため、充電エリアには重量物を置かないでください。
- ・ワイヤレス充電機能が故障して正常に使えないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ・誤った使い方による問題について、当社はいかなる責任も負いません。製品の解体や改造があった場合、無償保証サービスが受けられなくなります。

注意

- 安全上の問題につながるおそれがあるため、ドライバーが車内にいない状態で携帯電話を充電しないでください。
- 運転中は、携帯電話の充電状況を確認しないでください。交通事故につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電時に携帯電話とゴムパッドの間に金属製の異物が入っている場合、やけどのおそれがあるためすぐに異物を素手で取り除かないでください。
- より良い充電効果を得るためには、携帯電話のコイルの中心をワイヤレス充電器の中心（充電エリアの印字部）に合わせてください。
- 充電エリアに水がかからないようにしてください。水がゴムパッドの間からワイヤレス充電器に侵入し、充電器が故障するおそれがあります。
- 温度が高すぎると携帯電話の充電が止まることがあります。温度が下がると充電が再開します。
- ワイヤレス充電システムは、「Qi」公式認証を受けた携帯電話の充電に対応しています。「Qi」公式認証を受けていない携帯電話の場合は、正常に充電できる保証がありません。
- 外付けのワイヤレス充電コイルによる不具合について当社は一切保証できませんので、注意してご使用ください。
- カードの焼損を防ぐため、充電中はキャッシュカードなどのチップ付きカードを携帯電話ケースと携帯電話の間に入れないでください。

お願い

- 一度に1台の携帯電話しか充電できません。
- 携帯電話ケースが厚すぎる場合は、充電できないことがあります。
- マルチメディアでワイヤレス充電機能のON/OFFを設定することができます。
- 悪路を走行中は、ワイヤレス充電機能が充電停止と充電再開を繰り返すことがあります。
- 可能な限り、携帯電話の裏側を充電モジュールと密着するように置いてください。携帯電話がワイヤレス充電エリアからずれて充電が止まったときは、携帯電話をワイヤレス充電エリアに戻してください。
- 携帯電話が正常に充電できないときは、始めにワイヤレス充電エリアに異物がないか確認し、ワイヤレス充電エリアが冷えてから充電を再開してください。それでも充電できないときは、BYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 車両の電源ポジション「OFF」後、携帯電話がワイヤレス充電エリアにある状態で運転席側ドアを開けると、コンビネーションメーター内のブザーが1回鳴り、「携帯電話置き忘れ注意」のメッセージが5秒ほど表示されます。

06

お手入れとメンテナンス

メンテナンスについて.....	170
定期メンテナンス.....	174
セルフメンテナンス.....	178

メンテナンスについて

メンテナンス周期およびメンテナンス内容

車両メンテナンス計画

- ・メンテナンス計画は、安定した走行、故障の低減、安全運転およびエコ運転を実現するために設計されています。
- ・メンテナンス周期表には、車両を常に最適な状態に保つために必要なすべてのメンテナンス項目を記載しています。
- ・これらは特に重要なメンテナンス項目であるため、それぞれのメンテナンス間隔がメンテナンス周期表に記載されています。
- ・メンテナンス項目に記載されているホースに劣化や破損などが起きた場合は、直ちに交換してください。ホース（冷暖房システム、ブレーキシステムなどに使われるホース）は、メンテナンス周期表に

メンテナンス周期表

メンテナンスは、走行距離と使用時間のうち、いずれか早い方に準じて行います。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
シャーシ各部固定ネジの確認および締付	12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換
ブレーキパッドとディスクの確認	12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
ブレーキペダルと電動パーキングブレーキスイッチの確認	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 24 ヶ月、または 40000km で点検。その以後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
ブレーキシステムのラインおよびホースを確認	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 24 ヶ月、または 40000km で点検。その以後は 24 ヶ月、または

従い、専門の技術者に点検を依頼してください。

メンテナンス計画について

通常のメンテナンス周期表に従って、車両のメンテナンスを実施してください。

下記の状況が 1 つ以上当てはまる場合は過酷な使用条件となるため、一部項目のメンテナンス周期が異なります。

- ・路面状況
 - ・悪路、ぬかるんだ路面、融雪路
 - ・ほこりの多い路面
- ・運転状況
 - ・キャンピングトレーラーまたはルーフキャリア*を使用して、車両全体をけん引したことがある。
 - ・外気温が 0℃以下で、8km 以内で短距離走行を繰り返している。
 - ・パトカー、タクシー、荷物輸送車両などで長時間アイドリング、低速での長距離走行をしている。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
	40000km 毎に点検過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
ブレーキキャリパー ASSY のガイドピンを確認	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検
ステアリング、タイロッドの点検	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検
ドライブシャフトダストブーツの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
ボールジョイントダストブーツの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
前後サスペンションの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
前後輪アライメントの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
タイヤと空気圧の確認 (TPMS を含む)	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検。異常や破損がある場合は早めに交換
タイヤの摩耗状況を確認 (毎月 1 回以上空気圧とタイヤを点検)	メンテナンス時に点検を行い、必要に応じてタイヤローテーションを実施。過酷な使用条件の場合、点検の頻度を増やし、必要に応じてタイヤローテーションを実施
ホイールベアリングの遊びを確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検。過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検
EPS グラウンドに異物や焼損がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換

メンテナンス項目	メンテナンス周期
EPS コネクタの緩みがないか、コネクタのピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
EPS ECU が腐食していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
EPS ECU とモーターの接続に異物や腐食がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
サブタンクのクーラントレベルを確認	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
ブレーキフルードの点検	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
車両モジュールの故障コードを確認 (記録後にクリア)	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
パワーバッテリートレイ、クラッシュバー、ガード、防爆バルブ、断熱綿、取付部のトルクを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
パワートレインに液漏れや衝突などがないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
高電圧ワイヤーハーネスまたはコネクタの緩みがないか、ピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
高電圧モジュールの外観部品の变形、油の付着の有無を確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
各充電コネクタのインターフェースに異物、焼損などがないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
高電圧部品に浸水の痕跡がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
車両モジュールのソフトウェアのアップデートがないか確認し、あればアップデートする	初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検。破損がある場合は早めに交換
電球と LED が正常に点灯しているかを確認	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検。その後は 12 ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ハイビームアシストが正常かを 確認	12ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
ロービームの高さ調整が正常かを 確認	10000km 毎に校正
高性能フィルターの点検*	12ヶ月、または 20000km 毎のいずれか早い方に準じて定期点検、必要に応じて交換。環境が極端に悪い地域では、6ヶ月毎に点検し必要に応じて交換
ドアストッパーの点検。湿らせた柔らかい布でチェックロッドのほこりを取り除き、チェックロッド、リベットジョイント、回転軸に 0.3~0.8g のグリスを塗布	12ヶ月、または 20000km 毎に点検。異常や破損がある場合は早めに交換
ボンネットロックおよびストライカーを確認	12ヶ月毎に点検
ワイパーアームロックナットのトルクを確認	12ヶ月、または 20000km で点検。異常や破損がある場合は早めに交換
パワーモーター冷却水の交換	4年、または 100000km 毎にロングライフ有機酸系クーラントを入れ替え。いずれかの早い方に準ずる
ブレーキフルードの交換	2年、または 40000km 毎に入れ替え
ディファレンシャルオイルの交換	初回は 24ヶ月、または 40000km で、その後は 24ヶ月、または 48000km 毎に交換
ご注意：1項目目を点検するとき、シャーシ各部固定ネジの確認および締付の点検をするとき、シャーシ部品に異常や破損が見つかった場合は、早めに交換してください。	

❗️ お願い

- ・パワーバッテリーセルフキャリブレーションとは、パワーバッテリーを最適な状態に保つため、定期的（最小6ヶ月、または 72000km で、いずれか早い方に準ずる）にフル放電とフル充電を行い、バッテリーの自己校正による活性化を目的とするものです。普段車両の利用頻度が低く、15~100%の充電をされない方は点検を受けてください。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サー

❗️ お願い

ビス工場にバッテリー容量のテストおよび校正を依頼してください。

過酷な使用条件とは：

- ・ほこりの多い地域を走行する、または塩分を含む空気にさらされる場合。
- ・デコボコした道路、浸水した道路や山道を走行する場合。
- ・寒冷地を走行する場合。
- ・頻繁にブレーキをかける、または急ブレーキをかける場合。

- ・ 頻繁にトレーラーをけん引する場合。
- ・ タクシーとして使用する場合。
- ・ 32℃以上の気温で交通量の多い市街地を走行する時間が、総走行時間の 50%を超える場合。
- ・ 30℃以上の気温、120km/h 以上の速度で走行する時間が、総走行時間の 50%を超える場合。
- ・ 頻繁にフル積載で走る場合。

定期メンテナンス

定期メンテナンス

- ・ 車両を最適な稼働効率で運転して故障の発生を減らすため、メンテナンス周期表に従ってメンテナンスを実施してください。
- ・ メンテナンスの間隔は、メンテナンス周期表を参照して走行距離や時間間隔に合わせて判断し、いずれかの早い方に準じます。
- ・ 期限を過ぎたメンテナンス項目も、同じ時間間隔でメンテナンスを行う必要があります。
- ・ メンテナンス作業は BYD の基準および規格に従い、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で実施してください。
- ・ メンテナンス周期表に記載されている点検項目および走行時間や走行距離は、車両を通常の交通手段として乗員や荷物の搬送に使用する用途を想定して設定しているため、過積載がないようにしてください。

注意

- ・ BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、

注意

車両メンテナンスを定期的 to 実施してください。

車両の点検

- ・ 車両の性能や音の変化、および点検が必要であることを示す直観的な兆候に注意してください。下記の状況が発生した場合は、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で車両の点検や修理を依頼してください。
- ・ モーター始動時の異音。
- ・ 冷却水の高温状態が続いている、冷却水が流れない、水漏れ。
- ・ モーターの引っかかりおよび異音。
- ・ モーター回転時の激しい振動。
- ・ モーターが始動できない。
- ・ 電動パワートレインからのオイル漏れ。
- ・ 電動パワートレインからの異臭。
- ・ 動力が明らかに弱まっている。
- ・ 車両下部からの水漏れ（エアコンからの水は異常ではない）。
- ・ タイヤの空気漏れ、コーナリング時の過度なタイヤのノイズ。不均一なタイヤ摩耗。
- ・ 平坦な道を直進中に車両が片側に流れる。
- ・ サスペンションの動きに伴う異音。
- ・ ブレーキが効かない、ブレーキペダルが軽い、ペダルが床に接触する、ブレーキをかけたときに車両が片側に流れる。
- ・ モーター冷却水の温度が高い状態が続いている。
- ・ バッテリー容量が明らかに下がっている。

- ・バッテリーの高温状態が続いている、過熱保護が作動し、電力が出力されない。



警告

- ・未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせるおそれがあります。

車両の防食について

車両腐食でよくある要因：

- ・車両の下にアルカリ性の土壌、ほこりや湿気が付着する。
- ・湿度の高い環境、または車両のある部位が長期間高温高湿にさらされる。
- ・軽微な衝突、または小石や砂利で塗装や下地が傷付く。

車両腐食を防ぐために、下記のルールを守ってください。

- ・こまめに洗車する。
 - ・冬場に塩分のある路上を走行する、または海沿いに住んでいる場合は、毎月1回以上、土や泥がよく付着する箇所を洗浄してください。高圧洗浄機や蒸気でシャーシとホイールハウスを洗浄することで腐食を軽減します。冬が終わったら、シャーシ部分を徹底的に洗浄してください。
- ・ボディーの塗装とアクセサリを点検する。
 - ・塗装の破片や塗装割れがある場合は、腐食を防ぐためにただちに補修してください。塗装剥れがある場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で補修してください。
- ・車内を点検する。
 - ・水分やほこりがカーペット下に堆積すると腐食につながるため、カーペット下をよく点検し、これらの部位を乾燥状態に保ってください。

- ・化学品、洗浄剤、化学肥料、塩などを運ぶ場合は、注意しながら適切な容器で運んでください。あふれたり漏れたりしたときはすぐに洗浄して乾かしてください。

- ・マッドガードを使用する。
 - ・アルカリ分が多い地域または砂利舗装路を走る場合は、マッドガードで車両を保護してください。マッドガードは、寸法が大きく地面に近いほど効果があります。
- ・十分に換気された乾燥した場所に駐車してください。

塗装メンテナンスのお願い

- ・色違いや配合不良を防ぐため、塗装に明らかな擦り傷がない場合は、安易に再塗装しないでください。
- ・長期間車両を放置する場合は、車庫や風通しの良いところに駐車してください。また、冬場は専用のボディーカバーで覆ってください。一時的に駐車するときは、直射日光が当たらない涼しい場所を選んでください。
- ・ボディーの塗装への強い衝撃を避け、当たり傷や擦り傷などを防いでください。塗装に傷、へこみ、剥がれがあるときは早めに補修するため、可能な限り専門のカーケアショップで補修してください。
- ・化学反応を避けるため、油が付いている手や布でボディー塗装の表面を触ったり塗装の表面を拭いたりする、または油が付いている工具や有機溶剤を含んだ布をボディーの上に置かないように注意してください。
- ・毎月1回、またはボディー表面の撥水性が落ちている場合は、車用ワックスを塗布して定期的に（四半期毎に1回）手入れを行い、早めにボディー塗装の輝きを取り戻してください。
- ・高品質の艶出し剤とカーワックスを使用し、ボディーに艶がないときはカーワ

06

お
手
入
れ
と
メ
ン
テ
ナ
ン
ス

クスとは別にカークリーニング艶出し剤を使用してください。使用するときは、メーカーの説明および防止対策をきちんと守り、クロムメッキ面と塗装面には必ず艶出しと車用ワックスを塗布してください。

注意

- ・再度塗装が行われ、かつ高温の塗装ブースに置く間は、高温によりバンパーを破損させるおそれがあるため、車両の樹脂製バンパーを取り外してください。

洗車

- ・下記の場合は、塗装剥がれまたはボディーや部品の錆びを引き起こすおそれがあるため、早めに車両を洗浄してください。
- ・沿海部を走るとき。
- ・凍結防止剤をまいている道路を走るとき。
- ・コーラタールが付いている道路を走るとき。
- ・樹脂、鳥の糞や虫の死骸が付いたとき。
- ・煙塵、石炭灰、ほこり、鉄くずや化学物質を大量に含んでいる地域を走るとき。
- ・ほこりや泥で車両が明らかに汚れているとき。
- ・雨が降った後。

手洗い洗車をするとき

日が当たらない涼しい場所に車両を止め、車両が十分に冷えてから洗車をします。

1. ホースで表面の汚れを洗い落とし、下回りやホイールの奥に付いているすべての泥や塩分汚れをきれいに洗い落とします。

2. 中性洗剤で洗浄する場合は、洗剤の取扱説明書に従って洗剤を混ぜ合わせてください。柔らかい布に洗剤を浸け、水が流れる方向に上から下へ拭きます。円を描くように拭いたり横方向に拭いたりしないでください。
3. 洗剤が乾くと痕が残るため、水で十分に洗い落とします。夏場に洗車した際は、洗車後に水で各部分をきれいに洗い流します。
4. 水垢が残らないように、清潔な柔らかいタオルでボディーの水分を拭き取ってください。また、塗装が傷付くおそれがあるため、強く拭いたり押し付けて拭いたりしないでください。

お願い

- ・強アルカリ性の粉石鹼、石鹼水、洗剤、脱脂洗浄剤、有機物質（ガソリン、灯油、揮発油、または強溶剤）を使わないでください。
- ・ランプの清掃を行うときは、アルコール類（アルコール、ウォッシュ液など）、ケトン類（シンナー、虫取りクリーナーなど）、その他の化学溶剤（ガソリン、シンナー、四塩化炭素など）を使用してランプの表面を拭かないでください。ランプカバーに亀裂が入るおそれがあります。
- ・沿海部や汚染が深刻な地域で走る車両については、毎日1回の洗車をすすめます。
- ・ボディーの汚れをカッターで削ったり、ガソリンで洗わないでください。有機物質によって、プラスチック製ホイールトリムが損傷します。有機物質がホイールトリムに付いた場合は、必ず水で洗い流してから部品の傷みがないかを点検してください。著しい破損があるプラスチック製ホイールトリムは、移動中にホイールトリムが外れて事故を起こすおそれがあるため、早めに交換してください。

！ お願い

- ・研磨剤を含んだ洗剤でバンパーやランプを拭かないでください。
- ・メッキ処理の金属部品の洗浄は、専用の洗剤を使って定期的に専用ワックスを塗布することをおすすめします。

自動洗車をするとき

塗装面に傷が付くおそれがあるため、自動洗車機で洗車する場合は、ブラシのタイプ、ろ過されていない洗浄水、または洗車機に設定された洗浄プログラムに注意してください。特に色が濃い車両は、塗装表面の擦り傷により塗膜の耐久性や光沢度が低下します。可能な限り、洗車前に洗車専門店のスタッフに問い合わせて、塗装面に最も安全な洗車プログラムを確認してください。

車内の清掃

！ お願い

- ・内外装を洗浄する場合は、水が直接インストルメントパネルや床、近くの電気部品に流れ込まないようにしてください。水の侵入により機能の異常につながるおそれがあります。
- ・ボディー腐食を避けるため、水で車両の床を洗浄しないでください。

カーペット

- ・高品質の泡タイプの洗剤でカーペットを洗浄してください。
- ・まずは、掃除機でほこりをきれいにできるだけ吸い取ります。泡タイプの洗剤は数種類あり、スプレー、水と混合して泡を発生させる粉末や液体のタイプもあります。泡立てたスポンジやブラシで、カーペットに円を描くようにこすりながら洗浄します。

- ・水を使わず、できるだけカーペットを乾燥状態に保ってください。

シートベルト

- ・シートベルトは、中性石鹸水やぬるま湯でクリーニングすることができます。
- ・スポンジや柔らかい布でシートベルトを拭きます。洗浄中に、シートベルトに過度な摩耗、破れや切れがないかを点検してください。

！ 注意

- ・シートベルトの強度が落ちるおそれがあるため、染色剤や漂白剤でシートベルトを洗浄しないでください。
- ・シートベルトは、乾燥するまで使わないでください。

ドアおよびウィンドウガラス

- ・ドアおよびウィンドウガラスは、一般家庭用の洗剤で洗浄できます。
- ・定期的にドアチェッカーを点検してください。ドアチェッカーのロッドにほこりが付着している場合は、水で濡らした布でドアチェッカーのロッドを拭いて、表面のほこりを落としてください。

！ 注意

- ・リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。

エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチ

- ・エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネル、スイッチは、水で濡らした柔らかい布で拭きます。

- ・水やぬるま湯で濡らしたきれいな布でほこりを軽く拭き取ります。

注意

- ・表面の変色、シミや剥がれにつながるおそれがあるため、有機物質（溶剤、灯油、アルコール、ガソリンなど）、酸性やアルカリ性溶液を使わないでください。
- ・洗剤や艶出し剤を使う場合は、その組成に上記の物質を含んでいないことを確認してください。
- ・新規の液体洗剤を使う場合は、液体を車内の表面にこぼさないでください。液体に上記の成分を含んでいる可能性があるため、液体をこぼしたときは、素早くきれいに拭き取ってください。

車内の人工皮革部分

- ・人工皮革部分は、毛織物に使える中性洗剤で拭きます。
- ・中性洗剤の溶液を浸けた柔らかい布でほこりを拭き取ってから、水で濡らしたきれいな布で残りの洗剤を完全に拭き取ります。
- ・洗浄後または人工皮革が濡れている場合は、清潔な柔らかい布で水分を拭き取り、風通しが良い涼しいところで人工皮革を乾かします。
- ・車両の洗浄についてご質問がある場合は、現地の BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

注意

- ・中性洗剤で汚れが取れない場合は、有機溶剤を含まない洗剤で洗浄することができます。
- ・揮発油、アルコール、ガソリン、酸性やアルカリ性溶液などの有機物質で、人工皮革を洗浄しないでください。

注意

い。人工皮革の色落ちの原因になります。

- ・ナイロンブラシや人造繊維製の布などを使うと、人工皮革表面の模様が傷付きます。
- ・汚れている人工皮革部分はカビが生えることがあります。特に油污れに注意し、人工皮革部分を常に清潔に保ってください。
- ・長時間日光に当たると、人工皮革の表面が固くなったり縮むことがあります。特に夏場は、日が当たらない涼しい場所に駐車してください。
- ・夏の暑い時期は車内の温度が上昇しやすいので、人工皮革部分の上には、ポリエチレン製やワックスを含む材料で作られたものを置かないようにしてください。これらのものは、高温になると人工皮革に固着します。

・ s

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス上のご注意

- ・メンテナンスをご自身で行う場合は、本章に記載されている手順で正しくメンテナンスをしてください。
- ・不適切で不完全なメンテナンスは、車両の正常な使用に影響を与えます。
- ・本章には、ユーザーが実施できるメンテナンスのみを記載しています。そのため、資格のある技術者が専用工具を使って作業する必要があるメンテナンス項目は、数多くあります。

- ・メンテナンスを実施する場合は、思わぬ怪我を防ぐために下記のいくつかの注意事項を必ず守ってください。

警告

- ・火傷を防ぐため、モーターが高温のときはサブタンクカバーを外したり緩めたりしないでください。
- ・発火の原因となる火花や裸火を避けるため、車内や車体の近くでは喫煙しないでください。
- ・起動バッテリーを扱う際は特に注意してください。起動バッテリーには有毒で腐食性の硫酸が含まれています。
- ・ジャッキだけで車両を持ち上げているときは、車両の真下や横に立たないでください。必ずリジトラックまたはその他の頑丈な支持台で車両を支えてください。
- ・車内や車外を問わず、異物や液体が目に入らないように、作業時は保護メガネをかけてください。
- ・ブレーキフルードは皮膚や目を傷めるため、ブレーキフルードを注入する場合は注意してください。ブレーキフルードが皮膚や目に付着したときは、ただちに水で付着部位を洗い流してください。まだ、手や目に痛みなどがあるときは、ただちに医師の手当てを受けてください。

注意

- ・車両の一部回路や部品には高電流や高電圧が掛かっているため、ショートさせないように細心の注意を払ってください。
- ・冷却水があふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、乾燥した布や紙できれいに拭き取ってください。

注意

- ・ブレーキフルードがあふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、水できれいに洗い流してください。
- ・ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーでガラス表面に傷が付かないようにしてください。
- ・ボンネットを閉めるときは、工具や布などがモータールーム内に残っていないかを点検してください。

点検

使用状況や推奨の走行距離に従い、下記の項目を点検してください。

- ・ウォッシュ液——毎月1回リザーブタンクのウォッシュ液の残量を点検してください。悪天候で頻繁にウォッシュ液を使った場合は、充電のたびにウォッシュ液の残量を点検してください。
- ・フロントガラスワイパー——毎月1回ワイパーを点検してください。ワイパーがフロントガラスをきれいに拭き取れない場合は、摩耗、亀裂やその他の損傷がないかを点検してください。
- ・ブレーキフルードレベル——毎月1回レベルを点検してください。
- ・ブレーキペダル——ブレーキペダルがスムーズに操作できるかを点検してください。
- ・電動パーキングブレーキスイッチ——スイッチが正常に機能していることを点検してください。
- ・起動バッテリー——毎月1回バッテリーの状況および端子の腐食状況を点検してください。
- ・空調システム——毎週エアコン装置の稼働状況を点検してください。
- ・タイヤ——毎月1回タイヤ空気圧を点検してください。タイヤトレッドの摩耗状

況および異物の挟み込みがないかを点検してください。

- ・ガラスデフロスター——毎月、暖房装置やエアコンを使うときは、デフロスター装置の吹き出し口を点検してください。
- ・ライト——毎月1回ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト、ハイマウントストップランプ、ターンシグナルランプ、リアフォグランプ、ブレーキランプおよびリアライセンスプレートランプの状況を点検してください。
- ・ドア——トランクリッドおよび他のドア（リアドアを含む）のスイッチが、すべて確実にスムーズに施錠できるかを点検してください。
- ・ホーン——ホーンに異常がないかを点検してください。

❗ お願い

- ・未点検の車両を運転しないください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせるおそれがあります。

コンビネーションランプ

フロントコンビネーションランプの光軸調整

- ・工場出荷時、フロントコンビネーションランプの光軸調整が行われています。重い荷物を運ぶことが多い場合は、新たにフロントコンビネーションランプの光軸調整を行う必要があります。フロントコンビネーションランプの光軸調整については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

ライトの曇り

- ・大雨や洗車後、コンビネーションランプ、テールライト、またはドアミラーのターンシグナルランプに曇りが発生することがあります。これは、雨天時に車内側のフロントガラスが結露することと似ていますが、故障ではありません。

- ・ライトは、空間が相対的に密閉しており狭く、かつ点灯時の温度が高いため（レンズ、リフレクターなどが高温で変形しやすい）、放熱用の通気口が必要です。点灯時は放熱するため、ケースに設置された放熱用通気口を通じて周辺環境と対流を発生し、温度差が高いほど対流が活発になります。対流中に空気中の水蒸気がライト内部に持ち込まれるため、日光、対流、ランプ発熱量などによって、温度が低い箇所の表面に結露や水滴が発生します。この現象は、ライト曇りと呼ばれています。

❗ お願い

- ・コンビネーションランプの内側、ドアミラー内のターンシグナルランプの内側に曇りが発生する場合は、空気の湿度が高い、または車両と周辺環境の温度差が大きいことが考えられます。コンビネーションランプやターンシグナルランプをつけてしばらく走行することで、ライト内の水蒸気が消えます。
- ・ランプカバーの損傷を防ぐため、ランプ表面にワックスをかけないでください。
- ・ライト内に明らかに水が入っている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

サンルーフのメンテナンス

- ・湿らせた布でサンルーフ外側のウェザーstrippに付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、拭き取り時はウェザーstrippが傷付かないように注意してください。
- ・湿らせた布でフロントルーフガラスの成型部に付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、拭き取り時はウェザー

トリップが傷付かないように注意してください。

- ほこり、砂、落ち葉などにより排水経路が詰まり、サンルーフの排水不具合が起らないようにするため、両サイドのレールおよびフロント排水溝をよく掃除してください。
- 洗車中に、高圧洗浄機と車の間に十分な距離を確保します。高圧洗浄機でウェザーstripsに水を直接吹き付けないようにしてください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーstripsの変形や破損につながるだけでなく、車内への水漏れも起きやすくなります。

車両の保管

- 長期間（1ヶ月以上）車両を放置する場合は、下記に示す準備を実施してください。適切な準備を行うことで、車両性能などの劣化を効果的に防止できます。また、可能な限り屋内に駐車してください。
- 推奨の時間通り充電します。
- ボディーの外部を徹底的に洗浄し、乾かします。
- 車内を掃除し、カーペットやマットなどを完全に乾かす。
- パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを「P」レンジに切り替えます。
- ウィンドウガラスを1枚少し下げます（屋内駐車の場合）。
- 起動バッテリーの負極（-）端子を取り外します。
- フロントワイパーアームがフロントガラスと接触しないように、ワイパーアームの下に折りたたんだタオルや布を入れておきます。
- 固着を軽減させるために、すべてのドアのシール部にシリコン潤滑剤を塗り付け、ドアウェザーstrips接触部の塗膜表面にボディーワックスを吹き付けます。

- 布のような「多孔質材料」で作られた通気性カバーでボディーを覆います。ビニールシートのような無孔質材料では湿気が溜まるため、ボディー表面の塗膜を破損させるおそれがあります。
- 可能な限り、定期的に車両を始動させます（毎月1回を推奨）。1年間、またはそれ以上に放置した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での全体のメンテナンスを行ってください。

ボンネット

ボンネットの開け方

1. インストルメントパネル下にあるボンネットリリースレバーを2回連続で引き上げると、ボンネットに少し隙間がで開けることができます。



2. ボンネットを一定の高さまで持ち上げると、ボンネットが自動的に開きます。



ボンネットの閉め方

1. ボンネットを一定の高さまで引き下げ、少し力を入れて押し下げ、ハーフロック状態まで閉めた後、ボンネットが完全にロックされて閉まるまで、図の青い部分を再び両手でゆっくりと押します。両手は必ず一定の距離を保ち、エッジを押さないようにしてください。



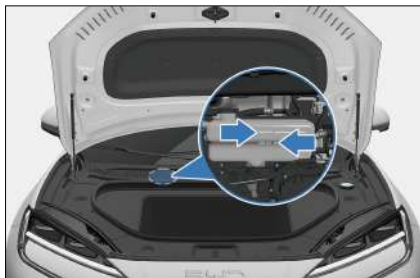
2. ボンネットを閉めたら、確実にロックされているかをコンビネーションメーターで確認してください。

！ お願い

- ボンネットが閉まっており、確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、運転中にボンネットが突然開いて事故につながるおそれがあります。
- ボンネットを施錠するときは、勢いよくボンネットを落とさないでください。
- カが1か所に集中してボンネットが損傷することをおそれがあるため、ボンネットは片手で閉めないでください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、ボンネットの前部の端部を強く押さないでください。

冷却システム

- 液面がリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。
- 冷却水は、添加剤を入れずに BYD 指定の冷却水と同じ仕様のもので使ってください。異なるブランドや型番の冷却水を混ぜ合わせて使用しないでください。



- 最小値 (MIN) の目盛りを下回る場合は、最大値 (MAX) の目盛りには達するまで冷却水を補充し、冷却システムの漏れがないかを点検します。

！ 注意

- 冷却システム内に防錆剤や他の添加物を絶対に追加しないでください。添加物は、冷却水やモーターの部品と相性が悪い可能性があります。
- リザーバタンクの蓋を開ける前に、モーター、集積型高電圧電気制御モジュール、リザーバタンクおよびラジエーターがすべて冷えていることを確認してください。モーターが完全に冷えていないときにリザーバタンクの蓋を開けると、冷却水の噴出により、重度のやけどにつながるおそれがあります。

ブレーキシステム

- 毎月1回、ブレーキフルードリザーバタンク内のフルードレベルを点検してくだ

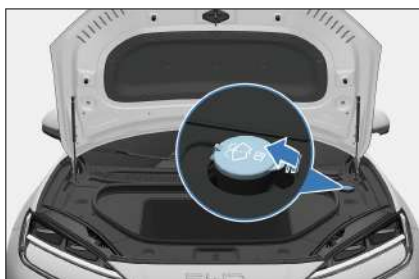
さい。ブレーキフルードは、定期メンテナンス表に記載された走行時間と走行距離に従い交換してください。

- ブレーキフルードは、純正品のブレーキフルードと同じものを使用してください。また、規格外のブレーキフルードを混ぜ合わせて使用しないでください。
- フルードレベルゲリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。
- 液面が最小値以下の場合、ブレーキシステムに漏れがないか、ブレーキパッドが限界まで摩耗していないかを点検してください。



ウォッシャ

- 毎月 1 回以上、ウォッシャ液タンクのレベルを点検してください。
- 悪天候でウォッシャをよく使う場合は、ウォッシャ液タンクのレベルを確認する頻度を増やしてください。
- 高品質のウォッシャ液を使用することで、汚れをよく落として凍結を防ぐことができます。



- ウォッシャ液補充時にこぼれた場合は、清潔な布で拭き取ってください。拭き取った布でワイパーブレードのゴム刃を清掃すると、ゴム刃を良好な状態に保つことができます。

⚠ 注意

- 絶対にウォッシャ液タンクに酢水溶剤を注入しないでください。
- 適合したウォッシャ液を使用してください。

空調システム

- 空調システムはクローズドシステムです。大事なメンテナンス作業のすべては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。
- 空調システムを正常に機能させるため、下記の内容を確認してください。
 - ラジエーターおよびエアコンコンデンサーを定期的に点検します。
 - 異物が詰まると空気の流れを妨げて冷房能力が落ちるため、前側の表面に詰まっている落ち葉や虫、ほこりを取り除きます。
 - 冷媒に含まれている潤滑油を循環させるため、寒い季節は毎週 1 回以上、毎回 10 分以上エアコンをつけてください。
- 空調システムの冷房能力が通常より落ちている場合は、BYD 正規ディーラーまた

は BYD 指定サービス工場で点検してください。

注意

- 空調システムの点検は、冷媒の再循環装置を確実に使用してください。この装置は、冷媒をリサイクルすることができ、冷媒を大気に出すことで発生する環境汚染を防ぎます。

ワイパーブレード

ワイパーブレードの材質は合成ゴムで消耗品です。車両の使用環境やドライバーの使用習慣により、ワイパーブレードが破損するおそれがあります。ワイパーブレードの寿命と安全を確保するため、下記の内容に注意してください。

- フロントガラスの表面に付いている氷をワイパーブレードでは拭き取らないでください。氷は車両専用のアイス・スクレーパーを使ってください。
- 汚れや油、ワックスが付着しているフロントガラスの表面をブラシでこすらないでください。
- ガラスの表面をきれいに保ってください。また、ガラスの表面に付着しているほこりや砂、虫、異物などを取るときは、ガラスの表面をこすらないでください。
- 洗車やボディー塗装のメンテナンス時は、フロントガラスに車用ワックスを吹き付けしないでください。夜間走行時にワックス層が光を反射して視界が悪くなり、安全な走行に影響を与えます。また、洗車後は水でワイパーブレードを洗い、専用のワックス除去剤でフロントガラスに付着したワックスを落としてください。
- ワイパーブレードの破損を防ぐため、洗車時は高圧洗浄機をワイパーブレードに直接吹き付けしないでください。

メンテナンス細則

- 定期的にフロントガラスとワイパーブレードを洗浄してください(1週間~2週間毎に1回を推奨)。
- 定期的にワイパーを作動させてください(1日~2日毎に1回を推奨)。ワイパーブレードでフロントガラスを拭くときは、ガラスを濡してから拭いてください(雨が降っていないときはウォッシュ液をガラスに噴射してください)。
- フロントガラスを専用の洗剤で洗浄してください。
- フロントガラスに付着している泥や虫の死骸は、早めに布できれいに拭き取ってください。
- フロントガラスに飛び石などの傷が付いている場合は、早めに修理してください(フロントガラス修復用樹脂製品の使用を推奨。傷が多いまたは大きいときは、フロントガラスの交換を推奨)。
- ワイパーブレードを定期的(半年に1回)に交換することをおすすめします。
- フロントガラスを洗浄するときは、事前にワイパーアームを立てておく必要があります。操作方法の詳細は次の通りです。
 1. 作業者は、 → 車両状況 → オーバーホール の設定画面から フロントワイパーメンテナンスモード を ON にし、ワイパーアームを回して外します。
 2. ワイパーアームの上側を持ち、ワイパーアームとブレードアセンブリをしっかり引き上げます。

タイヤ

- 安全運転のために、自車に適合する型番やサイズのタイヤを選定してください。また、トレッドパターンが良好で、空気圧を適正にする必要があります。

- 以下の記載では、タイヤ空気圧、タイヤの破損、摩耗の点検、およびタイヤローテーションの方法を詳しく紹介します。

警告

- 過度な摩耗、空気圧の不足、または空気圧が高すぎるタイヤを使うと、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 本マニュアルに記載されている空気圧調整およびメンテナンスに関する内容に従ってください。

冬用タイヤ

- 冬用タイヤは積雪路面でのグリップ力に優れています。特殊なゴムトレッド設計により、低温環境の影響を受けにくく、優れた制動性能を発揮することで運転の安全性を向上させます。

使い方

- 氷雪路や気温が7°C以下の場合、冬用タイヤを使用することをおすすめします。気温が7°C以上のときは、運転の安全性と性能を確保するために、夏用タイヤまたはオールシーズンタイヤに速やかに交換してください。
- 冬用タイヤを使用する場合は、車両の工場出荷時の設計と同じ仕様、定格荷重、速度定格のタイヤを選択してください。
- 冬用タイヤは十分な溝の深さが必要であり、溝の深さが4mm以上ないと、冬場の適用性が制限されることがあります。
- 冬用タイヤと夏用タイヤは、それぞれの季節に合わせて設計されているため、対応する季節に使用することをおすすめします。そうしないと、タイヤの密着性が悪くなったり、制動能力が低下したりするおそれがあります。
- 冬用タイヤの最高速度は比較的低いため、最高速度を超えないでください。

- 冬用タイヤを装着した後は、設計されたタイヤ空気圧に従ってタイヤ空気圧試験を行ってください。

空気を入れるとき

- タイヤ空気圧の適切な調整は、操縦性、タイヤトレッドの寿命および運転快適性の最適な組み合わせを実現します。
- 空気圧不足のタイヤを使用すると、タイヤの偏摩耗や操縦性、エネルギー消費に影響を与えるだけでなく、過熱による空気漏れにつながるおそれがあります。
- 空気圧が高すぎるタイヤを使うと車両の快適性が悪くなり、路面のデコボコによりタイヤが傷付くため、最悪の場合はバーストを引き起こすおそれがあります。また、タイヤの偏摩耗が起こりタイヤの寿命が短くなります。
- 冷間時（タイヤ空気圧モニタリングシステム装備車）、コンビネーションメーターに表示されたそれぞれのタイヤ空気圧により、空気補充の必要性を判断することができます。
- タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。冷間時とは、少なくとも停車してから3時間後に測定することを意味します。タイヤ空気圧を測定する前に走行する必要があるときは、走行距離が1.6kmを超えなければ冷間時と考えて問題ありません。
- 温間時（数kmほど走った後）のタイヤ空気圧を点検する場合は、圧力計の指示値が冷間時より30~40kPa（0.3~0.4bar）高くなりますが異常ではありません。また、空気圧不足につながるため、指示値が推奨の冷間時空気圧になるまで空気を抜かないでください。

お問い合わせ

- 推奨するタイヤ空気圧のラベル（運転席側ドア開口部に貼ってあります）には、推奨の冷間時空気圧が明記されています。

！ お願い

- チューブレスタイヤは、パンク時に一気に空気が抜けていく、少しずつ空気が漏れていきます。タイヤ空気圧が下がり出したら、空気漏れの位置を特定してください。

点検

- タイヤ空気圧を点検するときは、タイヤの傷や摩耗状態、異物などが刺さっていないかも合わせて点検してください。
- タイヤトレッドや側面の傷および膨らみ、いずれかがあった場合はタイヤを交換してください。
- タイヤ側面の擦り傷、割れや切れ、カーカスやビードワイヤーが見えた場合はタイヤを交換してください。
- タイヤトレッドの過度な摩耗。
- タイヤトレッド内部にスリップサインが設置されています。タイヤトレッドの摩耗によりスリップサインが現れると、溝の深さが1.6mm以下であることを意味します。摩耗がここまで進んだタイヤは、滑りやすい路面で走るときのグリップ力が悪くなります。
- タイヤトレッドにスリップサインが現れるまで摩耗した場合は、タイヤ性能が著しく落ちるため、タイヤを交換してください。



メンテナンス

- 適切な空気補充以外に、正確なホイールアライメントもタイヤトレッドの摩耗を効果的に軽減します。
- タイヤの偏摩耗が起きた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールアライメントの点検を行ってください。
- 工場出荷前にホイールアライメント調整が行われていますが、一定時間走行後に、ホイールアライメント調整を新たに行う必要があります。
- 比較的速い速度 (80km/h) で運転中に継続的に振動を感じているが、低速時は振動を感じない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのタイヤの点検をしてください。
- 補修したタイヤが1つでもある場合は、必ずホイールアライメント調整を新たに行ってください。
- 新しいタイヤや新しいホイールに交換した場合は、必ずホイールアライメント調整を行ってください。

！ 注意

- バランスウェイトの取り付けを誤ると、ウェイトが脱落し、走行時に自車や周りのものを破損させるおそれがあります。
- バランスウェイトの取り付けを誤ると、アルミホイールを破損させるおそれがあります。バランスを確実に取るため、オリジナルバランスウェイトの使用をおすすめします。

タイヤローテーション

- タイヤの摩耗を一定に保って長持ちさせるため、定期的 (10000kmを超えない) にタイヤの内側と外側のパターンの磨耗を確認し、必要に応じてタイヤローテーションおよびホイールアライメントの点検・調整を行ってください。

- ・スペアタイヤ*の場合は、タイヤローテーションしないでください。

- ・タイヤ交換後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でタイヤ空気圧に対するキャリブレーションを行ってください。

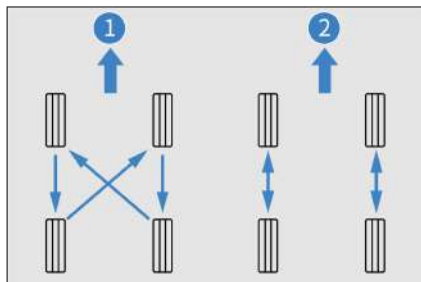
方向性が決まっているタイヤ

- ・タイヤを購入する際、「方向性」が決まっているタイヤがあります。このようなタイヤは同じ回転方向でローテーションしてください。方向性が決まっているタイヤを使う場合、タイヤローテーションはフロントタイヤ、リアタイヤの入れ替えしかできません。

- ・四輪駆動車のタイヤローテーションを図に示します：

①方向性が決まっていないタイヤおよびホイール

②方向性が決まっているタイヤおよびホイール



警告

- ・後輪駆動車のタイヤは、フロントタイヤの幅が狭く、リアタイヤの幅が広いので、タイヤローテーションするには左右タイヤの入れ替えしかできません。方向性が決まっているタイヤを使っている後輪駆動車の場合は、タイヤローテーションを行うことができません。

タイヤとホイールの交換

- ・本車のオリジナルタイヤは、車両性能を最大限に引き出すために選定されたもので、それと同時に、操縦性や乗り心地の良さおよび使用寿命の最適な組み合わせとなっています。
- ・BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で指定タイヤに交換してください。
- ・サイズ、負荷範囲、定格回転数および最大の冷間時空気圧（タイヤの側面に表示）が異なるラジアルタイヤに交換したり、ラジアルタイヤとダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用すると、車両の制動能力、駆動力（グリップ力）および操舵精度の低下につながるため、安全性が損なわれて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・タイヤを誤って装着すると、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- ・4つのタイヤを同時に交換し、1つのタイヤだけを交換しないでください。車両の操縦性に著しい影響を与えます。
- ・ABS（アンチロックブレーキシステム）は、タイヤの回転数を比較することで機能するものです。タイヤを交換する場合は、オリジナルタイヤと同じサイズのものを使用してください。タイヤのサイズおよび構造は、ホイールの回転数に影響を与え、システム動作の不一致につながるおそれがあります。
- ・ホイールを交換する必要がある場合は、オリジナルホイールの仕様と同じホイールを選定してください。新品ホイールは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から購入することができます。交換する前に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

！ お願い

下記の内容を守ってください。運転中の代表的な危険を引き起こして、車両が制御できなくなるおそれがあります。

- ・ラジアルタイヤ、バイアスタイヤやダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用しないでください。
- ・メーカーの推奨サイズ以外のタイヤを使わないでください。

フューズ

ショートや過負荷を防ぐため、回路毎にフューズを設置しています。フューズは、モータールームのフューズボックス、インストルメントパネルのフューズボックスとトランクルームのフューズボックスに格納されています。フューズボックスの中にフューズラベルが付いています。ラベルでフューズと電気部品との関係を特定できます。

①インストルメントパネルのフューズボックス

②モータールームのフューズボックス

③トランクルームのフューズボックス



- ・モータールームのフューズボックスは、モータールームの左側後部にあります。モータールームのカバーを取り外してクリップを押すと、フューズボックスが開きます。
- ・車内運転席側の下にあるインストルメントパネルのフューズボックスはドアの近

くにあります。インストルメントパネル下部本体を取り外すと、フューズの点検ができます。

- ・アンペア数が高いフューズで、切れたフューズを入れ替える場合は、対象電気システムを破損させる可能性が極めて大きくなります。
- ・回路に適合するアンペア数の代替フューズがない場合は、代替品としてアンペア数が比較的小さいフューズを使ってください。

！ お願い

- ・定格アンペア数より高いフューズを使わないでください。また、著しい破損を引き起こしたり火災を招くおそれがあるため、フューズの代わりに他のものを使わないでください。
- ・フューズが切れたら、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で点検や交換をしてください。

07

故障が発生した時

故障が発生した時..... 190

故障が発生した時

反射ベスト

- ・ 反射ベストは、車載工具箱に入っています。
- ・ 突発的な事故が発生し、事故の確認や故障対処のために降車する必要がある場合は、自分の命の安全を確保するため、反射ベストを速やかに正しく着用した後以降車して故障の確認や対処をしてください。

リモートキーのバッテリーが切れたら

リモートキー表示灯が点滅せず、スタート機能で車両を始動することができない場合は、バッテリーが切れていることが考えられます。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 でバッテリーを交換してください。この場合は、電池レスモードで車両を始動することができます。

⚠ 注意

- ・ 温度が高い場所にリモートキーを置かないでください。
- ・ ラジオ局、変電所や航空無線発信機などで発生する磁界は、リモートキーへの干渉が起きやすく、電池レスモードでのキー操作で車両を始動させる機能の正常作動に影響を与えることがあります。
- ・ ドアを施錠してイモビライザーが作動状態で車両を使わない場合は、リモートキーを車両から遠ざけてください。車両がリモートキーに電波を自動的に送信し続けるため、起動バッテリーの電気エネルギーが消費されます。

電池レスモードの始動方法：

1. メカニカルキーで解錠します。
2. リモートキーをセンターコンソールボックスの電池レスモードマークにかざします。
3. ブレーキペダルを踏み込んでから「スタート/ストップ」ボタンを押して始動します。



緊急時シャットダウンシステム

- ・ 次の条件を満たした場合、緊急時シャットダウンシステムが ON になり、高電圧システムが自動的に OFF になります。
 - ・ 前方衝突後、エアバッグが作動しなかった。
 - ・ 後面衝突。
 - ・ 車両システム故障。
- ・ 上記の衝突や車両システムの故障が発生すると、走行可能表示灯（「OK」表示灯）が OFF になります。
- ・ 上記の衝突で緊急時シャットダウンシステムが作動することで、傷害や思わぬ事故の発生リスクを最小限に低減することができます。
- ・ 一度、緊急時シャットダウンシステムが ON になると、システムは走行可能状態に入らなくなります。電源ポジションを走行可能に切り替えてもすぐに OFF になるため、BYD 正規ディーラーまたは

BYD 指定サービス工場に救援を依頼してください。

車両火災が発生したら

車両火災が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にし、車両から離れてください。
2. 火勢が弱い場合は、身の安全を確保しながら乾燥粉末消火器で鎮火し、すぐに119番に通報してください。
3. 火勢が強く勢いよく燃え広がる場合は、ただちに車両から遠く離れ、消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。



注意

- ・ 車両を解体する場合は絶縁手袋を着用してください。水での消火や消火器の使い方を誤ると感電につながるおそれがあるため、指定された消火器で火を消してください。
- ・ 特別な状況により、部品（内装部品やガラス）などが飛ばされるおそれがあるときは車両から離れてください。また、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に現場対応を依頼してください。

バッテリーが液漏れしたときの救助

衝突後、バッテリーの液漏れが発生する、車内に酸性の液体の臭いがする、または車外から酸性の液体が著しく流出する、バッテリーパック内部から煙が発生する場合は、以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば、起動バッテリーを切り離します。
2. ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、消防や救援者に対しては、パワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。

衝突事故が発生したら

衝突事故が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば、起動バッテリーを切り離します。
2. ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡いただき、救援を要請してください。
3. 状況に応じて、簡単な点検を行ってください。たとえば、パワーバッテリートレイの縁に割れがないか、明らかな液体の流出がないかなど。
 - ・ 高電圧部品の破損がすべて識別できるわけではないため、破損した部品やアクセサリ、他の金属品には触れさせないでください。
 - ・ 漏れた液体が身体に付着した場合は、ただちに大量の水で 10～15 分ほど洗い流してください。痛みを感じたときは、2.5%のグルコン酸カルシウムジェルを塗り付ける、または 2～2.5%のグルコン酸カルシウム溶液に浸してください。効果がなく気分が悪いときは、すぐに医師の手当てを受けてください。
 - ・ 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルや他の高電圧部品に対して絶対に作業しないでください。高電圧システムの作業資格を取得している BYD 指定サービス工場で、高電圧システムの作業を依頼してください。

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルの破損、改造、分解、高電圧配線網からの切り離しは絶対にしないでください。
- ・ 消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えてください。

警告

- ・ 漏れ出した液体を触らず、液漏れしている車両やパワーバッテリーから遠く離れてください。
- ・ 漏れ出した液体は、水や土壌などへみだりに流さないでください。
- ・ 本車のシステムは高電圧の直流電源を使用します。車両を始動させる前後および電源ポジションを「OFF」にすると、システムには大量の熱が発生するため、高電圧や高温に注意してください。
- ・ 高電圧のバッテリー部品および接続ケーブルに対して、分解、移設、改造をしないでください。コネクタによっては、重度のやけどや感電が発生し、怪我や死亡につながるおそれがあります。オレンジ色の接続ケーブルは、高電圧ワイヤーハーネスです。高電圧ワイヤーハーネスを自ら修理しないでください。修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で修理を行ってください。
- ・ リモートキーや高電圧部品は、身体に医療機器が付いている方に影響を与えるため、傷害を負わせるおそれがあります。

レッカー移動が必要なとき

レッカー車でけん引し移動する必要がある場合は、BYD 指定サービス工場またはけん引サービス専門業者、もしくはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。

注意

- ・ ロープやチェーンだけでのけん引はしないでください。

おすすめのけん引方法：

- ・ 積載車
 - ・ 車両故障で救援が必要な場合は、積載車の利用をおすすめします。片側の前輪または後輪が路面に付いている状態では、回転により高電圧部品が破損するおそれがあるため、運送するときは4つのホイールが地面から離してください。



お願い

- ・ 積載車で移動させる場合は、車両が後退しないようしっかりと固定してください。
- ・ 専門のタイヤ結束バンドと締め具の使用を推奨します。また、移動対象となる車両を固定するにはストレート結束方法を使用してください。
- ・ 車両の損傷を避けるため、固定するときは結束バンドやロープなどの固定具を車輪に通したり、シャーシやサスペンションなどをボディーに結びつけたりしないでください。
- ・ 車両の損傷を避けるため、移動するときは車輪が回転しないようにしてください。

けん引フック

車両の前後にけん引フックを差し込み口があります。取り付け方法は以下の通りです：

1. けん引フックカバーを開けます。
2. けん引フックを差し込み口に取り付けます。

フロントけん引フックカバーの位置は図の通りです。



リアけん引フックカバーの位置は図の通りです。



- ・ 救援が必要な場合は、救援サービス専門業者に連絡する、またはカスタマーサービスホットラインに電話してください。
- ・ 緊急時にレッカー移動が必要な場合は、次の注意事項を守ってください。車両の破損や人への傷害を防ぐために、現地の規制と異なる場合は現地の規制に従ってください。
- ・ レッカー車の状態は良好で、レッカー移動する車両のシフトレンジが「N」に

あり、レッカー始動速度が 5km/h を超えないようにします。

- ・ レッカー移動時は急発進しないでください。
- ・ レッカー移動する車両は、ドライバー以外乗車しないでください。また、けん引車をけん引しないでください。
- ・ レッカー車とレッカー移動する車両は、ハザードランプを点けてください。
- ・ 車両を破損させるおそれがあるため、車載工具に入っているけん引フックのみ使用してください。
- ・ レッカー車とレッカー移動する車両の距離は 4m 以上 10m 未満にしてください。
- ・ レッカー移動する車両の幅および重量は、レッカー車の幅および重量を超えてはいけません。
- ・ レッカー移動するときは周囲が広くて障害物がなく、けん引装置に近づく者がいないことを確認してください。
- ・ スタックから脱出するときは、車両の進行方向がけん引力のかかる方向と合うように制御してください。側面や垂直方向からけん引しないでください。
- ・ レッカー移動する車両のドライバーは、車両に乗車してステアリングシステムとブレーキシステムが正常な状態になるように制御してください。

注意

- ・ 乗り上げなどのスタックの場合は、けん引フックを使用して脱出しないでください。このようなときは、救援サービス専門業者に連絡する、またはカスタマーサービスホットラインに電話してください。
- ・ レッカー移動する車両のステアリングシステム、またはブレーキシステムが機能しない場合は、レッカー移動を直接行わずに救援サービス専門

⚠ 注意

業者に連絡する、またはカスタマーサービスホットラインに電話してください。

タイヤの空気漏れが発生したら

- 直線走行を保ちながらゆっくりと速度を落とし、交通量の多い場所を離れて安全な場所に移動してください。その際、高速道路の中央分岐に停車しないようにしてください。



- 駐車には、次の操作を行います。
- ブレーキペダルを踏み込んで車両を停車させ、「P」ボタンを押してシフトポジションを「P」レンジに入れると、コンビネーションメーターに「P」レンジ表示灯が点灯します。
 - 「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- 電源ポジションを「OFF」にし、ハザードランプを点滅させます。高速道路では三角表示板を置き、非常信号灯を使用して、後続車に危険を知らせてください。
 - 乗員全員が車両から降り、ガードレールの外など安全な場所に避難します。
 - 自然発火を防ぐため、車両を確実に固定します。空気が漏れているタイヤの対角線上にあるタイヤに、輪留めを設置してください。

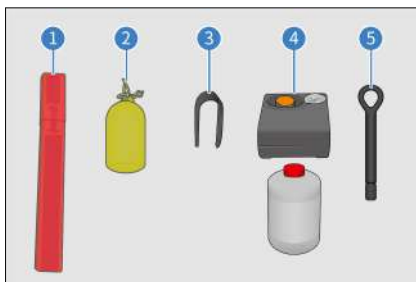
⚠ 注意

- タイヤから空気が漏れたまま運転を続けしないでください。短距離走行でも、修復できないほどタイヤが破損するおそれがあります。

車載工具

- 車載工具は、トランクカバーの下の工具箱に格納されています。

- ①三角表示板
- ②反射ベスト
- ③ホイールナットの取り外しクリップ
- ④パンク修理剤
- ⑤けん引フック



- 緊急時に自ら修理をする場合は、車載工具の使い方および保管場所を確認してください。

三角表示板の設置

❗ お願い

- 故障や電欠でやむなく道路上に駐車する場合は、後方車両に知らせて危険を避けるため、三角表示板の赤い反射部を後方車両進行方向に向け、車両後部から 50m 以上離れた場所に設置してください。移動の準備ができたなら、三角表示板を回収してください。

三角表示板は、後方車両が停止中や修理中の車両と衝突するのを避け、速度を落とすように危険を知らせるためのものです。

三角表示板の使い方：

1. ケースから三角表示板を取り出します。
2. 正三角形となるように三角表示板を組み立てます。
3. 三角表示板の足を広げます。設置後の状態を図に示します。



パンク修理剤

- ・パンク修理剤は、小さいパンク穴、特にトレッドパターン内の穴を塞ぐことができます。パンク修理剤で補修するのは、最寄りのサービス工場まで走行できる状態まで復旧するための応急処置にすぎません。タイヤから空気が漏れていないとしても、緊急時の短距離走行に対応するだけです。

警告

- ・パンク修理剤はタイヤの軽度な破損の修理にのみ使用できます。ホイールが破損しているときは、絶対にパンク修理剤を使用しないでください。
- ・パンク修理剤は、引火性が高く、かつ健康に害をおよぼすため、蒸気を吸い込まないでください。修理中は、裸火の使用や喫煙を禁止し、皮膚や服、目に付着することを避けて

警告

ください。また、お子様の手が届かないところに保管してください。

パンク修理剤に触れたとき

- ・パンク修理剤が皮膚や目に付着した場合は、ただちに多量の水で付着部位を洗い流してください。
- ・ただちに汚れた服を脱いでください。
- ・アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- ・誤ってパンク修理剤を飲み込んだ場合は、ただちにうがいと口の中をきれいに洗い、多量の水を飲んでください。その後、吐かせずに速やかに医師の手当てを受けてください。

パンク修理剤の使い方について

- ・パンク修理剤の使い方の詳細については、コンプレッサーおよびパンク修理剤容器の本体に貼り付いているラベルの記載を参照してください。
- ・コンプレッサーに電源を接続する必要がある場合は、車内の12Vソケットに電源プラグを挿し込み、車両を始動してコンプレッサーのスイッチをONにします。コンプレッサーのホースを通して空気と共にパンク修理剤をタイヤ内に注入します。

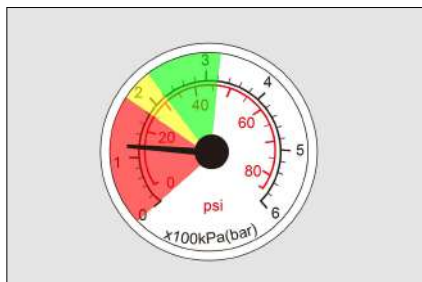


07

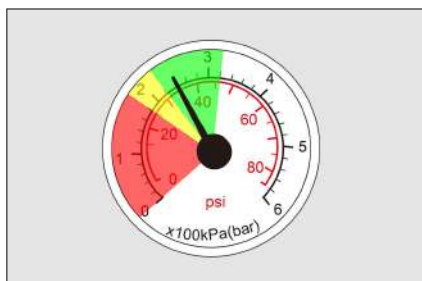
故障が発生した時

！ お願い

- 電源プラグを車内の 12V ソケットに挿し込む場合は、コンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。
- コンプレッサーは、最大 10 分まで稼働することができます。
- コンプレッサーの空気圧計の指示値を確認します。
- タイヤ空気圧が 10 分以内に 180kPa にならない場合（図中の赤色のエリア）は、コンプレッサーを OFF にして BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



- タイヤ空気圧が 180 ~ 320kPa の範囲内にある場合（図中の緑色エリアと黄色のエリア）は、できるだけ早くパンク修理剤を取り外して、1 分以内に 80km/h 以下の速度で最大 10km を走行してタイヤ全体にパンク修理剤を広げてください。



- 車両を止めて修理後のタイヤを点検し、コンプレッサーの空気圧計を再度確認します。
- タイヤ空気圧が 220kPa を超えている場合は、80km/h 以内の速度で最寄りのサービス工場へお越しください。
- タイヤ空気圧が 130 ~ 220kPa の範囲内にある場合は、パンク修理剤を注入して空気圧計を確認する作業を繰り返してください。
- タイヤ空気圧が 130kPa にならない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

！ お願い

- パンク修理剤で破損したタイヤを補修するのは応急処置のみです。可能な限りお早めに専門のサービス工場にてタイヤを交換し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。また、タイヤの中にパンク修理剤が入っていることを整備士に伝えてください。
- パンク修理剤を使用した後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にて新品のパンク修理剤を購入してください。
- パンク修理剤で補修したときは、急発進や高速でカーブを曲がることを避けてください。
- 80km/h の最高制限速度を守ってください。走行中に激しい振動や走行性能が不安定になったり、騒音が聞こえた場合は、運転を止めてください。
- パンク修理剤の有効期限が切れたときは（有効期限はパンク修理剤の容器に付いているラベルを参照）、新品のパンク修理剤に入れ替えてください。

08

車両仕様

データ情報.....	198
プロンプトメッセージ.....	202
適合宣言書.....	204

データ情報

車両諸元

車両の寸法データ

項目	諸元
全長 (mm)	4830
全幅 (mm) (ドアミラーを含まない)	1925
全高 (mm)	1620
ホイールベース (mm)	2930
フロントトレッド (mm)	1660
リアトレッド (mm)	1660
フロントサスペンション (mm)	900
リアサスペンション (mm)	1000
アプローチアングル (°)	16
デパーチャーアングル (°)	19

車両重量データ

項目	諸元	
製品型番	仕様 1	仕様 2
車両重量 (kg)	2230	2340
前軸荷重 (kg)	1040	1150
後軸荷重 (kg)	1190	1190
車両総重量 (kg)	2505	2615
車両総重量前軸荷重 (kg)	1130	1240
車両総重量後軸荷重 (kg)	1375	1375
乗車定員 (人)	5	5

駆動モーターの諸元

項目	諸元	
製品型番	仕様 1	仕様 2
駆動モーター型番	リア側：TZ200XYT	フロント側：YS210XYA リア側：TZ200XYT
駆動モーターの種類	リア側：永久磁石同期モーター —	フロント側：非同期型 AC モーター リア側：永久磁石同期モーター —
駆動方式	後輪駆動	四輪駆動
駆動モーター定格出力/回転数/トルク (kW/rpm/N・m)	リア側：70/4456/150	フロント側：75/7958/90 リア側：70/4456/150
駆動モーター最高出力/回転数/トルク (kW/rpm/N・m)	リア側：230/23000/380	フロント側：160/20500/310 リア側：230/23000/380

車両動力性能および経済性能の諸元

項目	諸元	
製品型番	仕様 1	仕様 2
最高設計速度 (km/h)	215	215
最大登坂角度 (%)	30	50
WLTC モード時の 100km 当たりの消費電力量 (kW・ h/100km)	16.1	17.7

パワーバッテリー諸元

項目	諸元
パワーバッテリータイプ	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー
パワーバッテリー定格容量 (Ah)	150

ホイールとタイヤの諸元

項目	諸元	
製品型番	仕様 1	仕様 2

項目	諸元	
タイヤの仕様	235/50 R19 ; 255/45 R19	245/45 R20
タイヤ空気圧 (kPa)	前/後 : 290/290 (けん引時) 前/後 : 290/310	
ホイールバランス (g)	< 10	

ホイールアライメント調整値 (装備質量時)

項目	諸元
フロントタイヤキャンバー角 (°)	-0.5±0.75
フロントタイヤトーイン (°)	0.1±0.08 (片側)
フロントタイヤトーイン (°)	0.2±0.16
キングピン角 (°)	8.33±0.75
キャスト角 (°)	6.09±0.75
リアタイヤキャンバー角 (°)	-1±0.5
リアタイヤトーイン (°)	0.2±0.08 (片側)
リアタイヤトーイン (°)	0.4±0.16

ブレーキシステム技術諸元

項目	諸元
ブレーキペダルの遊び (mm)	1~5
フロントディスクローターの基準厚さ (mm)	32
フロントディスクローターの最小厚さ (mm)	30
リアディスクローターの基準厚さ (mm)	20
リアディスクローターの最小厚さ (mm)	18
フロントディスクパッドの基準厚さ (mm)	12
フロントディスクパッドの最小厚さ (mm)	2
リアディスクパッドの基準厚さ (mm)	6.5
リアディスクパッドの最小厚さ (mm)	2.5

シート諸元

項目	諸元
(シートクッション座面の深さ測定時) フロントシートの前後位置	レールの末端位置から前方へ 260mm
(シートクッション座面の深さ測定時) フロントシートバックの角度位置	23°
フロントシートバックの通常使用状態	設計位置が前方へ 16°、後方へ 50°、スライドレールが前方へ 200mm、後方へ 60mm、レール角度 4.5°
(シートクッション座面の深さ測定時) リアシートの前後位置	調整不可
(シートクッション座面の深さ測定時) リアシートバックの角度位置	27°
リアシートバックの通常使用状態	設計位置が後方へ 6°、前方へ 14°、前へ倒す

推奨のオイルと注油量

項目	諸元	
製品型番	仕様 1	仕様 2
前輪駆動タイプトランスミッションオイル型番	-	Castrol BOT-383
前輪駆動タイプトランスミッションオイル注油量 (L)	-	1.6±0.05
後輪駆動タイプトランスミッションオイル型番	Castrol BOT-383	
後輪駆動タイプトランスミッションオイル注油量 (L)	1.55±0.05	
ブレーキフルード型番	HZY6/DOT4	
ブレーキフルード注油量 (L)	1.15±0.05	
モーター電子制御クーラント型番	エチレングリコール系有機酸系長期防錆・不凍液	
モーター電子制御クーラント注油量 (L)	6.05±0.2	6.65±0.2

⚠ 注意

- 推奨されるオイルの種類は BYD によりテストし認定されています。それ以外のオイルを使用すると、車両の性能に影響を与え、車両の故障や部品の破損につながるおそれがあります。

プロンプトメッセージ

車両の表示

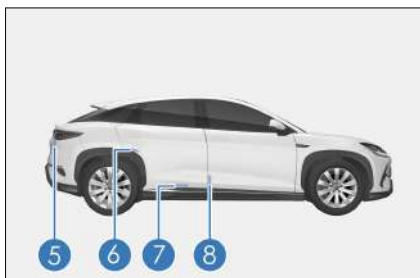
車両識別番号 (VIN コード)

VIN コードの貼り付け位置：

- ①リアモーターケース表面
- ②フロントガラスのクロスシルの右側
- ③ボンネットインナーパネルストライカーの右側
- ④フロントバンパーリンフォースメントの右側

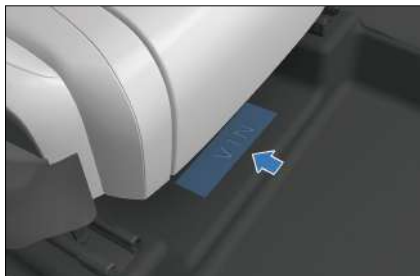


- ⑤テールゲートスイッチの右側
- ⑥右リアホイールフェンダ表面
- ⑦右リアサイドシル
- ⑧右フロントドアの内側板金の下側



VIN コードの刻印位置：

VIN コードは右側フロントシート下側のメンバーに刻印されています。車両 VDS への接続を通じて車種を選定してから、右上で VIN を読み出します。詳細は VDS 取扱説明書を参照してください。



駆動モーターの型式および番号

①前輪駆動モーター*の型式および番号は、ボンネットインナーパネルの上に貼り付けられています。

②後輪駆動モーターの型式および番号は、テールゲート左側の板金平面に貼り付けられています。

③前輪駆動モーター*の型式および番号は、前輪駆動モーターケースに刻印されています。

④後輪駆動モーターの型式および番号は、後輪駆動モーターケースに刻印されています。



警告ラベル

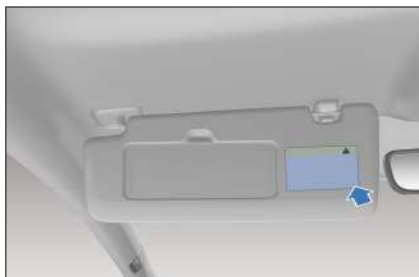
- ①空調システム、冷却ファンラベル
- ②バッテリー搭載位置ラベル



サイドエアバッグ警告ラベルは、左右 B、C ピラーの下側に貼られています。



エアバッグ警告ラベルは、助手席側のサンバイザーに表示されています。



タイヤ空気圧ラベルは、運転席側 B ピラーの下側に貼られています。



充電警告ラベルは、充電ポートキャップの内側に貼られています。



適合宣言書

適合宣言書

無線周波数規制・表示



この車には各種の無線装置が装備されています。無線機器のメーカーは、無線周波数モジュールが Directive 2014/53/EU に準拠していることを宣言します。EU 適合宣言の全文は、<https://cn-prod.byd.com/eu/eu-doc> でご覧いただけます。

リモートキーシステム法規標識



ウズベキスタン

型番 : D1-92



EU 諸国

型番 : D1-92



ブラジル

型番 : D1-92

本デバイスは、有害な妨害から保護する対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。

FCC ID: 2A5DHD1-315

アメリカ

型番 : D1-315



日本

型番 : D1-315

ミリ波レーダー法規標識



EU 諸国

文書番号 : T.2021.08.0001



214-118832

日本

文書番号：219-210015



ブラジル

文書番号：15210-21-03745

本デバイスは、有害な妨害から保護する対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。

記号

安全運転支援システム.....	137
安全運転上のご注意.....	97
一般充電故障の診断.....	79
運転支援スイッチユニット.....	70
運転要領.....	110
液晶タイプコンビネーションメーター.....	30
家庭用 AC 普通充電.....	80
火災の予防.....	101
荷物の積み込み.....	99
外部給電について.....	87
冠水路の走行.....	100
慣らし運転期間.....	96
機能定義.....	158
起動バッテリー.....	94
緊急時シャットダウンシステム.....	190
緊急時車線維持支援 (ELKA)	126
駆動モーターの型式および番号.....	202
空気清浄システム.....	161
空調システムの点検.....	183
警告ラベル.....	203
交通標識認識システム (TSR)	121
自動緊急通報システム E-Call*.....	72
自動防眩ルームミラー.....	144
車の始動.....	103
車内の清掃.....	177
車両の点検.....	174
車両の防食について.....	175
車両メンテナンス計画.....	170
車両火災が発生したら.....	191
車両識別番号 (VIN コード)	202
車両接近通報装置 (AVAS)	131
車両保管上の注意事項.....	181
集中ドアロック.....	69
充電に関係する警告.....	76
充電ポート盗難防止ロック機能.....	89
充電モード.....	79
充電上のご注意.....	77
節電で車を長持ちさせる方法について.....	98
洗車.....	176

前方衝突警告機能 (FCW) と自動緊急ブレーキ (AEB)	117
走行距離切替スイッチ.....	70
直接式タイヤ空気圧モニタリング.....	130
定期メンテナンス.....	174
適合宣言書.....	204
電動パーキングブレーキ (EPB) ..	106
塗装メンテナンスのお願い.....	175
当局への個人情報開示.....	28
表示灯/警告灯の標識.....	31
幼児置き去り検知 (CPD) *	143
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	21
利用時のアドバイス.....	98
冷却水.....	182

数字

12V アクセサリー電源.....	166
-------------------	-----

A

AC 充電スタンドでの充電.....	83
--------------------	----

B

BYD アラウンドビューシステム (AVM)	132
--------------------------------	-----

D

DC 急速充電.....	84
--------------	----

U

USB ポート.....	166
--------------	-----

あ

アシストグリップ	166
アダプティブクルーズコントロール (ACC)	112
アダプティブフロントライティング (AFL)	123
アンチロックブレーキシステム (ABS)	140

い

イモビライザー	25
インテリジェントスピードリミットコ ントロール (ISLC)	122
インテリジェントトルクアダプテーシ ョンコントロール (iTAC) *	141

う

ウォッシュャ	183
--------------	-----

え

エアコンパネル	155
エアコン設定画面	156
エアコン操作画面	157
エアバッグについて	15

お

オートビークルホールド (AVH) .	109
-----------------------	-----

く

グローブボックス	164
----------------	-----

さ

サンシェードの開/閉	71
------------------	----

サンバイザー	165
サンルーフのメンテナンス	180

し

シートについて	56
シートバックポケット	165
シートベルトの着用	12
シフト機構	105

す

ステアリングホイールコンビネーショ ンスイッチ	61
スマートエントリー & スタートシステ ム	54
スマート充電	85

せ

セルフメンテナンス上のご注意	178
センターコンソールボックス	164

た

タイヤ	184
タイヤチェーン	102
タイヤの空気漏れが発生したら	194

ち

チャイルドロック	56
----------------	----

て

データの収集および処理	26
-------------------	----

と

ドアポケット.....	163
ドライバーモニタリングシステム (DMS) *	142

な

ナビゲーションパイロット (ICC)	116
----------------------	-----

は

ハザードランプスイッチ.....	71
バッテリーが液漏れしたときの救助	191
パワーウィンドウスイッチ.....	68
パワーステアリングモード.....	64
パワーバッテリー.....	91

ふ

フューズ.....	188
ブラインドスポットアシストシステム (BSA)	127
ブレーキフルード.....	182
フロントカップホルダー.....	164
フロントクロスストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロスストラフィ ックオートブレーキ (FCTB)	120

へ

ヘッドアップディスプレイ (HUD) *	129
------------------------	-----

ほ

ボンネット.....	181
------------	-----

ま

マルチメディアコントロールパネル	150
---------------------------	-----

め

メカニカルキーでの施錠/解錠.....	46
メカニカルキーによる全ドア緊急施錠	54
メンテナンス計画について.....	170

も

モードスイッチユニット.....	70
------------------	----

ら

ライトスイッチ.....	64
--------------	----

り

リモートキー.....	42
リモートキーのバッテリーが切れたら	190

る

ルームランプスイッチ.....	73
-----------------	----

れ

レーンサポートシステム (LDA) ..	124
レッカー移動が必要なとき.....	192

わ

ワイパー.....	146
ワイパースイッチ.....	67

ワイパーブレード.....	184
ワイヤレス充電エリア.....	167

略語一覧

略語

用語	フルネーム	用語	フルネーム
ELR	シートベルト緊急ロック	ECU	エレクトロニックコントロールユニット
ISOFIX	ISO-FIX	EDR	イベントデータレコーダー
E-Call	自動緊急通報システム	EPB	電動パーキングブレーキ
AVH	オートビークルホールド	SOC	パワーバッテリー残量
ACC	アダプティブクルーズコントロール	ICC	ナビゲーションパイロット
FCW	前方衝突警告	AEB	自動緊急ブレーキ
FCTA	フロントクロストラフィックアラート	FCTB	フロントクロストラフィックオートブレーキ
TSR	交通標識認識システム	ISLC	インテリジェントスピードリミットコントロール
AFL	アダプティブフロントライティング	LDA	レーンサポートシステム
LDP	車線逸脱防止	LDW	車線逸脱警告
ELKA	緊急時車線維持支援	BSA	ブラインドスポットアシストシステム
BSD	ブラインドスポットインフォメーション	RCTA	リアクロストラフィックアラート
RCTB	リアクロストラフィックブレーキ	RCW	後方衝突予測警告
DOW	ドアオープンワーニング	VDC	ビークルダイナミクスコントロール
TCS	トラクションコントロールシステム	HHC	ヒルスタートホールドコントロール
HBA	ハイドロリックブレーキアシスト	CDP	減速度制御
CST	コンフォートブレーキ	ESC	横滑り防止装置
MCB	マルチコリジョンブレーキ	DMS	ドライバーモニタリングシステム
AVAS	車両接近通報装置	HUD	ヘッドアップディスプレイ
TPMS	タイヤ空気圧モニタリングシステム	VIN	車両識別番号
MAX	最大値	MIN	最小値

